

昭和三十六年三月定例

四日市市議会議録目次

三月十日（金）

ページ

専決処分について

上程―提案理由説明―表決……………

七

工事請負契約の締結について

上程―提案理由説明―表決……………

八

人権擁護委員推薦について

上程―提案理由説明―表決……………

九

昭和三十五年度水道事業会計追加更正予算その他について

上程―提案理由説明―表決……………

一〇

固定資産評価審査委員会委員の選任について

上程―提案理由説明―表決……………

一一

昭和三十六年度各会計予算その他について

上程―提案理由説明……………

一二

昭和三十五年度一般会計追加更正予算その他について

上程―提案理由説明……………

二六

昭和三十五年度特別会計市立四日市病院費追加更正予算その他について

上程―提案理由説明……………三二

昭和三十五年度特別会計国民健康保険費追加予算について

上程―提案理由説明……………三三

三月十四日(火)

昭和三十六年度一般会計予算その他について

質疑……………三九

三月十五日(水)

昭和三十六年度一般会計予算その他について

質疑―委員会付託……………一二八

三月十六日(木)

昭和三十六年度特別会計市立四日市病院費予算その他について

質疑―委員会付託……………一二七三

昭和三十六年度各特別会計予算その他について

質疑―委員会付託……………一二九二

昭和三十六年度水道事業会計予算その他について

質疑―委員会付託……………三〇五

昭和三十五年度一般会計追加更正予算その他について

質疑―委員会付託……………三〇九

昭和三十五年度特別会計市立四日市病院費追加更正予算その他について

委員会付託……………三二八

昭和三十五年度特別会計国民健康保険費追加更正予算について

委員会付託……………三一九

三月二十七日(月)

昭和三十六年度一般会計予算その他について

委員長報告―質疑―表決……………三二五

昭和三十六年度特別会計市立四日市病院費予算その他について

委員長報告―質疑―表決……………三七八

昭和三十六年度各特別会計予算その他について

委員長報告―質疑―表決……………三七九

昭和三十六年度水道事業会計予算その他について

委員長報告―質疑―表決……………三八四

昭和三十五年度一般会計追加更正予算その他について

委員長報告―質疑―表決……………三八七

昭和三十五年度特別会計市立四日市病院費追加更正予算その他について

委員長報告―質疑―表決……………三九一

昭和三十五年度特別会計国民健康保険費追加予算について

委員長報告―質疑―表決……………	三九二
昭和三十六年度一般会計追加予算その他について	
上程―提案理由説明―表決……………	三九三
予算外義務負担契約について	
上程―提案理由説明―表決……………	三九六
予算外義務負担契約について	
上程―提案理由説明―表決……………	三九八
市道路線認定その他について	
上程―提案理由説明―質疑……………	三九九
四日市市農業委員会委員推薦について	
上程―提案理由説明―表決……………	四〇〇
意見書提出について	
上程―提案理由説明―表決……………	四〇一
委員会報告……………	四〇二
監査結果報告……………	四〇三

昭和三十六年三月十日(金曜日)午後二時八分開会  
 四日市市議会定例会議事速記録 才一号

○出席議員(三十八名)

米田好兼速記	馬嶋温知君	野呂幸太郎君	内山弥十郎君	山口信生君	矢田繁郎君	伊藤太郎君	谷口専九郎君	平野太七君	錦安吉君	鈴木敏郎君	志積一郎君	荒木武治君	大谷喜正君	早川和一君
--------	-------	--------	--------	-------	-------	-------	--------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------

○欠席議員（二名）

○市議会议務局（四名）

庶務係長 佐藤	議事係長 川原	事務次長 菊地	事務局長 市川
		英	善
茂	裕	也	雄

森池  
田畑  
卯佐  
七太郎  
君君

中山藤小橋永  
島本谷林詰田  
忠三祐喜興巳  
勝郎一夫隆側  
君君君君君君

柴山田日辻生伊伊坂前笠服浜鈴加伊渡高  
田中村比川藤藤上川田部田木藤藤部橋  
忠末義定平宗泰長辰七昌弥愛定金權伊  
繁一松平章蔵一一郎男衛弘平次男一郎祐  
君君君君君君君君君君君君君君君君君



○議事日程

才一日 三月十日(金) 午後二時開会

- 1 議案才七号上程……………議案説明……………質疑、討論、議決
- 2 議案才八号上程……………議案説明……………質疑、討論、議決
- 3 議案才九号上程……………議案説明……………質疑、討論、同意
- 4 議案才五八号、才五九号上程……………議案説明……………質疑、討論、議決
- 5 議案才六〇号上程……………議案説明……………質疑、討論、同意
- 6 議案才一〇号乃至才四八号上程……………議案説明
- 7 議案才四九号乃至才五三号上程……………議案説明
- 8 議案才五四号乃至才五六号上程……………議案説明
- 9 議案才五七号上程……………議案説明

○議長(山本三郎君) ただいまから定例市議會を開会いたします。

本日の出席議員数を報告いたします。

出席者三十三名、欠席届出者二名、遅刻五名であります。

○議長(山本三郎君) 本定例会の會議録署名者は辻議員と柴田議員にお願いいたしたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(山本三郎君) 御異議ありませんので御両君にお願いすることに決定いたします。

○議長(山本三郎君) 要求いたしておきました議事参与者の氏名は、お手元に配布いたしました要求書写のとおりでありますから御了承をお願いいたします。

昭和三十六年三月七日

四日市市議會議長

四日市市長

四日市市教育委員長 殿

四日市水道局長

三月十日開会の定例市議會において議案その他議事に関し説明のため左記の者を出席せしめられたく要求します。

記

市	長	平	田	佐	矩	税	務	部	長	松	野	憲	亮
助	役	二	宮	良	力	産	業	部	長	浅	川	謙	一
助	役	庄	司	良	一	民	生	部	長	中	山	英	郎
収	入	役	川	崎	祐	男	建	設	部	長	城	井	義
総	務	部	長	林	義	男	開	発	局	次	長	鬼	頭
												鉄	郎

人事課長	天野正春	土木課長	天野助春
會計課長	村木喜代次	港湾課長	中村由郎
庶務課長	平井清三	消防課長	中村松次郎
市民課長	村山了	教育委員長	杉浦西太郎
稅務課長	伊藤涼一	教育課長	山本軍一
徵收課長	荒木三郎	總務課長	喜田喜重郎
農工課長	園浦和巳	學校教育課長	土井久之
耕地課長	高野一郎	社會教育課長	大広保三
事業課長	上杉敬太郎	水道局長	岩野見齋
厚生課長	大平源弥	開發部長	山本文雄
社會福祉課長	渡部一臣	總務課長	滝田之助
國民健康課長	小林義喜		
保險課長	三輪喜代司		
衛生課長	川口		
市立四日市病院事務課長	川口		
監理課長	小林清		

○議長（山本三郎君） 本定例会の会期及び議事日程につきましては、日程表に示しますとおり、議案才七号から才十号までの三議案並びに議案才五十八号から才六十号までの三議案につきましては本日の議会において議了いたし、議案才十号から才五十七号までの四十八議案に対しましては提案理由の説明を聞くにとどめたいと思いますから御了承をお願いいたします。

○議長（山本三郎君） ただいまから会議を開きます。

○議長（山本三郎君） 日程才一、議案才七号を上程いたします。

議事進行上、本会期中に提案いたします議案の朗読はすべて標題のみにとどめ、他は省略させることにいたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 市長の説明を求めます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま御上程の議案才七号、専決処分について御報告を申し上げ、御承認をお願いいたします。

競輪事業費予算は、さる十二月定例市議会におきましてその後の車券売上げ増加を見込み、六千七百九十三萬一千六十円の追加をお認めいただいたのでございますが、さる一月及び二月競輪は、この予想をはるかに上回り、一月は六千八百萬円余、二月は九千二百四十五萬円余と、本市開設以来最高の売上げを示し、開催途中において車券払戻金、その他に不足を生じましたためやむをえず予算の専決処分を行い、実施いたしましたのでござりまする。なお、この

売上増加に伴いますところの収益金につきましては、一応予備費に計上させていただいたのでござります。

どうか、よろしく御審議の上、御承認を賜わりますようお願いを申し上げます。

○議長（山本三郎君） 御質疑がありましたら御発言願います。

お諮りいたします。別段御質疑もありませんので、議案の採決を行いたいと思いますが御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議ありませんのでそのように決定いたします。

議案才七号を原案どおり承認いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才七号は原案を承認することに決定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に、日程才二の議案才八号を上程いたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 理事者の説明を求めます。（「議長」と呼ぶ者あり）市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま御上程の議案才八号につきまして御説明を申し上げます。

本案は、塩浜・大治田線道路改良工事並びに下水道の日永処理場におきます才一消化槽の築造工事の請負契約案でござります。どうかよろしく御審議を賜わりますようお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 本案に対しまして御質疑ありましたら御発言願います。

別段御質疑もありませんので、議案に対する可否を決定いたしたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議ありませんのでそのように決定いたします。

議案才八号を原案どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才八号は原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に、日程才三の議案才九号を上程いたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 市長の説明を求めます。（「議長」と呼ぶ者あり）市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 御説明申し上げます。

ただいま上程の議案才九号は、過日議会全員協議会において御内定をいただきましたとおり、人権擁護委員として西日野町坂倉タマ氏を推選いたしたいと存じ、ここに御提案申したものでございます。どうか、よろしく御審議をお願いいたします。

○議長（山本三郎君） 説明お聞き及びのとおりであります。御質疑がありましたら御発言願います。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

別段御意見もないように思いますので、市長の推選者に同意いたしまして御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才九号は原案に同意することに決定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に、議案才五十八号及び才五十九号を上程いたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 説明を求めます。（「議長」と呼ぶ者あり）市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま上程の二議案について、御説明申し上げます。

議案才五十八号は、昭和三十五年度水道事業会計才四回追加更正予算案でありまして、収益的収入及び支出二百八十五萬七千円と資本的収入及び支出百七十一萬円の追加更正をお願いするものでございます。

これが内容を申し上げますと、収益的収入の追加は営業収益のうち受託工事収益で、学校給水工事その他委託された工事の増加に伴う増収であり、収益的支出は営業費用のうち前述の受託工事費の増加でございます。

資本的収入は、工事負担金百五十二萬七千五百円と、建設補助金十八萬二千五百円の増加でありまして、工事負担金は内部簡易水道の地元負担金であり、建設補助金は同事業に対する国庫補助金であります。

資本的支出は、建設改良費のうち原水及び浄水施設費、配水及び給水施設費におきまして、水源関係工事費並びに市内配水管布設工事費に充当するため一部予算の組みかえを行い、簡易水道施設費は、内部簡易水道工事を当初二カ年継続で実施の予定でありましたが、今回国庫補助金の割当が増額され、単年度事業として施工することになりましたため、ここに所要額を追加いたしましたものでございます。なお、議案才五十九号は、内部地区における簡易水道建設

事業は、さきほど申し上げましたとおり、単年度事業として施工するために年度別工事計画並びに収支予定を変更しようとするものでございます。

なにとぞ、よろしく御審議の程をお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 本案に対して御質疑がありましたら御発言願います。

御質問ありませんか。 別段御質疑ありませんので、議案に対する可否を決定したいと思いますが、御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才五十八号及び才五十九号は原案どおり可決確定いたしました。

暫時休憩いたします。

午後二時三十分休憩

午後二時四十分再開

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして本会議を続行いたします。

次に、日程才五、議案才六十号を上程いたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 市長の説明を求めます。（「議長」と呼ぶ者あり）市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐短君）　ただいま御上程の議案才六十号について御説明申し上げます。

本案は先ほど全員協議会において御内定をいただきましたとおり、本市固定資産評価審査委員会委員として熊田泰明氏を選任いたしたいと存じ、ここに御同意をお願い申し上げます。

どうかよろしく御審議を賜りますようお願いいたします。

○議長（山本三郎君）　説明お聞き及びのとおりであります。

先ほどの協議会において了解いたしておりますので、市長の推薦者に同意いたしまするに御異議ありませんか。

「〔異議なし〕と呼ぶ者あり」

○議長（山本三郎君）　御異議なしと認めます。よって議案才六十号は原案に同意することに決定いたしました。暫時休憩いたします。

午後二時四十二分休憩

午後二時五十二分再開

○議長（山本三郎君）　休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。

次に、日程才六、議案才十号ないし才四十八号の昭和三十六年度予算並びに関連議案を上程いたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君）　市長の説明を求めます。（「議長」と呼ぶ者あり）市長。

〔市長（平田佐短君）登壇〕

○市長（平田佐短君）　昭和三十六年度の予算並びに、関係諸議案の御審議をわずらわすに当りまして所懐の一端を

申し述べたいと存じます。

わが国の政情は、昨秋の総選挙によって各位の御了承のように一時安定いたし、経済界の動向も両三年来の好況を継続いたし、政府の提唱することく国民所得は順調に伸びつつありまして、まことに同慶の至りでございます。

わが四日市市におきましても、かの伊勢湾台風の悲惨な歴史的大試練を経ましたものの海岸堤防の改良復旧と併行した名四国道の早期着工、防波堤の築造を主軸といたしました一連の高潮対策諸事業施行等、自然的な災害に対します恒久的な防除体制が整備する見通しもつき、他面、市民各位の復旧に対する熱烈な御努力が結集して、市勢はますますぼう張発展する態勢となり、俗にいう禍を転じて福となすの感があり、市政担当者といしましては、皆様とともに心から喜びに存ずる次第でございます。

すなわち昭和三十四年に比し、昭和三十五年におきましては、本市の工業生産額は百六十三億円増加いたし、一千五十億円となり、四日市港入港船舶は八百三十七萬トンに達し、百七十萬トン増、貿易額も九百九十六億円の巨額を示し、二百二十四億円の増加と相なっております。また近鉄四日市駅の乗降客の数をみましても、一日の平均が五萬二千二百七十九人で、四千四百十九人増となっております等、本市勢発展は数量的にも明らかとなっております

さて、私が市長就任に際し、施政方針の重点として掲げましたところの、理想的な産業構造の育成による本市の経済的基盤の確立という構想は、南部地域における石油化学の桂に対して、北部におきましては鉄を中心とした基礎的産業の桂を樹立することに主力を注ぐことでございました。幸いに、南部地域におきましては、新しく進出しました味の素株式会社、松下電工株式会社、高分子化学工業株式会社、江戸川化学工業株式会社の用地もすでに決定いたし、工場建設も急速に実施いたしました。松下電工株式会社のごときは、本年四月から一部操業の域に達しているような状況でございます。また、昭和四日市石油、三菱油化、日本合成ゴム、三菱化成、三菱モンサント化成、大協石油等

の既設の工場も、用地の拡張、設備の増強、生産計画の倍增、新製品の企画等、設備投資が旺盛をきわめずでにその基礎的な一連の構造は確立いたし、いわゆるコンビナートとしてわが国最大を誇示する日も期して待つべきであると確信いたします。

一方、北部地域の問題につきましては、すでに数回の報告によって明らかにいたしましたように、両三年来の県市一体の協力と各位の一方ならぬ御尽料にもかかわらず、高炉によります銑鋼一貫工場建設の望みは人力によっては如何ともしがたい自然的条件が素因と相なり、八幡製鉄の誠意ある御努力も空しく、この実現が不可能となりましたことはまことに残念至極でございます。しかし、これにかわるべきものといまして、新しい技術に基づく工場の建設が計画せられ、その用地の埋立と併行してあの広大にして複雑な地形の後方丘陵地帯の開発も漸次推進すべき方向が近く内示されようといたしております。ここにわれわれは、理想的都市建設のため、あくまでも前進をはかりたいと存じております。

このような基礎的な構想に関連するわが四日市港の整備、名四国道の完成、工業用水の確保、関西線の複線電化、供給電力の増強、さらには大四国道、滋賀県、岐阜県、遠くは敦賀に通ずる道路の構想、市域の拡大等は、今後四日市市が当然その発展の過程に直面いたし、総力を挙げて解決すべき課題でございます。各位の御協力をえて、関係方面に強力に働きかけ、その実現を期すべきだと存ずる次才でございます。これらを言いかえすならば、一昨年国土開発協会に委嘱し企画されたところの四日市市総合開発計画のよき点をとりあげて実現させるためには、市政諸般の機能を集約統合し、一大決意をもって、その具体化に努力し、解決すべきものであると確信いたします。市といたしましては、昨年末発足しました開発局が主体となって、これが企画とその実現に組織的な活動を展開しておるような次才でございます。

かくのごとく、わが四日市市の将来に対する構想と、その進むべき大道がおおむね明らかになりました以上、いまこそ私は眼を内に転じ、より以上に内政面の充実をはかり、本市として名実共に完備した理想都市たらしめるべく、本来の使命に邁進するときであると存じます。このために本年度は、次の五つを特に主要事項といたしまして施策を講じたいと思うのでございます。

才一に昨年御承認をえて、一部実施しました機構改革を全面的に実施いたし、市役所の全組織をより合理的にかつ能率的に運営し、市民サービスの向上をはかり、所期の目的の達成に努力したいと思っております。

才二には市民生活に直面する問題について、道路舗装の計画的な実施、理想的な道路網の整備、下水道の逐次完成、校舎の改築整備、公営住宅の建設、清掃事業並びに施設の完備等を重点的にとりあげ、できるだけの経費を投じて市民各位の御期待にこたえたいと存じます。

才三には、農業関係各法の精神を生かし、その生産性の向上のために、特産を奨励し、畜産の振興をはかるとともに、農業構造の改善に対する指導と助成を強化し、他面中小企業の育成につとめ、その振興についての行政指導を強化したいと思っております。

才四には、社会福祉政策の推進をはかり、国民健康保険、国民年金等の新しい分野の充実につとめ、他方その領域を拡大いたし、市の公的諸施設と、民間の諸施設との有機的な連繫を緊密にして、市民福祉の向上に努めたいと思っております。

才五としては、民主国家として当然のことではありますが、世論を生かし、民意を反映するよう議会の各位の御協力をいただくのは申すまでもなく全市民の方々の意のあるところをよくくみとり、方法を工夫して十分に市政に反映させるよう努力し、明るい政治を行いたいと存じております。

以上のごとき方針をもって昭和三十六年度の予算を編成いたしました。昭和三十四年度並びに昭和三十五年度予算が伊勢湾台風の災害復旧費を含んだ異常な事態でありました関係上、予算規模といたしましては、当市の現段階において一般会計の平年度の健全財政を保つためには二十一億内外が適正なものと思料されます。よって年間予算の原則に従い、かつ積極的に財源のゆるす限りを網羅いたしました。各事業の緩急を秤量計上したのであります。

すなわち、一般会計の予算総額は二十億四千三十一万七千七百四十円となり、これを前年度当初予算に比較いたしますと、四億四百八十二万一千五百六十円、二割五分の増加となっております。

特別会計におきましては市立四日市病院費一億三千三百六十二万七千六百六十円、市立印刷所費八百六十六万二千四百七十円、公益質屋費一千二百二十八万八千四百九十円、競輪事業費四億六百五十六万七千円、国民健康保険費一億六千二百五十二万六千四百円、工場誘致費三千五百三十六万五千七百七十円、と場食肉市場費九百五十七万八千円、公共下水道費一億四千五百三十二万七千四百九十円、水道事業の会計、収益的支出一億八千八百二十七万八千七百五十円、資本的の支出一億八千五百三十六万四千七百四十円、桜財産区五十六万九千円となり、合計十二億八千二百三十五万五千二百七十円でありまして、前年度に比して約四割九分の増加でありまして、一般会計、特別会計の総計は三十三億二千二百六十七万三千十円で、前年度に比較して一部重複しておりますが、七億四千七百七十五万九千七百二十円の増加となっております。

以下一般会計予算の主たる内容につきまして、歳出面から御説明を申し上げます。

市役所費におきましては、機構改革の趣旨に基づき、人員増加を極力抑制しましたが、開発局、国民健康保険課、下水道課、清掃課の新設及び精薄施設の開設に伴う、必要人員の確保と、自動車購入によります人員増等があり、他面特別会計に計上換分を差引きますと、昨年に比し十三名の減員になっております。

従来、定数条例がそれぞれ分散されております。たのを一切まとめて、職員のすべてを明らかにいたしました。市の職員総数は千八百二十四名と相なるのでござります。

事業費といたしましては、新庁舎の利用と機構改革に関連した庁舎の改造費、事務の合理化、能率化のための必要機器の購入費等を計上いたしました。

消防費につきましては、南出張所の設置に伴う要員増と事務職員の定数化を図りました外は、新しく大矢知及び保分団の消防車の購入及び防火用水槽の新設、無電機器の増強等を計上したのであります。

土木費については、先に申し上げましたように重点的に配慮をしたのでござります。すなわち、産業道路の幹線としての塩浜大治田線の用地買収、全市域にわたっての道路網の整備、道路舗装の年次計画的な実施等の経費を計上いたしました。特に道路舗装につきましては、防塵処理と本舗装とを合せて約五千万円を投入いたし、少くとも市内の主要道路を二、三年間に全面的に舗装したいと考えております。こんど、その財源としては競輪収益を優先的に引きあてたいと思っております。

都市計画につきましては、総合的な見地に立って早急に用途地域の指定を行い、開発上の諸計画の実施を円滑にしたいと考えております。その経費は、末広町午起線の舗装及び築造費、子酉八王子線の用地買収費が主たるものでございますが、特に子酉八王子線は南部地域の開発に直結いたしますので、進行の速度如何によって御協議をわずらわすことも多からうと存じますから、なにとぞよろしく願いをいたします。

また、本年度より五カ年計画で、都市改造土地区画整理事業として、国鉄四日市駅東南納屋町より昌栄町、曙町にかけてまして約八萬八千坪を対象に県営で実施されることになりました。これは名四国道工事との関係によって事業量の多くなる公算も大でありまして、負担金千六百萬円は増額される場合もあるかと予想されますので、申し添える

次才でござります。

港灣費におきましては、磯津漁港に関する整備費と県営公共事業負担金を計上するに止めまして、四日市港の将来についての諸問題、すなわち伊勢湾港としての構想による名古屋港との関係、港湾管理方式についての問題等々、且は高潮対策事業の実施に伴うところの経費の分担等、大いに検討を要する案件が多々ありますが、十分研究調査をし適正に追加計上させていただくように処理した次才であります。

教育費におきましては、教育施設整備十カ年計画の実施に重点をおき、教育委員会の立案を尊重したのでござりまするが、予算外義務負担契約をいたしました中学校生徒増によりする増築分の予算化、塩浜 富田両小学校の改築費、港中学校の新築九教室分及び富田中学校体育館の建築費を計上したのでござります。特に、小学校の児童数の減少と中学校生徒数の急増という本年度以降数年に及びますところの歴史的な異常現象に対処いたしますためには、児童生徒に対しましては極力実害を及ぼさないよう配慮いたしますことはいうまでもありませんが、この事態の終了した後の教育施設の理想的な整備を考えますとき、本年以降の跛行的現象について多少無理の生じますのもやむをえないことと存じますので、市民各位の御理解ある御協力を切望する次才であります。

指導研修費において、小、中学校教職員に対する研修費を新しく計上いたしましたのは、教育課程の改訂をひかえまして、教職員各位の指導力の練磨を期待したものであります。教育研究所費中の四日市市の教育について新しい計画樹立のための調査研究委託料は総合開発計画の一環としまして、教育に関するあらゆる分野について確固たる方策を樹立いたすべく、その基礎資料を整備するよう配慮したものであります。

社会労働に関する諸経費の内、公営住宅の建設につきましては、小林団地の開発に力を注ぎ、建設省の指導によりまして、本年度分よりはすべて耐火構造のみといたしました。これは生活水準の向上、維持管理費の節減等、あらゆ

る面から考えまして、本市の住宅政策の一大進歩であると確信する次才でございます。各種の扶助的な諸経費につきましては、従来以上に適正な執行につとめたいと思っております。

失業対策事業費運営につきましては、幾多困難な問題がござりまするが、その合理化につとめまして、特に事業効果の向上を期したいと存じております。

市立産院につきましては、民間の諸施設も整備されました今日といたしましては、その機能をすでに果し終了したものと見てよろしく、これを廃止して、市立四日市病院に吸収することいたしました。

本年度より待望の精薄施設を開設することになりましたが、これは多年にわたる父兄各位の御熱望が結実したものでございまして、不幸な御子弟に対し、その愛の手をさしめることのできますのは、市長といたしましてはまことに心うれしく存する次才でござります。なお、最近しきりに世の親の心をいためます問題としまして、青少年対策の問題がござりまするが教育委員会所管の社会教育諸機関とも、これが運営上緊密な連繋をはかり、その行政効果の向上を期し、所期の成果をあげたいと念願しております。この外、労働会館、市民ホール等の運営につきましては、御利用になる市民の便宜を念願いたしまして配慮した次才でござります。

保健衛生費中、体育施設費におきましては、市民プールを本年はじめて開設することになりましたので、その性格上、危害予防上の責任の所在、使用料の徴収、衛生管理の問題等、運営上、幾多の課題がありますが、教育委員会にその責を分担していただく関係上、社会教育課体育係二名を増員いたし、夏休みには学校関係職員の協力を求めて、萬遺憾のないよう配慮いたしたものでござります。各方面から御要望のあるプールの建設につきましては、本年度運営の結果十分検討を加え、その上で対処したいと考えております。北条グラウンドの整備、その他については前年度に準じて計上したものであります。



衛生関係につきましては、環境衛生施策の向上のために消毒用自動車を購入し、機動力を駆使して、カとハエのいない明るい町づくりの推進に力をそそぐ所存であります。公害防止対策につきましても、その萬全を期すべく前年度に引きつぎ各大学に委嘱して大気の汚染につきよく調査いたし、その結果をまわって関係各工場の御協力をえまして市民の健康保持のために強力な施策を講じたいと存じておるのでございます。

清掃関係におきましては、四月から清掃課の独立も確定しております関係上、当初におきましては暫定的なものにとどめ、ただジープの購入によって機動力を強め、より能率的に運営をするようにいたしましたのでございます。なお、都市の発展に伴う尿尿、塵芥等の根本的な解決策につき、十分検討を加えまして本年度中に強力な施策を講じたいと考えております。

多年懸案と相なっております堀木火葬場の移転問題も、候補地の買収が決定次才、追加計上していただくべく経費の一部を計上いたしました。その位置並びに設計は各方面の御意見を十分にしんしゃくいたし、大局的な判断によって早急に解決するよう努力したいと存ずる次才でございます。

諸費中の医療機関に対する助成費八百八十萬円は、国民健康保険実施に関し市内各医療機関に対する利子補給、補助金等であります。

都市下水路費は前年度特別会計といたしました公共下水道関係以外の経費を計上したものでござります。主なる内容といたしましては、雨池ポンプ場の排水能力の増強でありましてこの事業費が九千萬円の中、半額を関係工場の寄付金に仰ぎ、半額を立替金として、三カ年分割支払いにより返済するよう計画いたし、また各工場の御了解をえていような次才でございます。雨池川土地改良区の地盤変動対策事業は、三十四年度に完工したばかりでありまして、補助金の返還、借入金の上上げ償還等の問題もありませんので、農業用排水を都市排水に切りかえ、進出各工場も受

益者としていただく建前のもとにこのような処理をいたしたのでござります。

農業振興対策といたしましては、臨海部、丘陵部、山地部等、地域に適合した諸施策をとり、集団化、協業化、法人化等一連の傾向にみられる農業経営規模の適切な指導、適地適作による特産の奨励、畜産の合理的な導入等、農業の生産性の向上のための利子の補給や助成に重点をおいたのでござります。また、農業研究指導所の施設を整備いたし、職員も増強して、高度な利用をはかりつつ指導性を向上したいと考えております。なお、営農指導については各農業協同組合に派遣しておりました市の職員を全部引き上げますために、業務並びに指導面について委託料を支出するよういたしました。

水産関係につきましては、遠洋漁業基地を整備いたし、荷受機関としての富田港魚市場株式会社の育成をはかり、同時に沿岸漁業の指導に萬全を期したいと存ずるのでござります。

耕地事業におきましては、農業振興対策と呼応し、市単独事業の巾を拡大し、耕地の保全と土地改良の推進につとめ、他方、地籍調査を前年に引きつづいて拡充し、遺憾なきを期した次才であります。

商工業対策といたしまして、前年度に商店街の再開発について準備的な計画と啓もうを進めてまいりました。本年度は実施の段階におきまして、本国会に提案されております改正法案とも関連いたしまするし、用途地域指定との関係もありますので、綿密適切な行政指導と、事業主体となる各個人、または各団体の意気込みとが必要であると思います。市といたしましては、国庫補助金の獲得、融資のあっせん、及び事業実施のために各種指導に当たりたいと考えております。

このほか万古焼の内地向販売の拡張、設備近代化の推進、中小企業団地の形成等に経費を計上して、中小企業の育成と振興のために、積極的に働きかけをする所存であります。

開発調査費におきましては、開発局設置の趣旨にてらし、総合開発計画の具体化のために必要な経費を計上いたしました。しかし、開発関係業務は、それぞれの事例と、その時期とによりまして、ときに機動性を要しますし、ときには集中的な作業を必要といたしますので、その都度、御協議をわずらわし、その上で対処していきたいと思っております。

諸支出金の諸費におきましては、漁業補償についての償還金、南高等学校の建築費の助成、港中学校の用地費の利子補給等、すでに御了解のものばかりでございます。ただ、本年度は、多年にわたっておりまところの国有住宅の払下げ問題に、なんとか解決策を見出したいものとして、経費を計上いたしましたのと、各地区、各町内に設置されております街灯について、一定の基準に照らしてその維持費を助成するよう五十万円を計上いたしましたのが新しいものでございます。なお、この二件につきましては、さらに追加計上を必要とする場合も予想されます点を付言いたしたいと存じます。

各特別会計への繰出金は、必要やむをえないもののみを計上いたした次才であります。

○議長（山本三郎君） 暫時休憩いたします。

午後三時三十九分休憩

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。

説明を続けてください。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

午後三時五十二分再開

○市長（平田佐矩君） 次に、歳入関係につきまして申し上げます。

市税の収入十三億六千八百七十四万一千円は、昭和三十五年度当初予算に比しまして、実に二十九パーセントの増加であります。これは、前年度の実績に照らし、予測されるすべてを算定し、その上に機構改革後におきます税務職員の総合的、機能的な活動にまつて現年度分は申すまでもなく、多年にわたって累積されました滞納分をも整理するようにし、徴収成績の上昇に期待したものでございます。

各工場の進出、増大する設備投資の現況から見まして、これだけの財源を保持できましたことは、伸びゆくわが四日市市の特徴でもありまして、まことに喜ばしい限りでございます。

税外収入につきましては、前年度の実績を基礎として秤量したものであり、国、県の支出金及び起債については、それぞれの負担区分と予想される事態に検討を加えて計上したものでございます。

以上のほか、特に歳出の説明でふれましたことについては、重複をさげさせていただきたいと存じます。

次に各特別会計につきましてその概要を申し上げます。

市立四日市病院費につきましては、昭和三十一年度以降、六年の長きにわたって進めてまいりました移転改築事業がようやく完成をみまして、五月までには市立産院を吸収し、完全運営することになりました。このために、職員も三十二名増員となり、本市の医療センターとして、名実共に備えた大病院と相なるのでござりまするが、保険点数単価の変更や、市民の利用についての予想も適確を期し難く、運営諸経費の積算についても、安定点がとられにくいので、収支の均衡については大いに苦慮いたしましたのであります。売却予想の旧病院の地価も時価に修正積算いたしました上に、五百万円の繰入金によりその均衡を保ったのでありまするが、病院当局とともに、その運営の合理化をばかり、市民の期待にこたえるよう成果をあげたいと決意を新たにしておるような次才でございます。

市立印刷所費は、市役所新庁舎の竣工を機会に現在の社会福祉事務所の建物に移転することにいたしました。それに必要な経費を計上いたしましたのであります。

公益質屋費は生活水準の向上に伴いまして、その利用度が逐次低下しておるような現況でありまして、百十万円を繰り入れることによって、ようやく均衡を保つような次才であります。

競輪事業費は、七回開催としての利益と、前年度繰越金とにより、三千万円の繰り出しを予定したのでござります。国民健康保険につきましては、職員三十七名を増員し、本年度より全面的に実施することになりましたが、初度的な支出も多く、保険料の徴収、給付の状況についても不安もあり、一般会計より三千万円の繰り入れをすることによって収支の均衡をはかったのでございます。しかし、この運営につきましては、極力、社会保障制度の本義の徹底につとめ、保険料完全納付の慣習化に努力をいたし、特別会計として収支の均衡がとれるような状況になるように、鋭意努力したいと思っております。

工場誘致費は、この会計の趣旨に従って年次的に繰り入れまして、償却したいと考えまして本年度は千三百三十六万五千七百七十円を繰り入れたものでござります。

と畜場食肉市場の運営につきましては、明治ハム株式会社の工場進出により、と殺数の増加も期待されますので、本年度は五百六十三万六千六百十円の繰り入れによって均衡をはかりましたが、将来に明るい希望が持てるものと確信いたしております。

公共下水道費につきましては、補助金起債等ようやく軌道にのってまいりましたが、本年度は少なくとも納屋排水区中、新道通りの排水について解決し得るように事業量を決定いたし、五千二百六十九万七千三百九十円を繰り入れたのでござります。なお本事業の実施にあたりまして、使用料のほかに受益者負担の制度化を、国が強く打ち出しておりますので、事業量の伸びを期待いたします以上、早急に実施する必要がある、各市の実状に即しまして本年度より計画いたしました次才でござります。

水道事業会計予算におきましては、企業債の一億五千万円を計上し、昨年に引き続き水源の開発と整備を強力に推進したいと考えたのであります。極力この財源の確保につとめると同時に、一方、市の発展に伴います受託工事の伸びも予想されますので、運営の合理化につとめ、企業会計の本旨に則りまして、事業効果の向上に努力する所存でございます。

市の繰入金百二十万九千六百六十円は簡易水道及び朝明用水に関連したものでございます。

桜財産区は、主として、山林伐採の収入を財源といたしまして均衡をはかりましたが、本予算案につきましては、条例の定めるところに従い、すでに財産管理会の御同意をえておりますので、念のために申し添えさせていただきます。

議案才二十一号以下四十六号まではいずれも予算に関連するものでございまして、一般会計並びに各特別会計、水道事業会計の起債及び一時借入金に関する議案、雨池排水場改良に関する立替金契約案、水道事業会計への市費繰り入れ別案、中小企業等協同組合共同施設並びに中小企業者設備近代化貸付案及び定数、給与、報酬、費用弁さい等の一部の改正案と、それに伴う関係条例の整理に関する条例案、精薄施設の開設に伴う社会福祉事務所設置条例の改正案、収容定員増に関する保育所条例の改正案、精神薄弱児通園施設の設置条例案、市営水泳プールに関する条例案、体育施設使用条例の改正案、産院吸収に伴うところの市立四日市病院条例の全部改正案、国民健康保険条例案、その他青年学級振興法の規定による青年学級開設案であります。

議案才四十七号は四日市市監委員条例の全部改正案であり、才四十八号は、地方自治法の趣旨により立案の四日市

市有財産条例案であります。

以上をもちまして本年度予算案並びに付帯議案に関する説明を終わります。  
なにとぞよろしく御審議のほどをお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 提案理由の説明お聞き及びのとおりであります。議事日程に従いまして本案に対する審議は留保いたします。

○議長（山本三郎君） 次に、日程才七、議案才四十九号ないし才五十三号の昭和三十五年一般会計追加予算並びに関連議案を上程いたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 理事者の説明を求めます。（「議長」と呼ぶ者あり）市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま御上程の五議案について、御説明申し上げます。

議案才四十九号は、昭和三十五年本市一般会計才六回追加更正予算案であります。今回お願いいたしております追加更正額一億八百一萬九千九百六十円の主なる内容を申し上げますと、国県費補助の決定いたしましたいわゆる公共事業費一千四百十三萬三千百円の減額更正、県営土木並びに港湾事業負担金、山ノ手国有住宅購入費、その他単独事業費六千九百二十三萬三千二百三十円の追加更正、人件費関係九百八十四萬三千百十円の追加、物件費三百五十三萬七千六百九十円の追加更正、投資及び出資金、他会計への繰出金、その他三千九百五十三萬九千三十円の追加更正等でありまして、この追加額を加えますと本年度最終予算額は、二十四億五千五百七十萬三千八十円と相なるのであります。

ります。

以下、歳出から各科目ごとに概要を申し上げます。

才一款、議会費百十萬四千円の追加は、さる一月から実施の議員報酬改訂による増加分を計上したものでございます。

才二款、市役所費における追加九百六十二萬八千百十円は、清掃事務所職員に対する時間外勤務手当の不足額と、過日全員協議会において御了承をお願いいたしました交際費及び退職手当、退職料の所要見込額等を追加したものであります。

才三款、消防費の追加九十六萬三百九十円は、本年度は火災発生件数が予想外に多く、消防自動車用燃料費に不足を生じたため、これが追加と塩浜地区において、県営工業用水道管に付設いたします消火栓工業費をお願いしたものでございます。

才四款、土木費 才一項道路橋梁費百九十六萬八千六百七十円の追加は、市道並びに県道の道路敷買収費、道路協会その他に対する負担金、国道一号線歩道舗装費に対する補助金等であり、才六項土木事業費負担金は県営三滝川改修工事、その他県道の改良工事並びに舗装工事に対する地元負担金一千九百九萬九千四百七十円を追加計上いたしましたのでございます。

才五款、都市計画費百十九萬七千八百円の追加更正は、金場新正線及び末広町午起線街路工事費を国庫補助割当額に基づいて追加更正し、都市計画協会その他の負担金を計上したものであります。なお、金場新正線街路舗装工事は本年度をもって一応完了いたしましたのでございます。才二項、公園費は諏訪公園整備について当初五十萬円の指定寄付金を予定いたしておりましたが、今回この寄付のうち、四十五萬円相当額は現物をもって受けることに相りました。

ので、歳入歳出とも同額の減額更正をはかったものであり、才三項都市計画事業費負担金七百四十七萬円の減額は、県営工事の決定に伴い、都市改造事業費並びに国鉄駅前街路舗装事業費に対する地元負担金を更正したものでございます。

才六款、港湾費、才一項港湾費九萬円の減額更正は、磯津漁港局部改良工事に対する国庫補助金の減額決定に伴い、更正したものでございまして、三十三年度来実施してまいりました同工事は本年度をもって完了いたしましたのであります。

才五項、港湾事業費負担金二百九十萬五千五百円の追加更正は、県営事業費の決定に基づき更正したものでございます。なお、このほか、港湾事業費負担金といたしましては、石炭埠頭建設費及び四日市港前面及び旭防波堤改修費等直轄工事に対する負担金の問題がありますが、まだ確定するまでに至りませんので、こんごに譲りたいと存じております。

才七款、教育費、才一項教育委員会費七十五萬四千五百円の追加は昨年末職員に支給いたしましたいわゆるプラス・アルファ一分の不足額と県公立学校職員互助会負担金を計上いたしましたものであります。才二項小学校費及び才三項中学校費は、光熱水費及び通信料の不足見込額の追加をお願いいたしましたものであり、才四項幼稚園費は職員に対する年末措置費の不足分を計上したものでございます。才五項校舎建設費の追加二百十三萬六千四百円並びに才七項体育施設費七百八萬五千四百円の追加は、校舎増改築工事あるいはプール築造工事についてそれぞれ実施設計の結果一部設計変更をしたことと近時建築単価の値上り等によって既決予算内においてはとうてい施工しえられない状況に立至りましたため、ここにやむをえず追加をお願いいたしましたものでございます。

才八款、社会及び労働施設費才三項児童福祉費三十七萬二千七百五十円の追加は、昨年十月にさく及して母子寮並

びに保育所の事務費及び事業費の単価が増額されましたので、所要の追加をお願いしたものでございまして、財源といたしましては、八割の国費と一割の県費を見込んでおります。なお、この交付金のうち市立保育所の措置費分につきましては、雑収入に追加をしたのでございます。才七項社会福祉事務所費の追加二十六萬円は、今回県費補助の決定いたしました社会福祉主事の被服費、その他と自動二輪車購入費であります。才二十六項精薄児童通園施設費二百七十七萬六千九百六十円の追加は、同施設の敷地を旧羽津隔離病舎跡に決定したため、工事費の追加並びに敷地の一部拡張費をお願いいたしましたものであります。

才九款、保健衛生費、才二項伝染病予防費二百三十三萬二千六百円の減額は、小児マヒ予防接種用ワクチンの予定数量の割当がなかったことと、単価が若干低くなったため、これを更正したものであります。なお、歳入において今回国の行政措置により新に交付されることになりました小児マヒの予防接種費に対する県費負担金を追加し、本人徴収金を減じたのでございます。才八項、塵芥処理費九十九萬六千三百二十円の追加は、自動車用燃料費の不足見込額であり、才九項塵芥焼却場費の追加三百四十五萬円は、本年夏季に予想せられます収集量の激増に対処するため、取りあえず現在の末永焼却場の一部増改築を実施し、一日約三千五百貫の焼却能力を増加しようとするものであります。才十項屎尿処理費は自動車修繕料の不足見込額八十一萬九千六百二十円の追加をお願いいたしましたものでございます。

才十款、下水道費二百五十萬円の追加は、本市南部地区における天白川から内部川に至る間は、近ごろ諸会社その他埋立工事が相次いで行われて、在来の排水状態がいちじるしく変わり、特に雨池町地内は低地帯であるため、排水が非常に困難となつてまいりましたので、これが対策費を計上したものでございます。

才十一款、産業経済費、才二項農業振興対策費八十九萬六千六百六十円の減額更正は、昭和三十四年伊勢湾台風時の

天災融資法に基づく農業経営資金利子補給金の不用額を減額し、新に県費補助の決定いたしました下野地区における新農村建設事業費補助金を計上したものであります。才六項耕地事業費四百十六萬四千五百十円の追加更正は、土地改良費において市営土地改良事業南日永用水路工事費の国庫補助承認額の決定に伴う減額更正と、団体営及び県営土地改良事業に対する補助金、その他土地改良協会に対する負担金の追加を行い、耕地災害復旧工事費は、国庫補助割当額の決定による事業費の減額と、農業土木費利子補給金の不用額を更正し、調査費は市営土地改良事業費の減額に従い更正したものであります。なお、このほか、地籍調査費において国土調査協会に対する負担金を計上したものであります。才七項商工業奨励費八百二十三萬五千九百三十円の追加は、商店街において設置いたしました街路灯並びにネオン塔建設費に対する補助金、県信用保証協会の資金出え金を追加したほか、商店街再開発事業は現在までにおおむねマスタープランの作成を完了したのでありますが、さらに一歩進めて今国会において審議中の防災建築促進法案に規定する基本計画を作成し、関係者の事業促進をはかりたいと存じここに委託料を計上したものであります。なお、才十一項水産奨励費は、天災融資法の規定に基づく利子補給金の不用額八十七萬六千四百十円を減額更正したものでございます。

才十二款、財産費は、過日全員協議会において御了承をいただきました中部電力の株式払込金二百三十九萬九千六百円を追加したのであります。この財源といたしましては、中部日本放送株式及び中部電力株式の売却代をもって充當いたしましたのでございます。

才十三款、企画調査費、才二項指定統計調査費の追加十七萬三千六百六十円は、過日執行いたしました農林業センサス、その他指定統計に要する経費を県費委託金の決定により追加更正したものであり才四項市史編纂は近く発行いたします市史の印刷製本費の不足額四十萬円の追加をお願いいたしました。

才十六款、才三項過年度支出一千九百二十二萬一千三百七十円の追加は前年度において国庫補助金等の地元立替により施越工事を実施いたしました農業土木災害復旧事業費について、本年度国庫補助の割當がございましたので、この地元立替分の償還金と前年度失業対策事業国庫補助金の精算結果による返還金を計上したのであり、才四項徴税費の追加百五十二萬七千円は市民税特別徴収義務者に対する納税奨励金をお願いいたしましたものでございます。才八項諸費三千五百五十萬一千九百三十円の追加は、数年来懸案となっておりました山ノ手国有住宅の払下について過日大蔵省より払下げ価格の内示をえましたので、居住者側と折衝を重ねておりましたところようやくその意向もまとまりましたので、これを購入し居住者多年の要望に副うことにいたしたいと存じここに払下げ予定額八千八百二十三萬九千五百二十一円の約三十五％に当る才一回払込金及び先ごろ小牧町並びに御園町において設置の公会所建築費に対する補助金でありまして、国有住宅購入費のうち二千七百六十七萬九千三百三十円は居住者負担でございます。なお、才九項繰出金一千三百二十三萬円の追加は、市立四日市病院の建築費の一部として同会計へ繰り出すものであります。

以上が歳出の概要であります。歳入におきましては歳出各科目において申し上げました特定財源のほか、国県支出金及び起債等をそれぞれ主管庁決定額或は見込額に基づいて更正し、一般財源といたしましては、市民税法人割並びに地方交付税その他をもって充當し、収支の均衡をはかったのでございます。

議案才五十号、同才五十一号の二案は起債に関する別案であり、議案才五十二号は県信用保証協会資金出えんに関する別案、議案才五十三号は中部電力株式売却に関する契約案でございます。

なにとぞ、よろしく御審議を賜りますようお願いいたします。

○議長（山本三郎君） 提案理由の説明お聞き及びのとおりであります。議事日程に従いまして本案に対する審議は留保いたします。

○議長（山本三郎君） 次に、日程才八、議案才五十四号ないし才五十六号の三議案を上程いたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 市長の説明を求めます。（「議長」と呼ぶ者あり）市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま上程の三議案について、御説明申し上げます。

議案才五十四号は、昭和三十五年度本市特別会計市立四日市病院費才四回追加更正予算案でございます。

今回お願いいたしております追加更正の主なる内容を申し上げますとまず、歳出におきましては、きたる四月新病院に移転の準備といたしまして、需用費のうち現在使用中の諸器具の修繕料、庁用器具費及び事業用器具費等の不足額三百五十五萬二千五百円を追加し、新営改築費につきまして、レントゲン機械設備費の一部計画変更による不用額を深井戸工事、カルテシュート工事、その他諸設工事費に振り替えたのでございます。

歳入におきましては、起債額を自治省承認額に基づいて減額更正し、旧病院敷地の売却単価増を見込みましたほか一般会計繰入金、その他を計上し収支の均衡をはかったのでございます。

議案才五十五号は、病院建築資金債に関する別案であり、同才五十六号は、レントゲン機械購入契約案でございます。

なにとぞ、よろしく御審議を賜りますようお願いいたします。

○議長（山本三郎君） 提案理由の説明お聞き及びのとおりであります。本案に対する審議は議事日程に従いまして留保いたします。

○議長（山本三郎君） 次に日程才九、議案才五十七号を上程いたします。

説明を求めます。（「議長」と呼ぶ者あり）市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま上程の議案才五十七号は、昭和三十五年度本市特別会計国民健康保険費才三回追加予算案でございます。

現在、下野及び県地区において、実施いたしております国民健康保険業務について最近被保険者の受診率並びに医療費が増嵩してまいり、療養給付費は当初予定をはるかに上回り九十万五千五百八十円の不足見込額を生ずるに至りましたので、ここに追加計上をお願いいたしましたものでございます。なお、これが財源といたしましては、療養給付費に対する国庫負担金と前年度繰越金とをもって充当いたしましたのでございます。

どうか、よろしく御審議を賜りますようお願いいたします。

○議長（山本三郎君） 提案理由の説明お聞き及びのとおりであります。本案に対する審議は留保いたします。

以上をもちまして本日の日程は終了いたしましたから会議を閉じることいたします。

なお、今回の本会議は十四日午前十時に開会いたしますから、御了承願います。

本日はこれをもって散会いたします。

午後四時五十二分散会

三和三十六年四月  
市市議会议定例會議事速記録  
才二号

○昭和三十六年三月十四日（火曜日）午前十時五分開議

○出席議員（三十七名）

大	池	荒	志	鈴	錦	平	谷	伊	矢	山	内	野	馬	米
谷	畑	木	積	木		野	口	藤	田	口	山	呂	嶋	田
喜	佐	武	政	敏	安	太	專	太	繁	信	弥	幸	温	好
	太										十	太	知	
正	郎	治	一	郎	吉	七	九	郎	郎	生	郎	郎	知	兼
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	速
														記



○欠席議員（三名）

橋 詰 興 隆  
小 林 夫 君  
藤 谷 裕 一 君  
山 本 三 郎 君  
中 島 忠 勝 君

高 橋 伊 祐 君  
柴 田 伊 繁 君  
森 田 卯 七 君

○市議会议務局（四名）

市 務 局 長 市 川 善 雄  
事 務 次 長 菊 地 英 也  
議 事 係 長 川 原 裕  
庶 務 係 長 佐 藤 茂

早 川 和 一 郎 君  
渡 部 金 一 郎 君  
伊 藤 定 男 君  
加 藤 愛 次 君  
鈴 木 弥 平 君  
浜 田 昌 弘 君  
服 部 七 衛 君  
笠 田 辰 男 君  
前 川 長 十 郎 君  
坂 上 泰 一 君  
伊 藤 宗 一 君  
伊 藤 平 藏 君  
生 川 定 章 君  
辻 比 義 平 君  
日 比 義 平 君  
田 村 末 松 君  
山 中 忠 一 君  
永 田 已 側 君

○ 議事日程

才二日 三月十四日(火) 午前十時開議

昭和三十六年度一般会計予算並びに関連議案

議案才一〇号、議案才二一号、議案才二五号、議案才三〇号

議案才三二号―議案才四三号、議案才四六号―議案才四八号……………総体質問

○議長(山本三郎君) ただいまから定例会を再開いたします。

本日の出席議員数を報告いたします。出席者三十一名、欠席届出者は三名、遅刻六名であります。

本日の日程につきましては議事日程表に従いまして議事をとり進めたいと思いますが、各議員から質問の通告がまわっておりますので開議に先だち質問順位をおきめ願いたいと思います。

なお、質問通告書を拝見いたしますと質問内容において重複するものがあるようでございますが、できますれば各自で意見調整をしていただきますようお願いいたします。

暫時、休憩いたします。

午前十時六分休憩

午前十時二十二分再開

○議長(山本三郎君) 休憩前に引き続きまして本会議を再開いたします。

質問順位を發表いたしますから御記入をお願いいたします。才一議題、笠田議員十一番、プリントの順序でいきま

す。才一議題、笠田議員十一番、山口議員六番、浜田議員十六番、大谷議員七番、生川議員二番、池畑議員一番、藤谷議員三番、錦議員十五番、矢田議員十七番、早川議員十四番、坂上議員十二番、伊藤宗一議員十番、山中議員十番、前川議員八番(「十番二人やで」、おしは六番やったがな」と呼ぶ者あり)伊藤宗一議員は九番です。山中議員十番よろしいか。前川議員八番、馬嶋議員十三番、谷口議員四番、橋詰議員十八番、伊藤太郎議員五番、才一議題以上であります。才二議題、小林喜夫議員八番、大谷議員一番、山口議員二番、早川議員四番、山中議員六番、前川議員七番、馬嶋議員五番、伊藤太郎議員三番、才二議題以上であります。

才三議題、笠田議員五番、山口議員一番、大谷議員三番、前川議員二番、伊藤宗一議員四番、馬嶋議員七番、橋詰議員六番、才三議題以上であります。才四議題、山口議員三番、早川議員二番、山中議員一番、才四議題以上であります。才五議題、笠田議員三番、錦議員一番、坂上議員二番、才五議題以上であります。(「議長、議事進行についてちよっと」と呼ぶ者あり)

○議長(山本三郎君) 山口議員。

○山口信生君 ちよっとお尋ねしますがね。総体質問の、総体質問じやありません。一般会計の総体質問が終つてから関連質問を許すのか許されないのか、ちよっとお聞きしたいと思ひます。

○議長(山本三郎君) 運営委員会で決定した事項としては関連質問は許しません。(山口信生君「許さんのやな」云々)

○議長(山本三郎君) これより会議を開きます。

去る十日の本会議におきまして、市長から昭和三十六年度の市政方針並びに一般会計予算案及びこれの関連議案等

について説明があり、審議は留保いたしましたのでありますが、本日はこれらの議案に対し先刻おきめ願いました順位により総体質問を行います。それでは日程才一、議案才十号、議案才二十一号、議案才二十五号、議案才三十号、議案才三十二号ないし四十三号及び議案才四十六号ないし議案才四十八号の昭和三十六年度一般会計予算並びに関連議案の十九議案を議題といたします。質問は登壇してお願いいたします。池畑議員どうぞ。

〔池畑佐太郎君登壇〕

○池畑佐太郎君 私が一番最初の皮切りをやらしていただくわけですが、どうぞよろしくお願いいたします。

私の質問したいのは都市改造事業について、もう一つは火葬場移転についての二点を御質問いたしたいと思います。まず最初に都市改造事業についての御質問をいたしたいと思います。いよいよ四日市も都市形態を作ってまいりまして、これが実施に当りましては理事者並びに市においては多大の事業費を入れてもらって改造にかかってもらって、おることはまことに四日市市としてけっこうなことと存じますが、現在、四日市といたしましては中心部だけが都市戦災復興の跡を整備し、また都市計畫事業が実施されておるんでありますが、だんだんとこの都市のほう張によって付近の農地並びに耕地におきまして、改造事業区域が拡大されてきておる今日におきまして、名四国道の事業に伴いましていろいろとこれに付帯する道路並びに事業において都市計畫の区域拡大ということは現在、四日市としてはやむをえないことは存じますが、一部この南部の浜田地区のほうにおきましてこのたび改造事業の区域拡張が計畫として実施されることに相なったように聞き及んでおるのでありますが、もち論計畫されておる地区は湿地地帯でありましてこれに伴う下水並びに道路というものが事業に伴って進展していくことは思いまするが、そく聞するところによりますとまだ阿瀬知川を中心にした北部のほうは下水計畫が計畫され、また実施をされつつあるんでありまするが、阿瀬知川の南側の現在、都市造成事業の拡大区域になっておる地区は下水計畫がまだできておらないと

いうことを聞き及んでおるのでありまするが、当然あの地区は下水の設備をせなければ都市改造をやってもなにもならない。多大の費用をつつ込んでみたところが下水の整理ができなければいつまでたっても宅地にできないというような実情になっておりまするが、あの周辺に市は排水場を作る計畫があるのかないのかということが一応問題になってくるわけなのでありまするが、その点について理事者の御説明をお願いいたします。かように思うんであります。

また、この市役所前の鵜。新正線の道路計畫になっておる地区は都市改造事業の区域拡大の中には、このたびは入っておらないのでありまするが、これはなぜ入れなかったか。なぜ、この中心部の一番大事な地区を区域に入れなかったか、地区民といたしましては浜田の東部地区より西部地区のほうが計畫区域内に入れてほしい。ぜひ一日も早くこの金場。新正線を完備してもらいたいという希望をもち、また熱意をいたしましては、たとえ二割五分や三割の減賦はやむをえない、減賦してでも早くやってほしいという熱意があるにもかかわらず、このたびはその地区が入っておらないが、なぜこれを入れなかったかということが一点。

次に、西浦地区の都市造成事業でありまするが、この地区は俗に申します近鉄の駅の西側でありまするが、昭和三十四年度に百萬余円の調査費をみていただきまして調査はやつてもらったように聞いておるんですが、この事業計畫の進捗状態はどうなっておるのかということを知りたい。かように思うんでありまするが、ひとつ、これは市長から御答弁を願いたい、かように思います。

次に、火葬場移築の問題でありまするが、この火葬場の問題は三十三年度から私はたびたび当初予算のときにお願いしておるんでありまするが、いよいよこの三十六年度には火葬場の移築というものも敷地を物色し、どうしてもやりたいということは部長からお聞きしておるんでありまするが、御承知の現在、四日市といたしましては富田、富

洲原地区に二カ所と、塩浜の大里地区に一カ所と堀木と四カ所の火葬場をもってありますので、これが一本にいたしまして、ぜひ火葬場だけではなく、この火葬場の周辺には自然と皆が足を運ぶというような設備をしてもらわないと火葬場はどこへいっても嫌われますので、敷地の確定等についても難色があるやに聞き及んでおるのでありますが、この火葬場の市としてどのようなものを作る計畫をもっておるかということを再度ひとつ部長からお聞きしたいと思います。

以上、二点を市長並びに担当部長から御答弁をわずらわたく存じます。（「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（山本三郎君） 建設部長。

○建設部長（城井義夫君） ただいまの池畑議員さんからの都市改造事業についての御質問に対してお答えいたします。

三点ございますが、そのうちの才一点、都市改造の点につきまして浜田西部の地区をなぜ入れなかったかという問題が御質問の要点かと存じます。都市改造につきましては国鉄の駅裏を主にいたしましたして、約八萬八千坪の地域を昭和三十六年度より四十年度にまたがりまして四億九千萬余の事業費を計畫いたしましたして、県の復興事務所において施行する段取りになっておりますが、これにつきましては名四国道の関連におきまして三十七年中に名四国道予定地を全部あげると、それから引き続き国道工事に着手するという中央の計畫並びに予定になっておりますので、その関連におきましてこの事業は国のほうにおきまして積極的に補助費、補助金あるいは事業の推進を要望しておる次第でございます。御質問の御趣旨のこれに関連の西部地区をなぜ入れなかったかという問題でございますが、これにつきましては、われわれ関係者といましてはこの国鉄の東部並びに阿瀬知川の南、それから国道、旧国道付近にかけてまして戦災復興で行いました周辺地区と申しますか関連地区、これを一括、区畫整理をやらない以上は戦災復興の

仕上げができないと。御案内のとおり市役所の前の道路もすぐ先で行き詰まりになっておる状況でございます、この点につきましては強く要望しておった次第でございます。ところが事業費の規模と申しますか、そういう関係から一応名四国道の問題を重点に考えました関係上、今回は先ほど御意見がありましたように海山道行きます旧街道から東の地域で八萬八千坪をやることになりました。これにつきましては、市の方針といたしましては市街地を整備するには区畫整理をこうやるのが一番いい方法であるということを感じておりますので、できる限り区域の拡大ということは事務措置は困難に思いますが、新しく事業を興すという考え方で進みたいと思います。従って現在の都市改造事業が終了せなくては次の区域をやらないという方針でなしに、並行的にでもそれをやりたいという気持ちで進んでおります。従って、この都市改造事業によって西浦の計畫あるいは浜田西部の計畫が昭和四十年以後になるというふうには、われわれは考えておりません。そういうふうには御承知願いたいと思います。

それから、それに関連いたしまして排水計畫の問題でございますが、御発言のとおり排水状況の非常にむずかしいところでございますが、公共下水道の計画によります終末処理場の予定地が当初の計画よりも変わりました、ガス会社の付近に決定いたしました。従って御質問のこの地域は以前には阿瀬知川の現在、進行中のポンプ場に包括する計画でございましたが、技術上、一度南のほうの阿瀬知川ポンプ場に寄せまして、またガス会社のほうに南行にいくというなんといいますが、行きもどりのロスでございますので、この点につきましては検討中でございます、この検討に当りましては建設省の下水課の技術の方を出張要請をいたしまして親しく現地も見ただき研究していただくことになっております。また東京の下水道を主としました設計会社にも依頼して近く調査をまとめたいと、こういうふうに考えております。その点に若干、細部にわたりますが、御説明申し上げますと阿瀬知川のポンプ場は以前はこの地区も含めておりましたのが場合によってはガス会社のほうへ直行することも考えられますので、そういったし

すと阿瀬知川のポンプ場の規模が若干、余裕が出てまいります。この余裕を四日市の西方の地区、西町あるいは住吉地区を一部包含するというような構想も現在考えておりまして、こういう点を総合的に研究いたしまして結論を出したいと考えております。

それから西浦地区の調査の進捗状況でございますが、その予算にも御要望さしていただいておりますが、本年度、三十五年度におきましては調査が若干残っております。それで三十六年度の夏ごろにわたりまして一応これをまとめる計画をしております。なお、これにつきましては県の都市計画協会にも作業の協力を依頼いたしまして、ぜひとも六、七月ごろあるいは八月ごろまでには完了したいと、こう考えております。それで一応現在の段階では基礎資料は全部終りまして、あとは事業をやるための最後の仕上げあるいは個人の権利調査、こういう点に集中しております。それで、これの、この事業につきましては政府からの起債を予定しておりますが、本年度は起債のワクの獲得という点につきましては若干、無理があるやに考えますが、国のほうにおきましてよくこの必要性を認識していただきますので、場合によりましたら本年度の後半期におきまして一部事業の規模にのせていただくような予算的御審議を願うような形にもっていきたいと、担当ではそういう考えでおります。

以上でございます。（「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（山本三郎君） 民生部長。

○民生部長（中山英郎君） 最前の火葬場移転について、の御質問にお答えいたします。

火葬場の移転の問題につきましては相当長い年月、市民の皆さんに御心配をかけており、理事者側といたしましても隠れた努力がかさねておったのでございますが、いずれにしても長い懸案事項でございましたが、単に火葬場という観念でもっていままで終始進みました場合において端的にいいましてどこでも難物視せられるという状態が事実

でございますして、候補なり折衝が、の面がありましても行詰っていた、とまっておったというのが現状でございます。ときたまちやうどいろいろ考えました結果いままであつたような、堀木にあるような火葬場の移転を考えずに、もう少し広い霊園的な火葬場を考えたらどうかというような観点に立つて純然たる環境衛生的の改善という観点に立つて進める方針ということに一応本年の春ごろから転換いたしました、いろいろ物色いたしました結果、現在の堀木地区を包含しておる松本地区の西方におきましてかつ好な土地があるということがめやすがつきまして、いろいろ考えたんですがございますが、当初、昨年の十二月もおし迫りまして一応、市としては火葬場をその松本地区の西方にもつて来る考えがあるが、松本地区全体としてはどうか、ということをして正式に地区に申し入れたのでございます。そのときに地区、松本地区全体といたしましては、条件があるけれども単なる火葬場の移転だけでは困る。それに寄付はどうだという、こういうお尋ねがありましたので、私どもといたしましては近代的な環境衛生の面から考えた火葬場というものは既説の観念を、堀木内にあるような火葬場の観念を捨てまして、もっと霊園的なものにしたと、少くとも余裕坪数も建設物は出して坪数はいらないのでございますが、敷地坪数も最低一万坪をほしいということを申し入れまして、地区といたしましては検討しようということで近代的な火葬場の施設をみてもらいました。その結果、その程度のものなら、ものならば地区としては火葬場をこちらへ、地区へもつて来ることに異議はないという正式の御返事をいただきました。その隣接の川島地区、それから神前地区の直接の自治会長さんの御意向もお聞きいたしました結果、その程度の規模ならばけっこうだという段階に一月の末こぎつたのでございますが、あと値段の折衝とか、そういうことにつきまして、さらに理事者としたしましては横の連絡をもちました結果、ただいま建設部長からお話がありました西浦地区の都市改良事業ということも合せまして、その改良地区内に現在の堀木火葬場がありますので純事務的に横の連絡をとりました結果、土木都市計画的の見地からも、さらに結びついて考えてはどうかという

助言がありましたので、その地区に再検討いたしました結果、さらにもう一萬坪程度のものを合せて二萬坪程度のものがとりうるならば墓地もそこへもってきて墓園地式のものができる、そうしたほうが理想的である。で、墓地公園の場合には国庫補助のあるということをお話をえまして、一応これは墓地公園は二字分公園でございますが、一応火葬場用地というふうには環境衛生の面から手をつけましたので、用地買収につきましては環境衛生部門で担当して、あの墓地公園なりは建設部のほう、それから、それに関連する道路その他の用地決定は建設部門と、それから火葬場の築造ということにつきましては民生部門というふうな、一応割り切りましてこれを進めたい、というふうな二月中旬、一応基本的態度を決定いたしました。ただいま直接の地主さんに値段の交渉中でございます。これも非常にあせっておるんですが、地区にはいろいろ事情もございまして、また私どももいたしましては値段、それから環境の点においてさらに慎重に、しかもじん速を要するという考えのもとにただいましつかりしたそのできるかできないかということをおし上げるのは、ことができませんのは非常に残念でございますが、いま非常にデリケートな段階にありますので、考えてみまして担当課長あるいは出張所というふうな連絡をとりまして現地に折衝最中でございます。その現状を御了承願いたいと思います。だいたいそういったことで純然たる火葬場の移転だけを考えずにそういう含みをもって進む、しかも現状はこうだということだけ御説明を申し上げます。

○池畑佐太郎君 都市改造事業についての説明は担当部長さんから説明があったんでありますが、この説明内容を聞き及んでおりますと、どうしても西部のほうもやりたいが、結局、名四国道との関連性がある、また、事業費とのつながりがあるのでやむをえず浜田東部だけを実施したが、西部のほうもやりたい、一日も早くやりたいということで、概略理事者の考え方もわかったのでありますが、この金場。新正線はしかも市の市庁舎の前の道路でもありまた、これを貫くことにおいて南部の石油化学工場との連絡がこの道路によって結ばれるので、市はこの点を十分ひ

とつ頭に入れてもらって考えていたかぬと、むずかしいからこれはあと回しだ、まあ簡単などころから進めようじゃないかということであっては四日市の発展に大きなそごを来たと私は存するのであります。現在、この金場。新正線の浜田予定線におきましては、その周辺がヘルス・センターができておる関係上だんだん宅地化され、また住宅化されてまいりますので、一年おそれれば一年遅れただけ立のき費が多くなるということにははっきりわかりますので、この点十分御留意されて金場。新正線は金場。塩浜線であるというようにお考え願ってできるならばこれを一気に合成ゴムの東のこんど名四国道が予定されておる道路に塩浜地区に直結するような一つの考え方も持たれてよいんじゃないかというふうに感じられるのであります。どうかこの点ひとつ理事者の方においては強く県並びに建設省のほうへ御折衝を願って、先ほども申したように立のきがあるからあと回しや、また、むずかしいからあと回しやということになると追いつけば追いつくほどむずかしくなっておりますので、ひとつ一日も早く造成地区、区域を設置されるなり、区域拡大をされるなりして実施をされんことを要望いたします。

次に下水、これに關係する排水の問題でありますが、先ほど部長さんの説明ではできうるならば阿瀬知川のポンプ場のほうへもっていったらどうか、これができなければこんど計畫されておる下水終末処理場のほうへもっていったらどうかという考えも持っておるという御説明であります。私が感じますのは終末処理場のほうへもっていくと相当格差がありますので、おそらく逆流するんじゃないか、私ははしろうとであって技術屋やないんだからわかりませんが、一番あの周辺では港中学の予定地並びにこんど区域を物色される地区は低い地区でありますので、おそらくや私は鹿化川の南の終末処理場へもっていくのじゃないかというような感じもいたしますが、できうるならばひとつ曙町の先般浜田議員からお話が合った鉄骨の置いてある市の保有地、あの周辺が一番いいのじゃないかと、浜田さんからも保育園の話も出ておったが相当あそこは面積もあり、またあの地区の中心部でもあり、排水場を作るのには

一番当をえた場所ではないか。現在その周辺に小さい自動的なポンプがつけてもらってあるのでありますが、これは一応、一部の補いでありまして、処理をするという設備ではありませんので、ひとつそのへんのところを再度部長さんの御意見を伺います。

○建設部長（城井義夫君） 浜田。新正地区の排水の問題についてでございますが、一応、排水の問題につきまして現在の水路排水の状況を、環境をよくするという点につきましては地形が最大の条件であり、技術的な条件に制約されておりますが、公共下水の考えにいたしますと、たとえばそこに運河あるいは川があっても処理しなくては出せませんので、雨水を主とした水におきましては付近のところで捨てるといふほかにしようありませんが、汚水につきましてははなるだけ付近の水をよごさない、そういうふうな阿瀬知川のポンプ場から汚水だけは鹿化川の先に将来ポンプで送る予定にしております。これを阿瀬知川にポンプをかけて鹿化に送りますと、その途中のパイプは水圧を受けた圧力ポンプになりますが、これをパイプで自然流下で流していきますと、鹿化でくみ上げる形で考えますと、その付近の水が落せるようになりますのであります。結論的にそういうふうな点でございせんが、いま議員さんのおっしゃいました分流的に放流する、あるいは合流方式をとるような点、それから汚水の方式につきましていろいろ的研究中でございますので、こんご早急に結論を出したいと思ひますが、いましばらく時間をいただきたいと思ひます。

○池畑佐太郎君 下水の処理についてはこんご十分研究して、当をえた設備をやりたいという御答弁であります。これは一応納得いたします。いよいよ四日市も都市造成がこちらで始まり、また下水の区域拡大をされると思ひますが、これについて先般の職員異動、またこの市の機構改革の点にはパンフレットで都市計画課、下水課というように表われておったのをまた消されたんであります。市は都市計画課並びに下水課はいつから設置される

予定であるか、この点ひとつ市長さんからお聞きしたいと思ひます。

○市長（平田佐矩君） お答え申し上げます。

私のほうは四月から発足したいと思ひます。

○池畑佐太郎君 下水だけですか。都市計画のほうは…。

○総務部長（林義男君） お答えいたします。

先ほど市長が申し上げましたように下水道課につきましては四月からこれを新設したい。

それから都市計画は現在土木課で所管しておりますが、それと同一ような状態で処理していきたい、こういうふうな考えております。

○池畑佐太郎君 そうすると都市計画課はまだ置かない、現在の土木課の部内の都市計画であるということなんです。ね。（総務部長、うなづく）よくわかりました。

次に火葬場問題でありますが、ただいま部長の説明では火葬場の移築は火葬場だけの問題やなしに霊園地帯の中に火葬場を併用したい、約二萬坪の土地をいま物色中であるということをお聞きしたのであります。総合火葬場に作るかせんかという質問を私したのであります。その答弁はなかったものであります。あくまでも堀木の火葬場の一部ということだけのお考え方か、それともこの四力所を一カ所にまとめてそこで火葬場並びに霊園地帯を作るといふお考え方か、そのへんの説明がなかったわけなのでございますが、御説明願います。（「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（山本三郎君） 民生部長。

○民生部長（中山英郎君） いい落しまして申しわけございませんが、希望といたしましては四力所のものを收容し

て、なおかつ自然増をこなしうるものが理想的だ、こういうふうを考えて、そういうふうな考え方のもとに立案を検討中……。〔聞きにくい〕、〔池畑佐太郎君「了承」という〕

○議長（山本三郎君） 生川議員、どうぞ。

〔生川平蔵君登壇〕

○生川平蔵君 同僚議員のあとあと質問も多くございますので私の質問したいところはごく簡単に海岸線について、ということでご質問を申し上げたいと存じます。

ただいま海岸線を通っております災害堤防と名四国道について、海岸堤防と名四国道がただいまのところ合併施工で一昨年の伊勢湾台風未曾有の大被害がまいりまして、皆滅的な大損害を受けて一しゆんの間に尊い人命と財産をさらって行ったのであります。官民の協力のもとようやく復興しつつあることは喜ばしい次第でございます。多くの家を流された人たちのために海岸に建てられた応急住宅、もうすでに一年有余をへてもうことしの十月には撤去の時期にきておると思うのであります。この点、市当局はどういうお考えでおられるか。もうすでに住宅金融公庫等で住宅を建てられた方々は問題はないと思いますが、家を流され、財産はない、家は再建することができない人たちがどうしてこんご暮していくべきかということが問題であると思うのであります。その点、応急住宅を撤去する前にその人たちがどういう方法で生きていくべきかと、市当局はどういうふうを考えておられるか、その点、御意見を伺いたい。

次に、名四国道と災害堤防と合併施工でいまだんどん施工されておりますが、海岸でむかしから古く営業をしておる加工業者の干場が相当に名四国道のために取られておる。もうすでに遠洋漁業基地から港のほう、富田のほうが非常に干場が狭くなって営業ができないような人たちも続出するようになってきたが、名四国道は国の施策であり、県

市の発展は妨げないのではありませんが、台風で家は流され、加工場は流されて災害融資によってようやく復興しようとするときに、自分たちの営業が非常に悪化してきたということは事実であります。もうすでに一年有余もたつて返還期になりつつある今日、返還に困難を来すようなことがあったなら相当に考えるべきであると思うのであります。この問題は現実には迫った問題でございますので、慎重に考えて善処していただきたい。市は発展するがこれがために困る人たちがあつたならば、十分に考えて厚い処置をとっていただきたい。そうしてかれらにある程度、理解させて了解のもと行ふのがいい政治のやり方ではなからうかと思ふのであります。世の中に生きる幸福がいい政治のもとにあるのではなからうかと私は信ずるのであります。その点、市の理事者の御答弁をお願いいたします。

○議長（山本三郎君） 暫時、休憩いたします。

午前十一時十七分休憩

午前十一時三十一分再開

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。（「議長」と呼ぶ者あり）

・民生部長。登壇して願います。（「登壇して答弁するのか」と呼ぶ者あり）

〔民生部長（中山英郎君）登壇〕

○民生部長（中山英郎君） まず才一点の、応急仮設住宅をどうするかという問題につきまして、民生部長よりお答え申し上げます。

伊勢湾台風に際しまして、応急仮設住宅がされましたのが三百七戸でございまして、現在までに三十五年度のこの三月一ぱいまでに撤去いたしました、またいたす予定のものが三十三戸ということになっております。それで全般を



通じまして御承知のように応急仮設住宅は本年の十一月四日で入居期限が切れますので、基準原則はこれを全部撤去するという建前を市ではとっております。特に御指摘のありました富田一色、天ガ須賀、東富田といった地区は先ほど名四国道の問題にからんでおりますが、富田一色につきましては三十二戸のうち十八戸は現にこれは実態調査で詳しい。天ガ須賀十八戸のうち六戸はすでに撤去いたしました。それから東富田三十八戸のうち九戸はすでに撤去いたしました。だいたい残っておりますのが百七十七戸という軒数でございます。これにつきましては嚴重調査も一応厚生課でやっております。調査の結果、調べてみますとまた貸しの人、あるいは一軒で二軒使っておるということがありますので、市といたしましてはそういう人を排除するという、この作業を一応計畫したのでございますが、暖かくなつてからそれを移転あるいはとりこわしという方針をきめまして、四月以降それをいたしまして、理想といたしましては十一月四日までに全部撤去したいというのが基本方針でございます。当時、建設の耕地につきましても地元の自治会長さんあるいは理事者、いろいろ地元で責任をもつという話し合いでございましたが、問題は残るところでございますが、この四月以降、強力に原則として全部撤去するという方針をおし進めたい。残る問題につきましては個々別々に解決を要する、こういうふうに考えております。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） オ二問の名四国道の、名四国道と海岸堤防の関連工事に伴います補償問題についてお答え申し上げます。

ただいまの御質問では主として水産加工業者の関係の問題をお取り上げになりましたが、この工事に関連いたしました漁船の関係、あるいはハマグリ等の養殖の関係、あるいは付近の旅館業者その他の営業者の関係、海水浴シーズンにおきます季節的な営業者の方の関係、海岸のいろいろ海水浴場の観光関係の問題と、いろいろの問題が関連的に

出ておりましてこの問題につきましては相当以前から県、市、国におきましていろいろ考慮しまして頭を悩ましておる問題でございます。一昨年のある時期におきましてはこの問題が解決をつく見通しが困難でございますので名四国道の事業を一時延期しようじゃないか、あるいは最終年度のところまでずらそうじゃないかというような考えが国の方で検討された時期がございますが、地元の私たちといたしましてはこの名四国道の工事がすなわち海岸堤防工事であるという観点から防災的に二年ないし三年後回しにした場合に必要地区に不安を与えますのでなんとかして早急に着手していただきたいというふうに申しておったのでございますが、その点につきまして県の方でも御心配になりましていろいろ問題は地元が積極的に解決をつけるから早期着工を願いたい、それならかりまじょうということで現在着工しておるのでございます。そういういきさつもございまして現在こういう問題につきましては県、主として副知事さんでございますが、中心になって県の水産課あるいは土木関係等の担当部課から資料を集められて現在検討中でございます。ところがいろいろ他の高潮対策その他の関連もございまして県としましては早急に結論を出さなくちゃいけない市の周囲の状況になってきておりまして県の副知事さんとも会いましたときに早急に結論を出そうじゃないかというふうにおっしゃってみえたので、近く県の方で結論を出していただけたらと考えております。これにつきまして市といたしましては県のお考えにたよりまして、一日も早く解決をつけていただけたらというように考えておりまして、県の方の考えからいきまして近く結論的な答えが出るものと確信しております。

○議長（山本三郎君） この際皆さんに申し上げますが、本定例会より速記録を作りまして配布いたしますように考えておりますので、速記の關係上、答弁も質問も登壇をひとつお願いいたしますと思います。そういう關係上でありますので再質問も御登壇をお願いいたします。生川議員。

〔生川平蔵君登壇〕

○生川平蔵君　ただいま問題の才一点は民生部長の答弁によりますと、応急住宅は三百七戸のうち百七十七戸はだいたいのところ撤去する見通しである、こういう答弁かと思うんであります。私の聞きたいところは本当に家のない人建てられない人が幾軒あるか。四日市市民が流されて本当に行くところのない人が何人あるかということが聞きたいのであります。そうして期限十一月の四日にはかならずなにかの方法において予定どおり撤去できるかどうか、実施できるかどうか、この点をもう一度お聞きしたい。

才二点の名四国道によるいろんな海岸線の業者が困っておる、それに対する国、県、市がいろんな考え方をして早急に結論を出したいという御答弁だったと思うんであります。非常にこの問題はむずかしい問題でございまして、名四国道のほうといたしましても、県といたしましても、市といたしましてもどちらから先にいいだして解決するのかその点、県が主になってやるのか、市が親心を出して尽力してこの問題を解決するのか、その点をはっきりとしてもらいたい。

〔民生部長（中山英郎君）登壇〕

○民生部長（中山英郎君）　再度お答えいたします。

すこし数字的な誤解があるようでございますので……。百七十七戸撤去できる見込みというのは、いま富田、富洲、天が須賀地区で昭和三十六年度撤去対象数が百七十七戸ある、こういうふうに御訂正をお願いしたいと思います。

それから再質問の、いま現在においてうちを建てられない人、それから行けない人はあるのかないのか、全部撤去できるかどうかという御質問でございしますが、率直に申ししましていまの時点におきまして何戸十一月四日現在において全部撤去できる数はどう、それから行けない人を申し上げることは即答できないと思うんでございますが、私どもの気持ちといたしましては春先になれば原則どおりに十一月四日までに全部移転をしてもらい、撤去したい、これ

を基本方針としていきたいというふうに考えて、まあ、その歩止り見込みがなんぼくらいあるかということとはわれわれの努力、地区の方の協力と、それから入居者の努力ということに結びついてくると思うんでございますが、十一月四日以降に残った人をどうするかというところはいまのところはつきり自信をもってお答えすることができないのでございますが、これはそういう問題も起きるということは建設当時すでに予見されたことでございますが、実数をつかみながら、また、われわれのできる限りの努力をはらいながら残ったものについて、ここにこの期限までに一応のめどをつくって考えなくちゃならぬと、こういうふうに考えておりますので、御指摘の全部撤去できるかあるいはなんぼあるかということはいま私ここで御即答を申し上げにくいという点で御了承願いたいと思います。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君）　名四国道に関連の……（聞きにくい）の主体はどこかというまあ問題だと思いますが、この点につきまして私は事務的に所見を述べさせていただきますと思います。と申しますのは、この名四国道につきましては四日市並びに名古屋と関連の中間の町村におきまして、多年にわたって本庁に強い誘致の運動を続けた結果着工されましたので、関係町村並びに県におきましても誘致という観点から国のほうに最大限の協力をするということも考えられますが、そういう点の対策は別にいたしまして、私、事務的にこれを考えてみますと名四国道は国の直轄工事でございます。これに合併施工をやっております海岸堤防の復旧工事は県の責任工事でございます。その点におきまして当然国並びに県の関係においてこれは解決をつけるべきであるところ、ところが、この工事は道路としては四日市の発展に重要な寄与する道路であり、海岸堤防は市民の生命、財産を守るものでありますので、市としてはこれには全然関係がないのだというふうには申しませんが、やはり国、県の間に立ちまして最大の協力をさしていただくという立場であって、先はどからずつと申しますように義務的には国、県の問題であると、こういうふうに私は解釈

しております。

〔生川平蔵君登壇〕

○生川平蔵君　オ一点の応急住宅のことはだいたい部長の答弁で了するのでございますが、なにしろ非常にこの問題もむずかしい問題でございまして、期限にはなかなか予定どおりに進まない。もうすでにこの四月から十分に調査をして地元の自治会に協力をえて、実情を調べて、なにかの対策を事前に立てなければ解決はなかなかむずかしいと思いますから、十分に考えて処置をしてもらいたい。

オ二の問題でございますが、名四国道による合併施工、防潮堤との合併施工の問題、国、県の責任において市が協力してやるという、そういう部長の答弁でございますが、この点、四日市市の中にあるいろんなそういう施設並びに問題でございますので、市がまず主体になってそういう困った人たちになにかの形でやってもらいたいと思います。なお、富田一色と富田の海岸は非常に会議のときにもめた土地でございます。あくまでも名四国道は海に面して、十三号台風、海に面してやってもらいたいという希望があったのを、どうしても災害堤防、台風が近づいてくるから昨年西側に七メートル五十やらなければ台風のときに非常に困るというので、あくまでも災害堤防でやってもらいたいという条件で作られておるのでございますので、名四国道という問題は一時離して災害堤防のみということによって了承しておるといふようなことでございますので、その点、部長はよく知っておられると思いますから市の十分な御協力をいたされんことを希望いたします。

これによりまして、私の質問を終わります

○議長（山本三郎君）　藤谷議員、どうぞ。

〔藤谷裕二君登壇〕

○藤谷裕二君　昼が迫りましたので簡単に質問いたします。（「急がんでええぞ」と呼ぶ者あり）

まず、市税収入についてお伺いいたします。

本市行政の根幹である市税の収入につきましては、最近、非常に大きな伸びを示しておりますが、私も市長とともに非常に喜びといたされます。しかしながら本年度の予算を見ますと二九％、去年より二割九分の増収を見込んでおりますが、この増収見込み額はこの間出されましたオ六回の追加更正予算を見ますとすでに十三億円以上の市税収入の見込み、見込まれております。この観点からいたしますと去年よりさらに大きな伸びを示すのじゃないか、こういうぐあいに考えられますが、まだ相当、税収入に含みをもっておるのかどうか。さらに、ことしから固定資産の評価が変わりまして、固定資産、特に土地、家屋につきましては再評価をいたしましたして相当な増収を見込んでおるはずでございます。これについて増収見込み分はどれだけ盛られておるのか。これは税務部長からひとつお願いいたします。

その次に農業振興対策でありますが、農業の振興対策につきましては市長並びに市の行政責任者の現状把握が非常に乏しく、従ってなんら見るべき政策がないのであります。今日の農業は他産業の著しい発展に比べ自然的、社会的、経済的に全く不利な立場におかれておりまして、その生産性において、また生活の水準においても大きな格差を生じておる現状であります。本市の中でも中間地帯及び山間地帯の専業農家は両三年来、収益がこう着いたしました。農業経営上、全く不能を来たしておる現状であります。私は去る日、地元の中学校の卒業式に参列したのであります。その際、卒業生百六十二名の中でわずかに六名の女子だけが家庭に残って、あと百五十六名は全部進学あるいは就職というように地元を去って行きます。この状態は一面四日市の大きな発展を物語り、将来に大きな希望をもっておるのでございますが、他面、純農家地域といたしましてはその大多数の農家の子弟でありまして、従って、うちをいつも出してしまうということにつきましてはいかに農村が貧困であり、農村におったのでは食えないかという印象

を与えておるといふことをはっきり示しておるのであります。思うに、このわが国の農業は、農は国の初めといひ、  
して農業とは日本わが民族の育ての親であります。母である。将来の国家が、日本の国家が繁栄していこうと思えば  
この農業をどうしても守っていかなければなりません。育てていかなければなりません。農業は全く原始的な産業で  
ありますが、今日の新しい時代の産業に歩調を合せて進めていこうといひますれば農家自体も大きな目ざめを必  
要といたします。しかしながら政治を行うものとしてここで思い切った施策の手をさし伸べて新しい方向に育成強化  
し、しかもこれを守っていかなければなりません。去る二月十八日に政府は国会に農業基本法並びにこれに関連する  
いくつかの法案を提案し目下審議中でありまして、さらにこれがよりよく解決され、国会を通ることは確実でありま  
す。この法律の中にも「政府は農業の近代化のためには予算的措置の義務を負う、しかも地方団体、公共団体は国の  
施策に準じて施策を講じるよう務めなければならない」と示されております。市長は予算説明の中にも「農業のため  
には農業関係法の精神を生かして農業の構造の改善に対する指導と助成を強化する」とありますが、まことにことば  
はけっこうであります。これをどういうぐあいに實際進められていこうとするのか。予算を見ましてもなんら見  
るべき措置が講じられておらぬと思います。特に、この反対に本年度は固定資産税の評価がえによりまして、農家か  
らはさらに土地、建物の税金が拡大されておりますし、また都市計畫区域の拡大によりまして新しく都市計畫税が二  
倍附加されております。よく考えますとちやうど泣きづらにハチであります。この行政がこのまま続けられていっ  
ていいのか、ここで思い切った市の施策をなんとか示してもらいたいと思います。これについて市長並びに関係の理  
事者から説明を願いたい。

それから才三点といしまして、道路行政を割愛いたしまして住宅行政であります。住宅建設につきましては  
各地に住宅の、市営住宅を分散させることは将来市の発展ということで、さいわい小林町にあの団地でなくて南、中、

北というぐあいに住宅を建設するという方針であります。が、まことにけっこうであります。しかし、あの小林町の  
団地は初め土地を求められるときに坪補助金一千円未満ということで、買われたのはその予算を見ますと坪当り三千  
五百円というぐあいに上っております。そういうぐあいに一千円のもの三千五百円、もちろん道路整備に対する減  
賦とか、こういうものはあると思います。二割減賦しても一千二百円、しかもこういうことになりましたと特に地元の  
一農家なら土地を出したものがそういう印象を受ける。一年も経たずしてすでに三千五百円、これは、われわれはち  
よつとみますと将来市が住宅をあつせんされ、住宅の敷地をあつせんされる場合でもこのままあつせんしていけるか  
どうか、こういう印象を受けます。これについて御説明願いたいと思います。

これで才一の質問を終わります。

〔税務部長（松野蕙亮君）登壇〕

○税務部長（松野蕙亮君） 御質問の才一点の市税収入の見通しについてお答えいたします前に、過般の本会議にお  
きまして市長の市政方針並びに三十六年度の当初予算案、それに関連する諸議案の説明の中で税務に係する事項に  
つきましてはきわめて抽象的でございましたので、この際、事務担当者といまして私から市長にかわりまして当  
面いたしております重要諸案件につきまして、一応、概要と方針について申し上げ御了解をえたいと存するのでござ  
います。

昭和三十六年度は、税務担当者にとりましてはまことに重大な年でございます。現に当面しております問題が三、  
四件あるのでございます。その内容につきまして御説明を申し上げます。

その才一点は、ただいま藤谷議員から御質問のありました固定資産税の課税標準でございす。土地と家屋の評価  
がえの点でございます。これは、三十六年度は土地、家屋の評価の基準年度と申しまして、従来、土地、家屋は三年

毎に評価がえを行うことになっておりまして、前回、昭和三十三年に行われた評価額を標準といたしまして三十五年度までこれを採用してきたのであります。本年はその基準年度に当たりますために、土地と家屋に対して全市的に評価がえを行わなければならないのでございます。この評価がえにつきましては、今回、国の指示により県を通じて示されましたところの評価指示額によりまして行うものでございますが、その平均価額の上昇率を申し上げますと土地のうち田につきましては四。一％、畑につきましては二。九％、宅地は六。八％、山林が四％、原野三％でございます。家屋につきましては木造家屋が五。九％、非木造家屋が二。三％でございます、これにより評価がえを行いました場合は税収入にどのような影響がありますかと申しますと、約二千九百六十萬円の増収が予想されるのでございます。これがための事務量については非常にぼう張いたしまして、昨年十二月から今日まで五名のアルバイトをお願いいたしておりますとともに、関係職員におきましては今日まで超勤に次ぐ超勤を願いました結果、ようやく今日二十二日からこれら課税台帳を縦覧に供する運びと相なった次第でございます。

その次の二点は、国の税制改正の一環といたしまして地方税におきましても減税及び課税方式等の改正が行われるわけでございます。地方税に対する税制改正につきましては法案が提出され審議、決定されるはずでございますが、まだ改正案が国会を通過しておりませんので、税制調査会の答申と現在の情勢から判断いたしまして昭和三十六年度の市税収入に影響があると予想されますものを申し上げますと、その一つは電気。ガス税に三百円の免税点制度が設けられることでございます。ただし、この三百円という額についてはまだ決定的な額でございせんが大体三百円の免税点が認められる様子でございます。これによりまして実施された場合は約一千二百六十萬円の、電気。ガス税の減収が予想されるわけでございます。その二は、企業課税の改正によりまして償却資産の耐用年数が改定されること及び企業配当課税の改正等によりまして法人税が軽減されることに伴います法人市民税の減収がございます。これに

による減収見込み分が約一千八十萬円でございます。

その才三は、内航船舶に対する固定資産税が減税されることがございます。これは従来、内航船舶に対してはその価格の三分の二を課税標準としてそれに賦課されておったのでございますが、今回の改正案を見ますと、これを二分の一に軽減されようとしておりまして、これが実施されました場合には約百萬円から二百萬円の減収が予想されるのでございます。その他税別には関係が、税制改正には関係がございせんが、大規模償却資産の課税標準の特例によりまして三十六年度から固定資産税の課税権が県に移管するものがございます。御承知のように償却資産に対する課税は一定限度額以上は県が課税権をもつものでございます。新設資産に対する場合は五カ年間、課税年度額を拡大することになっております。しかし、この五カ年間の市の課税限度は同一の額ではないのでございまして、新設後一年と二年、三年と四年、五年という三段階に分けてまして県と市の課税権を定めておるのでございまして、新設後この段階の年数を経過いたしますとに市の課税限度を縮小していく仕組みになっておるのでございまして、三十六年度におきましてこれに該当する大規模工場が二つございます。その一つは二年目から三年目になり、他の一つは六年目すなわち適用年度経過による特例を受けなくなったのでございます。この二工場に対する課税権の県移管に伴います減収額は約五千萬円程度を予想されるのでございます。

次に、才三点は市の機構改革による税務事務の統合でございます。税務事務の統合につきましては、過般、御決議を賜りました事務文書条例に基づいて行うわけでございますが、これは現在の二十出張所に散在しております税務事務を本庁一本に統合いたしまして、事務の合理化をはかろうとするものでございまして、これによりまして全市的に課税の均衡がはかられますとともに、事務の統轄運営の面におきましても非常な合理化になると考えるのでございます。しかし他面、遠隔の地区の方々には多少の御不便をおかけする面も生ずるかと思うのでございますが、その点

につきましては、たとえば土地台帳や地籍図などは出張所に残し、あるいは納期当日におきましては出張徴収の拡充、また納期後におきましては税の出張所扱い等を考慮いたしましてできる限り地区の方々に御不便をかけないように考えておるのでございます。なお、税務職員は現在、本庁が六十四人、出張所に七十五人配置されておるのでございますが、これを一カ所に統合されますと税務部は実に百四十人という飛躍的な人員構成になるのでございまして、従いまして人事管理等につきましても相当困難な面が生ずることも予想されるのでございますが、そのようなことにつきましては特に職員間の融和をはかり、明るく職場の造成に努めまして円滑な人事統制を行なっていきたいと考えておるのでございます。本庁と出張所の統合が一プラスイコール二であつてはこれは合理化にはならないのでございましてこれを四にも六にもなるような有機的な統合にもっていきたいと、かように考えておる次第でございます。

なお、このほかに重要な問題といたしまして昭和三十七年度から実施見込みのものとして三十六年度中に準備を整えなければならぬものに住民税の課税方式の改正がございまして、地本税のうちの住民税は従来その課税標準が国税であります所得税または法人税に依存しておりますために、先ほど申し上げましたように国税が改正されますと、その影響をともに住民税に受けやすために地方財政に相当な悪影響を及ぼすことになりますので、その影響をしゃ断するために住民税の課税方式を改めまして、地方財政の健全化をはかろうという趣旨に基づくものでございます。まだ改正法案は決定しておりませんが、税制調査会の答申によりますれば現在の五つの方式を二つに統一しようとするものでございます。すなわち所得税を課税標準とする才一課税方式及び所得金額から所得税を控除した金額を課税標準とする才三課税方式を廃止しまして、所得金額を課税標準とする現行の才二課税方式の混合方式及びただし書方式の二つを主とした方向に統一をしようとするものでございます。本市のように所得税額を課税標準といたしております。才一課税方式を採用いたしております都市にとりましてはおよそ五〇%の事務量が增大するわけでござ

います。これに對しましては根本的な受け入れ態勢を整えなければならぬと存じております。これにつきましては改正法案が成立いたしましたのち三十六年度の前半期において行ないたいと考えておるのでございます。

以上が当面いたしております税務関係におきます主な事業でございますので、どうかよろしく御了承、御了解をお願いいたします。

次に、昭和三十六年度の当初予算に計上されております市税の収入見込額について、藤谷議員さんにお答えを申し上げたいと存じます。三十六年度におきましては地方税におきましても国税同様、税制調査会の答申の線に沿いまして税制改正が行われる予定でございます。先ほど申しましたように現在なお国会で検討中でありまして確定的な改正案の決定までには至っていないのでございますが、今回の税制改正が税制調査会の答申を骨子として行われようとしております情勢にかんがみまして、現段階におきます諸情勢を勘案し、ほぼ実現するであろうという見通しの上に立ちまして、経済情勢その他税収上の諸条件を考慮いたしまして、税収見込額を計算した次でございまして。その内容につきまして、簡単に申し上げますと、税収増加の要素といたしましては、固定資産税のうちの土地、家屋の評価がえに伴います増収と建物の新築等による増収がございまして、それから産業、経済界の好況による市民税、電気、ガス税、タバコ消費税等の自然増収が見込まれております。それから、都市計画区域拡大によります都市計画税の増収がございまして、工場新設、及び増設によります固定資産税の増収がございまして、これら、増収額は、昨年の当初予算に比較いたしまして、約四億九百万円を見込んでおるのでございます。また、税制改正による減税見込みのものといたしましては、電気、ガス税に、先ほど申しましたように、三百円の減税点を設けられることによります減収がございまして、それから、事業用の償却資産の耐用年数の改定、及び企業課税の軽減による法人市民税の減収がございまして、それから、さきほど申し上げました、内航船舶に対する固定資産の軽減による減収などもございまして、その

他、大規模工場の償却資産に対する課税におきまして、地方税法の指定によりまして課税権が県に移管される減収がございます。これらの減収額の総額は約一億四百萬円と見込みました。先ほどの増加額四億九百萬円からこの減収分を差し引きいたしますと三億五百萬円、二九％強の増加になるのでございますが、これは昭和三十五年度の当初予算に対する比較でございます。先ほどの藤谷議員さんの御質問の中にありました三十五年度の最終予算に比較いたしますと、六千五百八十五萬六千円という数字が三十五年度に比較いたしました増額になったわけでございます。以上が事務的計算の上に立つての増収額でございますが、このほかに係数に現れないいわゆる自然増収も相当予想されるのでございます。これにつきましては年度後半にならなければつきりいたしませんので、現段階におきましては的確なる数字は予測できないのでございますが、われわれといたしましては三十五年度の産業、経済界の好況等、高度の経済成長によりまして七、八千万円程度の自然増収を期待しておりますのでございます。

簡単でございますが、以上をもちまして御了承をお願いいたしますと思います。

〔産業部長（浅川謙一君）登壇〕

○産業部長（浅川謙一君） 藤谷議員さんの御質問にお答えいたしたいと思ひます。

農業指導の問題でございますが、おっしゃるとおり当四日市の農業は非常に特異性をもっております、御承知のように本市の工場が進出してまいりまして沿海地帯が非常につぶれ地を生じまして、それに伴ひまして、いわゆる山がく地帯、一部丘陵地帯の住宅化、かようになりまして、昨年におきましてはだいたい百余町歩つぶれ地があるわけでございますが、従いまして一般的の農業施策と申しますか、これにつきましては、やはり沿海地帯、中間地帯、丘陵地帯かような一応この三地帯を生ずると考えておるのでございます。これにつきましては沿海地帯の情勢に即しましても、われわれといたしましてはなにか特異なものを考えなければなりません、しかし農業本来の稲作におきま

てはいわゆる最近早植え栽培ということがとられて、これにつきましては相当効果を上げておりますので一般三地帯ともにこれは育成奨励したいと、かように考えております。裏作問題につきましても、やはり三地帯とも同一考えをもっておりますが、特に本市におきまして蔬菜、果樹あるいは畜産その他の施策も講じておりましたが、だいたひ畜産面におきましては酪農を主体とした施策が講じられておったのでございますが、しかしながら工場の進出によりましていわゆる鎖国地帯というつぶれ地が生じました関係上、一部酪農の減少をみたのでありますが、これにつきましても現在の四日市の状態を考えますならば育成をしなければならないという考えをもっております、従いまして大ざっぱに申し上げますならば沿海地帯というものはいわゆる集団化した耕地じゃなくなつてまいりますので近郊蔬菜とか特異なものの指導を考えなければならないのじゃないか、かように考えます。中間地帯におきましては先ほど申し上げましたように稲作地帯におきまして果樹あるいは畜産、養豚とか養鶏とかをしたい、丘陵地帯におきましては御承知のように本市には小山田、水沢の茶、いま酪農といたしまして酪農、それから養豚、養鶏というふうな指導をしてまいりたいと、かように考えております。従いまして、これにつきましては本市の現在の農林課の組織もございしますが、農業指導所、これを一段と拡充いたしましたして、もっと強固なものにいたしまして各部門におきまして専門的に指導、育成したい。もちろん、これにつきましては各地区にございます推進協議会の方々とも十分連絡いたしまして指導に当たりたいと存じます。が、しかしながら、一番問題といたしますのは藤谷議員もおっしゃいましたように農家が零細化されてきておること、これは現状なんでございます。できるなれば一定の地帯におきまして交換分合とか統合化あるいは合理化、機械化というふうな考えを用いなければならないと考えますがしかし先ほど来、申し上げましたように現在、国会で農業基本法またそれに付随いたしました法案も出ておるのでございますが、われわれといたしましてはいずれにいたしましても各地区の推進協議会または農協関係機関とも十分連携を保ちまして各地

区の適地適作というものを主体とした指導を行ないたいと、かように考えておるわけでございますので、こんど農業基本法が発展いたしましたして国の方針もきまりますならば、それにそいましていわゆる関係自治体は方策を立てなければならぬと考えますので、その後の問題につきましても十二分に皆様方と検討しておし進めたいと、かように考えております。こんどいろいろと関係の皆様は御協力をお願いしたいと思っておりますが、どうか、ひとつよろしくお願いいたします。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） 小林町の住宅地分譲について御説明申し上げます。

この事業は御承知のとおり住宅公社で行なっておりますが、私も公社の一関係者でございますので、現在、的確な数字は持ち合せておりませんが、わかっている範囲内で御説明させていただきます。約十万坪の土地を買収いたしまして、これを道路、下水道を完備して分譲する計画を進めておるわけでございますが、この住宅、宅地の土地の買収につきまして公有地その他がございましたので一応坪一千円ということでございますが、これを全額に直しますと八千七百万余の買収費だったと記憶しております。これは道路敷その他がありましたので、実質は約十一万近い実面積でございます。それで現在、道路を構築中でございますが、一番経費を要します上水道の問題、これが約五千七、八百万の事業費でございます。それから下水道の完備、これが四千五、六百万の事業費でございます。その他に大きなものとしたしまして道路築造費が一十二、三百万を要するものであったと記憶しております。そういう事業費を全部寄せまして約一億四千万、土地買収費を入れますと二億二千万余の出費になるんでございます。そういう計画のもとに道路敷あるいは公園敷等を減賦いたしまして、それに金利を考えて計算いたしますと当初におきまして一応三千五百円見当で分譲できるという見通しでございますが、その後、逐次、具体性をもちまして計算いたしますと三千七百

円平均になるだろうというふうに考えております。現在では三千五百円から四千円の幅において分譲できるように考えております。この単価の問題でございましたが、先ほどの御質問は一千円で買うて三千五百円ではなんといひますか、もうけ過ぎないのじゃないかというような意味に拝察したのでございますが、決してもうけておるのでなしにネットで計算した結果そういうことになるのでございまして金融公庫の貸付け条件につきまして、いろいろ技術的な問題あるいは単価の問題も検討されるのでございますが、十分その程度の単価で妥当であるというふうに金融公庫も認めておりまして、関係のわれわれといたしましては水道、ガス、電気それから道路の側溝、遊園地等、一切完備しました上は決して安くはない。十分値打ちのある土地と、こういうふうに思っております。

以上でございます。

○議長（山本三郎君） 暫時、休憩いたします。休憩中に食事をめし上っていただきます。一時半に始めます。

午後零時三十分休憩

午後一時三十五分再開

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を開きます。藤谷議員。

〔藤谷裕二君登壇〕

○藤谷裕二君 いちいち登壇しておりますと非常に時間がかかりますので簡単に質問いたしますから、理事者の方々も簡単にお答え願ひ、再び登壇せぬように願ひたいと思ひます。

税の収入につきましては百四十人の職員を掌握して新しいものでやっていくという力強いことを聞いたのでございますが、まことにけっこうでございます。税収入のうち、まだ幾分か見込みの残っております増収分ということは聞きます



してよくわかりました。これにつきましては再び質問いたしません。

それから、いまの農業関係のことでございますが、農業関係はむずかしい点がございまして日本の農業の縮図を四日市に当てはめたようなことでございますので、これは一朝一夕には解決はむずかしいのであります。しかし予算にありますが、説明にもございますように将来の農業にはこういう気持ちはないというのは、気持ちはよくわかりますが、実際において取り上げてなをされておるのかということははっきりわかりません。たとえば畜産関係にいたしましても小さなことを取り上げて麗々しく説明に書いてあります。もっと大きい根本があると思います。私はいま直ちにどうせいということとは申し上げませんが、これが法案が通ってそれから新しい指示がありました場合、この十年間に所得倍増計画と合せて農業も同じような所得の振興状態を続けていくという計画について市もこれに見合うような予算措置をとってほしい、特にこれにつきましては市長から御答弁願いたいと思います。

それから最後に公営住宅の問題でありますが、これは土地造成とか、いろいろな問題が金がかかるということはわかりますが、ただ、売った人々が非常に安く売って高くなっておるのだという印象を受けます。将来、市がこういう印象を与えますと非常にまとまりがむずかしいと思います。この点をただ一点だけ無理はいいせんが、よく話しましてよく説明して、実はこういう施設をして、こうするとこのような金がかかる、坪数三千円あるいは四千円あまりかかるということを説明して納得がいくようにしておきたいと思えます。どうぞこの点につきまして簡単に御答弁願ひ再び登壇せないようにお答え願ひたいと思います。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君）　ただいま農業振興のことにつきまして国民の収入の倍増計画に合せるようにひとつやっけてはしいと、この御要望まことに時宜に適した御発言でございました。市といたしましてもいろいろ考えておりますが、

御承知のとおり実際問題となると非常にむずかしいゅうございますが、御趣旨をよく体しましてかねがね申し上げておるように四日市市といたしましてはできる限り特別の施策を講じまして、これに応ずるようになりたいと思えます。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君）　ただいまの宅地の単価の問題でございまして、現在、住宅公社におきましては分譲のなんと申しますか、お客さんのほうのPRに力を入れておりまして、ただいま御指摘の問題につきましては若干忘却しておった点があることを反省いたします。この点につきましては、こんごのこういった問題、あるいは工場誘致関連におきます用地買収にも影響する点があると思えますので十分気を配りまして、こんご公社におきましては各地主さんにもなんらかの機会をお作りいたしたいと思っております。

○議長（山本三郎君）　谷口議員、どうぞ。

〔谷口専九君登壇〕

○谷口専九君　私の質問いたしたい点を先輩議員の藤谷議員が御質問され、また市長もそれに対応されました施策のお答えをされたので別段に私の質問がなくなつたわけですが、私の一点お聞きしたい点は農業振興対策といたしまして市長さんがるるお取り上げを願っておりますこの臨海部、丘陵部、山地部とこういったことについて国の施策にのっとり農業経営の規模の適正化を指導するということはまことにけっこうでございます。しかしながら適地適作による特産の奨励、畜産の導入、ある特定の事業を指摘されておられます。私はこの点経済常任委員会るときにもしばしば担当の方にお尋ねをいたしておりますが、大衆農家を非常にお考えになつておられない。まあ一つの例を申し上げますと国の施策ではありましたが、養蚕農家に対するとおる桑園のかい掘りを奨励し、そしてその後の畑地の農業施策にどうしてお考えになつていらつしたか、われわれ農民はただその指導によってかい掘りを実行し、

そうしてカンシヨのようなものを毎年、作付けしておりますが、このカンシヨの生産所得がどれだけであるかということをお考えのときに、また反面かい掘りを奨励されました養蚕農家が最近の生糸の上昇によりまして、どうしても農家としては養蚕に生きなければならぬ、こういったことで関係の県の農協または蚕糸連合協同組合といったものから、さらに新植の奨励をしておられるにもかかわらず、市にそういった方面にお考えをさせていただかないのか、こういったことを私は常にお尋ねしておたのでございますが、本年度の市政方針につきましてもそういったことが少しもお考えになっておらないように感じます。ただ国策によって市政のにぎわしていこうというようなお気持ちだけのようには伺いますので、こういったことについて大衆農家いわゆる米麦の農家また養蚕農家、こういったものについて市長さんは抜本的なお考えをこんごお立てになつていただけるか、いただけないかということだけをお尋ねしたいと思ひます。どうぞよろしく願ひします。

〔産業部長（浅川謙一君）登壇〕

○産業部長（浅川謙一君） 谷口議員さんの御質問に対しましてお答えいたしたいと思ひます。

仰せのとおり養蚕関係につきまして従前から政府におきましてもいわゆるカンシヨと申しますか、桑を植えて、また植えようというような経緯を繰り返してきたわけでございます。本市におきましても従前、相当養蚕は盛んであったのでありますが、戦後この仕事が減つてまいっておりますが、しかしながら、まだいわゆる丘陵地帯と申しますか一部におきましては養蚕を主としておりますが、農家におきましても約一千戸はあつたと考えております。仰せのとおりわれわれといたしましてはもちろん養蚕を軽視しておるわけでございませぬが、十分この点につきましても考慮いたしたいと考えております。十分こんご注意いたしまして努力いたしたいと、かように考えておりますので、よろしく願ひいたします。

〔谷口専九君登壇〕

○谷口専九君 部長さんの答弁でこんご養蚕農家にも十分な施策をするという御答弁で満足はいたしますが、もう一つお尋ねいたしたいと思うことは農業指導面におきまして、ただ出張所に、各地区に派遣職員を引き上げ一協同組合に六万円の指導費をおいたというので一般農家の指導に万全が期しえられるか、またそれで満足をしていらつしやるのか、またそれに対してこんご講じて考えていく方針があるんかということの御答弁を願ひたいと思ひます。

〔産業部長（浅川謙一君）登壇〕

○産業部長（浅川謙一君） お答えいたします。

仰せのとおり今回、計画といたしまして派遣技術員をこつちへ引き上げて、そういったしまして各地区の農協、自主的に技術員を願ひたいと、かような考えを持ったのでありますが、これにつきましては先ほども申し上げましたように四日市の農業形態でございますが、いわゆる臨海部におきまして現在の状態から考えまして、いわゆる農業本位でいけるかと考えますと、おそらく不可能じゃないかと考えておるのでございます。従いましてある現在の臨海部の農業の保有量から考えますればいわゆる家内のものになっていくのじゃないか、率直に申し上げますならば、いわゆる才二次、才三次産業のはうへいつていただいて、いわゆる将来、小教家族で経営をやつていただくようにもつていかなければ成りたないかと考えておるのでございます。従いまして、先ほど申し上げましたように近郊の蔬菜とかあるいはカキとかいうふうなものを奨励していかなくちゃならぬと考えております。仰せのとおり技術員を引き上げまして農協の方々に願ひいたしてそれとこと足るかという御質問でございましたが、現在の四日市の農業指導と申しますのは率直に申して非常に苦心しておるのでございまして、非常に特異性があるのでございまして、しかしながら、この点につきましても各技術員のそれぞれの特徴を生かして、そして専門分野において指導いたしたい、なおこ

れにつきましてはもちろん協同組合とか地区の推進協議会の方々と十二分に協議をいたしまして、その方針を確立したいと考えますが、しかしながら根本は適地適作と申し上げても受け入れ態勢のいかになると存じます。従いまして、この面につきましても教育といえますか、指導と申しますか、その点も合せて考えなければ本市の農業指導というのは成り立たないのじゃないかと、かように考えておりまして、こんどいつそう研究いたしまして成果の上るようにしたいと思えます。特に皆さんの関係ある方々にも御協力をお願いしたいと、かように考えております。

〔谷口専九君登壇〕

○谷口専九君 いちいち登壇せんならんで非常にこれは……。ただいま部長さんの御答弁で非常にどう申しますか、地区の推進協議会とか、また協同組合の委託によって指導するとか、まあそういったことをおっしゃいまして実際にこの面ができるかできないかということをやまずお考えを願いたい。ただ口にそういうようなことを、計画を立てになりましても実際、協同組合や地区の推進協議会で本当の計画が立つか立たないかということは私は疑うものでございます。こういう観点から考えまして市において本当に抜本的な計画を立てるという本当のお答えをいただきたい、かように思うわけでございますが、そのお答えがいただければやむをえません。しかし市行政として私どもの熱望するところをひとつ御返事いただきたいということを特に御答弁求めたいと思えます。

〔産業部長（浅川謙一君）登壇〕

○産業部長（浅川謙一君） お答えいたします。

現在の市のいわゆる指導でございますが、目下政府におきまして国会に提案されております農業基本法、これにつきましては朝野の意見も種々ございますが、しかしながら根本は農家所得の倍増ということを基本にしておるのでございます。従いまして、この法案がきまりますならば国も責任をもつ、また地方団体もこれに従うということ

になっておるのでございまして、これにつきましては市といたしましてもちろん市が主体となった根本施策を立てるべきであると、かように考えております。先ほど来、申し上げておりますのは市がいかに計画いたしましたとしても各地区の受け入れ態勢がこれに従いませんと効果が上らないということをお願いして、決して地区の推進協議会、農業協同組合の方々だけにおまかせするということなく市自体がもちろんやりますが、しかしながら各地区の受け入れ態勢、これが完全にできるかどうか、また協議会あるいは農協その他の方々の御協力をえまして合せてこれを施行したいと、かような考えをもっておりますので、そのへんよろしく御了承願いたいと思えます。

（「自席からいけませんか」と呼ぶ者あり）

○議長（山本三郎君） 簡単ですか。

○谷口専九君 はい。

国の方針がきまり、また地元の受け入れ態勢が整うならば市はそれにならず沿っていくというお約束でございますね。

○産業部長（浅川謙一君） もちろん市が計画いたしましたも受け入れ態勢ができなければ、これはいたし方ないのでございまして、どうか市といわゆる地元でこれが完全に一致するように皆さん方の御協力をお願いしたいと思います。

○谷口専九君 協力をいたしますし、また受け入れ態勢を完璧な態勢を整えてまいりましたときには私の質問に対する御実行を期していただきたいと思います。質問を打ち切ります。

○産業部長（浅川謙一君） もちろん各地区の御要望もあると思えます。従いまして計画どおりにできないかもわかりません。財政的の面もございまして、順次計画もいたしまして市といたしますならば地元の受け入れ態勢が完全

になるならば、これに対する施策は完全に行ないたいと思います。(谷口専九君「了承」という)

○議長(山本三郎君) 伊藤太郎議員、どうぞ。

(伊藤太郎君登壇)

○伊藤太郎君 御通告申し上げました五つの問題についてお尋ねを申し上げます。

才一に工場地帯の整理について、大工場を誘致して生産額を向上せしめ市の財政の根柢を立ち直して、そうして市民生活にも及ぼす、そういうこのような御意図に対して市長は非常な御努力を払われました。私、非常な感銘の一人でございます。十日の市政方針の御説明にもありましたのですが、四日市の将来に対する構想が一応まとまってその大道がおおむね明らかになった以上、いまこそまなこをうちに転じ内政の充実をはかる、こう述べられたことは私が本当によろこびとするところでございます。中でも南部に林立いたしておりますあの大工場の谷間にあえいでおる市民生活に光と喜びとを与えてやろうということ、それこそ私は喫緊の要務であると思ひます。一昨年の総体質問にもお願いをいたしましたのでございます。十一月の議会であつたかと思ひますが、同僚、坂上議員からもこの点を指摘せられました、工場地帯の整理と申しますか、生活環境の向上策と申しますか、いろいろ訴えられたのでございますが、その、そうした点をよく勘案せられて今回の提出議案には相當に考慮せられてあることは十分に認められるのでございますが、しかしあの地区にはなおお一抹の不安が市民の頭へ、どの方の胸にも固くしめられておるのでございます。地区民のいろいろな声を要約いたしましたして私は次の三問をお願いするものでございます。

その一つには、市としてはあの東南部一帯の工場地帯を、こんごどのように進められるのであるか、いいかえますと、あそこを全部工場地帯とすることを意図されていらっしゃるのか。それとも住宅地、商業地としての育成を、さらには行政区画を拡大してそこに進んだ住宅地帯、商業地帯を御計画になつていらっしゃるのか、これがお尋ねした

い才一点でございます。もしも前者であればそれについての御計画、後者であればその育成計画を求めたいのが才二問でございます。

さらに十一日の新聞には、それぞれあの地方の公害について、が報ぜられました。住民の不安は実に切なるものがあります。十二日の日曜の日には数十人がお奇りになつて私に尋ねられました。一平方キロに一カ月四十五トンの煤煙が降下しつつある、騒音においても百十ホーンと申しますか、相當な騒音を録音されておる、あの新聞記事を見まして、これは本當なのか。さらにはある先生の御見解として塵肺をわずらう心配さえもあつたと、こう仰せられ記録されてあるが、それに対して市のほうはどういう手を打とうとしておるのであるか、こうした質問が私に仰せられておりました。その点が才三問でございます。

大きな題目で才二問に移らさしていただきたいと思ひます。末端行政について市長は内政充実のために本年度五大目標をお掲げになりました。その実を上げんとせられることは、まことにこれまたたのしいことであります。さて、その才一に機構改革の実施を期して前進せねばならぬと仰せられたのでありますが、考えますのに市内部と申しますか、中心部の整備ができましたも、本當に生きておるこの一般市民との手を結ぶところにおいてもしも欠けるならば、いわゆる足脚部においてこれが不十分であるならば完全な成果を期することはけだしむずかしいことではないかと考えるのでございます。そういう点におきまして、去る十一月の臨時議会にも同僚、馬嶋議員が自治会の改善方の要望というもとに御質問になつて、当時の岩野総務部長から次のような御回答がありました。「機構改革に当つてはできれば自治会をわずらわすことなく円満な市政を遂行していきたいと考えている。この機構改革に当つてもその点について十分検討し、事務の負担が自治会にからないう注意したい」、こういうようなことで、さらに連絡員についても同様なことを述べられてございますが、私はこの連絡員の強化と申しますか再検討ということが最も私は

必要じゃないかと考えるのでございますが、聞くところによりますという全地区にわたりまして区々まちまちな連絡員の御指導があるやに、なされておるやに承わっております。これについてどのように御指導なさっていらっしゃるのか、その点をお伺いしたいのでございます。地方税法にも、総則十三条にも「地方団体の長は、納税者または特別徴収義務者から地方団体の徴収金を徴収しようとするときは、これらの者に対し、文書により納付または納入の告知をしなければならない。」ということが明記されてございまして、「告知しなければならない」ということは、私は直接に届けよという意味におきまして、直接に届けよということになりますれば連絡員というものが私は重要な立場になると思います。この連絡員がうまくいくかいかぬかということは市財政にも響き、市の一般運用にも私は大きな支障をきたすのではないかと考えるとき、その点について失望せざるをえないのでございます。わけてもつい最近、私が耳にしたことでございますが、大へんに優秀なこれは衛生課のほうのお骨おりのと思いますが、殺鼠剤が配布せられました、ある一市民の申すにはそれが小学校の生徒によって配られました。われわれは父兄としてびっくりさせられた、とこう申しております。この点から考えましても、連絡員の強化、育成がどのように昨年十一月以来お進めくださっておるか、お伺いを申し上げます。

次に大きな才五間、厚生事業についてでございますが、御承知のとおり去る一月二十八日であります、現内閣も福祉国家を標榜していられることは御承知のとおりでございます。国民年金制度、国民健康保険、これこそは市民が久しく待望しておったものでありまして関係理事者並びに関係職員の方々の努力によってだんだんと実施の運びに進められていることは、これまた喜びにたえないのでございますが、聞くところによると加入者が、申込者が非常に少ないとか伝えられておりますが、これはどんな関係でありましょうか。なんでも最高が八〇%とか最低が一・二%とか申しております。どうしてまたそんなことやるといたしますと、これは一にかかって自治会長の御協力いか

んによると聞いておりますが、その点においてもいろいろ私は研究していただかんらん点があるのではないかと考えています。

その次の才四間でございますが、商工行政について、この点につきましては同僚の生川議員が御質問くださいましたのと重複する点もございますが、市の繁栄のために先ほども申し上げましたように大工場が続々と誘致せられましたにつきましては、これは大きな市の前進ではありますけれども、その陰にまたいろいろと転業やむをえない部面が同時に起っておることを承知いたしております。一例を申し上げますならば磯津町の状況を申し上げますと、従来磯津の主たる漁獲物でありますコウナゴあるいはヒシコ、このようなものはこの四日市の海からずっと三大川、揖斐長良のあの沖あいにかけてたくさん漁獲であったのであります。加工業者も非常に殷盛をきわめておったのでございますが、最近その魚群がおることはおつても漁場がだんだん南へ移動していきまして、ああいう敏感な魚はもう神社の沖、うちでも松坂の沖あいではないと、それから、こちらには入ってこなくなつたのでございます。従いまして漁業者は取り上げました魚を近く鮮度のおちないうちに松坂あるいは神社のほうへ揚げる。従いまして設備を整えてやっておりますこの地区の加工業者は鮮度のよいものが手に入らない、もう転業するやむをえずということがございます。これに対してどういうお考えで市長はおられるでしょうか。どうかひとつこの点について転業資金とかあるいはなにか方向転換のよい指導、よい協力をせられたいと存じますが、その点についての御構想を承わりたいと思います。

次に才五間、道路管理についてであります。才一間のときにも申し上げましたように、私がいろいろと申し上げましたものの、市長におかれましてはいろいろと心を使ってくださり、以前の議会におきまして中央排水路と申しますか、中里町の南に排水路を作つて、あの地帯が渾水場になつておる。あの水をとってやろうと、こう申して皆さんの

御協賛を願ってここにばく大な予算を組んでいただいております。いよいよ市民も喜んでその運びに進んだんでありますが、いかにせん大きな障害にぶつかったのでございます。それは私どものその掘さくいたします川の下がすでに出ておりますので、その川の上を特定の方法によって占拠せられておる、これを解決しなければいかに市のほうが御心配くださってもどうにもならぬのではないか、この道路の占拠しておる状態をなんとかならぬものか。それが、このそれをこんど開いていく鍵になっておる、その点についてお尋ねを申し上げたいと思います。

それにつけ加えまして、あの工場地帯は工場用水とかあるいは連絡用ガス管の埋設のためにもうたえずということばを使ってよいくらい掘りかえされておるのでございます。現在ただいまもそれが進められておるのでございます。幅十八メートルもあろうと思われるあの大きな道に八百ミリくらいの管を埋めるのに全部の道を占領して交通が遮断されております。これが相当長い期間にわたってたびたびなされるのでありますので、ある水産加工をやっているところのほうに倉庫があり一つ一つ遠いところまで運び出して、ようやく運び出すことができた。こんなようなこともありますので、本当にたびたびのことでありますのでなんとかこの点がうまくいかないか、市民の訴えを私は率直に聞かしましてこのへんにおけるところの御見解を承わりたいのでございます。

以上、数多く申し上げましたんですが、なにとぞ御回答をくださいますようお願い申し上げます。

〔開発局次長（鬼頭鉄郎君）登壇〕

○開発局次長（鬼頭鉄郎君）　才一問の工場地帯の整備につきましてお答え申し上げます。

その前に、まず用途別地域の決定を早く出さねばならないことは事実でございますが、市長の議案説明のときにも早急にこれを決定すると、こういうことがございましたので、われわれ関係者、用途地域決定をすぐに行ないたいと

存じております。ただいま伊藤議員がいわれましたように大工場の谷間にある住宅、商業地帯をどうするかという御質問でございましたが、これは南部の、東南部の地帯は大工場地帯と考えねばならないと存じますが、すべて既成の事実といたしまして商業地帯もあり、また住宅地帯もございますので、これはあくまでも育成をいたしまして住みよい住宅、あるいは商業地帯にすべきであると考えます。これがためにはまず先ほどおっしゃいました公害の防除でございます。煙とか音とか、ゴミとか公害の防除をはかり、それから、なおこの地帯におきます道路の整備でございます。なお一方考えられますことは工場がまいりまして先ほど申し上げられましたように水がはらんいたしますので、水路の整備、下水の整備等を行ないまして、そうしてできる限り住宅地帯としてあるいは商業地帯としてすべきであると考えます。ところが、どうしてもそういったにしても住宅地帯にいかないというケースがあります場合にございます。都市再開発でいろいろと善処いたしたいと存じております。なお、住宅地帯といたしましては、南部におきましては国道より以西の場所におきまして開発をいたし、これを住宅地帯として商業も育成いたしたいと、こう考えておるわけでございます。

〔総務部長（林義男君）登壇〕

○総務部長（林義男君）　才二点の、末端の行政についてという質問に対してお答えしたいと思います。

御質問の御趣旨の中で、中央ばかりを機構改革によって注意をしても末端の指導、あるいは整備をしなかったら市民のサービスの萬全は期せられないのではないかというおことはございましたが、一応中央と申しまして市の各部局は私どもといたしましては俗に申しますスタッフ的な働きをしておるところ、それからライン的な働きをしておるところというふうなそういう面で、本庁の各部課におきまして、それは一つの末端行政の機関である。このような考え方でっておりますので、そのへんも御賢察いただきたい、こういうふうに思います。

それから、御指摘の昨秋といえますか昨年、前総務部長からもお答えいたしました機構改革に関連をしまして、自治会との業務的な内容について十分検討すると、そういう問題でございますが、これは毎年の四月に自治会の総会をいたしました、その席上、自治会長さんの御了承をえて自治会に委託する業務内容を定めております。一例を申し上げますと、庶務課の仕事といたしましては例年九月に基本選挙人名簿の作成というような場合には自治会長さんの御協力をえまして住民登録その他で調査したうえに、現実の市民の方の居住関係について御協力をえておる、こういうようなことを御了解をえておる。それから、商工関係で申しますと、いわゆる消費者の登録についての御相談を申し上げておる。それから、厚生関係では靖国神社奉賛会あるいは日赤の募金、あるいは共同募金、年末助け合い運動というような点につきましては従来から御協力をいたしておりますし、御了解をいただいております。こういうような状態でございますので、こんごにおきましてもあいつた組織を最も有効にといいますか、こちらから事務を委任するという形よりも御協力をいただくことによって市の行政事務というようなのが完全に行われるというような目当てがついたようなことにつきましては、従来どおり御協力をお願いしたい、こういうふうに思っております。

それから、具体的に御指摘いただきました連絡員の問題でございますが、これは市の規則に四日市市連絡員設置規則、これは昭和三十三年四月八日の規則才五号で定めておりますけれども、これにはつきりその態度をとっておりますので申し上げますならば、才一条に「本市行政の円滑なる運営をはかるため連絡員をおく」、才二条に「連絡員の担当区域は、町を単位とする。但し地区の事情により二町以上を兼ねることが出来る。」こういうような規定をいたしております。それから先ほど御指摘になりました地区によつては違った形で連絡員をやっておるのではないかとというような問題でございますけれども、いわゆる出張所のない本庁所管のところでは八百戸ないし一千戸、ときには一千戸以上を担当しておる連絡員もおります。それから、ある地区にまゐりますと、この規定のように各町ごとに連絡員

をおいておられるというような状況もございます。ところが、この規定でいっておりますように地区の実情によりましては二町以上を兼ねた連絡員をおかれてもよろしい。もう一つは、具体的には自治会長が連絡員を兼務しておられるというようなこともございます。こういうところにおきましても自治会長さんが連絡をしてならないという規定は別にございませんので、市のほうに御連絡いただき、御登録いたしましたものにつきましては、そういうふうに認めてお願いしておるという状態でございます。それで、この問題はたとえば先ほど御指摘になりましたような具体的な事例、そういったことであげられますと、ときには私どもの事務的な考え方の誤りもございまいし、ときにはおっしゃいますような末端における事務的な御処置の誤りから起ってくるような問題もあるかと存じます。ところが現在考えております四月一日を期して全面的に実施する機構改革、それから七月上旬を期してその完成を考えたい、と申しますのは先ほど税務部長からも御答弁申し上げましたように出張所所管といいますか、出張所に現在おりますところの税務職員は基準年度であります関係上その作業が終り次第、本庁に集結したい、そういう考え方をしておりますから、その時期をただいま申し上げました七月上旬になるであろうと、こういうふうに申し上げておりますが、そういう機関を使いまして現在私どもが考えておりますのは連絡員の配置についての適正な状態というようなのを自治会長さん方とも十分御相談申し上げて処置をしたいと、そういう問題と、いま一つは出張所の職員の中でこれをうまく活用するならばいろんな問題を解消していくような面がございます。これは具体的には御想像にまかしますが、こういうような点も勘案いたしまして連絡員のお助けも十分できるようなことも考えられます、というようなことも十分検討を加えていきたい、こういうふうに思っております。それからもう一つ、これは駄目でございまして、おしかりを受けるかもわかりませんが、自治会の運営そのものの考え方につきましても非常に問題がある、こういうふうなわれわれは考えております、といえますのは市の考えております自治会のなんといえますか準則的な考え方と實際運

営をしておられまする自治会のあり方とには相当なへだたりがありまして、ときに自治会としてわれわれにも、あるいは皆さんのお耳にも市の仕事が非常に多いというようなお小言をおっしゃいます。その中にはむしろ自治会の精神からいいましたら当然なざるべきことをなさっておられて忙しいということとをいっておられる当然なざるべからざること、たとえば市からお願いたしておりませんようなことの中にも自治会としてはなさっておられるということをしておられまして、非常になんといひますか市の仕事が多いというような錯覚あるいは誤解をもっておられる、こういうような向きもございしますので私どもといたしましては自治会の方とも相はかりまして、そのへんを適正にし、そして連絡員の配慮その他につきましても万全を期しまして、お尋ねのような御いい分あるいは御質問に含まれております趣旨の実現といひますか、そういったことに努力をいたしたいと、こういうふうに考えております。

○議長（山本三郎君） 暫時、休憩いたします。

午後二時二十九分休憩

午後二時四十八分再開

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。（「議長」と呼ぶ者あり）

衛生課長。

〔衛生課長（三輪喜代司君）登壇〕

○衛生課長（三輪喜代司君） ただいまの御質問の才一の才二点の南部工場地帯における公害の現状につきましてお答えいたします。先般、九日に本市の才二回の公害防止対策委員会を開催しまして、その席上、十一月の七日から二月の七日までの三カ月間の調査の中間発表をされたのであります。それがたまたま新聞紙上に載りまして多少新聞紙

上の報道と実際と食い違っておるところがございしますので、誤解のないようにここで改めて説明させていただきますと思います。ただいま御質問の中にございました煤塵の量でございしますが、これは御承知のように風向に非常に関係がしてまいっておりますのでございします。この三月間の風向を調査いたしますと北西ないし西の風が約七〇％、これを一〇〇にいたしました七四％は北西ないし西の風が吹いております。従いまして煤塵計の置いてあります磯津の漁業組合の上には相当量の煤塵が流れたのでございます。御承知のように本市の風は冬は北西の風が多いのでございますが、夏になりますと南西あるいは南東あるいは東の風あるいは西の風、このように片寄った風で吹いてこないようにわれわれは承知しております。夏ばにつきましてはまだ工場から調査結果を待たないとはつきりしたデータは出てこないでございします。それから塵肺の件でございしますが、われわれで聞いておるところでは別に健康に影響はないということ聞いておりますので、これは御安心願いたいと思ひます。それからもう一つ騒音の点でございしますが、百十ホーンと出ておりますのは騒音には突発音と暗騒音がございまして、突発音は工事現場で起しておりますが、ああいう瞬間的に起きる大きな音を突発音というのだそうでございします。その突発音でない普通の場合の騒音が暗騒音でございします。それでいま伊藤議員から御質問のございました一番騒音の多い塩浜地区の塩浜出張所あたりでございしますが、暗騒音はだいたい多いところで八十ホーン、少ないところで六十六ホーンと出ております。だいたい人間の生活していきます上においてその衛生的な面からその人体に影響があるのは百ホーンでございします。従いまして塩浜の一番多いところでもいまのところ人体に対して影響はないだろうというふうに、これは三重大学の吉田教授からお聞きしたわけでございます。それから対策でございしますが、一例を申し上げますと昨年九月ごろあるいは八月ごろの台風前後におきます風速も非常にきつく、しかもまた、低気圧がきまして、気圧の配置が非常に悪い当時におきましても会社の名前を申し上げまして申しわけございませんが、三菱化成でありましてカーバイトを製造しております煤煙が海山



道のほうへ非常に流れたというので地区の方が非常に騒がれて私ども保健所等と連絡いたしましたして、いろいろ調査もさしていただき、また会社のほうへもお願いをしておったのでございますが、こういう事例がときどきございまして、これは私どもも保健所だけの問題でなしに、人権擁護委員会をもっておられます保護局あるいは工場内の労働、工場内の労働関係の監督をしてみえますところの労働基準局あるいは警察等々と連絡をいたしまして昨年の十二月、一応この発生いたしました公害、特に騒音、大気汚染等の問題につきましてどういうふうに処置したらいいかというところの協議会をもちまして、そこで具体的にいろいろ話し合いをして連絡、調整をいたしましておのからの立場でものを申さずにおのの各関係官公庁の一致した意見で各事業場あるいは事業場等公害発生のもとになっておりますところへお願いしようじゃないかというふうな結論が出まして、その結論に基づきまして本年一月でございませうか、この中の一員として公害防止対策委員長と同行いたしましたして三菱化成のほうへお願いに上りましたところ、あの化成から出ております煤塵につきまして近く集塵装置をおつけになっていただいた九月ごろにはいままでより相当少なくなるような設備をしていただくような回答をいただいております。また、これはもうすでにつけてございますのです。が、だいたい煤塵が一番多く出る工場と申しますのは火力発電所が最も煤塵を出す工場でございます。この三重火力につきましたはコット・レールと申しまして、これをつけておっていただきます。もしいち、それはずしましたならばあそこら出ます煤塵は川崎あるいは尼崎に出ておるものほどは出ておるものでございますが、コット・レールは一番進歩した集塵装置だそうでございます。そういうようにして発生いたしましたものにつきまして、その都度解決をしていくようにわれわれといたしましては最善の努力をして住民の皆さまにできるだけ御迷惑をかけないように努力していきたいと考えておりますので、よろしく御了承をお願いしたいと思います。

〔厚生課長（大平源弥君）登壇〕

○厚生課長（大平源弥君） 国民年金事務についてお答え申し上げます。

国民年金制度のうち拠出制年金につきましては昨年十月一日よりこの受付事務を開始したのでございますが、昨年中は農繁期あるいは総選挙その他種々の状況によりまして加入率は非常に低く、一時は案じられておったわけでございますが、県当局より常に指導を受け、督促されておりましたので本年一月より逐次市民の認識も高まり、この加入率の上昇をみたのでございます。加入状況につきましては二月十三日現在には加入状況は、加入予定者の四万五千七百八十八人に対し二二・二％でありましたが、その後、各地区におきまして加入者の増加をみたので二月末には三二・六％となりました。現在、昨日現在では約四〇％になろうとしておりまして、なお、さらに努力をいたしたいと考えておる次第でございます。なお、自治会等の協力の度合によってその成績のよいことは事実でございますが、一月から三月現在までにかけましては各町の初集会有いは各種団体等の集会などによりまして、定期的にずれがございますので相当の開きがあったわけでございますが、現在ではこの加入率も接近してまいりまして、遂次各地区とも最終目的のために全員加入していただくように努力いたしていきたいと、このように考えておる次第でございます。以上で御答弁を終わります。

〔産業部長（浅川謙一君）登壇〕

○産業部長（浅川謙一君） 才四問につきましてお答えいたします。

先ほど伊藤議員さんがおっしゃいました磯津の漁獲高の問題でございませうが、御承知のように伊勢湾沿岸の北部地帯におきましては最近いわゆる汚水問題と申しますか、こういうような点につきまして非常に漁獲高が減っております。従いまして漁場が遠隔地になる。そのためにいわゆる地元の水揚げが減ってきたに伴いましていわゆる加工業者の方の製品化が減少したということになるわけなんですが、これにつきましてはひとり磯津だけでなくいわゆ

る北西沿岸地帯の関係者、業者の悩みなんでございまして、四日市におきましても四日市漁業組合同様の悩みをもっておるわけでございます。市といたしましては、これにつきましてはいろいろ頭を悩ましておるのでございますが、いずれにいたしましてもこの問題はいわゆる汚水の問題と関連いたしましていわゆる漁場が遠隔化した、従って、その漁獲をいわゆる自分の港で水揚げしたい、いたさせる、水揚げするということからいわゆる加工業者の方々が事業場につき故障を来たしておるといふ現状になっておるわけでございます。これにつきましては県におきましては汚水の問題は調査をしていただいておりますので、いずれ近く中間発表があることと存じますが、根本は漁獲高の増加それといわゆる地元へ水揚げするということを考え、いわゆる才二次産業の加工業者の方々は困るのじやないかと、かように考えておるわけでございます。これにつきましてはいわゆる原始産業である漁業組合の方々とわれわれ相談もいたしておりますが、しかし、現在の状態といたしましては、いま県におきまして各関係機関と、あるいは学識経験者の方々によって調査中でございますので、これを待つておるといふ状態で、いわゆるその任に当られておるもので手ぬるいというおしかりをこうむるかもわかりませんが、しかし、この根本策を講ずるということになりますとある程度の至難を要します。従いまして、これにつきましてはいわゆる原始産業の漁獲高を地元へもってくるということについてはどうするかという考えをもっておるわけでございますが、磯津におきましても本年度、遠隔におきましての調査後の設備、これなんかも配置いたしましてこれに対する情勢も考えたい。関係業者の方々といろいろ相談しておるわけなのでございまして、現在の状況から考えましてわれわれといたしましては、現在、四日市のように加工業者から重要過渡期と称されておりますが、ある程度転換していただかなければ現在の漁獲高で全部の方々が満足されるだけの漁獲高を全部地元へもってくるということは不可能じやないかという考えをもっております。そうかといまして、ただ単に転業されたらどうかといひましても、これは簡単にできません。従って、いわゆる加工場

をそれでは場所を変えたらどうか、こういう問題も起るかと思いますが、しかしながら、これにいたしましても、相当の資本が要るわけでありまして。はたしていわゆる遠隔地へ行つてその業を始めていいのかいけないうこと、これも研究の余地がございまして。いろいろとわれわれといたしましては才一次産業の漁業組合、才二次産業の加工業者の方々とこの話を考えまして早急にしたいという希望はもっておりますが、しかしながら、現実の問題といたしまして根本原因であるものをどう解決する、すべきかということとは県のいまの期間の調査を待つておるような現状でございます。これによりまして市といたしましても考えてまいりたいと考えております。ですから、さし当りといましてはなるだけいわゆる漁獲されたものを地元へもってくる、それについての御協力方を考えたい、そうして、いわゆる加工業者の方々が生産に従事していただきたいと、かように方策を考えて寄り寄り協議をしておる次第でございます。（「大きな声でやつてもらわぬと聞えんよ」と呼ぶ者あり）御了承を願いたいと思います。

〔監理課長（小林清君）登壇〕

○監理課長（小林清君） 才五点の道路管理についてお答え申し上げます。

最近、非常に市の発展とともに道路を掘さくする機会は多くなりまして、その掘さくのために付近の住民の方が非常な迷惑をこうむるわけでございます。それで、道路掘さくに当りましては単に企業をやるための工業用水とかあるいは申請してきた会社のみならず土木工事なんかを行う業者などにも自粛をしてもらわなければならないと考えますので、こんどは企業者に掘さくの許可を与えるときに十分注意いたしますとともに、企業者の団体であります建設業者等にも道路掘さくに当りましては十分注意をして付近の住民の方の迷惑にならないようにするように申し入れて解決していきたいと考えます。それから、なお道路とか水路とかの上に住居をかまえておるといふようなものにつきましては、かねがね口頭では厳重に催告をしておるのでございますが、なかなか行き先がないとかいうようなことをい

っておりまして困っておりますので文書でもって催告をいたしております。その文書でもって催告いたしておりますものにつきましては、その占用しておるものからは行き先を市であっせんしてもらえないだろうかという申し入れも聞いておるのでございますが、御指摘の場所のほうは市の道路の工事とか、水路の工事とかが行われる予定になっておりますので、その道路、溝水路の工事の推進とあわせて解決していきたいと考えております。なお、代替地のあっせん等も始めましてすみやかに解決をはかっていきたいと考えておりますので、地元の御協力もすでにお願ひしておる次第でございますから、そのように御了承をお願いいたします。

#### 〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君　ただいま御回答に接したのでございますが、才一問につきましては工場地帯の整備に当ってあそこの住民をのけるというようなことではない、すでに前から根を下し、そこに発展を続けておるあの商店街、住宅地を育成するのであると、こういうような御答弁をえまして、私、非常に喜んでおるのでございます。つきましてはそのただいまの御回答が実を結び花がさき、住民が日夜楽しい生活の営まれるように早くりっぱな施策が実施されることを私は熱望してやまないでございます。

さらにいま一つお尋ねを申し上げたいと思います。それはもちろんあそこの商店、住宅を指導、育成するとおっしゃいまして、最も谷間のけなはだしいものは雨池町であります戸数は四十戸内外でございますが、たびたび陳情の出しておりますように最近、突貫工事の始められておる工場が二メートルあるいは二メートル五十と思われるくらい周囲をうめ立てておりますが、それで極端なことを申しますとすりばちの底みたような状況におかれておるのであります。あの土地をいったいどうする御計畫であるか、けさほどの新聞やラジオの報道を聞きますと、名古屋市におきましては南部海岸地区の低地帯にはかさ上げをするのだ、それがたにかさ上げ料、金五万円也を二カ年の年賦償還で

市があっせんするということがけさのラジオのニュースで報道せられました。これはなかなかりっぱな市政が末端までしん透しておるなど、私よそのことながら喜んでおったのでありますが、あるいはあの雨池町を立ちのかすとか、いまのかさ上げ資金を貸与するとか、小さなポンプをちよっとおいたくらいではいけないと思いますので、その点についての御見解をい一度承わりたいと思います。これが才一の私の重ねてのお願いであります。

才二問につきましては、総務部長から適切な御回答に接しました。非常に喜びにたえないのでございますが、私の耳にしておる範囲ではあるいは税金の令書が届きまして、告知書が届きまして、もう配ってきたその日にどこは幾ら、どこは幾らということがほとんど知られておるのでございます。その日になかなか届かないのでさっきの総務部長のおっしゃった連絡員の規定には「その日に届ける」と、こう書いてありますが、なかなかその日だけに届くことが不可能であるためか、もうたちまちまたどこは幾ら、どこは幾らということがながされるのであります。もちろん、そういうものは秘密でないかも知れませんが、できるなら表示はその人にまず届け、その人の口から伝わったのはけっこうであります、なんとかそのへんがうまくいかないものか、連絡員をさらに強化し、さらに指導をする御意思はないのか、この点を重ねてお伺い申し上げたいのであります。さらに私がそこへつけ加えますならばまあ卑近な例をもっといいいますという、ちよつと末端行政ということばが悪いかもしれませんが、末端におきましては人体にたとえますと毛管現象といえますか、毛細管のほうへいきますと、静脈とそれから一般市民と自治会と発生的に生まれました地域代表と、動脈と静脈ともうまじってしまつて、どこが市の行政の末端やら市民の、一般市民の地域代表、町の代表の行動がどこまでやらもうわからぬ、根拠としてわからなくなつておる。どうぞ、動物でいうと両棲類のような形である。動脈と静脈が混乱しておる。動脈と静脈が私はしっかり知りませんが、細胞まで確然としておるのであると思っておりますが、そうしたような組織はなんとかしてできないものか、これが私の重ねてお尋

ね申し上げたい点でございます。さらに連絡員規則によりますと「かならず責任をもって当日内に送達または揭示しなければならぬ」、そうやないと四日市の市政は円滑にいかぬのやぞと、こういましめられておりますが、最後にいきますと「連絡員に対しては予算の範囲内において補償金を支給する」、というようなお駄賃のようなものをやっ  
て責当をもってやれ、ちよつと私は無理やないかと考えます。そこにもっと技術的に、もっとまじめなお考えを私は  
さらにわずらわしたい、懇願でございます。

才三 points、厚生事業につきましては厚生課長さん非常な御尽力でございました。先ほど来お伺いしますというところ、  
んぐん十一月末より、年末よりは一月あるいは二月末、加入率四四％とおっしゃいました。しかし、こういうような  
りっぱな施設というものは本当に国民に終始徹底させるところに私は効果があると思います。たとえばこのごろのあ  
の小児マヒの注射でもよいということがわかりきっておるとあまり効かんではもううってほしいということ  
です。こんどの国民年金は趣旨が徹底した小児マヒのワクチンより効くにかかわらず、まだまだ足りないものでありま  
すので、この点なにとぞPRに御尽力くださいまして、これを一〇〇％にまで押し上げていただくことをお願い申し  
上げます。

次に、私が商工行政と指名しました。その点につきましては産業部長からるる御説明を聞きました。そのとおりで  
ございまして、ただいま研究中とおっしゃいましたんですが、研究中、けっこうでございますが、市民の困却いたし  
ておりますのは、その時期までなかなか待ちませぬのもう早いとこ診断を進めてもらいまして、転業策のように転  
業資金のあつせん力になつてやるとか、現実な、生きた私は施策を早くこれも講じていただきたいと思うのでござ  
います。

道路管理につきましてもただいまお伺いいたしましたんですが、才一項の点は、これは実行を早くやっていただく

でしょうが、二番目にお答えくださいましたなんといいますが、市有地の占居というような、その川の上というよう  
なものはあの工場地帯を整備するのどもとに当っておりますので、あれが解決せぬ限り塩浜地区はいつまでも泣きの  
なみだを続けておるよりはかばないのでございます。あそこが西の水を流す唯一の排水路でございますので、ひとつ  
全力をあげてこれが御精進を賜りたいのでございます。

その一問、才二問、才三問につきまして合せて御答弁をお願い申し上げます。

〔開発局次長（鬼頭鉄郎君）登壇〕

○開発局次長（鬼頭鉄郎君） 伊藤議員さんの重ねての御質問に対しましてお答えいたします。

雨池町の宅地の件でございますが、先ほど伊藤議員がいわれましたようにかさ上げすることに対して、  
市のほうがこれがある程度金を貸すとか、あるいは再開発によりまして立ちのきをしていただくとか、付与をしてい  
ただくためにはその土地をあっせんするとか、あるいはポンプの設置によりまして一応排水をするというようなこと  
をよく実情を調査いたしまして部内の、部内を調整いたしまして、できるだけ早く住民とも話し合ひまして計畫を立  
て、ひとつ善処いたしたいと存じます。

〔総務部長（林義男君）登壇〕

○総務部長（林義男君） 連絡員の先ほど指摘になりましたような具体的な、なんといいますが問題点などにつきま  
しては、私としましては本月初めてお聞きしたような問題でございますので、出張所長あるいは担当課長などもよ  
く話し合ひまして、御指摘のような十分督励、指導というような問題を取り上げていきたい、こういうように思いま  
す。

それから、いま一つの点につきましては実際行政のまあ末端的な個所におきましては、ことに四日市が現在とつて

おりますような連絡員制度あるいは自治会に委託するというような点につきまして考えますと、確然たる区別ということが本当でないかというような考え方をいたしております。一方では市のお願ひしております連絡をしていただいております、そのまた片方では自治会さんのほうのお仕事も連絡員の方はなさっておるようなふうにわれわれは見ておりますので、そういうところでは確然としないようなところがある、こういうふうに思いまして伊藤議員さんの御指摘になっております市の行政といいますか、末端行政というものは連絡員は私は末端行政のいわゆるその先端にあつて仕事をしておる人だというふうには考えておりません。といいますのはいわゆる納税告知書を各御家庭に配布するという仕事をしていたく。これはときには郵便によつても確実に行われるという考え方でございますのでそのへんのところはこんご十分よく研究いたしまして御指摘になったような問題をなんとか解決していきたい、こういうふうに思っております。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） 道路管理並びに路面の掘さくの復旧の問題でございますが、先ほど監理課長からお答えいたしましたような状況でございますが、なお一層いままでに倍しまして建設業者の方の入る扱いあるいは発注者の設計の内容の検討につきましてよく注意いたしまして、できるだけ短期間の御迷惑で終るように、あるいはまた計畫的に舗装が終了しました直後、掘さくするというような事態が起らないようによく注意いたしたいと思ひます。また水路等の保全事業につきましては、いろいろ先ほども申しましたように塩浜。大治田線の工事と関連いたしましたので、どうしても解決しなければ道路もつかないという状況でございますので、この道路の予算につきましては、本日、御審議願ひしております三十六年度の予算に一応一千五百萬ということで御要望いたしておりますが、この事業の遂行はすなわちこの障害物を除くことである。この土地を道路のできる状況にするということでございまして、この予算の内

容も工事費よりも用地の取得という点に、が主目でございますので、建設部総力をあげてこれを解決していきたいと思ひます。

〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君 御丁寧に回答をいただきましたで大へんに喜んでおります。なにとぞこれが達成をお祈りいたしておる、おりますが、もう一つ公害についてお尋ねして終りたいと思ひます。で、衛生課長のお話のように、なおまだ研究が続けられておりますのでありますので、あの新聞の記事を見て大きな不安があります。しかしながら四十一平方キロ四十五トンという煤塵はすでに先生方の御研究で一般に知らされております。この点、衛生課長の非常なお取りはかりいで、この際、方面の視察をしてもらったのであります。川崎は四十トンのときに非常に心配をしていろいろ県の応援をえて施設を整えたところわずか二十トンの煤塵が、の量を減らすということが統計によつて現われたと、こういうことを聞いてまいりました。なおまた川崎で一番くさい工場といえは名前をいってどうかと思ひますが、味の素であります。ちようど近くに私、親戚がおりますので寄りましたら、もう工場なんかへまいるとくさいので、あんな、そんなところへ行つたか、とこいわれたのでございますが、その工場を見せてもらいますと、施設が十分できておりますので、もう石油質の感じはすっきりどこへやらいきまして、前に私がおいを体験したことのあるにおいては全然うって變つて気持ちのよい工場になっておりました。においでさえも、悪臭でさえもこういうように手当をすることになくなるのかな、向うの御説明くださいましたその方もそうおっしゃいました。いまはもうほとんどございませぬ、といわれましたのですが、ほとんど硫酸ガスのおいもなかった。この先例がございまして、先ほどからもうあの地区はやっぱりいまままでどおり住宅地として、商業地として育成するという御回答に接しました以上、重ねてどこまでやうていただく御意思があるか、市長さんの御答弁をわずらわしいと存じます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま仰せられましたように、こんどの工場につきましてはいずれも最新式の設備を施しまして、できる限り皆さんに御迷惑のかからないようにして、と申しておりますし、また、近代工場のあり方として当然かと存じますので、この際、御趣旨に従いましてよく会社にもそのことを伝えまして十分に施設をいたして、監督いたしますようお願いいたしますと存じます。

○伊藤太郎君 大へんいろいろと、私の心の落ちつく回答をいただきましてありがとうございます。

○議長（山本三郎君） 次に、六番の山口議員の発言ですが、十六番の浜田議員がやむをえない事情によりまして明日欠席いたされます関係上、交代したい旨申し出がありますので、これを認め浜田議員にお願いすることにいたします。浜田議員、どうぞ。

〔浜田弥平君登壇〕

○浜田弥平君 ただいま先輩の山口議員さんから発言の順序を私、明日、自分の勝手です仕事のためにお願いを申しておきましてお願い願ったことを皆さんにお呼び申し上げます。

私は過去の質問者が担当担当の部課長さんがお答えになりましたので、年に一回の当初予算を審議いたします大きな私どもの任務をもっておりますので、特に私のたった一点に質問をしほりたいと思います。どうか市長さん、私の御質問に対しましてひとつ要領よく将来の市政を誓うための御回答を、再び私が演壇に再質問に立たなくともみながその気持ちに落ちつけるようにお考えをお願いいたしますを切にお願いいたします。

私が余談いたしますが、先回も全員協議会で非常に緊急な案件でございましたので、日程外のようなすがたで質問を申し上げました件につきましては、私が質問台に立ちますとまた浜田はあの問題を掘り下げるのではないかと

御心配もあろうかと存じますので、これを私は道義的に日程外質問をいたしましたので次の機会にただいま私は私なりの調査中でございます。なお予告を申し上げたいのは、かような案件が私の知っておる範囲ではまだ一、二件他にもあるようにも考えますので、市財政、市の財政管理につきまして十分御調査の上、ごようよあらんことを次の日程外に立つまでおあずけをいたしておきたいと思っております。

そこで、私の質問を申し上げたい要点は、非常に市政の発展は如実に昨年の当初予算全般と本年度の当初予算を見ますと、一般会計予算だけで四億五百万の伸びを示しております。これは市長さんをはじめ理事者各位の御努力が市政の発展と相まって本年度の当初予算に現われるのではないかと、大へんこの点につきましては心強く考えております。そこで市長さんはいままで本会議に表現されなかった。これもひとつ私がお願いする、御質問する中心でございますので初めて八幡製鉄の過去「両三年」とここに書かれてありますが、私どもが聞きいたしてから一年と数カ月、この間私は大へん市長さんの提案に賛成をいち早くいたしました一人といたしまして、大へん心配をいたしております。しかし、賢明なる市長さん部長さんの御努力によりまして、私どもがある時期には市長さんの身辺や議長的身辺まで私は実は暗に案じておった一人でございますが、大へん御熱心な市長さんの御努力、これに寄与をされましたわかれの議長の御努力によりまして、ようやくにしておりますここに市政方針の中に書かれております「人力によつては如何ともしがたい」問題ということを初めて市民に市長から訴えられまして、私も過去の全員協議会で自己批判をすべきではないか、その自己批判には、かようしかじかでないかということを申し上げたことが初めて市政方針の中で市長がここに明らかにされましたので、私はことを、御質問を一点にしほります関係上、これらも一つの前おきになります。ここで始めて市民に向つて市長は二百萬坪という大高炉の建設は一応断念せざるをえない。しかし、このあと始末を非常に市民が納得のできるあと始末をなすった、このことについても私は非常に喜んでおる一人でございます。

ます。申し上げますまでもなく先回の全員協議会におきまして、私どもに訴えられた問題、約六億円という金額、しかもこの中には遠洋漁業の補償の分まで、さすがは天下の八幡さんでございまして、四日市市の市長におあげしようということをおっしゃっておる。しかも将来われわれに出た分、先回の報告によりますと五、六十萬坪という市長さんの御説明でございましたが、そのあとの漁業補償の権利は四日市市に委譲しようということまで含まれておりまして、過去、全員協議会の内容を新聞等で発表されたのでありますが、ここに初めて市政方針の中で市長がお伝えになっておること、これらは私ども大へんに協賛すべき一角ではないかと、かように私は考えます。そこで市長さんは先ほど伊藤太郎議員がおっしゃいましたように本年度の市政方針を五つの柱、すなわち五本の柱をはっきりお立てになっておられます。ある時期には世論がそのようなことをいいますので、賢明な市長さんは私はそういうことはなかりと自信をもっておった一人でございしますが、ややもいたしますと市長さんが八幡誘致に御尽力になるについてからどうも新聞紙上の一角では、八幡市長ではないか、次に市長さんは四日市市の市長さんに立候補せずに、八幡の重役におなりになるのではないかということを一新聞紙上で報道しておりました。しかし手ぎわよく人力可能でない問題を金で四日市市の市長は解決をおつけになったので市民はやっと安心した。なお本年度の市政方針演説をなすった中で、五本の柱をお立てになって初めて目を内に転じて初めて市民と一体になって市政に取り組んでいくのであるという市長さんの方針が明らかにされましたので、これも私は大いに過去の新聞報道等が巷間伝えられておった八幡重役説がここで吹っ飛んでしまうのではないかと非常に喜ぶ一人でございます。そこで私は市長さんにせっかくの内に目を転じられて、しかも手ぎわよく六億円という大きな金、これは県の、市会の議員の皆さんにわずらわして県会議員を戸別訪問してあのすがたをようやくにして承認されたことは私も非常に心配をしておりましたが、おそらくや市長さんの腹の中には県はどうかこうにか建てるような方向に進めてくれたら、四日市がもうやらなければなら

ないのではないかというお考えがあったと私は胸中考えておったわけでございますが、これがりっぱに市長さん、議長さんのお力で金で解決をおつけになった。しかも将来に向っては八幡にはこの土地に五十萬坪ないし六十萬坪の関連産業を連れてこようとされておりますが、計上されております予算の中にもうこれらのことは財源を見つけておる当初予算ではっきりお出しになった中で六千二十六萬二十円という予算は八幡との話し合いの中で解決ついておる予算かのように私は考えるわけでございます。そこでせっかくもこれは市長、議長のお力で当然、八幡がこれない場合に四日市市がどのような赤字を出しても業者と約束した以上は六億円の負担を当然しなければならない義務があったと思いますが、そう考えますと、この六億円の金額が市長さんがお立てになった五本の柱に結びつけてやろうというお気持ちがあるかないか、これをお尋ねしたのであります。

私ども過去、どういう企業で打ち出し、非常に苦しい予算の中からこれを教育長の一人の責任かのように押し込んでまいりましたこれらの施設、あるいは土木、下水あるいは水道にいたしましても、夏になりますと市民がかるうじて水を買って代金を払っておくワク内で操縦をさせる。まあ出たり入ったりということばは当りませんが、非常に水道の水ですら、日常生活に一番重要な水ですら乏しい財源しかない四日市市でございしますが、せっかくりっぱな市政方針の柱と、本会議において私どもに明示されたのでございますので、市長の過去の努力、この過去の努力をですね、将来、市政にどのように市長は市中銀行から借り入れてもひとつこの六億円をどういう施設を中心にして八幡が出てくれたから当然、八幡が出たがために来ないことはない、五十坪、六十坪の敷地へ作ってそこに来てやろうというのであるから、まあ極端な表現をいたしますればばたもちを二重にもらいしたような以上に四日市はなるのではないか、これらは市長、議長等の努力、なお北部開発員の方々の御努力が今日このような結末をつけたのではないか。そこで私は過去の市長さんの御努力がこれらとどうとう結びついて本年度の当初予算に五本のりっぱな柱を、柱をお立てに

なっておられる、この五本の柱は相当の、当初予算で見ますと四億五百万という数字が理事者各位の御努力によりまして、あるいは市政の発展の過程がこの予算面に現われてまいっておりますが、これらと並行いたしましたので、過去立ててまいりましたかりに教育十カ年計画にいたしましたしても、下水の八カ年計画にいたしましたも、これらは一般計上ですから容易にできない仕事であります。あるいはその他市民ホールは一般にできましたが、もう一つこの契機に市政の大きなプラスに残るものを八幡のために六億円をお出しになったがために、出してもらったがために四日市はひとつ奮発をしてこういう、こういうようにこれをどうしていかうという考えがぜひひとつ気持ちを、お気持ちになっていただきたいということを考え願いたいということを考える一人でございますが、先ほどから六億円もらえるんだということを思って過去六、七年前の話でございますが、富山市等は市庁舎を建てるにいたしましたも市中銀行から借り入れております。公会堂を建てるにいたしましたが一億三千万の金額を市中銀行から借り入れをやられております。そこで私は大きなことを申しますと、池田総理が十カ年先には経済政策をこのような段階にもっていくのであるという考えを国民に発表されておるわけでございますが、これらが池田総理がおっしゃっておるように伸びるものであると仮定するならば、私はいま六億円をおかけになった分が八幡から返してもらえなかった、市長が首つってでも死なんならぬようなたんばのように、もうあったかのように新聞紙上は書いておりましたが、これはその後の皆さんの御努力によって解決していただきましたので、ひとつ八幡から返してもらえなかったという気持ちになって、いま市民サービスに御努力をなさる意思があるかないかをひとつ伺いたいと思います。いま六億円借りますと十年先には十二億円、先にはなるのではないかと、かように考えますが、もっともぜひそういうことを当然、本年度の市政方針の中で、このへんで市長は目を内に転じてこの五本の柱で取っ組んでいくのだという御方針をお立てになったのでありますからこれらとあわせてぜひひとつ市政方針にマツチするようなお考えがあるかないか、

私は真剣に市長が取り組んで御答弁を願いたいと思っております。

どうかひとつ、私が再びここに上らんでもいいような、私はじめ各議員が満足できるような御回答をお願いいたしたいと存じます。

○議長（山本三郎君） 暫時、休憩いたします。

午後三時四十八分休憩

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。

午後四時七分再開

（市長（平田佐矩君）登壇）

○市長（平田佐矩君） ただいまの浜田議員さんの御発言に対しまして、お答えを申し上げたいと存じます。

このたび八幡の件に関しましては市長といたしましてまことにすまぬことだ、すまねことだと思っておる次第でございます。いかにことが自然的の条件ではあるとはいいながら、四日市のために非常におしむべきことでありまして市長といたしましては本当に遺憾にたえぬと思っておる次第でございますが、これが中間的処理といたしまして幸いに八幡が四日市のために好意ある処置をいたしてくれましたので、皆様方をほっとおさせ申すことができたということとは、これは全く議員諸公の平素一丸となって四日市のために一つの目的を立てばまい進していただくりっぱな一貫した市政というものが私は八幡に通じたのではないかと思っておりますので、ひたすら頭の下る次第でございます。まことに皆さんの御苦勞に対しまして御礼を申し上げたい次第でございます。なお、ただいまの御発言によりますと、これを機会とし、またこんどの支援に対して四日市の新しい相応せしめて、そうして有意義にこれを用うべきである



というきわめて積極的な意見を拝聴いたしましたして、まことに敬服にたえぬと存ずる次第でございます。しかし、そのことにつきましては、これは全く議員諸公のたまものでありますし、また皆さん方の意のあるところを十二分にお伺いして、皆さんの御意図に沿うようにさせていただきたいというのが私の考え方でございます。その間慎重に皆さんに御配慮をわすらわしまして、その御意見を受け入れ、かつそのお考えにおきまして理事者間におきましても、四日市のためにこれは非常にいいことだと、これが一つの足の踏み台となつて非常な進展をすべきいいことだというようなことに理事者間にも思いが至りましたならば、われわれはこれを議会にお諮りして十分に御意見を承わる。まず私の考えとしては、才一に議員諸公のお考えを十分に承わった上で考えたい。才二段におきましては、その間においてもし市の理事者の側でこれはという考えが浮びましたならばお諮りを申し上げて、そして御賛同をえた上で処置をしていきたいというふうに考えておりますので、この点につきましてはただいまの御意見に対して非常に私はありがたく思う次第でございます。

かように答弁をさせていただきたいと存じます。

#### 〔浜田弥平君登壇〕

○浜田弥平君　ただいま大へん市長さんから意の服された、考え方によりましては大へん要領のええ御答弁を承わりましたので、重ねて市長さんに御要望を申し上げておきたいと思ひます。

自席からお許しを願えませんので、簡単にお願ひを申し上げます。先ほどの質問の中でも申し上げたようにかりに一社の報道人たりとも市長のよその重役にするような考えを起さないように、本年度から特に市内政に重点をおおきになつて、そうして先ほど私が質問を申し上げました、まあ簡単に私は約六億円と申し上げましたが、たしかにこれが四日市市におぶさつた場合、八幡が全然来られなかった場合にはおそらく三重県の立場、あの取つた、取られた態

度、当時の漁業補償をするときの態度、なお県財政等を考えますと、おそらく六億円は四日市市におぶさつたのではないかと、私はかように考えますあまり、御質問を申し上げたのでございますが、幸ひ市長さんは、皆さん方によく相談をして、そうしてこれらは現実に見合うようにしていきたいというお考えでありますので、私の質問はこれで終るわけでございますが、ここでひとつ将来に対しましてあの八幡誘致にからみました二百萬坪というお考え、これらはひとつ十二分にですね、経済人等の考え、あるいはこれらに關係する技術者等の考え方を将来規範にしていたきたい。と申し上げますことは、しろうとが考えましてもあの二百萬坪というベースはなかなか容易にそのベースには乗らないのではないかと、しろうと陣がときおり聞かしてくれまので、ひとつ漁業補償は二百萬坪いたしました、が、市としての考え方、大正十五年です、中央港灣審議会が考えた案等を考えますと、時勢は變つておりますと決して私は無理できないかという考えをもっておりますので、これをあわせて市長さんはお考えになるように御要望を申し上げておきたいと思ひます。なお重ねて先ほどのひとつ御答弁をくださいましたこの精神をひとつ市民サービスに生かすようにぜひひとつ御努力を願ひたい。重ねて申し上げますが、特に教育十カ年計畫等は予算なしに十カ年の計畫を立てておりますので、どれもこれも大切なことばかしでございますが、特に中でも教育施設等は、これは今日の四日市市の現状からいきますと他都市をながめてまいりますとおほずかしいような次才ではないかと考えられる向もでございますので、この六億円を十分市民サービスに将来、経済価値のあるように私どもに御相談くださることを、この日の一日も早からんことを切に期待をいたしまして、重ねて市長さんに御要望を申し上げて私の質問を打ち切りたいと思ひます。

大へんどうもありがとうございました。

○議長（山本三郎君）　大谷議員、どうぞ。

○大谷喜正君　私は、去る十日に市長から提案をされたその市政方針と合わせた内容について質問いたします。質問の要点を五点にしばっておりますので御承知おきのほどを願います。

才一に、総合開発関係につきましてはただいま浜田議員から内容について私の質問申し上げたい点をされまして、しかも市長から適切な御答弁をいただきましたので、質問よりもその御答弁に対する御要望事項を二、三申し上げてお考え方があれば承わりたいと思います。

才一に、八幡誘致の失敗に終ったことにつきましては市長一人のみの責任でなく、われわれも同様にこれに対する責任と反省をせねばならないことは当然であります。市長の説明の中にもおことばが出ておりますが、人力によってしてはとうてい解決しがたいことばが出たのであります。自然的な地形を人の力ということによって、私も同感であります。しかし、誘致策をここまで進めるまでにはむしろ人的な配慮、計畫の緻密さ、これに欠けていたことは見のがせない私は事実であると思うんです。すなわち実質調査の内容をいまだ少し慎重にすればよかったとか、または企畫そのものにつきましてもいまだ少し多数の意見に耳を傾け、そうしてこれの是非についての議論その他についての慎重さもほしかったことは、いまの時期になって非常に残念であったことと思います。八幡のことにつきましては以上であります。総合開発全般につきまして、いままでに起きている諸問題、この反省、現状の事実、将来に対する企畫構想こういった三つの段階に区分するならば、私は先ほども伊藤太郎議員からなる南部方面の事情についての御質問があったのでございますが、公害の対策等に都市排水また用途地域設定の問題、いろいろと市政を行う上においての反省資料は数多くあるかと思えます。とりわけ現状の一例といたしまして、去る日に市長が南部開発で述べられた午起地域の火力発電その他の工場関係の問題につきまして、県と市の主張するこの管轄のずれ等は見の

すことのできない私は大きな問題であろうと思います。公共埤頭を作ることが是であるか非であるかという結論はともかく、県と市との間によって一体となつてこれを進めねばならない重要な問題が、両方が平行した形のままで、これが自然的に進められているということは見のがせない大きな問題であり、これに対する取り組み方も真剣でなければならぬと私は考えるのであります。いろいろなそういう諸問題をひきあげた今日、将来どういうふうにあつてほしいかということ、市長に希望したいことは、いまだ少し広く世論に問うて多くの意見を求めるということは決してむだは生じない。やはり一つの考え方、一人の主観的な考え方によるよりもむしろ大勢の方々の意見を十分に取り入れて、市長の主観ということにつきましてはなるべく取り除かれることが望ましいというふうに私は考えます。それ以外につきましては省略をいたします。

才二の質問につきましては、今回の市長説明の中で「理想都市たらしめるべく、本来の目的、使命」ということばでいろいろと五つの柱を中心にしてこんごの政策をお述べになつておられることにつきましては、先ほど伊藤太郎議員から御質問があつたとおりであります。それを私は質問の内容について項を追つて違ふところだけを質問するのです。

まず才一に、機構改革で市民サービスをするこの内容の具体策を承わりたいのであります。才二には、道路政策等では昨三十五年度の三月定例議会におきまして私は市長に対してお尋ねしたことは、こんご道路建設並びに舗装等について年次計畫の構想があるか、とこういう質問を申し上げたところ、市長は年次計畫はもってない、こう御答弁をいただいております。しかるに今回の御説明の中には「計畫的にこれを実施して年次計畫を樹立しておる」と、こういうことばが出ておりますが、まことに一年遅れたとはいえ私も今日のおことばについて同感でございます。しかしながら同じ市長であつて昨年は計畫を考えていない、ことしは計畫を考えていると、このずれについてのお考え方

を才二点として承わりたい。

才三点につきましては、産業政策中の中小企業の育成対策についての根本理念、これについて承わりたい。

才四点には、社会福祉対策、これについてであります。今回の御説明の中に国民年金や国民健康保険も十分取り入れてということがうたわれておりますが、これは市長が市の政策として五つの柱の中に入れられたお考え方はきわめて私は残念であると思います。こんなような国民年金や国民健康保険は施策でなくて国の政策で、好むと好まざるとにかかわらず国の国策によって市はこれを行うだけであって、五つの柱の中にこの目標を入れられたことには、私はいささか疑義があるわけです。当然やらなくてはならないことが五つの柱の中に施策としており込まれたということについては疑義をもつわけです。同じく社会福祉対策の中で、市の公的施設と民間施設との有機的連携の具体的な内容を承わりたいと思います。

次に、青少年対策につきましては一言のことばも触れられていないように感ずるわけです。ということは非常に内容がばやけて政策をもっているのかいないのかということも明らかになっておりませんので、この点についてもつけ加えてきたんじゃない御答弁をわずらわしたい。

才五点、世論とか民意を反映する議会の協力を求めているというおことばが出ることは、これは非常に心外であって、私が申し上げるならばいままで二力年にわたって私どもが市長に民意を取り上げていただきたいということをお願いしておるのであって、むしろこれは市長が議会に同意を求められるよりも、私どもが市長にそういったことを過去二力年にわたって呼び続けてきた意見でありまして、今回、市長がこの御心境になられたということにつきまして、いろいろそのお考え方もあらうと思いますが、その根本的なお考え方のいままでの違い、いままでと今日の違いについてのお考え方、これが才二番目に御質問申し上げる要点でございます。

才三番目の質問事項といたしましては、一般会計予算編成方針についてお尋ねしてみたいと思います。前、申し上げました五つの柱というものが当然今回の一般会計の予算の中核をなすことは当然でございますが、説明の中には二十一億内外が適当な今年度の価額である、適正額である、こういうことばで表現されておりますが、このことばの表現にあるいは五つの柱に対してこの予算規模ということが適正であって公平であるか、この点についてのお考え方をお聞きしたいと思います。なお予算の編成内容がすべて国庫の補助、県費の補助の適用が優先されて、市単独事業がしかも少額ですむその事業が非常になおざりにされておりましたまいかという点についての財政当局からでも答弁をいただければけっこうと思います。

質問の才四、教育行政についてお尋ねいたします。義務教育費の税外負担の問題につきましては、従来、機会あるたびごとにしばしば各議員から述べられておりますが、去る日に新聞の発表によりますと本年度からは文部省、自治省らが各市町村当局に対してPTA等でいままでもかかって、あるいは補てんをいたしておりました税外負担を一切かけてはならない、こういうような意味の記事が出ておりますが、こういうことにつきましてはどういう考え方でのごお進みになるか、これが才一点。

才二点は高校対策について。来る三十八年度をピーク時といたしまして、高等学校の希望者数はぐんぐんとふえておそらく狭い門が予想されると考えられますが、そういうことに対処する考え方が市の教育委員会あたりにおありであるかないかということを、できましたならば教育委員長に御説明をわずらわしたい。

次に、社会教育の基本理念についてでございますが、先ほど社会福祉事業の内容につきまして少し触れたわけでございますが、悪い行いをした青少年に対する取り締りばかりを進めるのでなくして、健全な育成方針についてのお考え方、これをおもちならば具体的に御説明を願いたいと思います。

才五点、図書館の建設の御計画が本年度にあるかないかと、以上が教育行政に対する私の質問でございます。

最後の才五番目、総合市有財産管理について質問いたします。こんどの御説明の中にも市立産院を病院の完成に並行して吸収合併をする、私はまことに当をえたお考えかと思えますが、この産院あとの敷地についての構想は市当局におかれてどういうふうに考えていられるかということが才一点。

才二点には道路市有地等につきましては先ほど伊藤太郎議員が触れましたので省略いたします。

次に、すでに道路敷地として買収せられました市有地に対して、その後、計画が進められているところと買収したままで相当の年月がたっている場所があると考えられますが、こういった買収ずみの用地に対して市はどういうような構想をもってこの目的を果せるように進められるかという、この問題についてお尋ねいたします。

最後に先ほど浜田議員は一つ含みのあることばで取り残されましたが、過日の全員協議会で問題になりました富洲原中学校跡の敷地問題についてその後どういふような内容に進められているかという概勢を御答弁わずらわしいと思います。

以上であります。

〔総務部長（林義男君）登壇〕

○総務部長（林義男君） 大谷議員さんの御質問の私に関連する問題について非常に広範にわたっておるように思いますが、申し上げたいと思います。

才一点、大谷さんのおっしゃり方ですと御質問の才二の御質問といえますか、理想都市の建設についてのそのうちの才一点、機構改革の考えておる市民サービスの内容というのはどういふことを考えておるか、こういう問題についてまずお答えいたします。御承知のように機構改革の考え方、それから進め方という点については御了承いただい

おるものと考えておりますが、その内容につきましては、あるいは皆さんには十分おくみ取りいただけない点もあるかと思えますので、お尋ねの点を具体的に申し上げてみたいと思います。才一、私どもが今回の機構改革で考えておりますのは市の各部署のいわゆる働き、機能といえますか、そういったものを十分分析いたしまして、その分析の上に立って最も合理的かつ能率的な状態に仕事をもっていきたい、これが立ててました七つの柱のうちでも最も内容に関連しました大きな問題でございます。それで具体的に入っていきますと、まずサービスの主体は各部、課とも関連する業務において十分考えていく、これは十分従来も考えておりましたんですが、もっと職員の研究あるいは業務内容のはっきりした把握というようなことを各トップ。クラスといえますか、部長、課長がよく把握、掌握いたしました職員をよく徹底いたしましたして、市民の方がおいでいただきましたときにも少しもなんでしょうか、そこにとどこおりがありましたら疑問点が解決しにくいというような点がないような状態にもっていく、それから、それぞれの各パートの分担する業務をはっきりしまして、責任の処置を明らかにしていきたいというような考えもその中に入っております。ところが私どもがいまここで最も市民サービスに直結した考え方として考えておりますのは、たとえば一つの問題を取り上げて考えましたときに住民登録をするというような場合、すぐまた戸籍で住民登録をして隣の商工課へいつて配給のことをお願いする、本庁の場合のことを申し上げております。その人がたまたま妊娠婦であった場合、衛生課の窓口へいかれました妊娠婦の手帳をもらっていただき、また汲み取りなんかもらっていただくというようなこともなんでしょうか、いちいち迷い子が窓口を尋ねて順番でまわっていただいて、しかし自分がお気づきでない場合には忘れてお帰りになってうちで考えて隣で聞いた場合にはもう一ぺん市役所へいかなくちやならぬというようなことがいままでに相当あったのではないかと。これをなんとか一つの窓口でいままのような関連業務、住民登録、配給及び妊娠婦の問題ももっと広く考えまして、国民保険あるいは国民年金の問題、そういったものが総合的な窓口によ

って処理されていくような内容的な処理ということをや一点に考えております。それと関連しまして、市民相談室というようなのが現在、工事がほとんど終りましたんですが、そこでいろいろな御相談に応ずる、ここで考えておりますのはどういふことを考えておりますかと申しますと、従来、陳情なんかのあり方がともしますと課長、係長クラスでは問題にならない、市長に直接話さないといけないというような考え方から市長室へ直接おいでいただく。ことと次才によりましてはそういう場合も私は将来もあつてしかるべきかと思いますが、それぞれの担当者がお聞きしてそれでその上に市長室へ御案内申し上げて市長にもお聞きいただくというような状態になれば、そうありがたい、だから才一には相談室へおいでいただいているいろいろな御意見あるいは問題をお聞きした場合にはできたら部長クラスの範囲内のものが出向きまして市民の方に具体的問題についてお答えする、こういうような考え方で、形式的なものでございますけれども市民相談室を設置いたしましたことによって処理していくというようなことでございます。これは非常にまあ具体的な内容をそれぞれ申し上げますと、先ほど税務部長からも申し上げておりましたように出張所と本庁との事務的な関連の問題その他の問題もありますし、税務だけのことを考えましてもいわゆる本庁に集中的な職員配置をいたしましたときの徴収その他の問題でも、これは単に本庁まで来ていただくというのではなくて、従来非常に税なら、税というものについての考え方を市民の方がはつきりされた場合には非常に便利になるというような考え方で処理していきたい、こういうふうに思っております。

以上その点につきましてははなはだ簡単でございますが、われわれの考えたところを申し上げます。

それから才二点といたしましては御質問の中でまあ財政関係の事務屋でもいいから答えろというような御指示のありました才三、大谷さんのおっしゃる才三の問題についてお答えしたいと、こういうふうに思います。市長の説明の中で平年度の健全財政を保つていくためにはだいたい二十一億内外という予算規模が適正なものと考えるという問題

についてどうか。これがその一つであります。昭和三十四年度あるいは三十五年度の四日市市のいわゆる一般会計予算の総額を考えてみますと、先般十日にも三十五年の追加予算をお願いいたしております二十四億を三十五年度はこす。それから三十四年度につきましては決算の議会におきましてすでに御承知のような予算規模と相なっております。これなどはわれわれ考えますのにはこの伊勢湾台風によりましてところの災害復旧関係がだいたい三億から四億近く計上されて、それに関連しておる財政、このようなふくらみをしておる、そういう観点でみております。そういう意味からいきましてだいたい四日市市の税収の状況から考えましたときによくわかりますように、具体的な例を上げますと、四日市市とほとんど人口の同じような豊橋市のいわゆる昭和三十五年度は私はつきり承知しておりますけれども、三十四年度の税収の状況なんかを調べてみますとだいたい四日市市とは四億くらいの差がございます。いわゆる税収だけにおきまして差がそうやったら四日市は豊橋の財政規模の四億だけのふくらみがあつたらいいではないかという簡単な考え方が成りたつんではありますけれども、これにつきましては起債、国の援助はそういった財政事情も勘案されて考えられてくるという点でだいたい半分ぐらい、いわゆる税収差の半分ぐらいがよその同じような同格の都市を比較いたしましたときに四日市は有利に相なっており、こういうようなこれは非常に常識的、通念的な答え方で恐れ入りますけれども、そういうような考え方をいたしております。まず、そういう点から考えまして普通一般的には人口の数が単位人口十九万となりましたときにやっておる億にかえたくらいの財政規模、これは市町村について、財政規模のいわゆる一つの基準的な考え方に相なるのではないかと、こういうふうになわれわれは思っております。そういう点からいきますと、四日市市の現在の段階からいきましたら二十億、人口二十万だから普通の財政、たとえば豊橋市に近いような状態であつたら二十億、それに一つ上回るくらいの処理していきましたら健全財政だと考えております。こういうふうな考え方、それに四日市市の産業構造からきます国の経済基盤の優越性というものを考慮しまして、

だいたい二十一億内外という、こういう非常に大まかな判断をわれわれ事務屋はいたしております。そういうことから市長にもそういうことを申し上げておりますので、市政方針では市長は私ども事務屋の考え方を了とせられましてそういう御説明をなされておりますので、財政規模についての考え方はそういう状態でございます。それに関連しまして国庫補助、県費補助、特定財源を優先的に考えて、小さなものでも市単、市単独費ともいいますか、単独事業については軽視しておりはしないか、こういう御質問のように思いますので、その点について申し上げますか、そういわゆる市のいま本年度の予算につきまして、いわゆるわれわれで申しますところの財政構造といえますか、そういったものを考えますときに御承知のように市の一般財源といえますのは税金と、それから税外収入というくり方しましたからその二つでございますが、そういったものの一般財源の導入をどこへどう使っているかという考え方が正しいと、あるいは大谷さんが御覧いただくような、その国庫補助金あるいは県の負担金というようなものだけが優先的に扱かれておるといふ御印象を受けられるのも私は無理ではないと思いますし、われわれ財政を担当いたしておる者からいいましたら、かりに国庫補助金がつき、県の補助金がつきあるいは起債がこれに特定財源として考えられるような事業は少くとも大谷さんのおことばをそのまま使いますと、市の社会福祉対策について市長の柱で国のやる政策と合ったものを取り上げるのはおかしいのじやないか、とおっしゃったおことばに匹敵いたしますように国そのものが重要視しておるものにつきましては補助金もあり、県もこれを早く推進する、あるいは重視しておるものについては県の負担金も計上し、なおかつ起債なんかのワクを考えましてもそういった事業の緩急の度合から考えましたら、いわゆる急を要するものについてはそういった国、県のなんといえますか、あるいは援助、起債なんかを考えられておる。そういうことからいいますと市全体、大きな目からいいましたらそういった事業が優先的にといえますか、順位からいいましたら相当評価されて予算の上に重きをなしてくる。そういうことは私は当然のことでもあ

り、現在の日本におきますところの国家財政、それから地方財政といった考え方からいってても当然といってしまうべきだと、こういうふうにわれわれは考えております。ところが四日市の場合、先ほど申し上げましたように他の都市と比べましたときに、その一般財源的な余裕が同じような規模の都市からいいましたら非常に余裕をもった市である、こういう考え方からいいましたら、またその反面、市の単独で出すくらい一般財源を全額、事業量すべてを一般財源でまかなうような事業も相当多くなっているということも他の市の予算と比較いたしましたときには申せる、こういうふうに思います。それでわれわれの考え方の中には、財政を担当しておるものからいいましたら特定財源のものを優先的に取り上げるような考え方をいたしております。ところが実際、事業を所管しております他の部課からいいましたら、いわゆる市民の方から直結する問題をそういった財政的な配慮ももちろんわれわれの担当者からは申し上げますけれども、実際、事業をなさる部課では問題の、いわゆるなんといえますか重軽といえますか、緩急の度合を考えて要求もされ、そういう形でこの予算もまとまっております。非常にこれはお尋ねの趣旨に対しましては抽象的な答え方で申しわけないような思います。

それから、大谷さんのおっしゃいます質問の才五の中の小さな一点、才一点いわゆる病院に産院を吸収するというその問題についてお答えしたいと思えます。今回の議案といたしまして四日市市有財産条例の制定をお願いいたしておりますが、その考え方はいわゆる行政財産とその行政的な使用の域を脱しましたときには普通財産として処理する。その財産管理の責任は総務部庶務課の管財係において普通財産においては処理していく、こういう建前で産院の跡地の問題をお答えしたいと、こういうふうに思います。これは、われわれ事務屋として考えておりますのは諏訪公園内にございまして四日市幼稚園がいわゆる公園そのものとしての管理の上からいって、どっかへ移転すべきであるということは建設省、県の計書課というところから御指導をされておりますので、あの用地が幼稚園の

いわゆる四日市幼稚園といいますが、その規模に適當であるならばその活用する状況からいいます、それで不便でないようであれば才一にはそういう一つの換え地として考えていくべきではないかと、こういうことを前から考えておりますので、これは非常に私ども事務屋として考えうる一つの問題でございます。ところが、これはあくまでも皆さんの御同意あるいは御協議をへてきめることでございますので、お尋ねの趣旨からいいましたらどういふふうに考えておるかというお尋ねについてはそんな一つの具体的な問題として考えております。

それから、いま申し上げましたような関係に立ちまして富洲原中学校のそのこの経過というような問題について簡単に申し上げます。富洲原中学校の校舎並びに校地の処理の問題につきましては、先般の協議会におきまして市長からもお断わり申し上げましたように、実際、市の私どもの責任にあるもののなんといえますか、ものの考え方あるいは処理する能力という点で非常に手落ちがございました、皆さんに御心配をかけ、それだけやなくて対外的にもいろいろ市の不信を云々されるような問題もございました、はなはだ申しわけなく思っております。これは私が総務部長になりました十二月七日でございますが、それ以前の問題としましては南高等学校の校舎として市がある地主からお借りしたということが一つの問題であり、その南高等学校の問題が解消してからの市の処理するところにも手落ちがあり、それから南高等学校を借りるまでに当然あつてはならない建物が皆さんの御審議をへたというものの、かりにいえぬような状態であすに残つておつたというのも一つの問題でございます。そういうわけでございますので、中学校建設に当りまして下取りとして考えましたあの建物の約五分の二くらいのもが残つておる、こういうような状態で五分の三については一応処理ができましたが、五分の二について現在まで御心配をおかけしております。そういうような状況でございます。それで一月の十六日に現地の状態からいいますと手入れをされるような情勢がみえまして、私どもは、これは取りこわしいたぐうに前々から態度をはっきりお願いしておるものですからこわしてい

ただけると、こういう判断をいたしておりました。ところが、実際、家をこわす状態ではなくて、これを補強するかのような印象をもちましたので、先ほど申し上げましたような普通財産管理の一つの責任者といまして、私はその先方のほうへまいりましてこの土地にあるべからざる建物を修理され、あるいは手入れをしたについては非常に問題がある。直ちに中止していただき、そうして市のお願ひしておりますように直ちにお取りこわしを願いたいという、こういう申し入れをいたしました。ところが非常に私ごとになって恐れ入りますが、その翌々日、母親が一週間ばかり私がそうすることについてうっかりしておつたために、ことしも進められるという状態にまでなり、その後いろいろ二宮助役さんを中心にあつたしまして、われわれ建設部長、教育長、総務部長というものが先ほど申し上げました管理の責任の意向に従うといいますが、最初は建設部の問題であり、その次には教育委員会の問題であり、現在では総務部の問題であると、こういうような順序に従ひましてそれぞれの契約をいたしております、具体的なお答えはいずれ二宮助役からもされるところだと思いますけれども、現在、先方にも一つのお考え方がございますが、市の考え方との折衝の過程であると、そういうような状況でございます。私の関連いたしますところ非常にへたな御答弁で恐れ入りますが、以上でございます。

○議長（山本三郎君） 暫時、休憩いたします。

午後五時休憩

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。

〔助役（二宮力君）登壇〕

午後五時十八分再開

○助役（二宮力君） 富洲原中学校の跡の財産管理につきまして、私からお答え申さしていただきます。（「答弁をもう少し大きく願います」と呼ぶ者あり）

長い年月をへた、かつ波乱に富んだあの問題のあとを調べてみますと、いろいろ特色のある点を発見いたすのでございます。まず才一に予想もしないような建物の移転が請負人から出ております。それから才二に、またそれを買いつけました才一次の買受者が思惑をもって保存登記をしております。さらに才三の点としましては、この保存登記に基づきまして権利移転が行われております。しかもそのごとにおきまして消滅してないはずの建物がさらに学校の校舎として使われました。さらに才五の点としましては、現在の買受人が、所有者が、この所有者がこの建物を造作をしております。かような、いろんな事情がさく雑しておりまして、そのために非常に複雑した法律関係を生じておりまして、市の財産でありながらその所有権の行使を拘束しているというのが現状でございます。かような事実を見まして、前回、全員協議会の席におきまして注意をしていただきまして、私どもは二つの点においてははっきりと認識しております。才一は、一般に財産管理をもち直接にすべきであるという注意であります。これに對しましては私たちはその過去の財産管理の不備を改めるためにそれがどういふ点に欠点があったか、現在、未解決の財産管理の問題を生じておるのではないかといふことを一応調査しております。だいたいまとめましてこれらをつづつ処理していきたいと考えております。また今日の市議会におきまして四十八議案でございますか、財産管理条例の上程をお願いしております、この御審議をいただきまして財産管理につきまして畫期的な確立計畫性を持ちたいと、こんなふうに考えております。

才二の注意としまして、あの富洲原中学校の跡の問題を処理せよと、こういうおすめだと私は考えております。これにつきましては、数次にわたりましては二宮が相手方と話し合いをしておりまして、当初はなかなか大したものでありましたが、この一兩日集まってあくまで話をすべきであるという点に一致点を見出させておりまして、従いまして今日の議会中に一日も早くその話し合いの結果をもちまして皆さんにお答えをし、御承諾をうるようにしたいと、かように考えております。かような事情でございますからいましばらくの間、御猶予を賜りますようお願いしたいと思ひます。

○議長（山本三郎君） 時間の関係がありますので、次々に御答弁をお願いいたします。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） 教育行政の面につきましてのお答えをいたします。

才一番に、義務教育関係の税外負担についての御質問でございますが、これは地財法の改正によりまして「人件費その他維持修繕費の関係につきましてはPTAその他において負担してはならない」という禁止の条項がおりこまれたので、これについてどういふふうに考えておられるかといふことと思ふんですが、人件費につきましては四日市の教育委員会におきましては、あの条項に触れるような問題はもう解消しております。

それから維持修繕の問題でございますが、これは維持修繕費、需用費に多少関係をもちますので、経費上いまよりは少しでも上回ったものをもってPTAの父兄に負担をかけないという趣旨に沿いたいと私たちは思っております。

それから高校の問題でございますが、これは御指摘のように昭和三十八年度から高校の志願者がふえることは目に見えております。ということは現在三十六年度から始まります中学校の生徒のほう張がそのまま三十八年度から三カ年間、高等学校のほう張になるのでございます。これにつきまして四日市地区は非常なほう張を来しますけれども、これはもともと県の所管でございますので、私どもの所管ではございませんけれども、中学校の卒業生に関係いたしますために、当局としましては非常な関心をもっておるといふことでございます。これは私立学校におきましては、



この期間、学級増加をいたしまして対策を考えてくれというのでございます。公立の高等学校におきましては、県並に国は学級増加について考えておりますけれども、現在の四日市の状況を考えますと富田にある高等学校はもう私はあれ以上大きくすることはむずかしいのじやないかしらぬというふうに思っております。それから工業高校につきましても、あの土地であれ以上の定員をふやすということも多少無理ではないかしらぬというふうに思っております。商業につきましては、これは多少のこんどの新築関係がありますのでゆとりをもつことができるのじやないか。農業高校につきましても、これも多少のゆとりがあるだろう。それから、南高等学校につきましては九百人定員でございますけれども、これを、施設を考えますならばあすは県に対して学級増加をお願いするについてはしやすい現状にあるのではないかしらぬと思っております。従いまして私たちは県に対して学級増加を要請するよりいまのところいたし方ない。市におきまして新たに市立だけをいたすというような考え方はいま持っておりません。

それから社会教育の面で、健全な青少年を育成するための方針ということでございますが、非行少年の問題はあとにいたしまして、社会教育において取り扱います教育、青少年の対象になる教育の問題は定時制、働きながら学ぶ定時制の問題、それから青年学級の問題、それから実業界の訓練所の問題、それから社会通信教育の問題、こういうものは国が取り上げ、また市がこれに対してサービスをしておる問題でございますけれども、私たちとしましてはこの問題で直接関係をおもちますのは青年学級の問題、それから関連しまして青年団、少年団の健全な育成の問題、その他こういうふうにしほりたいと思います。現在、問題になっておりますのは十五才から十七才までの中学校を卒業して、進学しない就職をしておる子供たちの教育がそのまま放置されておるのではないかとということが問題でございます。これは国におきましても三十四年度におきまして約三百十四万という数でございますけれども、これで青年学級に収容されておりますものは、二十五年齢において二八％であったのが三十四年度に二二・五％と下っておりますのでござい

ます。これは、青年学級の問題は私たちの市ばかりでなしに全国的にこの問題でこの年齢の層を対象にというものは非常に問題になっておるのでございます。従いまして私どもは青年学級におきましては来年度もつと画期的な考え方で運営をしていこうということを現在考え中でございます。なお、この青少年の問題に関連しまして、青少年が十分健全なレクリエーションができるような施設を作ってやるということがもつともこれは私たちは青少年の健全育成にとつては大切なことだと思っておりますが、昨年は水沢にキャンプを設置させていただきましたし、ことはプールを設置させていただきましたけれども、これをもって足れりとするものではございません。この方面に大いに施設をしていきたいと思っております。

それから図書館の問題でございますが、図書館は現在荒廃を続けております。というのはすでに倉庫におきましては図書の収容する能力がなくて、図書を古いものから整理していかなくちゃならないという立場に追いこまれておりますけれども、この建設につきましては中途半端なものであったときには将来に悔いを残すという問題がありますので、大きな計画を立てなければならぬということを思っておりますけれども、現在、私たちが計畫しております教育施設整備十カ年計畫に追われておる現状でございますので、図書館の建設につきましては見送られたというのが現状でございます。従って三十六年度におきまして図書館を設置するということはいまは考えておりません。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） 道路の舗装、主として舗装の年次計畫の問題並びに道路敷地の買収済みであって、その後それをどうしておるかという問題に對しましてお答えいたします。

道路の舗装の問題につきましては、一応担当の土木課のほうで調査しておりますが、昨年試験舗装的にやらさせていただきましたしまして、防塵舗装、これをおもちましてほとんどの重要道路と申しますか、ほとんどの道路にこれを普及さす

という考え方をもちますと、一億から一億五千萬程度の仕事をやりますとほとんどの道路が舗装できるという考え方をしております。それで、一億から一億五千萬と幅の広いことを申しますが、この防塵舗装の単価の取り方でございまして、一応考えられますのは平米当り百円程度から二、三百円程度までの幅がございしますので、そういう行き方をさせていただいております。ところが、そういう防塵舗装で十分なところ、あるいは適当なところを防塵舗装をやりまして二、三カ月ではほとんどどのような状況にもどつてしまうというような交通のところ、あるいは交通量の多いところにつきましては、いろいろそれより以上の七百円程度あるいは千円程度かけたほうが防塵舗装より最後のには経済的であるという面も考えられますので、防塵舗装のみによって早急に全道路を舗装してしまうという考え方は結論的には不経済になるのではないかと考えております。それで、こんどにおきまして防塵舗装の予算を伸ばしていただきました以上によらしていただきたいのと同時に、中級的な舗装もこれに組み合わせいく、補助金をえて恒久舗装と申しますかコンクリートの平米当りに一千四、五百円から二千円程度かけておりますが、この程度の舗装も考えたい、こういう考え方をしております。それで、この防塵舗装につきましては一応先ほど申し上げました一億円あまりの量を考えるわけですが、これを一応三年程度で完成したいということから、その一年度といたしまして二千四百萬円の舗装費を御審議願うようにお願いしておる次第でございします。こういう関係上こんどにおきまして、この予算は飛躍的に伸ばしていただきたいと思っております。それから一般的な道路建設の年次計畫でございしますが、大きい都市計畫面からいきます幹線道路の問題につきましては、国の指示によりまして十年計畫あるいは五十年計畫、これは政府の道路政策にも関連がございしますが、そういう案件を、案を作りまして本省と話し合いをしておりますが、一番大きな問題は都市計畫的に幹線道路をどう配置をするかという問題につきましては一応の結論も出かけておったようでございますが、北部開発の問題もございまして国のほうでいろいろその点を考慮しまして、北部の問題の解決論をみてから結論を出したいというような感じもございしますので、こんど国の問題の考え方がきまりましたら改めて建設省とよく話したいと思っております。

道路敷地を買収して、その後どうなっておるかという問題でございしますが、この点につきましてはごく局部的な小さい道路については二、三あるんでございますが、大きな問題は工業用水の布設に伴います用地買収布設に伴います道路も一しよにかかっていただくのが昨年度とった記憶しております。これにつきましては現在なにもやっております。その他の二、三ございします問題については本年度御要求さしていただいております予算の中にも考えております。この工業用水路の線につきます道路については工業用水の計畫に伴いまして、なお一本並行的に工業用水が布設するという問題もありますので、そういう工業用水の具体的問題も伴いまして道路の問題も考えさせていただきたいと思ひます。考え方といたしましては、できるだけ早く道路の形を作りまして地区の産業、経済の発展に利用していただきたいと思っております。この工業用水の問題でございしますが、工事費といたしましては相当のばく大なものでございまして、三滝川、海蔵川等の大きな河川の橋りょうの問題も付帯してまいりますし、延長も相当でございますので、こんど一挙には困難かと思ひますが、工業用水の結論が出ましたら逐次やりたいと考えております。

以上でございます。

(商工課長(園浦和己君) 登壇)

○商工課長(園浦和己君) お尋ねの産業政策の中の中小企業育成対策の根本理念を述べろということばでございしますが、この問題はなんといえますか、中小企業育成の問題は非常に視野の広い、しかも非常に深刻な問題でございします。し、各種の金融機関が果すべき仕事と、それから通産省を中心とした政府が力を入れていくべき問題と、それから中小企業と、系列化に入っております大企業が育成していく性格のものと大きく分けまして三つの柱があると思う

んでありますが、いろいろとそういった問題の中で三十六年度の予算という時点に立って四日市の商行政政の上でどのように育成対策を考えているかということにしばらくして御説明申し上げたいと思います。

非常に範囲の広い、幅の広い中小企業ではございますが、この中でいろいろと考えました結果、一番重点的に育成をしていくべき業種を市といたしましては主として鉄鋼機械器具、いわゆる鉄鋼関係及び地場産業の萬古の中で、萬古の貿易のドル防衛その他の施策によって萬古の貿易が若干頭うちの状況にありますという事態に立って、四日市の萬古を国内向けの販路を拡張していくという考え方を打ち出していくべきではないかということと、才二である総合開発計画で打ち出され着々とその方向に開発されております四日市の将来の人口を考えまして、それに対応していくところの商業の面をもう少し強化していくべきではないかというふうに、いわゆる鉄鋼業及び国内向け萬古及び商業という三つの業種について三十六年度は力を入れていきたいというふうに考えているわけでございます。これについてすべて問題に、業種に共通します問題はけつきよくは中小企業の中で小企業と零細企業を中堅企業に盛り立てていくことであるということがいえると考えますが、そういう方面に指導育成をしていくために、究極的に結論として必要なことはあらゆる業種が設備を近代化していきまして、一人当たりあるいは一坪当りの生産性を向上していくことであらうと思うんであります。そのためには各種の金融制度を利用いたしました資金を調達いたしました、立派な機械あるいは立派な設備あるいは国内に全体にわたる販路の拡張というふうなことに結びついていくんではないだろうかといふように考えておるわけでございます。なかんずく才一の問題の鉄鋼機械業の、四日市における鉄鋼機械業を考えてみますと二十二工場あります四日市の鋳物工場は年間約二十二億かせいで生産高を示しておりますにもかかわりませず、百六十工場あります機械工業あるいは鉄鋼業、ボイラー、電気その他をひっくるめまして百六十工場あります。鉄鋼関係が三十二億程度の生産しか上げておらないのでございます。一つの地域社会として特に四日市のように将来、

重工業化を目ざしていくんだというような市政の重点政策をとっております都市におきまして、一番必要なことはそのベースをその下請産業である機械器具あるいは鋳物工業というものの実勢が誘致を予想する大企業とある程度バランスをとり、大企業が直ちに使いえられるような工業でなければいけないと思うんであります。先ほど申し上げましたように二十二工場、二十億を上げております鋳物工業に比較いたしまして百六十工場あります鉄鋼業が上げております生産高は三十二億程度でございます。これは鋳物と鉄鋼との関係が一对五の比率になって発展をしていっておるほうが望ましい姿だそうでございますので、そういう意味におきましてもあるいは産業立地政策の一環として考えてみましても、鉄鋼機械関係を大いに育成していかなければならないのではないだろうかというふうに考えておるわけでございます。今日まで昭和三十三年度に発足いたしました国、県を通じた設備近代化資金による四日市の鉄鋼業界の鉄鋼、鋳物すべての業種を設備近代化いたしました金額が査定額で一億二千三百萬円程度でありまして、この点、議長及び市長のところに陳情の出でおります機械、鉄鋼業者の陳情書の内容によりまして、緊急に設備近代化しなければならぬ四日市の鉄鋼工場の対象機械は金額にいたしまして一億五千萬円あるようでございます。これらを早く設備近代化資金のワクを国、県にお願いをいたしましたして、設備近代化ができるようにあつせんあるいは指導に当たっていくのが当面する市の任務ではないだろうかというふうに考えているわけでございます。

才二番目の内地向け萬古の問題でございますが、従来、萬古、四日市の萬古工業の中で八割五分が、八五％が貿易であり、一五％が国内向けというふうな成績を示しておったんでございますが、アメリカのドル防衛あるいはハガチ事件等の若干の事態がわざわざいたしましてか、この貿易が意外に本年後半伸びなかったのでございますが、幸いにいたしまして非常な国民全体の消費景気はよかったですか、今年は国内向けの販売が伸びまして、私の手もとにきております業界からの報告によりまして八十五対十五の割合が七十対三十の割合に、三十一億の売り上げの中

で約九億の国内向けの萬古が売れたというふうな国内販路の非常な伸長が記録されておりますので、こんど貿易品の、貿易萬古の貿易の伸長いかにかわらず、国内販路の拡張を積極的にやっていきたい、そのためには御承知のように萬古商業組合というのがございまして、そこが中心になって国内販路の拡張に努力いたしておりますので、その組合を中心といたしまして県の東京事務所にあつせん所あるいは目下係員をやつて、派遣をいたしておりますが、大阪あるいは神戸遠く広島あたりまで四日市の萬古のあつせん、奨励等により出していきたいというふうに考えているわけでございます。

才三番目の、四日市の商業でございますが、現在、四日市の商業がだいたい月間二十八億の売り上げと申しますか年間約三百四十億の売り上げを示しておりますが、総合開発計畫によつて示された人口三十萬の四日市を想定いたしますときに、二十八億の売り上げが六十一億くらいの売り上げになる予想が示されておりますので、その六十一億の商業販売額を四日市の商店に吸収しえられるように商業の、商店街の皆さまにあるいは商店街再発あるいは商店連盟等を中心とした積極的な活動といえますか、売り上げ増収のためのいろいろな問題を処理して育成していくようにしていきたい。このように当面しております四日市の中小企業の育成の問題はたくさんあると思うんですが、三十六年度は以上申し上げましたような鉄鋼、萬古及び商業伸長という三つの点に重点を、において指導していきたいと考えております。

○議長（山本三郎君） 時間の関係上、以上で本日の質問は打ち切ります。

これをもちまして本日の会議を閉じることいたします。

明日は午前十時開いたします。

本日は、これをもって散会いたします。

午後五時五十分散会

昭和三十六年四月四日市議会定例会議事速記録 才三号

○昭和三十六年三月十五日（水曜日）午前十時八分開議

○出席議員（三十一名）

伊	渡	高	早	大	池	荒	鈴	錦	谷	伊	矢	内	馬	米
藤	部	橋	川	谷	畑	木	木		口	藤	田	山	嶋	田
金	權	伊	和	喜	佐	武	敏	安	専	太	繁	弥	温	好
	太				太							十	知	
一	郎	祐	一	正	郎	治	郎	吉	九	郎	郎	郎	君	兼
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	速
														記

○欠席議員（九名）

中	山	藤	小	橋	永	山	日	生	伊	伊	坂	前	笠	服	鈴	加
島	本	谷	林	詰	田	中	比	川	藤	藤	上	川	田	部	木	藤
忠	三	裕	喜	興	巳	忠	義	平	宗	泰	長	辰	七	昌	愛	定
勝	郎	一	夫	隆	側	一	平	藏	一	一	十	郎	男	衛	弘	治
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

○市議世事務局（四名）

庶務係長	議事係長	事務次長	事務局長
佐川	菊川	原	地川
藤田	英善		
茂裕	也雄		

森	柴	田	辻	浜	志	平	山	野
田	田	村		田	積	野	口	呂
卯	末	定	彌	政	太	信	幸	太
七	繁	松	章	平	一	七	生	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君

○議事日程

才三日 三月十五日(水) 午前十時開議

／前日に引き続き

昭和三十六年度一般会計予算並びに関連議案………総体質問………委員会付託

○議長(山本三郎君) ただいまから定例会を再開いたします。

本日の出欠議員数を報告いたします。

出席者二十四名、欠席届出者四名、遅刻十二名であります。

本日の日程につきましては、議事日程に従いまして会議を続行いたしますから御了承願います。

ただいまから会議を開きます。

○議長(山本三郎君) 前日に引き続きまして日程才一の昭和三十六年度一般会計予算並びに関連の議案に対する総体質問を行います。

大谷議員の説明に対し民生部長の答弁を求めます。(「議長、議事運営について」と呼ぶ者あり)

○笠田七衛君 昨日、同僚議員の質問に対し、理事者は非常にヒントはずれな答弁がなかなか多いように感じられます。そこで議長は、本日は相当多数の同僚議員の質問がございますから、その点を十分調節されて、議事運営がスムーズに運ぶよう切に要望いたします。

〔民生部長(中山英郎君) 登壇〕

○民生部長(中山英郎君) 昨日の大谷議員の御質問の中で民生部門に関する二つの点、まず才一点といたしましては市長の施政方針の内に、五本の柱のうちの才四番目に「社会福祉政策の推進をはかり、国民健康保険、国民年金の新しい分野の充実につとめ、他方その領域を拡大し、市の公的諸施設と民間の諸施設との有機的な連携を緊密にし、市民福祉の向上につとめたいと思います。」「こういう表現に対してまず五本の柱のうちの一本にすることは国の施策であっておかしいじゃないかというような御質問でございますが、仰せのとおり国民健康保険にしろ国民年金にしろ市独自の政策ではないことは御指摘のとおりだと思います。しかしながらその実態におきまして、国民健康保険につきましては対象が大体八万人、国民年金につきましては四万五千人というふうな市民の対象者を有し、また事務処理にいたしましても相当の職員数を要し、また事務量も相当あり、しかもこれに対する市費の投入ということを考えますと、三十六年度におきます実際の事務量、あるいは市費の投入ということにつきましては、また市民の福祉の影響ということを考えますと、相当大きな問題であります。こういう観点から五本の柱の一つに市長が考えたものと私は考えております。

次に市の公的諸施設と民間の諸施設との有機的な連携の緊密ということについて具体的に申し上げますと、これは、国民健康保険につきましましてはまず、のちほど特別会計において議論が出ると思いますが、一般的に考えまして市民の衛生保健維持、環境衛生ということから見まして、むしろだいたい四月上旬に市民病院が移転し新しい拡充した態勢のもとに医療が始められる、これがまあ大きな公的施設の新しい事態だと考えます。それから国民健康保険実施につきまして、現在民間の機関といたしましては、個々の開業医が、だいたい市内に純然たる開業医が約百軒程度ございます。歯科医師が六十軒程度ございます。それで、まず医師会につきましては臨床センターを設けまして、一つの

臨床検査センターと、それから医師会付属の看護婦養成所を施設する、これは医師会が主催、責任のもとに運営していく、こういう構想でございますが、これにつきましてオーブンの運営をはかりたい、委託検査を実施したい、ということの申し出がございましたので、それを市は助成するという立場をとったのでございます。そういったことが民間諸施設との有機的な連携ということでございます。

それから才二点の、それに付説して御質問になったのが青少年問題のことでございます。青少年問題につきましては非常にむずかしい部門がございしますが、現在私どもの厚生課の主管しておりますのは、むしろ青少年問題協議会の事務局的な性格のもとに、民生部門のうちの厚生課において主管しておるというにすぎないというのが、これが実体でございます。現在、三十七名の補導員の方を市長が委嘱いたしまして、相当の労力と、それから御配慮のもとに非常に自主的に、青少年を対象として街頭補導に去年の八月以降尽力されておるということにつきましてはわれわれといたしまして感謝いたしておる次第でございます。この青少年問題につきましては中央に協議会という機構がございしますが、この青少年対策は機構だとかそれから条例といったことで非常に実施しにくい部門が多分にございまして、率直に申し上げますと、条例や規則を作ることはいいともやすいと私は考えております。聞くところによりますと、県においても青少年の条例を出すそうでございますが、条例とかそういうものを出すのはいいとも安いと思いますが、下手をすれば人権じゅうりんというような問題も起きますし、いろんなむずかしい面がございします。私の考えからいたしまするならば、きのう教育長が一部社会教育の面で触れたと思いますが、施設を作ること大切だと考えますが、一応、私といたしましては、まず青少年の思想、それから道徳的な教育面をまず教育部門において浸透さすような措置を講じていただくことが、まず先決であろうと考えます。それから才二には、その青少年の、思想面でなくして実際面においてきのう教育長が触れたような施設、それから話し合いの場所といった施設面に施策を要するという

ふうに考えます。それから才三には、そのほかに実際面において青少年の思想なり犯罪事例につきましてこれを補導するような現場的な施策が必要だ、この三つが必要だと考えます。

率直に申し上げまして、現在のところこの三つを有機的に結びつける機構なり施策というものはまとまっておりません。これは非常に残念でございますが、そのうちの、これはさらに検討をしまとめなくちゃならないというふうに考えておりますが、現在民生部門の厚生課におきましては単なる青少年問題のうちの現場的な、しかもそのうちの大部分の補導という面の事務局という働きをやっておるのが現状でございます。ただ最近、二宮助役が県の警察本部長といろいろ折衝を重ねまして、県下にだいたい三十名の警官の増員があるということを聞き及びまして、青少年の専任の補導警官の配置を要請して、だいたい県本部長の了解を得たという話を聞いておりますので、そういうことを足がかりとしてささやかながらも実績をつみ重ねたい、こういうふうに考えております。

以上、現状を申し述べまして、一応、御説明を終わりたいと存じます。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君） 議案説明の中の才五の柱としまして掲げてございますことにつきましてお尋ねがございましたのでお答えしたいと思います。

市長は今回、予算編成に当りまして五本の柱を考えましたのでありますが、その趣旨は、才三年目を迎えるに当りましていよいよ民衆に徹底することにした、こういう御真意に基づくのであります。従いまして才一、才二、才三、才四はいずれも人民のための構想に基づくところの施策であります。いわばフオア・ザ・ピープル、こういう意味のものであります。それに対しまして才五は市民の、また市民によっての場合を述べたものでありまして、オブ・ザ・ピープル及びバイ・ザ・ピープル、こういう建前のものでありまして、一から四に至ります柱の総括的な意味を持つ



ものでございまして、単に才五の一つの柱という意味でなくして、一から四の柱、それらを含めまして民主的な市政を運営したい、かような趣旨のものでありまして、その点におきまして、これらを合せまして明るい市民のための、また市民によっての今回の三十六年を迎えたい、こういうような趣旨であるということに御了承いただきたいと思ひます。

#### 〔大谷喜正君登壇〕

○大谷喜正君 昨日の私の質問に對しまして、先ほど笠田議員から議事運営についての御意見が出ておりましたのですが、私も同様なことを考えたのであります。

まず私が御質問申し上げております要旨の答弁は間違えないで願いたい。しかも御質問申し上げた方に御答弁を願わずして、他の方がそれに御答弁を願っていることもきわめて遺憾に思ひます。また、質問をしようとする要点はずれた御答弁を願っておることもきわめて遺憾であり、さらにいまから続く他の議員諸公の御質問の点にもあるいは影響があるんじゃないかと考えられますので、そういったことのないように御留意を煩わしたいと思います。

最初に、総合開発關係について、私は昨日市長の御心境をお尋ねしたわけでございしますが、残念にも市長の御答弁をいただくことができなかったもので、重ねてお尋ねを申し上げます。八幡誘致の失敗について市長は市民に對して今回の御説明と、昨日の浜田議員に對する御答弁でもって今日までの政治責任があれでいいんだと、こういうふうに御解釈されるものか、あるいはそれ以外に何らかの方法をお取りになって市民に對する説明をされようと思ひますのか、その辺のお考え方をまず最初にお尋ねいたします。

✓才二番目といたしましては、きのうも触れましたのですが、午起海岸地域におきまして火力発電の誘致に伴って、市長はその火力発電の敷地予定地内にぜひとも公共岸壁もしくは埠頭を建設したいという強い信念を今日まで貫かれ

て私どもに述べられておりますが、一昨十三日の県議会におきまして四日市市選出の山本議員からの知事に対する質問に對して、知事は市長が希望されている公共埠頭なるものの設置は毛頭考えていないということを新聞記事によって私は知ったのでありますが、今日の朝刊を見てみますと、市長は、昨日記者会見をせられて、その記者会見の内容においては相当知事と對立的な御意向が記事に掲載されておりましたが、この点についてのお考え方をさらに再確認いたしたいと思ひます。これが総合開発關係についてお尋ねする二点でありまして、御答弁はいずれも市長からお願ひ申し上げます。

それに関連いたしまして、少し総合開発とは直接關係のないことであるか分りませんが、先般の南部開発委員会におきまして私は言及いたしました、四日市市商業高等学校の所有にかかわるあの五千坪に近い土地の利用について、近く進出予定をされております中部電力の杜宅用地に、市長が多少言葉を出されて便を与えておられるかのようなことを仄聞いたしておりますが、この現状について明確に考え方を述べていただきたい。と申し上げますことは、この土地の転用につきましては、同じ市の内部におきまして都市計畫關係のほうにおいて、橋北中学校の校庭の中間を道路を貫く計畫をされていることは事実なのであります。この事実に基づきまして、私どもは染川教育長が生前中から近くは昨年に至るまで教育委員会等にこの対策についての要請をしてやったのであります。その要請事項が市長の耳に入っているのかいないのか別といたしましても同じ市の内部において一方はそういう計畫をして道路政策をして学校の校庭が使えないような企画をし、片一方ではその代がえを考えずして一会社の杜宅用地にあっせんをされるという、こういう矛盾のある政策が、私はほんとうにいまの市政として正しい行き方であるかないか。ここに私は総合開発のびっこを引いた進め方がとられているのではないかと、このことを感ずるものであります。ぜひともこういう矛盾のないように、すみやかにこれが善処を希望すると同時に、いま現在お考えになっておられるその政策方針につ

いてはつきり御答弁を煩らわしたいと思っております。

才二番目に御質問申し上げました理想都市本来目的の使命についての件であります。昨日もこの点について機構改革の内容を詳細に総務部長から御答弁を願ったのでありますが、私の表現が露骨でしかも当を得た言葉でないか分りませんが、市の本庁のほうへまいる市民の方々を中心としたサービス機関であるということを主にお考えのように私は聞きとったのであります。二十万市民のうちで本庁のほうへ業務を、あるいはいろんな問題を持ってくる人口比というものはきわめて少数、比率からいえばごくわずかでなかろうかと思いきす。市民に対する機構を整えてサービスをするということは、あなたがち本庁のそういう業務を整えて市民サービスをするという事だけでなくても、と私は他にもいろいろと方途はあろうかと存ずるわけでありす。たとえば機構改革に合せて申し上げれば、先ほど民生部長が触れられました言葉の中にもありますように、機構の上において非常に欠陥を生じておるということは、青少年の対策に対する機構が整っていないからということになると私は感ずるわけでございます。今回の予算の措置内容を見てみましても、決して私はこれに満足するものではありませんが、いずれ逐条審議のときにもその意見を申し述べたいと思っておりますが、機構も整えずして成果を上げる、これは当然要求するものが無理であることは私もよく知っておりますが、それなどについてどのようなこんどの機構改革で考え方を持っているか、これが理想都市本来目的使命についてのお尋ねの才一点であります。

次に、道路計画、内容について私は昨日質問いたしましたら、部長から非常に懇切な御説明をいただいたのでありますが、私はその計画内容についてきのうお尋ねしたのではなくて、昨年の三月定例会市会におきまして市長は道路計画については年次計画を持たない、こういうことをはっきりと御答弁願っているわけです。ですが、今年は年次計画を立ててやっという所信が明細に表わしてあるわけです。去年の三月と今年の三月との一年の間にどうして

こういう差異が生じたかという理由を私はお聞きしておるのであって、建設計画の内容を御質問申し上げたわけではないわけでありす。これなども御答弁を煩らわしたいと思ひます。

才三番目には一般会計予算の編成方針について再質問を申し上げますが昨日の総務部長の御答弁によりますと、たしかに国庫補助を中心とした補助事業に非常に予算が片寄りすぎていることは認められる、こういうことをおっしゃり、あわせて他都市の実例等も御調査になって本年度の一般会計予算額が、二十一億という金額は当市の人口に比例して非常に妥当な額ではないかと、こういうことを御説明願ったのであります。都市の実情によって、とりわけ四日市市のようにまさに日の出のような勢いの都市と、そうでない他都市とのこの間隔につきましては、あなたがち事務的に人口によった予算総額が妥当であるというお考え方は少し事務的しすぎはしないかということを見として申し上げて、この点に対する御答弁を煩らわす必要はございません。

才四点の教育行政について再質問を申し上げます。

昨日は教育長から税外負担のことにつきまして、現在よりも上回った経費の負担をかけない、こういう御答弁を願ったのでありますが、現在よりも上回った負担をかけないという言葉に私は多少の疑義を持つものであります。現在の実状といたしましては本市五十ま近い各学校にはそれぞれPTAという一つの団体が組織されておりまして、その組織の中においては相当額現況において税外負担を背負っておるということは言を待たない事実であります。その事実を十分御承知の上でそのような答弁をされたものか、そうでなくして、現在は決して税外負担をかけていないのだという御解釈で御答弁されたのか、その真意のほどを再度お尋ねするわけでございます。

御参考に申し上げますと、中部東小学校のPTAにおきましては、本年度の予算総額は四十八万六千九百九十九円で、そのうちで私どもの考えます税外負担とみなされる額が三十七万五千円に当たっていると考えます。これを南のほう

に目を転じて内部小学校の場合には二十九万八千八百十一円の予算総額でありまして、この中味として二十三万三千三百円が税外負担であるというふうに解釈されるわけでありまして、平均いたしますと中部東小学校の比率は七五％に当り、内部小学校の場合には七六・六％に当る比率がここから割り出されるわけでありまして、また中学校部面におきましては、中部中学校が、総額八十万五千二百二十一円というのに対して六十七万八千円が税外負担と考えられる数字になり、この比率は八三・九％になるわけでありまして、塩浜中学校の場合におきましては六十五万六千五百五十三円の予算総額に対して五十四万四千九百円というのが税外負担と解釈されます。その比率は八一・八％、こういうふうな現況でありまして、本市全域を通算いたしますと私どもの想像では一千余万円にも当るような父兄は税外負担を受けているということがいえると、こう思うわけです。こういう現状であるのにもかかわらずいまでも上回った負担をかけないというその御答弁に対して私は深い疑義を持っておりますので、あわせてこれも御回答を煩わしいと思います。

次に、高等学校対策について、きのうの教育長の御説明によると、既設の、しかも実現可能である高校に増設をすることが望ましい、しかもこれは県立高校で、市の施策の上に立ってどうすることもできにくいこういうようなお話が出たのでありますが、もっともと思われまして、ここで市長にお尋ねをしたいことは、昨年度とたしか記憶いたしますが、市長は本市に工業大学くらいを誘致したい、ということを書者会見の席上でお述べになったようであります。これほどの元気があれば、市立によらず県立によらず、三十八年度の事態に対処して、市長はこの高等学校政策を本年度あたりからどういう着想をもって進められようとするのか、そのお考えのほどを一度お伺い申し上げます。

その他、青少年の健全育成対策あるいは図書館の建設の考え方についての御答弁も願ったのでありますが、これ等はいずれまた逐条審議のときに御質問申し上げたいと思っております。

最後に、総合市有財産管理の点について、二お尋ねいたします。産院のあとの敷地の転用について、昨日総務部長からの御答弁で、諏訪幼稚園を近く移転せねばならないのできうればその諏訪幼稚園を産院あとに移したいというきわめて私どもの大きい期待をかけている御答弁の言葉が漏れたのでありますが、これを実施に踏み切るだけの御約束が願えるか願えないかこれが才一点でございます。

才二点につきましては、きのう総務部長と二宮助役から御答弁をいただきました富洲原の学校あとの敷地並びに校舎の移転問題でございます。二宮助役もお認められたように、本問題の建物は某氏の名によって保存登記がはつきりとされておるわけです。この保存登記をされたことにつきましては、三十三年に市長名をもって該建物に評価証明が発行されて、その評価証明が発行されたことに基づいて保存登記がされているわけでありまして、こういうようなことがされたために某会社はその権利書によってこれを売買して、百十四万円という価格でもって買いつけている事実、そうしてさらに三十五年の三月十四日付でもって市に対して転売を受けた人が評価証明の依頼を求めたのですが、内容証明の郵便でもってその回答を求めたにもかかわらず市は今日まで何の回答もしていない。一週間たった三月二十一日にはさらにこれの催促書が出ている事実がある。これに対して市といたしましては何の回答もしていない。どうしてこの回答をせなかつたかというところがこの問題に対しての才一点のお尋ねであります。その後南高等学校の新設に伴って仮校舎にこれを使うという問題が出て、当時議会にも市の教育委員会あたりがお諮りになり、結果においてはこの概要についての実現を見たわけでございますが、それが今回の問題のもつれの動機になっている点も、多少きのう総務部長が触れられましたが、これなどは正式に議会にお諮りになっておりますので、その是非についての見解はとにもかくにもいたしましたして、二宮助役が昨日も詳細に経過の御報告をされましたが、市のほうといたしまして三月二十八日に市長は四日市市商工会議所におきまして当面の責任者の方とお話し合いがあったところでございます。

そのときの会談の内容、さらに市はいろんな状況を考えられて本問題が当初の方針どおりに解体をさせられる自信があるかないかということをお尋ねいたしましたして御答弁を煩わします。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君）　ただいまたくさんの方でございまして、一つ一つお答え申し上げますが、もし漏れましたものがありましたらさらにお答え申し上げます。

八幡問題でございますが、八幡問題につきましては昨日浜田議員からお尋ねがございました際に丁重に申し上げます。した次でございまして、昨日の答弁のとおりでございます。

共同埠頭の問題でございますが、これにつきましては四日市市長といたしましては四日市市の港の将来を考えまして、また四日市港の性格に鑑みまして大きい船を入れるべき特色を持った港であるということに鑑みましてあの地点を非常に重要視しておるのでございます。かねがね知事さんとお話し申しておりますところによりますと、そもそも私が助役といたしまして赴任いたしましたときに大協さんへまいりましたところ、これは私どもに非常に重要な場所であるから、ぜひひとつでできるだけ広くしていただきたいと思うが、なかなか県におかれてはさようなお取りはかりがない、地元である助役さんにはぜひひとつ事業に理解のある方だからできるだけ皆さんの場所をひとつ大協石油のために割愛していただけるようにしていただきたいというお話でございました。その当時は半分の土地もいただくことが困難なようなお話し合いでございました。その後先般も申し上げましたように川崎製鉄の進出の場合は五万坪ほどは出さなきゃしようがないだろうということでございましたが、その後ようとしてあの用途についてのお話はございせんでしたが、たしか昨年ごろだったと思うんでございますが、あの北側のところの百メートルほどのものは現在施行せしめておるものから使わさしてでき上ったものを無償で県に提供することになっておるからこれは公共

用に使える。これは私にはたしか一万九千坪という御表現だったと思うんですが、それではまことに狭いですね、理想的な埠頭を作ることではできませんね、ですからもっと大きなものを四日市市としては望む。その後火力発電の進出問題が起ってまいりまして一早く会社からおいでになり、ぜひあそこを使いたい、こういうことでございまして、この前にもたしか申し上げたと思うんですが、北側の一万九千坪のところは、これはもちろんのことだが、こんどおやりになる会社の性格からいうと、全部大協さんのほうから油が入っている。そうしてそこからあなただけのほうに発電せられる性格のものが流れるのであるから、必ずしも東側はいらんというものではない、東側もひとつ解放してほしい、こういうことをいっておりました。市の御方針に無理に抵触してまでもやろうとは思っていない。市の御方針にも沿い手前どもも進出さしていただき、大協さんのお仕事にもきわめて新機軸を出し、そうして四日市市に電力を供給していただくことが望ましいという御意見でございました。それならば喜んで賛成しますが、北側もどうしてもいるんだ、こういわれるというところ、四日市市の市長としてはぜひ共同埠頭がほしいから、公共埠頭がほしいから、これはひとつ御無理だと考えていただきたい、そういう場合はひよっとすると市長としてはお断わりさしていただかなきゃならぬかもしれませんから、これはあらかじめひとつ御了承いただきたいと、こう御懇願申し上げます。

その後この問題について二、三論議をいたしまして知事さんとお話ししたのでありますが、途中におきましてまあ北側はこれは問題でない。しかし東側のほうに半分の百メートルの中をとるということについては、これはなかなかむずかしい問題だろう。が、しかしこの問題については八幡の問題が解決してからひとつしようじゃないか、こういうことで棚上げになっておりました。ところが、きのうの新聞を見ますというところ、議会で突如としてそういうことをおっしゃったのみならず、先般、自動車の中で八幡の御報告に行くときにも少しくそういう御意見が出ましたので

市長といたしましては北側までなくしてしまふ、東側をなくせられる場合は、私はななめの埠頭をこしらえてそれを補ってほしいと思うが、北側もなくしてしまうというようなお話は、こいつはどうも市長としてはあくまでもこれは御賛同を申し上げることはできない、権限でおやりになるのなら仕方がないが、地元としての市長としてはそれは不承知である、こう申し上げておきました。ところがきのうの県会においていっておられますので、昨日の記者会見のときにこれはどうも私としては非常に残念しごくに存ずる、地元の市長が長い間こういうことを思っておる。しかもその見解が非常に違うのであります。北のほうに新しい埠頭をこしらえてそこに作ってやればいいじゃないか、こういう御意見らしいかのようにも承わっておりますがこんど北のほうに四日市市ほどの港を作ろうと思ひますと、これは大へんな時間と困難が伴うし金もかかる、大きい船を入れさせるといふ性格からいふ四日市市の港としてはあそこ以外にない、こう私は考えておりますので、現在の共同埠頭というものもこれはやや小型船の埠頭で足りるが、私がいまお願いしようとしておるものは、大型の船を停船するに足る、あるいはそれに近い場所として用いるに足るといふ確信を持っておりますし、またたいま私が指摘しておるところが将来、四日市市のだ真中になると思ひますので、市長といたしましては四日市市の将来をおもんばかり、四日市市の港の性格を考慮いたしまして、私はあくまでも四日市市のためにお願いしたいという信念を持っております。しかしながら権限でおやりになるという事になれば何をかいわんやであります。

道路政策について急に態度が変わったが、これはどうかという御質問のように拝承いたしましたのですが、昨年、一昨年の間におきましては、御承知のとおり風水害のあとを受けまして、市の財政の面につきましてもはたしてどうかという少し懸念がございましたので、私は道路問題によう踏み切りませんでしたのでございますが、ようやくその方面の憂いもなくなりましたので、こんどはひとつ道路政策に踏み切っていく番が来たのであらう、こう考えましたので、できる限り短かい時間の年度計画内において相当まとまった道路改善を踏み行いたい、こういうふうに思ひ出してまいりました次才でございます。

それからいま学校の問題が出ましたがその中で大学でさえもやろうと思ひているのだからなんでもやれるのじゃないかというような御意味のようなふうに拝承いたしましたのですが、御承知のとおり非常に日本の様子というものが変わってき、特に日本の産業情勢というものが変わってまいりますので、四日市、桑名、鈴鹿というようなものを一連の大きな産業区域と見なしまして、そこに理工科大学というものを一つ実現せしめたいというのが市長の願ひであります。従ひましてこれはいずれも三市ともに協力してやりたいなということを考えておる理想案でございます。理想案をいまから申し上げて皆様方の御賛同を得、輿論を喚起いたしましたので、そうして三つの力を合せ、将来りっぱなものをこしらえたい、こういうことでございます。

それから、ただいま会議所の問題が出ました。会議所で某所の方とお目にかかつてどういふ話をしたか、わざわざその専務が社員一人つれてお出でになりました。市長にあそこをひとつ譲ってほしい、というお話でございました。これはかねがね申し上げてあるとおりそうしてさしあげたいと思ひても議決されておる事項である。従つてどうもこれはひとつ立ち退いていただきたい、そういうことにお取りはからい願うのが非常に円満なことだと考えるから、ぜひあなたのようなごりっぱな会社の方としてはそういう態度をとっていただきたい、こういうことを私としましては申し上げましたが、そのときには応諾のお色はなくてお立ち帰りになったという次才でございます。

それから、もう一つちよへといふ漏らしましたのですが、旧商業学校の敷地の問題でございます。これはこんどの高商の新しい地所を作られる同窓会の幹部の方々が、これはわれわれが県からいただくことになっておる。そうしてこれを売却して新しい敷地をこしらえるのであるが、もう金がなくなつて非常に困つておるのだし、県に金にかえて

くれないかといってもなかなかそうはしてくれない、だからなんとか市のほうで買い上げてくれないかというお話でございましたが、いまずぐにこれを市で買い上げるといふわけにはいかないが、しかし私はふつと考えて、こんど火力発電がお出でになるということになるが、いろいろの意味において必要があるだろうと思うから、あそこなら買うかもしれない、御交渉になってみたらどうでしょうかということをお願いした。それから会社へも商高の方々が非常に心配して、あれを早く換金したいといっているが、お話をすつたらいかがですか、こういうように申し上げただけでございます。従いまして、その中に道路をつくらんならぬ、必要なものをせんならぬということがありますれば、これは、そういうもんで市としてやらなければならぬことはやっていると申すので、ちよつと私の承りましたところによりますと、県からあれをもらってある、だから県のほうで金にかえて早くこの整地をやってくれといつてもやってくれないから処分するのだ、だからそれを市のほうで買ってくれないかというお話でしたが、市としてはいまずぐこれを買うというわけにはいかない、こういうことならばすぐにやれると思うからお話になったらどうですか、こういうふうに申し上げた、こういうわけでございます。会社の方にもこういうお話があるから御必要ならここをお話になったらどうですかというお話も申し上げました。そのときに何にも私は市の問題についてのことにについては念は押しませんでしたし私も存じませんでした。さような次才でございます。御報告を申し上げます。まだ残っておりますことがありましたら、あとから申し上げます。

〔総務部長（林義男君）登壇〕

○総務部長（林義男君） 簡単にお答え申し上げます。

その一点は市民サービスを機構改革によってやるというが、お前の説明では本庁だけのことに既定しておるのではないか、という一点でございますが、これは非常に私の申し上げ方が、よく御存じいただいておりますものとして本庁の

状態を申し上げましたので、結局、各出張所におきましても昨日申し上げましたような考え方で、出張所の窓口事務それから出張所は市民相談室の出張所でもあるというような考え方で処理をしていきたい、こういうふうにご考えております。

それから、才二点の機構改革をする中に青少年問題のパートを考えなかったのはどうだ、こういうお尋ねと拝察いたしますので、これは御案内のように教育委員会が所管しております社会教育で担当します青少年問題は、主として正常なと申しますか、普通きわめて一般的な教育面を考えております。それから厚生省その他で所管しております、市で申し上げましたら教育委員会以外で考えておりますところで青少年問題といっておりますのは、これはいわゆる補導という名に値するような非行あるいはそれに近い傾向を持っております青少年に対する問題である。いま一つはいわゆる児童福祉法の対象になるような問題を取り扱っております、こういうことでございまして、厚生課はそのパートでございます。たまたま青少年係とかそういうものがないという御指摘だと思えますけれどもそういった問題は寄り寄りよく検討いたしましたして、機構そのものは市民の皆さんの御要求にこたえ、しかも市の行政効率あるいは行政水準を高めるために作っていくものでございますので、単なる今回の改正だけが最終的なものと、こういうふうには考えておりませんので、皆さんの御意向、あるいはわれわれの検討の結果よく処理していきたい、こういうふうに思っております。

それからいま一つ産院あとの問題、これはわれわれとしてはそう考えておりますのでございしますが、先ほど大谷議員さんの御指摘にもありましたように教育委員会の御計画それから建設部の実務事業の進行状態といったようなものと考え合せ、それに市の財政的な処理をいたしまして、私がきのうお答えいたしましたのは、あの敷地へ一応四日市幼稚園を移転して完全に運営していけるという見通しがつきましたらそこを考へておる、こういうお答えをいたし

しておりますようにそういった見通しがついてまいりましたら、三点の調整がつきまじたら実施の段階は早い、こういうふうに考えております。

〔税務課長（伊藤涼一君）登壇〕

○税務課長（伊藤涼一君）　ただいま御質問のありました元富洲原中学校の校舎に対します評価証明の請求があったと、それに市は回答していないのじゃないか、この件につきまして御説明申し上げます。

本件は御指摘のように内容証明によりまして評価証明の請求があったのでございますが、当時はあのことにつきまして問題が起っておりまして、その問題が一層紛糾するという恐れがございましたので、一時それを保留したのでございます。しかし係員からそのことにつきましての連絡がございましたので、その事情は説明はしておいたのでございます。

だいたい、以上がこれに対する経過でございます。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君）　ただいまの税務課長の御答弁に続きまして申し上げたいと思います。

どうして回答しなかったかということにつきましてただいま申し上げたのでございますが、当時の経過を見ますに当時はどちらに対立的な立場にありまして……。

○議長（山本三郎君）　暫時休憩いたします。

午前十一時八分休憩

午前十一時二十分再開

○議長（山本三郎君）　休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。二宮助役。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君）　当時としましてはきわめて両者対立的でありまして、市側はあくまでも当初予定したとおり建物をとりこわすという方針でありますし、相手方は健全な建物として買い受けたという立場を固持して譲らないという状況でありまして、従いましてそれらのもとでどうい回答ができなかったということは容易に察せられるのであります。さらにまた相手方の評価証明の請求が登記にあることは容易に察することができますので、先に保存登記におきましてこりておりますので、これには応じられぬということは明白であります。従いまして回答をしないということとは、さような請求に対しましては与えられないという不作為の意思表示であつたわけでありまして、なおまたかようなことがありまして、引き続きいて再三撤去を求めておりますがこの撤去してくれという要求がすなわち回答にかわるべきものでありまして保存登記をこたえないという無言の回答であつたという事がいえるのであります。次に、自信があるかという点であります。この点につきましては、かつてさような段階に達したときがあつたのであります。現在の建物、所有者がそれを手に入れました時期は三十三年の一月末であります、その後三棟が徐々に減りまして二棟になり、さらに一棟にすでになろうとした時期がありまして、三十四年三月七日の往復の文書の中には日ならずして最後の一棟を撤去する、こういう回答がなされております。その時期におきましては全部的に問題が解決するような自信があつたわけでありまして、しかしながらその後の経緯が意に反しまして複雑難解になりました、今日におきましては容易に自信の有無を議することができないような状況であります。しかし私はあくまでこれは解決すべきものでありまして、それに対しましては全力を尽したい、解決することによって市政におけるかような好ましかからざる事案を撤去するということをひとつ精一ばいたしたい、かように考えております。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） 昨日私が説明いたしましたところで足りない点がありましたので、先の質問に対してお答えいたします。

税外負担の問題は、これは非常に父兄の皆さんに御迷惑をかけておることは大谷議員さんの仰せられたとおりでございます。私の申し上げましたのは、こんど地財法が改正になりまして、国といたしましても父兄の負担を軽減していくということで規制をしてきた、それがためにこの父兄に負担さしてはならないという禁止の条項を設けてきた。その禁止の条項の中には人件費、維持修繕については、これは父兄に負担はさしてはならないという禁止の条項でございます。それによって多少とも父兄の負担の軽減をするという国の方針並びにその裏づけを多少国がしていくという方針を打ち出されましたので、私どもといたしましてもこの趣旨にのっとりまして父兄の負担を少なくしていきたいという趣旨は持っておるのでございます。その点について少しずつでも努力していきたい、こういうふうに思っております。

〔大谷喜正君登壇〕

○大谷喜正君 最初の総合開発関係につきまして、八幡誘致の失敗に終ったことについては、昨日浜田議員に答弁をしたとおりである、こういう言葉だけであって、それをもって全市民に対する市長の反省の言葉とされるお考え方ならばやむをえないと思います。

才二番目の四商の土地のことにつきましては、少し私のお尋ねした内容と異った御答弁を煩らわしたわけでございますが私があえてこれをどうこうせよという意味でなく、当然持主も市のものでなく県の名義によって四商の同窓の方々がこの財産を持っておられる事実は私もよく承知しております。ただ質問をいたしたいということは、同じ市長

の管理のもとで、都市計画係があつた校庭の真中を道路を貫くという計画を知っているのかいなのか。おそらく市長としては知られないためにそういう不用意なことをなされたと考えるわけでございますが、御承知のようにあそこの校庭の真中へ道路がついたあかつきにおいて学校敷地がたちまち困るということは言を待たないわけです。そういう現状というものを各担当の方から市長に進言をせずして今日のような方向に進んできているという理由なのか。あるいはそれはそれでまた先のことでいいから、ともかくこの間から中部電力から要請のあった杜宅用地にこれを多少でも活用してもらうことがいいのではないかというお考え方にたたれてあつた言を出されたかということについてお尋ねしたわけであつて、こんごの学校の敷地その他家屋の移転問題等について、市が困つたという現状さえなければ、あえて私は質問を申し上げる意思は持っておりません。その点十分誤解のないように御解釈願いたいと思います。

さらにつけ加えて申し上げますならば、あの土地というものはいまでも、以前でも農地であつたわけです。この農地であつたものを四日市市商業高等学校の敷地だから売つたのである。これを一営利会社とかその他の関係方面に転売をされるということになると、地元の農地元所有者として見のがすことが非常にむずかしい問題になります。かということも補足、御説明申し上げておきます。なお私一人のみならず、本件に関しては平野議員なり早川議員も市の全般企画に対しての御心配のあまり、どうせ四商の同窓生の基金とするならば、なんとかこの活用について市が考えたかどうかという御助言もしれば昨年にあつたわけです。あわせてこの点についても御意向を煩らわすように私から再度御忠告を申し上げておきまして、何年先になつてもあの土地を失ないましたことにおいて市が反省をしないように最大の御配慮を願いたい。

その次に、才二点として青少年対策に関係した機構問題がございますが、先ほど休憩中に総務部長からずいぶん皮



肉られました私の言葉の足らなかったことを反省しておりますが、私の欲せんとするこの機構改革に及ぼすサービスと申しますのは、今日のこの四日市市に非行青少年の多いことにおいて良識ある市民の方々がずいぶん迷惑をされている事実は、市長も率直にお認めのとおりであり、昨年の議会におきましても馬嶋議員の御答弁にも私の御答弁にもその意のあることは十分承わっているわけですが、その後一年なんとなす今日になっても何の発展策も講じられていないということについては、私はきわめて遺憾に思っております。私から機構の内容についてこうあってほしい、ああありたいという意見も持っておりますが、これは別といたしまして、対策について十分にひとつ御配慮を願いたいことを希望いたします。

最後に、ただいまの富洲原の学校敷地の問題についていま二宮助役から今日までの経緯を詳細に御報告なされたわけでございますが最終的にたった一言、私が再度お尋ねしたいことは、解決することに最善の努力を尽されることはもとより当然ですが、解決の方法についてもいろいろとあるかと思いますが、原則としてあの校舎を解体をして、そうしてそのあとの敷地を購入に付すると、この原則に自信が持てるか持てないかというだけを最後にお尋ねいたします。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君）　ただいま二宮助役から御答弁申し上げましたように最善を尽してできるだけひとつ解決をはかりたい、こう思っておりますが、万一同一することができない場合はそれぞれそれに対処したい。こう考えております。なおそれが実現した場合において、あとの交渉をどうするか、これは議決せられておることでございますから当然そのコースをたどるべきであろうと思いますが、御承知のとおりその後地元におかれましてはいろいろの御要望がございます。またその当時といえますか、私が就任させていただいた後におきましてはいろいろの御要望が出て

おります。あの事件は私が就任前のことでございますので、これは議決をそのまま私は受け取っておりますのでございしますが、その後の情勢といたしましては、あそこをどうもあのままでよそへ売ってもらっては土地の発展上困るからできればひとつあそこを発展街にしてほしい、その後あそこはひとつぜひ地方のいろいろ道路が狭くてまことに困っております。特にこの名四国道ができるということ、一号国道と名四国道との間の縦の線がほとんど一本もろくな道がない、小さな自動車くらいしか通れないということだから、どうしても道路をよくしていただかなければならない。そうすると問題が起るのはかえ地が起ってくる。だからできるだけ市長はそういうものを売らないで、何とかして保留しておいて、そういうときのものに供与していただきたいというような地元から御希望が出ておる。また最近になりましたらぜひあそこへひとつプールを作ってくれ、もうこの調子でいけば富田、富洲原に泳ぐところは一つもない。ぜひひとつあそこにもプールを作ってほしい、こういうような要望が次から次へ起っておるような次才でございますが、厳然たる御決議がございますので、この点につきましては重ねて議会の御意向を承わって善処させていただいたかどうかと、こう考えておるような次才でございます。

○大谷喜正君　簡単ですから議席から。

前議会にいまの校舎をこわしてそのあとの土地を購入するということが議決されておりますので、こわしてからのちの転用についてはこれは地元の方の御要請等があることをとやかく私はお尋ねしておるのでありませんが、こわしてからのちにあの土地の転用について責任が持てるかと、こういう質問をしておりますので、それに対する御答弁をお願いします。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君）　こわされてからのちのことをただいまお答え申したつもりなのですが、もしこわされてさら

地にいたしまして、これをどうするかということは、これはただいまのところでは議決になっておるのでございますから、そういうコースをたどるのが正当であるかと、私はこう解釈しておりますのですが、ただ、その後の状況がかくのごとく相なっておりますので、重ねて議会にお諮りをして、それをするかしないかということを御相談し上げた上でやりたい、こう申し上げておるのであります。

〔大谷喜正君登壇〕

○大谷喜正君　くどいようですが、もしか、あるいはとかいうような言葉でなく、必ずしもわしてそうしてそのうちに次の段階を考える、こういう解釈でいいわけですね。

○市長（平田佐短君）　これは、いまの考え方でいけばそういう順序をへていかなければならぬと、こう思っております。

○大谷喜正君　そうすれば、私のお尋ねしている解釈と同じような解釈で、私は以上をもって質問を打ち切ります。

○議長（山本三郎君）　次に前川議員どうぞ。登壇してください。

〔前川辰男君登壇〕

○前川辰男君　前議員と重複を避け、また市長の議案説明に沿って質問をしたいと思っておりますので、通告の順序とあるいは内容が若干異なるかもしれませんが、その点御了承をいただきたいと思っております。

まず市長の議案説明に流れておりますところのわが国経済の動向並びにそれに伴ったところの市政方針これらにつきまして質問をしたいと思いますが、全体的に見ましてもいまのわが国経済というのは新しい安保態勢のもとにおきまして池田内閣が生まれ、そうしてその中で所得の倍増というふうな、非常に好景気の上向きの姿勢で進められておるのではないかと思います。またここに流れております文面を見ましてもそれに沿った形が出ておるように思いますが

しかし私が質問しようと思ったことにつきまして、昨日商工課長のほうから事実をもってお示し願ったので、その点を十分御認識をいただきたいと思うんですが、これらの態勢が日本のために非常にいい傾向になるというより、むしろもうすでにその状態はある方面においては設備投資の過剰気味ということがいわれ、今年の後半期の経済はどうだろうというふうな非常に不安な面も見られ、また早くも貿易の自由化それからアメリカのドル防衛こういうようなものが作用しようとしてきております。手持ち外貨が二十億ドルあるというものの、これらは非常に産業基盤の脆弱な上に立てられたところのドルであって、決していまの経済が上向きの情勢で進められるというふうなことは、私どもとしては手ばなしでいられないのではないかと思います。すなわち四日市市におきましても非常に産業基盤の弱いところの万古産業においてはもう昨年それから今年にかけてはどうも輸出がうまくいかない。幸いにしまして国内の景気でもってこれを転換させることができたので、現在、表面的には出ておらないにしても、やはりそういうふうなことが事実として現われておるということを商工課の担当の方からいわれておったように思いますので、こういう見通しに立った物の考え方、または昨日税務部長のほうからも税制審議会等の方向につきまして説明がありましたように、工場誘致をすれば自治体は非常に税金が入ってきて、そうしてまあ財政が豊かになり市民に大きなプラスになっていくのだ、こういう方式はすでに考えなければならぬ段階に立っておるのではないかと思います。すなわち市民税におきましては課税方式が考えられようとしており、しかもこれが市民の大衆課税に移行する形になり、また固定資産税等におきましては非常に今年の価格の値上り等によって、土地につきましては評価を上げる、その反対に償却資産につきましてはその年度の引き下げ等が考えられまして、つまり大きな償却資産を持っておるところでは非常に評価額が安くなるというような状況も出てきておるように思うわけです。このような経済事情並びに税制方針等をにらみ合せてみますと、必ずしも手ばなしの、工業都市となれば市民が豊かになるということではないという見通しを

持って、着実にこんこの方針を立ててもらわなければならないのではないかと思うんです。

それから、このような考え方で方針が貫かれておりますので、どうしても産業関係に重点が置かれていく。たとえばこの五つの柱が立てられて、市民の生活、理想都市としての目が向けられたということで大へんけっこうなことなんです。が、実際にこれらの内容を分析してみますというと、今年の道路計画一つを取り上げてみても、市民にとって道路というのは非常に大切なものである。しかしその中で内容を分析してみますというと、どうもやはり産業道路のほうに重点が置かれてきたのではないかと、こういうふうに見られるわけなんです。この点につきましてこんこの方向を十分お考えいただき、市民の福祉を増進する方向にもっていったきたい。ですから、この点でひとつ、ただ例としてお答え願いたいことは、その産業道路の中の大治田塩浜線、子酉八王子線というのが出ておりますが、子酉八王子線というのは東のほうから着工するのか、つまり産業道路として着工していくのか。あるいは四郷から、多くの市民が現在室山から八王子、東日野にかけて非常に狭い道路で迷惑をしております。また将来あそこに団地を作って開発しよう、こういう問題を目の前に控えながら、さらにあそこがさくそうするということは目に見えておるですから、西のほうから市民の足としてこれにかかるのか、この方向を一つお答えいただきたいと思います。

それから北部開発の問題につきましてですが、昨日の浜田議員の質問に答えて、市長は非常に具体的に八幡の問題はまことにすまないと思っておる、こういう謙きよなお答えがあったので、大へんけっこうだと思っております。ただもっと早くこういう形で対処していただきたかったと思います。

それからこんごまあそのような考え方でこの開発を進めるとするのならば、ここでわれわれは前の全員協議会で浜田議員がいわれたいわゆる自己批判というものが必要ではないかと思えます。具体的に申し上げますというと、大谷議員もいわれましたが、まず私たちが物を進める場合に、理想とか空想等で進めるということは、まあこの科学万能の現

在におきましても空論になる恐れがあるわけです。一年間八幡のために非常に大きく市政がそちらのほうに向けられておった。向けるのにはその確固たる基礎が必要である。それでまちこんこの進め方を確立する上におきまして、少なくともこの一年間の評価というものをあらゆる角度からやらなければならぬ。それにはまずこの一番大きな原因でありました地耐力の問題、これに対して八幡は非常に慎重に精密に調査をやったということを、市長から報告を受けておりますが、しかしこの資料というものはまだ私どもは見えておらないわけです。少なくともこんご進めるのならこれらの資料を参考にしていくということが私たちとしては必要ではないかと思えますので、この資料を八幡から取り寄せて、そうしてこんこの参考資料とすることが一つ、それから山口議員が前に申されたところの八幡との念書といいますが、途中で取りかわされたところの資料、私はここでこれがいいとか悪いとかは申し上げません。と申しますのは、私どもの手元にはそういうものがないわけです。物を判断する資料というものがありません。ですから、これらの資料、それから先日八幡から正式に文書がまいりまして市長から発表されたわけですが、これらもやはりプリントをして、私どもの審議の資料にしたい、少なくともこういうふうな三つのものが示されなければならぬのではないかと、こう考えておりますので、これにつきまして御回答をいただきたいわけです。

それから、まあ質問は重ねて申し上げますが、前に申された方々の意見と同じであり、またそのような意見をたくさん持っておるということをお十分お考えいただきたい。すなわち八幡の問題につきましては、漁業補償が市長の努力によりましてああいう形で解決を見た、これは市長の払われた努力に敬意を表するわけですが、その間に払ったところの有形無形の力といえますか市の行政、これがそちらのほうに非常に大きいウェイトがかけられておった。そのために商業あるいは工業その他一般市民が持っておった精神的なもののその他の問題に對しまして精神的な責任があるのではないかと思われましますので、浜田議員に対しての御回答のように進めていただきたい。

それから次に、合理化の問題に對しましては大谷議員が質問されましたので重複を避けたいのですが、どうもその答え方が私にはまだ満足しないわけです。すなわち具体的に申し上げますというと、まあ例として総務部長は市民課のサービスの現状をいわれました。そうしてまた出張所がその延長である、こういわれたように思われますが、現に出張所の人員というものは減らされておるわけです。なるほど市役所へ来ればカウンターが低くされ、それからまた花も活けられ、大へん市民に對する応待は親切にしておられますが、出張所におきましては国民年金あるいは国民健康保険というものの事務、具体的なむずかしい複雑な事務ではありませんが、受付の事務は現にあるわけです。ところがその受付の事務が、市民の質問にこたえていろいろやらなければならぬものが事務としてふえておる、人員は減らされて事務がふえておる、このような点で市民サービスが満足にできるかどうかということとはどなたが考えてもお分りになると思います。そういう矛盾に對してお答えが出ておらないように思いますので、そういう点に對して重ねて質問するわけです。

それから、人員を減らすということはいっておりませんが、現実の問題としては国民健康保険並びに国民年金等の業務が新しくふえておりまして、それを現員でやっておるということは、事実上まあ減っておるのではないか。現に国民健康保険課におきましては連日連夜、文字どおりそのような状態で四月一日を目途に作業を進めております。明らかに職員の労働強化によって実態を合せていこうというふうな傾向が心配されるわけです。国民健康保険につきましては、かつて昨年のかかなり早い議会におきまして同僚議員からこういうような態勢でいいのかということが質問され、その準備に万全を期するということがいわれましたが、事実上は非常に最近におきまして、この職員が充足された、そして残業あるいは日曜出勤という形でつじつまが合されようとしておるわけです。はたして才四の柱としてはんとうに考えておるのかどうか私には疑問があるわけですが、その辺の遅れてきた原因に對してお答えをいただきたい。

たいと思います。

それから、さらに才四の柱の国民年金あるいは国民健康保険に對する方針として書かれておりますこれらは、いずれもかなり問題を含んだ形での実施になるわけです。現にこの議会でも十一月の臨時議会でもって教育民生委員会に所屬しておられます議員から発議がありまして、その問題点を政府のほうに意見書として出す、こういうことがきめられておるわけですが、いまこの説明書の文面を見ますというただ実施を促進するということがいわれておりますが、はたして市民の側に立ってこれを有効に促進するのだかどうかという点の説明がないように思われますので、これをお伺いしたい。つまり地方自治につきましては行政自治と住民自治、こうまあ二つに分けられるのではないかと思います。行政自治と申しますのは上のほうからといいますか、国、県のほうからいろいろ指示してくる、それを住民に周知徹底させ施行していくという形と、それから住民のほうから出た問題を、それを市政に反映をさしていく、この二つの考え方があると思うんですが、どうも後者のほうの考え方が足らぬのではないかと思われまう。これは市の広報を見ましてもはっきりすること、いわゆる住民の代表であるところの議会が議決した問題が、この広報に一つも現われておらないということは、議会を軽視していることではないかと思うんです。国民年金の実施につきましてはいろいろな角度から促進を広報に出しておりますが、議会が議決したことは一ページも一行も書かれておらないということはどういうことであるか、これに對しての御回答をいただきたい。

それから教育予算に對しては大谷議員の質問と重複しますので、その点は避けますが、教育予算全体を見まして大へん残念に思うわけです。何か予算というものを最初区分して、この中でやれというような形で教育委員会のほうでそれをその範囲内で組まれたのか、教育委員会としていろいろ審議をされて、そうして一つの方針を持って、そうして市のほうに予算要求をされたのか、その点につきまして教育委員会のお答えをいただきたいと思ひます。

それから次に、社会福祉関係につきまして、この才四の柱の中に入っておる問題ですが、いままでいろいろの施設が作られてきました。これは市民の要望によりまして作られたわけですが、その作ったときの理想とかあるいは方針とかいうものが、運営していく中でそれらの問題がかなりゆがめられてきているのではないかという気がするわけです。一例を申し上げますと、産院の問題でござりますが、産院につきましては市民の助産施設としての国の補助も取りりっぱなものを作られたわけですが、現在病院ができるということで吸収される。幸いそういう時期がありましたのでよかったです。その間の運営につきまして考えてみますというところ、決して積極的に運営されておったのではないんじゃないか、こういう気がするわけです。かつて前院長の時代に、これは病院の院長が兼任をしておったわけですが、いまの産院とそれから町にありますところの私立の助産所、これを比較してみますと、各助産所におきましては非常に家庭的な状況でサービスをよくしておる。ところが市立産院におきましてはオープン方式といいますが、妊婦が一つの大きな部屋の中で処理されておる。それに対してかつて市民から意見が出ておったわけです。これは理事者のほうがよく御承知だと思ふんですが、それらに対してもっと考える余地はないのかということなんです。まあ専門家の立場からいわせますというところ、いまの病室というのは解放式というやり方、大部屋でやるのがいいんだという、こういういわゆる技術家の意見だったように思ふんです。しかし事実として市民のほうではそれでは困るんだということで産院の利用者が少ない、そのまま放っておかれる、そうすると理論と実際との差が出たままに運営をされてきておった。だから大して市民にとってはこれがなくなっても痛痒を感じないという形になってきておる。このような運営の仕方ではせっかく大きな理想、方針を持って作っても死んじまうのではないか、あるいは半分も利用されないのではないかと思ふます。いわんや他の施設に対しても十分創立当時の考えを思い起してさらに一新をしていただきたい。

保育所におきましても、公立の保育所並びに私立の保育所との間に格差がある。この格差につきましては、こんど若干の予算が見られておるようですが、さらにこの問題を十分に考えて、市民にとっては保育園に行こうが幼稚園に行こうが、あるいは公立に行こうが私立に行こうが同じ状態で保育されなければ大へん迷惑するわけです。そういう点につきまして、公立だからいいんだ、あるいは幼稚園だからこうなんだということに、保育園と幼稚園との格差の問題、また公立と私立の格差の問題、その辺についてそれぞれ教育行政、福祉行政の立場から十分に考慮し、お互いに意見交流等を行いながら市民サービスにつとめていただきたいと思ひます。

それから、最後に質問をしたいのですが、私が昨年の議会でもって質問した問題ですが、市長はどのようににお答え願ったわけですか。「公園問題については調査会あるいは審議会を作ったりっぱなものを作っていくたい」、こういうお答えをいただいた。ところがこんどの議案の中にはそのような状態が出ておるところではなく、むしろ予算面におきましては昨年の百八十九万八千七百円から百四万五千八百四十円に減っておる、これは寄付があったからなかったかということに、これでは昨年の答えがここに出ていないのではないかと思ひます。まあ衛生課長のほうから二万坪くらいの霊園を考えたいということ、一つの問題が出たようですが、これも大へんけっこうだと思ひます。しかしもっと大きな構想それから昨年のお答えというものはやっぱり市民に対する公約であるわけですから、どのように実現するかということをお答えいただきたい。

これと同じ内容ですが、一つはそういうふうにお答えがないというところ、どうも南部開発の問題が、北部開発をやるので南部開発も考えないことにはどうもバランスがとれないという一つのつけ足しのような感じもするわけです。現に泊山一体の問題ですが、大きな会社等は社宅用地としてそれぞれ適当なところを買っておるようですがこれでは市としてこの浸触された状態の中ではたして総合的な計画が立てられるのかどうか。どうやらこれはつけ足しでは

ないかというふうな詮索をしたくなるような状態になるわけです。それからまた公園、緑地等を充実することなどは、先ほど大谷議員がいわれた青少年問題においても同じ方向であるわけですから、さらに一層の努力を願いたいと思いますし、またこれに付随しまして外灯の市費負担の問題ですが、これは五十万円組まれている。しかしこれも五十万円で一体どれだけの仕事ができるのだということは、皆さん同じ意見を持たれるのではないか。それで私はこの財源として考えるのですが、いまの電気・ガス税、これは非常に悪税であるわけです。すなわち一般家庭の生活必需品であるところの家庭用電気すらもやはり一〇％の徴税をしておる。もしこれが市税であればわれわれをもってこれの軽減ができるわけですが、残念ながら地方税法で定められておるのでできない。しかし税制調査会のほうでもさすがにこれには気がとがめたのか、これの減税をしようという傾向にあるらしいのですが、まだその内容は分りませんが、いま四日市市におきましては電気・ガス税の予算を一億七千七百八十二万円の中で約九一％くらいが電気税だそうなんです。それからさらにその中の一二％すなわち千六百万円ばかりが各家庭の電気にかかってくる税金なんです。ですから千六百万円もあるのですから、せめてこの悪税の罪ほろぼしにこれらを思い切って外灯のほうに回し、明るい町四日市、犯罪のない町四日市にするような考えはないのかどうか、その点をこの公園緑地の問題とあわせてお答えいただきたいと思います。以上。

〔人事課長（天野正春君）登壇〕

○人事課長（天野正春君） 前川さんの御質問に対しましてお答えいたします。

この件につきましては、先ほど大谷議員さんにも関連がございますので、機構改革のあり方としてこんご進めていく方法から御説明申し上げます。

このたびの行政機構改革は進展する市勢に即応して、あわせて市行政の水準を向上するために昨年六月から約五ヵ月にわたりまして行政審議会におきましてそういう事態のもとに行政の実体を各方面から御検討願ひまして、才一段階といたしまして昨年十二月に開発局の設置あるいは新設の業務といたしまして国民年金保険あるいは窓口事務の統一といたしまして市民課の設置を考えて実施いたしましたのでございます。現段階といたしましては四月一日を期しまして下水道課あるいは清掃課の独立あるいは失対事務所の独立とあわせて出張所の機構を改革していきたいと考えておる次第でございます。

現在、出張所の職員のことにつきましていろいろ御指摘をいただきましたわけですが、現在出張所におります職員の配置数から申し上げますと、本日現在におきまして所長以下二百十九名の職員を配置しております。これを四月一日に実施いたします清掃課、下水道課、失対事務所、出張所の機構改革によりまして、現在残る人員といたしましては百六十九名程度にいたしていきたいと思っております。これを才二階段といたしまして行政機構を押し進めていきたいと思っておりますのでございます。才三階段といたしましては、昨日税務部長からも御報告申し上げますたごとく、税務事務が本年度は基準年度に当っております関係上、七月までにはだいたいの事務量ができ上りますので、七月を期しまして才三階段の目標といたしまして税務職員を本庁に集中いたしましたして、行政機構のあり方の最終的な考え方にもっていききたい。ただ、先ほど前川さんが申されましたごとく、国民健康保険なんかにおきまして超過勤務というふうな問題が出てまいったのでございますが、私といたしましては超過勤務ということにつきましては健康管理の上からも是正していきたいという考えを持っておりますので、この点はよく注意して的確なる人員の配置を考えていきたいと思っております。四月一日に行おうといたします配置の考え方から申しますと、だいたいい二十才の職員におきましては約同一職場に三年以上、三十才以上におきましては同一職場に五年以上勤務しておる職員を対象といたしまして配置を適正に考えていきたいと思っております。

それから私の考え方といたしましては、職員の犠牲において行政水準を上げていこうというような考え方は持っておりませんから、この点につきましてはこんごの配置につきまして適正なる男女の比率あるいは年令構成を考えまして適正な配置をいたしまして市民のサービスに万全を期していきたいと考えております。

〔教育委員長（杉浦西太郎君）登壇〕

○教育委員長（杉浦西太郎） お尋ねの教育費の問題についてお答えいたします。

教育予算につきましては当委員会におきまして計画を立てまして、市のほうへ予算措置を要求いたしました。市のほうにおきましてはその内容について個々に御検討の結果決定をみた、こういうことになっております。簡単にお答え申し上げます。

〔開発局次長（鬼頭鉄郎君）登壇〕

○開発局次長（鬼頭鉄郎君） 公園緑地政策につきまして御説明申し上げます。

北部開発の面におきましては八幡誘致が新段階を迎えておりますので、これはさておきまして、南部開発の面におきまして市長より開発局の仕事といたしまして特命をいただいておりますのでございますが、御存じのように泊山百万坪の土地の開発でございますが、その点につきまして大蔵省の管財局、これは津、名古屋等にもまいるいろいろな調査いたしました。この問題につきましては過去にいろいろな経過がございますので、文書あるいはその他によりまして、一応、経過の調査もいたしました。なおこの百万坪を全部一時貸与あるいは払い下げという格好で市のある程度の自由に相なるわけでございますが、その方法につきましても目下検討中でございます。なお、一時貸与にいたしましては払い下げにいたしても国のほうにおきましてはある程度市の財政的に可能な範囲の施設、計画を作れというようなこともございますので、その前に一応百万坪に対します総体的な計画が出ておりますが、先ほど申

し上げましたように十年計画とかあるいは十五年計画でできる施設の計画案を出せというようにございまずので、目下図案の作成をいたしておるわけでございます。なお、いま仰せのとおりいまの泊山のうちには昭和二十六、七年の間に開拓農地として農民に払い下げたところがございますが、これが期間切れになりまして、ただいま、先ほど申されましたように各大工場の杜宅用地として売却されておるような現状でございますので、この点取り急ぎましてひとつ何とか善処いたしたいと思っております。なお、この問題につきましては山の、過去に持ってみえます地主の方の期待権、山林の立木を買われました方々の期待権とかいうような複雑な問題もございまずので、これもあわせてすみやかに善処いたしまして、まずこの泊山の南部の公園緑地をひとつ実施いたしたいと存じております。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） 御質問の子西八王子線の着工の方向でございますが、御承知のように子西八王子線は塩浜の県道から西の方向にしまして南高等学校の北側を通り、小林町の方向に向っておる計画道路でございますが、この計画道路につきましてはいままで都市計画法によって計画決定しております市員は八メートルでございますが、これは当市としましてはいまのような塩浜の発展が予測されなかつたのでその程度の市員でございましたが、その後石油コンビナートの進出に伴いまして建設省の計画局といろいろ打ち合せしましたところ、国道まで十八メートル拡巾いたしましたして、国道から西のほうを十六メートルというふうに拡張された計画にすべきであるという国からの御指示もありまして、そのように計画を進めさせてもらっております。それにつきまして、国の補助の対象といたしましては塩浜のほうから逐次名四国道の予定線、国道一号线の方向に向って着工するような計画の補助金でございますので、その線に沿って仕事を進めたいと思っております。

外灯の問題でございますが、いままでの建設部で扱っておりまする街路関連の予算といたしましては、主としてこ

の商店街を除きました個所で特に暗い地点の要所々に設けました外灯の修繕費並びに電気料金でございまして、これにつきましては現在正確な数字は私存じませんが二百七、八十灯から三百灯足らずの対象でございまして。その個所の主なるものとしたしましては橋梁の部分の外灯、それから鉄道と交差しましたような付近のガード下の外灯とか、あるいは特に幹線から入り込みました住宅の団地に行きます間の要所々々につけたものでございまして、市内の目貫の通りの外灯はほとんど商店街関係でお願いしておる状況でございまして。この外灯につきまます考え方といたしましては、御質問のように明るい町を作るといふ意味から、できるだけこの灯数をふやしまして明るい町を作りたいという御趣旨にはわれわれとしてもごもっともでございますが、この商店街につきましてはいろいろ広告との関係もございまして、相当郊外に比べまして現在では明るい状況でございまして、市街の外の方向に向って集中しておるという現状でございます。年々二、三十灯ずつの増加を考えておりますが、いろいろ地区の御要望につきましてはそれ以上の御要望がございまして、こんごはできるだけ常設も考えさせていただきたいと思っております。本年度につきましては約二十灯くらいの増設を考えております。

○議長（山本三郎君） 暫時休憩いたします

午後零時二十八分休憩

午後一時三十五分開議

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を開きます。  
この際皆さん方に御了承願います。参与の福祉事務所長が病氣のため欠席いたしておりますので、その点御了承をお願いいたします。

〔民生部長（中山英郎君）登壇〕

○民生部長（中山英郎君） 午前中の御質問のうちで福祉関係の関連問題につきましてお答えを申し上げます。

まず国民健康保険の実際の事務が遅れており、それが職員のほうに現在残業なりでしわ寄せされておる、これは事実でございます。開設を間近に控えまして追いつめられた気持ちで従事しておるのは事実でございます。開設業務が四月以降当分の状態が続くと考えておりますが、なるべく早い機会に平常の状態にいくことについて留意したいと存じております。

それから才二点といたしまして、拠出国民年金制度の改正意見を十一月十一日の教育民生委員会の方々が意見書として発議才六号で議決されておることにつきまして広報に掲載されなかったのは議会軽視じゃないか、こういう御意見でございますが、私、休憩中に調べましたところ市の広報には掲載されております、これは事実でございます。ただ庁内広報には十一月の十四日付で四項目を挙げて、こういう意見書が出されたということは掲載されております。議会広報には一応、項目だけ載っておるといふのが事実でございます。こういう意見というものは、私の考え方からすれば、当時、原稿の締切なりあるいはスペースという問題があったらうかと思いますが、将来については、こういう発議的な意見はやはり公けに公布される広報に無理をしても掲載すべきが妥当である、こういう所信を持っておることを開陳いたしておきます。それから、ただまあ全部を網羅するということは無理な場合もあるので、載せなかったから直ちに軽視ということとはわれわれ考えておりませんので、そういう場合もありうるということとを御了承願いたいと思っております。心がけといたしましてはなるべく広い範囲にする広報あたりに載せるのが妥当であるというふうに考えております。

それから福祉諸施設の格差をなくせ、という御意見でございますが、そのとおりでございまして、本年度初めて、



一部分でございますが、市立保育所の運営費の一部助成ということを予算化しておりますので、そういうことの一步前進という考えを持っておりますから、将来も合理的な、格差をなくするというように努力を続けたいと思います。ただお話になりました中に、保育所の問題と幼稚園とどこでも同じにすることがちよつと触れられましたが、その点につきましては、保育所は保育所本来の目的があり、幼稚園は幼児教育というように性格が違いますので、これは一諸にしてはまずいんじゃないかという考えを持っております。

それから、次の点は産院の廃止といったことに関連いたしました設置の目的と運営の欠点、それから設置目的を忘れずに処理せよという御意見がございましたが、この点につきましては設置目的を忘却することはいずれもございませんので、こういう施設にはいずれも設置条例ではっきり明文化し条例化されておるのでございまして、われわれとしては忘れるわけではございません、ただ運営の功効あるいは拙劣ということはあると思うんですが、それは時代とともにいろいろ変遷があると思いますので、運営の実際の面というものは時代とともに実情に即するように運営し、されなければならぬという考えでおります。

以上、非常に簡単でございますが、御意見のありました点、御指摘された点について、所管部長として御答弁申し上げます。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 午前中、前川議員からの御質問のうちの開発関係についてのお答えを私から一部申し上げます。

こんご開発の進め方については、単なる空想とか理想のみに走らずすべて科学的基礎に立ってやっていくというお話でございまして、もとよりこもともであり、われわれも常にそういう態度をもって進めるということは、こん

ごにおいても必らずこの御趣旨によって進めたいと、こう思っております。

それから八幡関係の漁業補償につきまして御質問がございましたうち、最近送られてきた、二月三日にいただいた念書についてはすでに市長から皆様に十分説明がされているものでございまして、御了解をえていると思っておりますが、これについて、なおプリント等によって皆様のところへよこせということならば、これはプリントにして差し上げていいんじゃないかと、こう思っております。

それから、先般議員から市長に対して御要望がありました以前の八幡との覚え書につきましては、そのとき市長から御説明されたとおり公開をするような性質のものでない、御必要があれば市長のところでいつでもお見せするということと御了解願ったと思っておりますので、そのように御了解願いたいと思います。

なお、八幡の関係が自然的条件、地耐力の点から進出が困難になったということはもう御承知のとおりでございますが、このことについて、八幡のほうで調査されました資料を最近のうちに県及び市に説明されるということになっておりますので、これは私どもがこれについての説明を聞き、さらに資料をもらい次才皆様に十分御説明申し上げ、ごらんに入れ、見ていただきたいと、こう思っておりますが、何分四日市市としてあまり名誉とはいえないようなこととでございますので、そうこれを公開してもらおうということはどうかと思いますが、われわれ所管課のほうで保持いたしまして、必要の都度いつでもごらんに入れ、将来また参考の基礎データといたしたいと思っております。

それから経済推移についていろいろお話がございました。最近、非常に我國の産業生産というものは世界のいかなるところに比べましても驚かれるような指数をもってどんどん伸びておる、計画経済で進んでいる国でさえも不思議に思うほどの日本の伸び方でございますが、これについては、最近の日本人が相変らずりっぱな民族であるということの立証であり、研究、努力の結晶であると思います。しかし野放しにこれをわれわれ喜んでもおれない。すでに米

国はドル防衛をやった、さらにわが国は世界に向って貿易の自由化を宣言した。次才にその計画に基づいて自由化もしていかなきゃならぬ、いままでのような温室におるわけにいかないから風当りも強くなってくるだろう、苦しいぞということはお説のとおりでございます。しかしドル防衛と当面四日市の万古との関係について、急に現在そういう関係から万古の輸出が悪いんじゃないか。たしかにそういう関係はあるでしょう。元来アメリカという国は国が一つの方針を立て国民に訴えますという、国民はすぐ国に協力してくれるという態勢をとる国でございます、非常にその点われわれ尊敬しているのです。そういった影響が当面は現われているのだと思いますが、日本からのアメリカに対する輸出について、ドル防衛という建前からいって以上これを制限するという考えは毛頭持っていないとアメリカも宣言しているのです。これは一時的な現象で、努力によってこれをいまや打破していかなければならぬと、こう思っております。

四日市の産業道路について、そういった関係から申しますと、やはり四日市のような町では工業も発展してもらわなきゃならぬ、農村も発展してもらわなきゃならぬ、同時に民生も発展してもらわなきゃならぬ、調和的な発展を考えまして予算を組んでいるのでございまして、お説のように手放して楽観論の上に立った予算ではございません。予算当局からこれについて強い要望もございました。健全財政という建前で道路予算についても計画を立てさせていただきますというのを御了承願いたいと思います。

○議長（山本三郎君） この際理事者に申し上げます。

理事者の中には答弁の声の小さい方がありますため後方まで聞こえませんので、なるべく大きい声で御答弁をお願いいたします。

〔土木課長（天野助春君）登壇〕

○土木課長（天野助春君） 公園費の減額の点でございしますが、百四万五千八百四十円の公園費が昨年より減っております。これは諏訪公園の整備の費用が減額になったのでありまして、昨年は諏訪公園付近の商店街から五十万円の寄付を願ひまして、百万円で諏訪公園の整備をしたのでございます。それが一応三十五年度で完了いたしましてある程度の整備が終了したので、その部分だけの減額になっております。

〔前川辰男君登壇〕

○前川辰男君 ただいま私の質問に対して一応の説明を受けたわけですが、これはあくまで事務的な御答弁だと思います。電灯問題並びに子酉八王子線それから公園費の問題、国保の問題等、昨年の予算に比ばましていただいたいそれを踏襲するというふうな形の御答弁ではないかと思ひます。

それで重ねて質問をするわけですが、そういう点から見まして順を追っていきますという、いま助役の御答弁によるところの調和的に発展させなければならぬということは、まことに当をえたお考えであって、私もその点には賛成をするわけですが、それならば非常に産業方面に重点が置かれている現状に対して、私の申し上げたところの問題、才一点としまして出張所職員の問題でいま人事課長から答弁をいただいたわけですが、これによりますという、二百十九名から百九名ばかりに人が減るということが出ておるわけです。そうしますという、重ねて申し上げますが、結果といたしまして仕事の内容は減っておらない、むしろふえておる。それに対して人員が減っていく、こういうことになりますという仕事は過重になってくる。その中においては任意団体の仕事というふうなもの、従来の市の仕事として認められていないような、たとえば自治会の仕事とか、観光事業に対する仕事、このようなものを切り捨ててしまうのかどうか。住民へのサービスというものはそれでいいののかどうか、その点について、この市民サービスの基本的な考え方をお答えいただきたいと思ひます。

それから教育問題につきまして、ちょっと聞きとりにくかったのですが、教育委員会としての方針でもって予算を組んだという御答弁ではないかと思われまします。とすれば、国でも税外負担の問題についてはいましめており、またいま始っております県会における教育委員会の答弁の中にも税外負担を極力抑制していきたい、こういう方針が出ておるわけですか。ところがいまの予算でもってみると、先ほど申し上げましたように昨年の踏襲というふうな、あまり意欲的な予算ではないとすれば、大谷議員の説明されたような予算外義務負担がいぜんとして解消されない。それからそれらは学校教育に限らず社会教育においても同じことがいえるのではないかと思います。ですから、あらかじめこれは教育委員会の方針を出しても、市のほうで削られるということを予想して組まれたのではないかというふうな気も回ってくるわけですが、重ねてひとつ方針をお聞かせいただきたいと思っています。

それから電灯問題でございますが、先ほどの部長の説明では二百二、三十灯ですが、二百八十から二百九十灯あるものの維持管理、それから今年は二十灯ばかりふやしてある。現在四日市市の町は四百数十町あると思います。そういう中で二百灯、三百灯というふうなもので、はたしてそれで政策といえるかどうか。政策として予算説明の中に加えられた以上、このようなことではたして満足できるものかどうか、どう考えられますか。たとえば尼ヶ崎の例でございますが、尼ヶ崎はやはり四日市市と同じような工業都市で、かつては暴力の町だといわれた都市だそうでありまします。そこでは現在市の予算が六百万円外灯に組まれ、さらに各市民がこれと同額を出して一千二百万円でもって文字どおり明るい町を建設するという非常に意欲的な形が生まれておる。まあこのようなことを考えあわせてみまして、その説明では私は満足できないので、市長のほうから、そういう方針を打ち出す考えがあるのかどうか。ここで幾らの予算をとすることは要求しませんが、とにかくまあそういう方針があるのかどうかということ、さらに予備財源ができた場合にはそれらを優先的に考えるのかどうか、こういう点お聞きしたいと思っています。

それから、子酉八王子線につきましても、東からやればこれは産業優先、西からやれば市民のいまの要求に対してこたえることになるわけですが、そういう意思はどうしても出てこないのかどうか、その点もお伺いしたいと思っています。

それから国保の問題でございますが、国保につきましては、内容はまた特別会計の議案のところでも質問をしたいと思いますが、省略いたしますが、この改善決議という議会の取り扱いをどうするかということに対しての将来の考えは拝聴しましたが、現在、実施をしようとしておるこの問題に対していろいろと問題点があるから出た要求です。この要求というものを実際のように取り上げられていくのか、あるいは取り上げられておるのかという点について重ねてお聞かせ願いたいと思います。なぜならば、国から出してきておる方針ですので、これを全部けるということはもちろんできないことです。これはだれが考えてもよく分るわけです。しかしそれをさらによくしようという議会の決議をどういうふうに反映させていくのか、さしていくのか。あるいはそれはほったらかして市民に知らさず、国の方針だけを忠実に実施するのかどうか、こういう点でございます。

それから最後に、庄司助役から回答のありました八幡の誘致に関する問題でございますが、科学的基礎の上に立って進めていきたいということで、大へんけっこうだと思ふんです。それならば、もう十分に説明したからお分りでしょうということではなしに、われわれはやはり何もかもすべて頭の中へつめ込んでしまってそれだけでやれるものではないので、いままでは、この一年間に私どもの手元に出されたところの資料というものは何一つないわけです。ですから、それをどうしろということではなしに、そういうかまき方で進めていけば、当然以前の覚え書というものもわれわれの手元に入ってしまったべきではないか。また、それが秘密を要するものならば秘密を要するで、もちろんわれわれの責任においてそれを処置するわけなんで、市民代表というものをもう少し信用していただきたい、こう考えるので

す。そういう意味において、これらの問題はすべて議会のほうには全部出していただいても考えるという態勢をとっていただきたい。

以上、質問します。

〔人事課長（天野正春君）登壇〕

○人事課長（天野正春君） 先ほど私が前川議員さんの御質問に対しまして出張所問題に対しまして答弁に言葉が足りなくて、出張所においては仕事だけにおいていて人員だけ引き上げていくというような格好になっておりますが、才三階段におきます出張所の職員の配置につきましては、現在行っております厚生、統計あるいは農林、庶務、出張所で行ないます事務を除き一応引き上げるのでありまして、七月一日に残ります仕事と申しますと、戸籍、配給、住民登録、農林関係、厚生関係の窓口事務を一応残したいと思っておりますので、職員もその仕事の量と職員数との適正化を図りました数字が七月一日には百十名前後になる予定でございます。それから外部団体あるいは商工関係の問題につきましてもこの仕事を出張所で扱かうかというようなお問いでございますが、これは一応、先月の末に出張所長会議を開きまして、一応、その運営の面につきましては総務部という連絡をとりまして市民の方々に對しまして御迷惑がからないような事務の考え方、人員の配置をする考えであります。私どもが市民サービスにおきましてどこまでサービスするかということにつきましては、私ども公務員といたしましては全体の奉仕者であるという觀念のもとに奉仕をして市民のために市政を行なっていきたい、こういうような考え方でありまして、その点は御了承願いたいと思います。

〔教育委員長（杉浦西太郎君）登壇〕

○教育委員長（杉浦西太郎君） 先ほどお答え申し上げた声が小さくなってまことに恐縮に存じます。再度御質問をい

ただきましたので、簡単にお答えしたいと思っております。

当教育委員会におきましていろいろ検討いたしました結果、計画を立てまして予算を組んで要求したわけでございますが、市の当局のほうでその各計画一々について査定を受けた結果、現在のようなことに相なっておりますわけでございます。従ってお尋ねの地財法関係の税外負担の問題につきましても、そのことを考慮に入れますして、教育委員会としての予算は組んだわけでございます。本議会に提出されておるような内容に相なったわけでございます。数字は、いま詳しいことは一々記憶しておりませんけれども、だいたい四億六千万円ほど組みまして査定を受けた結果が三億二千万円というような結果に立ち至っておりますわけでございます。昨日来また本日午前中來、浜田議員さん、あるいはまた大谷議員さんあるいは前川議員さんから教育費の問題について種々御配慮をいただいておりますに承わりますして、まことに私のほうといたしましてもそれらの問題についてそれだけ関心を持っていたいておりますことは、まことに感謝にたえないのであります。

御承知のように教育委員会と申しますのは市のほうとは別個の組織を持っておりますして、われわれはわれわれとしての立場から四日市市の教育がいかにあるべきかということを検討した結果、いろいろ施策も考え、また計画もいたしておるわけでございます。いかんせん、その裏づけとなる予算が市のほうから出なければ、いかに理想的な案を考え、また計画を立てても、この実現がむずかしいと、こういうことに相なるわけでございます。それらの点につきましてわれわれはわれわれとしての理想なり、またこんごあるべき姿ということを常に念頭において考えておりますけれども、その実現については市当局初め皆さんの御協力がなければ、とうていこれを実現することができないような状態でございます。いろいろ教育の問題につきましては、現在問題が山積いたしておるわけです。ことに勤務評定問題以来、問題が山積いたしておるわけでございます。それを一方にかかえながら、かつ現在の四日市市の現状として

十カ年計画をかかえ、しかもその壁にぶつかりながらも、その他の文化面においてもいろいろ取り組んでいかなきゃならぬところにわれわれの悩みもあるわけです。どうかさような点もひとつ御了承願ひまして一層の御協力をいただきたいと思います。お願いの方々お礼を申し上げます。

簡単でございますが、お答えいたします。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） 子酉八王子線の問題でございますが、現在、道路の問題につきましては、鉱工業と関連的に考えまして補助対象として取り上げていくという国の方針であることには間違いございません。ただ道路につきましては原則的には交通量が一番問題になるのですが、その他におきましてはやはり民生安定という問題も大きく取り上げられておるわけでございますが、この子酉八王子線につきましては、先ほども一部説明させていただきましたが、塩浜進出の四社関係の道路という点を国においても十分御承知の上、補助の対象に取り上げていただいております関係上、現在、都市計画的に仕事をいたしますのは、東の塩浜のほうから着工させていただきたいと思っております。ただ本年度の予算に計上させていただいておる中にもございますが、この路線の中間の南高等学校付近には、西日野、日永線という格好で一部工業用水のための道路拡幅もございまして、この辺を整備したいという予算を御審議願うことになっております。またずっと八王子のほうにまいますと、近鉄の住宅団地の進出が一部考えられておりますが、これがちやうどこの路線に關係しておりますので、地区の方々とも寄り寄り話しまして団地の開発を、この計画路線に合うように計画してもらってというような格好で路線を形作っていききたいと思っております。また小林団地に關連いたしました、八王子の勾配のきつい区間がございますが、この点につきましては県道でございます關係上県のほうでこんご集中的に御配慮願ひまして、三十六年度には一部直線にするような改良的な仕事をやっていただ

くように話を進めております。また、昨年から一部かかりました、舗装も近々に県において着工する段取りになっております。

〔民生部長（中山英郎君）登壇〕

○民生部長（中山英郎君） 年金の問題について再度の御質問でございますが、大まかにいって意見書に盛られておる内容を知らさぬのかという問題でございますが、意見書を要約しますと、掛金の一率化をやめて収入、所得割を加えるようにされたいというのが一項であり、才二番目の事項としては、いわゆる掛け捨てを、死亡給付金、掛け捨ての制度を改めるということが才二点でございます。それから、才三点といたしましては国民年金と他の年金との通算措置を考えよ。それから才四点といたしましては、年金の積立金の運用について自主管理の機關に運営することを法文化せよ、こういう問題であり、才五点といたしましては、委託事務費は完全国庫負担とされたい、この五つの点が見解書としてまとまった事項でございます。

結論から先に申し上げますと、才二点の掛け捨てをなくするということと国民年金との通算措置というのは、たしか先月の二十八日ごろに閣議決定をし、新聞を見ますと本日の国会において上程されておるのでございます。だからその二点は御意見の意見書にまとまったことが実現されたというのが、本日の国会に上程されて説明されておるといふ現状でございます。あとの所得だとか所得割をみるということは原案に入っていないのでございます。それから委託事務費につきましてもこれは完全国庫負担にならないといふふうな状況でございます。

それで、これらの点についてどういふふうにやったかという御質問でございますが、十二月末までは率直に申しましてPRらしいPRは、いろいろこういう問題点もございましたので、本格的なPRはやってなかったというのが実態でございます。従いまして十二月初旬における加入率は六%だったと記憶しております。以後こういう問題に意見

書も出され世論もやかましくなり、政府、厚生省自体でも考えるということが打ち出されてきて、相当具体的にこういう措置が講ぜられるということが流れてきて、それに基づきまして厚生課では一月以降一応PRに乗り出したということでございます、その乗り出し方も、一応広報面では二月の十五日ごろに、こういうふうにごんとはよくなります、というようなことは一応市で報じる措置をとっております。実際面といたしましては、厚生課は課長以下ほとんど年金係全員が各種の出張所あたしと連絡をとりまして、自治会とも連絡をとりまして、いろんな、婦人会の会合だとかあるいは自治会の役員だとかPTAの会合というふうな、種類を問わない会合を利用いたしまして、こちらから出向いていって、原案はこうでこういうふうにごんでは改正になる予定でありますということを御説明申し上げ、また過去における不満、いまいった所得割の割合の問題とか、そういった問題で意見が活発に出され、それに一々質疑応答という形で「答弁長いぞ」と呼ぶ者あり、一応納得していただく形で、先日厚生課長が申しましたようにだいたい本月末で四〇％になりうるというのが実績でございます。

こういうようなわけで、一応基準の説明の段階でそういうことを対象者の市民にしております。それで、この意見のほうの現状等はそれでございます、それから国庫負担の問題はいろんな協議会あるいは研修会といって厚生省あたしに会議がございますので、その席を利用いたしまして要請電報も国のほうへ出してあります。それで研修会といったようなときに改善要望を事務局としては陳情しとるという状況でございます。

以上、簡単でございますが、答弁いたします。

〔総務部長（林義男君）登壇〕

○総務部長（林義男君） 外灯の問題についてお答えいたします。

いま市の提案しております予算の中に外灯に関連いたしましたのは、先ほど土木課長からもお答えし、建設部長か

らもお答えしております費目と、それから追加でお願いしております商店街関係の照明灯の助成金。それから諸支出金でお願いしております五十万円の問題この三点でございますので御質問の御趣旨は、再度お尋ねいただきましたのも、それから最初の御質問でも五十万円という考え方についてはっきりしたらどうか、こういうふうにごんでは解釈してお答え申し上げます。

諸支出金の外灯維持費補助金として五十万円計上しておりますのは、市長が市政方針の説明においても申し上げておりますように五十万円で処理するという考え方はございません。これは、さくばらんに申し上げますが、市がつけております外灯の数、先ほど建設部長が申されました三百灯以内くらいの維持なんかにつきましても非常に問題がある、そういう点が一つでございますし、いま一つは各町あるいは各地域で市民の方の提出された経費によりまして点灯されております外灯、こういうようなものがございます。その間の調査あるいは調整ということが十分でございます、私どもといたしましては御質問の御趣旨にもございましたように明るい町にしたい、こういう考え方で、なんとか市のつけております外灯をはっきり把握したい。

それから、いま一つ商店街なんかでおつけになっておられる照明灯、広告灯についての存在もはっきりしたい。その上にたつて四日市市内全般を眺めましたときに暗いところがあってはならない。そういった場合にこれが地区の負担において点灯されておりますその維持費の幾分かでも御援助申し上げるといいますか、補助するという考え方で、もう一つは、もう一歩前進いたしまして、もうちょっと科学的な資料にのっとりまして四日市市の町の均等的な明るさを保っていききたい。こういうことも考えておりますので、事務的にはその手続きが十分されておりますから、将来皆さんと御協議いたしながら、なんとか御満足いただけるような状態にもっていききたい、こういう趣旨の五十万円でございますので、御了承いただきたいと思います。

○前川辰男君　ただいまの答弁につきまして、非常に細部にわたっていきますので、それぞれの委員会で十分に問題点の御審議をお願いすることにして私の質問を打ち切りたいと思います。

ただ、最後の総務部長の答弁の中に出てきておった問題、まあ市長からお伺いしたかったわけですが、これはまあ市長の考えとしてこんごにひとつ期待をいたしまして質問を打ち切ります。

○議長（山本三郎君）　暫時休憩いたします。

午後二時二十分休憩

午後二時四十一分再開

○議長（山本三郎君）　休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。

次に伊藤宗一議員、どうぞ登壇してください。（「えらいていねいやな」と呼ぶ者あり。拍手）

〔伊藤宗一君登壇〕

○伊藤宗一君　ちょうど私で九人目です。もう二時半回りました。まだまだ長弁弁士が一個小隊ほどおりますので、私は簡単に申し上げます。

今回、平田市政の当初予算は二十億四千三十一万七千七百四十円になっております。皆さんどうでしょうか。予算面においてこの市長初め皆、理事者方におかれましても相当な満腔の敬意をのしんでおりましたような状態で、なかなかうまくやっている。皆、わしは少ないということもいいますのやけれども、追加更正の予算が控えておりますのでこういうことはいけません。

皆さん、今回はあの八幡製鉄におかれまして皆、二、三人の者がほとんどこの平田市政に対して、平田市長はこの

誘致問題においていかなる行動でやったかということについて、自分は欲得でやったようなことをいって恥をさしたようなことをいっとるけれども、平田市長はそんなうるさい心は持っておりません。皆さん、この平田市長はこの八幡製鉄誘致問題においてなかなかの苦心をして、誠心努力によって今回は解決をつけたんであります。恐れおおくも（笑声）八幡製鉄は、日本一の八幡製鉄は、これは平田市長のことを思って平身低頭であの数億円の金を出したんであります。そうしてはなはだしい二百十万坪をこの四日市市の地に手を入れたようなことでありましてもうすんではりますのです……。

○議長（山本三郎君）　伊藤議員、質問の要旨をどうぞ。

○伊藤宗一君　はい。私はね、そらいますけどね、こらちよと余談に入りましたけど……。

○議長（山本三郎君）　それじゃ簡単にしてください。

○伊藤宗一君　だいたい議長さんから御注意がありましたので、まあここにおいて私はこの当初予算の二十億四千三十一万七千七百四十円のこの予算は妥当なものとして信じておりますのでありますが、私はここに税務関係において十三億六千七百万何がしの金とにらみ合せてこれは妥当な線と私は承認するものでありまして、あまりこまかいことをいいますのやありませんけれども、今回の都市計画について、都市計画がいかなることであるか。この三十一年に公布されて以来五カ年間にわたりまして四千円平均でも約二億円になると思っておりますのでありますが、いまだにおいてこれをどういうふうに使っておるかとかよく見まするに当りまして、今回の予算面は一億五百三十一万八千円何がしの金であります、はたして、六千百何十万という金がここに増になっております。この予算面においてどういうふうに、この本年はたくさん金をここにおいたのか、それをひとつ聞きたいのでありますが、だいたいにいって見まするならば、この子酉八王子線また末広町のこの午起線、これに対しては千五百万円、またこの舗装についても同じ

く九百万円の舗装道路経費がついておる、こういうことについてひととこにそういう金を、都市計画税というものをほとんど富田、富洲原においても相当の金額に上っておるにもかかわらず、ひととこへその都市計画税をつぎ込んでしまつて、そうして富田、富洲原、またもしくはそういう西側の大矢知線におかれてもほとんど税金を出しておるにもかかわらず、この金はほとんど西南部のほうの議員諸公がほとんどとっておる。これはほんとうにわしはおかしいんじゃないか。われわれが数年来、三年前にこの児童福祉児童遊園地に、松原地においてこれを、たとえ十万か十五万円でなんとかしてやってくれと、都市計画税も払っておるのだからと再三といつてもそういうことについて一向理事者は気がつかない。そうして電灯についても、多少二つの電灯はつけてほしい。私は前に、この吉田千九郎當時に、この松原公園に対しては数灯をもらひました。それに台風後ごみ箱になって、そうして林課長に対してあそこを美しいしてもらひましたが、それに対しては前から前から再三と要求しておつても、いまだにそのままにして、電灯も二つつけてくれといつてもつけてくれぬ。であるから、都市計画税というものはほんとうに富洲原市民はこんなたいもないことはないじゃないかということであつてに申し出た。こういうことからして、この税額に対して使ひ道を聞きたいというのがわしの信念であります。

また一つには、都市計画において、四日市都市の市道におきましてもなかなか舗装もあるし、なかなか今回は防塵舗装もしておりますが、あるところと、市の理事者はほんとうに舗装もよくできておるとはいえません。どう思うとるかしたらんけれども、わしとしてはほんとうじゃない。これは満足やない。これについて、土木費用においても一億四千何万といううなことで載つておりますけれども、まあだいたい二十万、三十万といううな税額がここに現われており、そうして五十何カ所といううなところで土地改良区工事として載つており、また舗装としても載つておる。けれども、富洲原においても皆平田市政にしようと思つたらあそこが食い違ひますよ。平田市長は土地の市

長であるけれども、そういうことにはほつちやくしない、大きなどん底の腹も持つておるわ。腹も大きい。われわれ議員六名があつちやくこつちやく頼んでもそういうことにはとんちやくしない。これは吉田千九郎と吉田勝太郎にだいたよくしてもつたんであつて、平田市長としては富洲原には一つも、こんだけもしてつたことがありません。この道路におかれましても吉田千九郎氏や勝太郎氏に舗装もしてもらひましたけれども、ある議員がこの川越と合併するに当りまして、あの舗装を川越の地盤まで富洲原議員は舗装したと三回も四回もわしにつるして下つてきたけれども、わしは相手にならなんだ。これは平田漁網会社から金五十万円という金をその当時出して、川越村の村長から五十万円もろたのであつて、何もそういうことにたずさわらぬ。皆さん、どうでしょうか。われわれはいやしくもそういう四日市市の議員であつて、富洲原からするこのような男ではありません。地盤の議員といつて地盤のことをよくするやうなことばかりいうておりますが、われわれは四日市市の市会議員であつて南部においてもまた中部においても一所懸命に努力しておるつもりであります。わしは富洲原議員であつて富洲原ばかりようするといふことは、そんな卑怯なことはしません。また今回におきましてもあの舗装問題は、なかなか荒れて、雨が降つて挙句に、ほとんど十メートルのところは八メートルぐらい舗装してあつて、あとの一メートルずつはほとんどしてないので、そこに水がたまつてでこぼこで、わしは三月ばかり前にどぼつとはまり込んで舗装のためこつち走つたら二尺ばかりはまり込んで足をばきつといわして神経痛になつとる。そういううな状態でありますので、私としてはそういう四日市や富洲原やのうな分けへだてはしませんのであります。皆さん、今回、この舗装問題にしろ学校にしろ、この、だいたひにおいて談合といひますやるか、あの入札がほんとうにわしは聞きたい。この入札たるや談合入札のうなことをしておるといううなことを再三わしは聞いております。それは何かといへば、われわれに対して皆さんが伊藤さん、お前ひつというたつとくなはれ、談合入札のうなことをしてほんとに仕事ができおらへんやないか、こういうよ



うなことをいうて業者にも儲けさないかんけれども、この入札に対しては相当市民は悩んでおるのでありますから、これをどういうふうに、管理課長はどういうふうにこれをさばっていくのか。どういうふうに入札というこれに対してはやっておるのか、それをひとつ聞きたい。また愛知県においてもあの入札において、あの知多半島に師崎という町があります。そこで一昨年の災害に防波堤がほとんどなくなって、そうしてその入札に対して談合入札であつていよいよそれが逮捕されておる。そうして新しく計画を立てておられるようなことでもあります。また、この四日市市役所諸士はほとんどまじめにやってくれておる。こんなときはほとんど二度とない、平田市政はほんとうに喜ばしいことと存するのであります。また、この土木課長天野氏はなかなかかけつの軽い、なかなかよく働く男である。(笑声)これは笑い事じゃありません。また人事課長においてもほんとうに一所懸命に身を投げてでもこの人事課長の職を全うしなくちゃならないことをいっておる。そのくらいの課長級をほとんどん使うておるのやから、皆さんもこれに対して相応な意見があるうと思ひますがこんごの長弁士におかれまして一所懸命そのことを述べてもらうよう切に願ひする次才であります。

私の質問はこれで終ります。

〔建設部長(城井義夫君)登壇〕

○建設部長(城井義夫君) たいだいま御質問の都市計画税の使途についてという点でお答えいたします。

都市計画税は数年前に創設されましたから年々伸びてまいっておりますが、本年度、三十六年度の財源として計上されております分は五千四百万円余になっております。これは御承知のとおり目的税でございますので、この比率は不動産税の千分の二でございます。目的税でございますので、都市計画決定をした事業に使うということになっております。ごく概念的ないい方でございますが、それで、都市計画決定をした事業といひますと、この市でやっております

ますのは、県の復興事務なんかでやっております区画整理事業の関連の負担金並びに市の都市計画事業として国の補助金をえておる事業、それから公共下水道の事業が都市計画決定をしておる事業でございます。これの財源として引き当てられるんでございまして、都市計画事業としましてはそれに該当するのが約一億予算に計上されておりました、公共下水道におきまして約一億二千万円ほど計上されております。それでこれの財源として約五千万円の半分以上が割当になっております。この都市計画税につきまして本年度から市の行政区全域にわたって税金をいただくことになるんでございますがこの事業をやっておりますのは先ほど御指摘のとおりこの市として旧市街並びに塩浜方面の仕事が主としてでございます。これにつきましては、塩浜方面は最近の工場進出に伴いまして先ほどから問題になりました子酉八王子線等のような問題がございまして、ここ一、二年というところがやはり山のように私、思います。そういったしますと、それが一段落つきますと昨日からいろいろ御審議願っております八幡の問題に關連いたしまして、この山がおそらく羽津、富田地区の方向に移っていくんじゃないだろうかという考え方をしております。

それで、全域からもらっております都市計画税を集約的に使っておるという問題でございますが、これは皆さんの御審議によって事業をやるうということになりますと、この都市計画税がなければ他の財源から引き当てられることになりまして、その工事が都市計画税をもってまかなわれておれば、他の建設費で申しますと一般の土木費がそれだけその他に潤ってくるわけでございますので、目的税そのものを使つた事業は行なえないにいたしましたも、他の面においてできるだけ全体的に考えまして事業を行ないたい、こういう心がけで進みたいと思ひます。

市道の舗装の問題でございますが、舗装の点につきましては現在いろいろの問題がありまして、旧市街地におきましては若干舗装のほうが先行しまして、地下埋設管があつたようになっておるといふ傾向が最近出てまいりまして、舗装やうって半年もたたないうちに掘り返すという問題も出てまいりますが、そういう点を勘案しまして本年度二千五百万円

の御審議を願っております防塵舗装によってこの問題を解決つけるということにおいて幾分でも高級な舗装をむだに使うということをしないように考えております。

二千五百万円の防塵舗装の施行個所の問題でございますが、この点につきましてはこんごよく建設委員会の方々にもお諮りして決定したいと思いますが、この市街地の中心部に片寄ることなく全市的に考えて行きたい、こういうふうに考えております。これは昨日もお答えいたしましたように、だいたい三年くらいでほとんどの道路を完成する一応の用途をつけて予算をお願いしておるのでございます。いままでのように市街地の中心を主とした考え方でなしに郊外地と申しますか、市外地のほうの農村地帯の重要道路も考慮して施行したい、こういうふうに考えております。ただ総花的にあまり考えるために、ごく短期間をやったためにほとんど事業効果が上らないということのないようにある程度は集中的に考えるのでございますが、そのもっていく場所については全市的に考えたい、こういうふうに考えております。

〔管理課長（小林清君）登壇〕

○管理課長（小林清君）　ただいま御指摘の入札の件につきましては、業者の選定を慎重にやっておりますし、なお予定価格でもって適正な設計から積算から予定価格を実施しておりますので、かようなことによって市が損害を受けるといふようなことのないように入札制度を運用してやらしていただきます。

なお、工事の監督については主管各課で十分監督をしていただきまして、他県、他市において不祥事態が発生しておるようなことのないように実施されておりますので、その点は本市の場合はりっぱな工事が施行されておるものと信じております。

○伊藤宗一君　だいたいこの部長さんのお話を聞くと、なかなか完全にはいきませんが、やるというておる。

しかしこの松原公園なんかは市として、たしか三年前に頼んであるのやけどそのままになっておる。松原公園に電灯を二つかつけてもって、たとえ十万でも十五万でもよろしい、それをきちっとしてもらわなければわれわれ富洲原の者はほとんどいろんなことをいうから、その点そういうことをしてほしいということを念願する次才であって、まあ、この土木部長さんのお話のようにやってもらうということについてわしは了承します。

そしてまた管理課長さんのお話を聞いたところが、そのくらいでひとつとめておきたい、そういうことになるならば、私はそれについて何も反対するものでもありません。よく了承してこれで終ります。

○議長（山本三郎君）　次に山中議員にお願いいたします。

〔山中忠一君登壇〕

○山中忠一君　連日にわたり同僚議員の質問と理事者諸君の熱心なる答弁におきまして、非常に時間も経過して、さぞ理事者、議員諸公もおくたびれのことと思いますが、山中にも登壇の時間をお許し願いましたので、三点の問題につきまして私はお尋ねしてみたいと思います。

才一点にお尋ねしてみたいと思いますのは、今回の市長が立てられた市政方針について予算をどのようにもっていかれたのであろうかというところに多少の疑念があったので、お尋ねしてみたい。

次には、市長がいかなる道路の行政にもっていかれるのであろうか。少し市長に迫力がないのでなかろうという観点のもとに私はお尋ねしてみたい。

そうしていま一つ、農業指導についてお尋ねしてみたいと存ずるものでございます。

この市政方針を市長に説明していただきまして私が才一に感じましたところは、市長はわが四日市市の将来に対する構想、その進むべき大道が大方明らかになったということを述べて、今回の予算を組まれたところに、五項目にわ

たつて特にこれを進めていきたいということを申しておられるのでございます。この予算編成に当りまして私が市長にお尋ねしてみたい一項は、この五項目というものは、はたして市長さんがほんとうの本心から、どうしてもこれをやらなければならないという観点のもとに、むしろ市長はその観点だといわれますが、多少の疑義を感じざるをえないのであります。なぜならば、昨年度は四日市市政におきまして私はかつてない多事多難の年であったといわざるをえないと思うのでございます。市長は八幡製鉄の誘致に没頭せられ、そうしてついにそれに失敗をした。そうしてわれわれ市政の行政の上において自治会が一大波乱をきたしてこの議会に持ち込んできたということにおきまして、私は市長がこの説明書のごとくに、万里の長城を築かんとして私は八幡製鉄に万身さらされたのであります。内乱をおそれて堯階三尺の高さにすぎざるをほんとうに築いてこの市政を打ち立てられたのか。それとも牛に引かれて善光寺まいりか。

私の地区にはおもしろい伝説が残っております。私は川島の狭間町でございしますが、私の前の山には御立山という山がございします。八王子町と私の町の境は泣子という名前がついております。ある人が水沢から夜道をとぼとぼやってきました。御立山まで来たなればわけの分らぬ奇人という化け物が出ておわえた。遂に泣子で泣く泣く逃げて行ったという伝説を子供のときから聞かされて、それが残って今日地名となつて御立山泣子ということになっております。市長は自治会にいろいろの要望を差しつけられて、そうして泣く泣くこの予算を組んだのであったなれば、私は市長の私の信頼する平田市長のずぶとい、われわれがほんとうにこの市長にこのずぶとさの信念がほしいと思う信念が欠けておるのではないかということ案ずる一点におきまして、私は市長にただその真実をお聞かせ願いたいと思うのでございます。

次に、予算編成の数字でございしますが、この数字は、きのう藤谷議員の御質問によりまして税務部長が詳細にわたって説明を願いましたので、私は省略させていただきますが、先ほど同僚前川議員から多少の私見を述べられました。私もあの私見に賛成でございます。池田内閣が十一年経済成長論を述べておりますが、私はほとんどこれは注意してこんごの政策は考えなければならないという一点を市長に考えていただきたい。

以上でとめてみたいと思います。

才二点に道路問題でございします。

市長は昨年道路問題につきまして四日市市に産業道路というものを今年は計画した。これは一大特色として強調されたように記憶しておりますが、はたして一カ年のちに、きのうの土木部長の説明ではまだ才二工業用水の一角の土地を買収しただけであるということを申されました。そうして本年になりますとさいが、塩浜大治田線のあの合成ゴムの前が産業道路として重点に置かれている。これも私が先ほど申しますように牛に引かれて善光寺参りだと、市長が目論んで産業道路をつけてそれに対する開発の工場誘致ができなかったのか。工場がきてやむにやまれず産業道路をもっていくというような考えでは私はおそいのではないか。先日山手代議士に歐洲視察のお話を承りました。が、フランスにおきましては、都市計画は、ナポレオンが立てた都市計画で今日のドゴール政権がそのまま押しておる、建物もしかり、百年の大計でなく二百年の大計をもってフランスは今日まだ着々とナポレオン政策を維持しているというようにところに私は大いに学ぶところがあろうという観点のもとにお尋ねするものでございます。

そうしていま一つは、四日市、滋賀県、四日市敦賀というような国道問題を、期成同盟会まで結んで、おのおの政治力をもって進めておられると承ります。この道路のこんごの見通し、市長の信念を私は承わってみたいと思うのでございます。

小さい市道についてお尋ねしてみたいと思います。先ほどもお尋ねになりました子西八王子線、小林団地の件につ

いて、私は地元の人の意見をちよっと小耳にはさみましたのでお尋ねしてみたい。都市計画で、子西八王子線を先ほどの説明では三カ年計画くらいで完成さしてみたいと申しますが、三カ年計画で十万坪の団地を埋めてみたいという計画に三年のちに完成する道路がはたして目的どおりに十万坪の団地が市長は運んでいけるか、消化できるという自信があるのか。それとも、今日の県道に頼って、そうして改修をするか。昨日も県会議員にお尋ねしてみたのでございます。県はいかなる方針を立てておられるのかと申しましたら、四日市市も団地の開発については非常な力を持っておるので、県も何か考えなければならぬが、地元の意見としては、あの県道はこんどは西へもっていききたい、こういうお話でございます。西と申しまうとさいが、まず私は北の山をずっと、元の旧道を上るのだというような計画のもとに進められる。こちらの点におきまして市といたしましては県とどのような連絡をとっておられるのか。それとも、三年のちでも四年のちでもよいから子西八王子線一本に頼っていくという方針は、はたしてどちらをとられるのであるかということをお聞かせ願いたいと思います。

次に市道の今年度の五十路線にわたる新設改良でございます。私がここに登壇させていただくことは五回でございますが、たしか私は、一昨年前の予算であつたと思ひますが、一つの山を切り抜く予算が四十万出たと思ひます。その四十万をかけて土をとって切り抜いた。そうしてはたして今日それがどのようになつておるのか。市の予算に限りがございますので、うまくはいかないと理事者はいわれましようが、私は五十幾線を取り上げて、十万、二十万と小切りに切られて、その道路がはたして目的地から目的地までついたとき初めてその道路の価値がある。または市外地であつて、たとえ百メートルでも延ばせば、巾員をまた広めたなればこれまで考える問題でございしますが、完通しなければ役に立たんような道にも私は手をつけておるかのように思われる。こういうところにおきまして私は矛盾があるのではないかというようなことを感じますので、この五十幾線を一時に挙げるには必ずや予算が許さない。

さすればどの線が一番重要線であるか。たとえば一本ずつでも少年数に私は完成さして市民の納得のいくような行政が打ち立てられないものだろうかという観点でお尋ねするものでございます。

次に農業振興の指導方針でありますが、この点一点だけお尋ねしてみたいと思ひます。

今日、市の方針といたしましては、私は非常に親切な至れり尽せりの指導方針であると存するものと厚くお礼を申し上げるものでございますが、私が前議会でもお願いしましたこの一点が今日の予算書にもこの議案説明にも、方針にも現われてないということは、市は、補助金を出す、奨励金を出す、畜産あるいは果樹園、まことにけっこうでございますが、はたして市は農業政策を進めて、そうしていままでよりも増収、多産をさしてはたしてこの販路をどこへもっていく計画を進めておられるのか、ただ、せつかく幾十万、幾百万という金をかけてそうして百姓、農民を働き貧乏に終らせる、豊作貧乏に終らせる計画を進めておられると私は断言せざるをえないのであります。農民個々に申しまするなればまことに世間体悪い話にはなりますが、豊作貧乏と申しまして、小作のほうが扱かわなくて金が入る、ということをお申ししておりますが、そのような国策では国家は栄えないので、多産でありまた物を安く市民に与えて、そうしてともに栄えるのが私は相マツチしたほんとうの行政であると信ずるのでございますが、四日市市を見まするに、四日市市内にはたしていま青物の市場は二カ所だと思ひますが、これで足りないものであらに一の市とか三の市とかが出て、市民はそれを使つておる。また農民も場代を払つてしとるというようなことですが、けっこうでありますが、この方面にいま一段の工夫と努力といたされて、そうして私は、せつかく指導に力を入れていただき、そうして多額の補助費を出されたこの意味合いを生かすべき工夫がないであらうかという観点のもとに以上、三点をもつて御質問申し上げるものであります。

よろしく御答弁のほどお願い申し上げます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君）　ただいま御質問の中で自治会と予算とのことを仰せられたのでございますが、よく自分にも御趣旨がちょっと、はなはだ申しわけないのですが、すみません。要するに自治会と予算との関係はべつに何もございません。市は市の見解をもちまして予算を編成いたしておりますが、しかしどの方面の御意見も意見は広くお聞きしております。まあ特にどこからどういいうお話があったからそれが予算の上にどう影響しておるか、こういうようなことはさらさらございませんので、やはり市独自の考えからそうしたほうがいいというふうにして組まされていたつもりでおります。その点につきましてはどうぞ御了承をいただきたいと思ひます。

それから北方道路のことでございますが、これは近く委員会にもお願い申し上げ、協議会にもお願い申し上げる順序とおとり願ひたいと存するものであります。この四教道路のことでございますが、実はこれはこちらから発案したことではございませんので、敦賀長浜、すなわち福井県それから滋賀県それから関ヶ原それから山の手を通ってまいりますから、岐阜県でございますが、その方々が非常に御熱心に御相談に相なりまして、そうして四日市市はわれわれに最も近い港である。しかも四日市市の最近の発展は著しい。で、ここに非常にいい港があるのだから、これと何とかして直結したいという御熱心な皆さん方の御要望が固まりまして、市をおたずねになられました、ぜひひとつ四日市市のほうに参加してほしいということでございますが、四日市市といたしましては、敦賀というところはもうすでに三十年も前になんとかして日本海との直結をはかりたいという時代がございまして、例の三岐鉄道というのが四日市市を起点といたしまして関ヶ原をへて木之本をへて敦賀へ出、そうして日本海との交通をうまくやろう、そうして四日市市のほうに皆、物資を集めてこよう、こういう考えでございましたが、御承知のとおりソビエツトという国が全く貿易体制が變つてまいりましたので、全くこの問題は頓座いたしましたので、そうして

セメントの鉄道になつてしまつたようなことでございますが、最近になりまして、敦賀におかれましても非常に日本海との最もこのつながりの近いところということが望ましいということで、非常に四日市市に対するあこがれというようなことから御熱心な御提唱がございましたので、四日市市にとりましても非常にけっこうなことだと存じましたので御賛意を表しました次才でございます。経過もいろいろございしますので御報告申し上げます、ぜひ御賛同をえて皆さん方の御要望に沿ひ、かつまた四日市市といたしましても四日市、敦賀間に自動車の完全な運行のできるようにいたしますれば、北陸との非常な交通の利便から受けるところの四日市市の繁榮ということにもちよつと思われますのでお願いいたします、こう思つておる次才でございます。

そのほかに、御承知のとおり桑名のほうからは鞍掛を通りまして彦根へ出る道路がございます。これは桑名のほうがもっぱら御熱心に御提唱になつておられるようでございますが、われわれも機微に付して御賛成申し上げ、また桑名から岐阜県の真中ころへ行く道路、これも桑名の方の御意見によりますとやはり港があるから四日市市を起点にしたほうがいいから四日市市も賛成してほしいということでございますので、まことにけっこうなことだといつて、桑名を御支援申し上げる意味において賛成を表しておるような次才でございます。

それから最近になりまして私自信が調査してまいりましたのですが、石線がございしますが、これはつとに江勢道路とか勢江道路とか申しまして、これは四日市市からこれは永源寺へ出まして八日市へ出る道路なんでございしますが、これはもう非常に古くから提唱せられておる道路でございますが、石のほうにおかれましてはいま石加町といつておられますが、りっぱな道路がもう県境までほとんど完全にでき上つてゐる。これはどろりっぱな道路をどうしてつけないのだからというくらいにでき上つておるのでございますが、不幸にして江州のほう、滋賀県のほうの方がいろいろの事情がございましたようでございますので停頓いたしておたのでございますが、これもぜひ四日市市のた

めには物資の交流をはかりまた四日市市の将来の人的資源の場所といたしましても好個の場所でございますので、この道路もなんとかして早く滋賀県に呼びかけて通じていただきたいということを考えました。それからかねがね御賛同をえておりますところの湯の山を通りまして行く道路でございますが、これはもっぱら県道に編入していただくことを才一要件といたしまして、そうして滋賀県のほうに通じたい。これは滋賀県のほうがほとんどある程度までできておって三重県の方がべらぼうにおそなっておるといふような、こういうようないびつな状態になっておる。

それから四日市市内といたしましては水沢の林道がございますが、これはもうほとんど頂上までいっております。わずかもう一キロぐらい残っておると思いますが、これも三百メートルないし五百メートルの隧道を一本抜いてやりますと、滋賀県のほうへ非常にうまく連絡のつく林道がございますして、この林道は非常にりっぱな林道でございますが、しかしどの道路にいたしましても多々ますます便であろうと存じますので、特に余分な経費のいらぬようにして、そうしてできる限り県の力とかあるいは自衛隊の力というようなものをお借りしまして、そうしてなんでもいいからひとつ向うへ抜け出す勘考をお願いしたほうがいいんじゃないかというふうに四日市市の大きな交通網の上から考えておるような次才でございます。かような点につきましては追っていろいろ御協議を申し上げまして御賛同を賜わりまして四日市市の栄養線に皆取り上げていきたいと、こういうふうに考えさせていただきたく思います。

〔農林課長（高野一郎君）登壇〕

○農林課長（高野一郎君）　ただいまの山中議員さんの御質問にお答えさせていただきます。

農産物の流通面と申しまするか、販売方面に非常に手ぬかりがあるんじゃないかというお話のように承まつたわけ

でございまするがいままで農林課といたしまして各種農産物とかあるいは畜産関係の奨励を相当して参つたわけでございまするが、いま御指摘を受けました販売面あるいは流通面という面につきましての奨励があるいは指導が幾分欠けておつたということは事実でございます。これを認めざるをえんと、かように思うわけでございまするが、そこでこんごは流通面か販売面につきまして極力奨励してまいりたいと、かように考えておるのでございまするが、農業振興につきましては昨日産業部長から御説明申し上げましたとおりでございまするが、その振興をするためにはいろいろの農産物の奨励をやっていかんならぬということになりますと、その農産物は勢い高く売れる、利潤の上る、消費の、需要の嗜好に向くものを進めていかんならぬということになるわけでございまして、と同時にそれらの販売をかね合せて考えていかんならぬと、かように思っていますので、こんご十分その点に力を入れて、近く地区の出荷組合農業協同組合等と緊密な連絡をとりまして市場方面への出荷をやりたい、またせっかく作った農産物が御指摘を受けましたように豊作貧乏にならぬように出荷の時期等の調節というようなことも十分こんご考えていきたいと、かように考えるわけでございまするが、いかにせん世間的な相場に打ち勝つことはできませんので、やはり相場の安いときには安くならざるをえぬということになると思ひますが、その中でも幾分でも農業所得の上るように利潤の多くなるような売り方にこんご努力したいと、かように考えますので、どうぞひとつよろしくお願いいたします。

○議長（山本三郎君）　暫時休憩いたします。

午後三時三十五分休憩

○議長（山本三郎君）

休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。

午後三時五十五分再開

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） 子酉・八王子線と道路新設改良費の予算の編成の仕方についてお答えいたします。

本日は各議員さんから子酉・八王子線の問題につきまして種々御質問を受けましてそのつどお答えさせていただきます。とるわけでございますが、先ほどの御質問は小林町付近の問題だと存じますが、県で改修を計画しておりますのは、現在の県道として改修しております、これがたまたま子酉・八王子線の計画に近い路線を通っておりますのでございます。それで将来、この県道そのものが子酉・八王子線になるか、あるいは若干変更になるかという点につきましては、こんごの問題でございますが、県におかれましては三十六年度から県財政の伸びによりまして県単事業の予算も相当多額に組んでおられるようでございますので、市の要望にこたえられるだろうというような担当の方のお言葉をいただいております。ここ一、二年の間にできるだけ早く改修をしていただきたい、こういうふうに考えております。小林町の団地の中につきましては、現在七メートル五〇程度の巾員で一応改修されておるんですが、この現在道路を車道に使いまして、両側に三メートルから三メートル五〇の舗道を住宅公社のほうで作りまして、だいたい十五メートル程度の道路に完成いたしましたして、団地の幹線道路に考えたいと思います。考え方といたしましては、この谷を一つこさして考える考え方と、あるいは波木に行きます県道付近まで笹川の右岸を下ってきて下げる考え方、いろいろございますが、この点につきましてはこんご十分県において御検討されることと思います。

それから予算を二十万、三十万に切って総花的にやらずに集中させというような御趣旨のように承わったんですが、これを一例の、たとえの説明で申し上げますと、子酉・八王子線を、一応、計画決定として考えております区域を整備いたしますのに三億数千万の予定をしております。ちやうど本年度の建設の関係の土木費、都市計画費、

下水道費をまぜますと約三億円から四億円になるんでございますが、ちやうどこの予算を全部集めさせていただきますと、子酉・八王子線は本年度で完成するんでございます。ところが市の施策の考え方といたしましてはそういう極端な、これは一例でございますが、考え方はできるものでないと思われるんでございますが、それと地区的なこの要望等によりまして相当われわれの技術的に検討いたしましたしても必要な道路もあるんでございますが、これをどうしてもしぼるようになりますという問題が出てまいります。従って総花的に小さくはなっておるような格好になっておりますが、われわれといたしましてはこの点十分意をもちまして、できるだけ完成する路線、いままでも三年あるいは五年継続してまいりまして本年度で完成する路線にはできるだけ予算を集中させていただきたいというように考え方で予算をお願いしております。それと御説明の中にもありましたように、たとえ二十万でも、その二十万だけで有効に事業効果の上るところにもちいたい、こういうふうに考えとります。

それから、御質問の最初にございましたたとえ話で御説明になった峠の問題の意味がちよっとのみ込めなかったのでございますが、あの点はどういうことでございましたか。（山中議員「発言を求めてもう一度お話をさせていただきます」と呼ぶ）

○議長（山本三郎君） 山中議員。

〔山中忠一君登壇〕

○山中忠一君 ただいま三点の質問をいたしまして市長さん初め担当の部課長から詳細な説明をいただきましてよく身にしみたのでございますが、多少市長さんの見解も変わっておるようには私は存じますので、要望かたがた質問をしてみたいと思います。

市長さんは自治会とは何の関係もないんだと、それはまた関係があったら非常に困る事件がありまして、ただし、

私も本年度は自治会に籍を置いておる以上、あまりにもわれわれが要望をした件によく似ておったというので、これは私が誤解をしたのかもわからないので、こうしたところは御了承願いたいと思います。市長さんの総予算に対して迫力がないということは私は再質問をしてみたい。

市長さんは今回の予算につきまして非常に綿密に考えてみると、理事者も非常に苦心はしておられるところ。はよくわかるのでございますが、市政の方針の一端に今年は特に市民サービスとして道路に重点を置いて、そうして三カ年計画に四日市市の全市道をほとんど舗装をしてみたいということを申し述べておられますが、その財源の一端として競輪の収入を優先的にあててみたいと思います。という言葉がございます。この一点につきまして「思います」でございます。なぜ、市長がそこまで踏み切ったなれば、特定財源としてやるのだというような心強い私は一端が抜けておるのではないかと思ひまして市長の真意をたしたのでございますが、どうか、答弁はいりません、市長は、この本予算に私は反対を申し上げておるものではございませんから、勇往邁進に、一日もこの予算の推進をはかっていただきたいということを要望するわけでございます。

次に一般道路の問題でございます。ただいま部長からさきほどのたとえ話の表現がわからなかったということでございますが、私は、なるだけは地名までは挙げたくないと思つておつたのでございますが、わからぬとあれば万やむをえません。私、昨年たしかに、前の予算であつたと思ひますが、八王子と波木道、室山と波木道、日野と波木道というふうに、波木の戸数はわずかに百戸足らずの戸数でございますが、そこに私は異議があつたのでございます。わずかに八十戸足らずの部落に出て行く道路はただ貝家一本こそ抜けていかない。それに西に八王子、波木線、県道あり、東に市道で西日野。波木線がありそうしていま一本室山から鍋谷を抜いて波木に行く道路をせなければならぬ。このところに私は考えざるをえないのではなかったか。そうしてここにたしかに四十万円の予算をとって切り

抜きを抜くと、そうして見まするとさいがまるで砂取り場をつけたような格好になって、その後の継続事業はもう考えておられないというような点を私はみまして、決して私は、地区の要望もございましょう。四日市市政を担当するにはいかなる費用をもつて担当していくかと、むろん納得のいく市民の市政を施して、そうして税収入にいくよりほかはないのに、地区民の意思も尊重せずただ一本でいけというような強硬な意見は私は述べておるものではございません。たとえ百メートルでもこれが有効に使える、たしかにあすからこれが、いこ生きる道なればたとえ二十万でも私はかまわぬ。小さく切つてもいいが、かく六十万、四十万という金をかけて、そうしてあともみやんような道路が、ただ私たちが不勉強のために全市を歩くわけにはいきませんが、あらせんかということをお尋ねするのでございます。

次に農林課長の答弁でございますが、まことに御親切な意のある御答弁をいただきましてありがとうございます。先ほども私が申しましたように農家の収入は年に一回、まあ早いもので半年に一回、年に一回や二回の生産物をもつてきて、われわれが市場に出す、市場に出るときにはわれわれが売った価格の倍の価格になつて一般市民に渡つておる、買うほうの市民も高いものを買われ、売るほうの農民も非常に安く売らなければならないという観点につきまして私は述べたんでございますが、いま四日市市が奨励しているこの畜産業にしまして私はこれがいえると思うのでございます。まるで市は大きな費用をつぎ込んで奨励と補助をしてだれをこやすかといへば私は畜産業で牛乳なんかにおいては、いま明治と森永と関西酪農の私らは奴隷になつてそうして働いておるのだといつて私は過言ではないと存ずるから、この販路を一段と私、考えていただきたいということを参考までに申し上げるものでございます。以上をもちまして、べつに答弁をいただかなくても、私はかくたる要望を入れまして質問を打ち切つてみたいと思います。が、建設部長の説明だけをもう一度聞かしていただきたいと思ひます。



〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） 波木・室山の峠の工事でございます。これははなだ私うっかりしておりまして申しわけございません。たしかにいままで予算をいただきまして仕事の全部まで終っておりませんが、一応予算をいただいただけは仕事をやりましたのでございますが、この峠につきましては、御承知のように相当の土量がございます。当時の予算といたしましてもいろいろ工場の埋め立てその他の土のいる事業との関連において、あの程度の予算で一応のまとまりをつけたという考え方で予算をお願いしたのでございますが、それに至ります道路が若干狭いものでございますので、トラックの進入に困難をきたすため、われわれが考えておるように土の希望者がなかったために所期の計画どおりに進んでおりませんが、現在におきましても逐次土の希望者にこれをとらしまして、最初の計画どおり進むようにしております。なお現在、ちようど土をとりちらかしたような格好になっておるんじゃないかと、最近私見ておりませんが、なっておるように思いますので、その点につきましては道路維持という観点から一応整備をさせたい、こういうふうに考えます。どうぞよろしく。

○山中忠一君 簡単でございますから自席から。

ただいま建設部長から御説明をいただきましてよく了承いたしました。私もここ兩一、二年前からあそこを通りたいと思つて商売上時おり車をもつて通るんですが、あの事業を払っていたがために、いまほとんどそれがために波木・末広線の道路は車が通らぬという現状でございますから、こんご特にそのようなところに留意をおかれまして土木の面に特に私は考えていただきたいということを、要望を入れて私に私の質問を打ち切りたいと思います。

○議長（山本三郎君） 次に笠田議員、どうぞ。

〔笠田七衛君登壇〕

○笠田七衛君 前日から同僚議員諸公の熱心さと理事者のまじめさによって緊張裡に質問等が続けられてまいりました関係上、非常に双方ともお疲れのように見受けましますので、私がこれからお尋ねすることは、刺身のつまはいりません、刺身の正味だけ、衣をぬいて御説明と御回答を承わりたい、まず前提にお願ひ申し上げます。

次に、私がただいまからお尋ねすることは、どなたということをはっきり申し上げて質問をいたしますから、その方より御回答を承わりたい。非常に順番が遅れてまいりましたので、同僚議員等がお尋ねになった問題等にまたがる点がございますと思われましますので、その点だけは要望にとどめますから、十分お聞き取りをお願ひ申し上げたいと思います。

まず才一点に民生部長さんにお伺ひ申し上げます。

市長が議案の冒頭に「経済界の好況、台風による被害復旧、高潮対策の見通し、市民各位の努力の結果と異常なる市勢の発展について」と言及され、市政担当者として喜びをお述べになつておられますが、一面、いまだに立ち上れなくて仮設住宅に雨露をしのんでおられる方々があるということは一言半句触れられておらないのでございます。昨日、生川同僚議員よりこの点にも若干触れられましたが、その数の把握をまだ部長は十分なさつてないような御回答でございました。そこで私がお願ひしお尋ねすることは、かかる方々に対していかなる手を打って、どう期日までに、もし移転のできなかつたような方々に対していかなる手を打とうといかなる施策を施してあるのかないのか。ただ国策による経済界の進展だけを頼りで、かかる一部の方があるということに十分留意をしていただきたい。

次に要望でございます。

北部開発については市長はなみなみならぬ御努力を煩らわしたことは、志どおりならなかつたのでございますが、

四日市市百年の計が挫折いたしました感があり、実に残念しごくでございますが、市長は自然的なる条件が原因であるという説明でなく、昨日、浜田議員の質問に対して自分の不明を謙虚なる気持ちで釈明なされたことは非常に好感を寄せる次才でございますが、本日の新聞等を見たときに、二十四日に八幡から名古屋の出張所へ出向けというような新聞を見たのでございますがここで私は特にお願い申し上げたいことは、八幡誘致の出発点のときのように、市長の独善的な行動であるというような誤解を受けるようなことでなく、すっきりとした形でこんこの八幡誘致、後方開発に特に御努力あらんことを要望いたしておきます。

次に、市長は五つの柱をもって市の施策を行なうといっておられますが、その中で機構改革をお取り上げになっておられます。もちろん機構改革も大事でございますが、機構いじりではなんにもならない。要はその場所にその人をえるということ、当然のことではございますが、網紀の肅正と職務の忠実であるということは論をまたないことでございますが、そこで市税の五〇％を食い、一般、特別会計を通じて見ましたときに、実に六億九千万円、七億に近い巨額を必要とするぼう大なる予算を人件費に使っておられます。こんごこの点をいかに調節していこうとしておられるのか、この際私は、ちように過渡期に当られる方々には、情においては実にしのびがたいものがございますが、毎年同じような勧告を繰り返しておらず、定年制というような制度をお考えになり、若返り人事を早期実現し、青年都市にマツチした人事行政をお考えになっておられませんかおられるのか、この点を市長にお伺い申し上げます。

次に、市長は平年度健全財政を保つのに二十億内外が適正であると述べられておられますが、所得倍増計画からいっても前年度の市税と大差ないという収入見込みでは健全財政というよりむしろ私は消極予算であるといわざるをえない。そこで今年度の残余税額の見込み等について、昨日、税務部長は約七、八千万円余は見込まれるとい

うような御答弁でございましたが、それに対しこんごは、市長はその七、八千万円にいかなる重点施策を施そうとしておられるのか、市長の御見解を承わりたい。

次に関連いたしましたして部長にお伺い申し上げたい。市長の予算説明でも「年間予算の原則に従い」ということをうたわれておる。年間予算を組まれたと私は解釈申し上げる。ところが年間予算じゃなくして、次々と、六回も七回も追加予算が出るということは、これは年間予算として考えられない。その点、部課長の不勉強が市長の施策をあやまらすというようないふことになるはしないか、それとも市長ががん迷で、二カ月先のことしかわからないのか、その点、関係部長より御答弁を願いたい。

次に、市長は四日市港の整備等をお取り上げになっておりますが、もちろん港は四日市市の生命であり重点に考えることは当然である。ところが、先般ラジオ・ニュースを聞きますと、四日市市の商工会議所の会頭さん、名古屋の商工会議所の会頭さんが中央に出向かれて、四日市港、名古屋港の合併を陳情なすっておられるというニュースを私は聞いたのでございますが、かかる重要案件が市長と十分話し合いの上に立って行なわれたのか。それとも、もし市長は民間人が勝手にしておることであるからというような御解釈であるならば、港の主体性というものは商工会議所にあるのか市にあるのか。もちろん管理は県でございますが、こんごかかるようなことでは港にかける予算に對してもわれわれは十分こんご考えさせられなければならないと思う。そこで、私は一日も早く県と市が管理組合というようなものを作って、市が十分発言力を持つということが必要ではないか。自分の玄関先を十分金をかけて直したが、それが自分を通るのでも頭を下げて通らなければならないというような矛盾がいつまでか続いているものだろうか。もし市長が力及ばずしてこれが早期実現できえないというのであればわれわれ議会人としてかかることは見すこすわけにはいかない。ともども御協力申し上げ、一日も早くかかる実現をしていただきたい。それについて

市長の御見解を承わりたい。

次に、市長は、「目を内に向ける」といっておられますが、一部を除きなら目新しい事業費等をお組みになっておられない。きのうも教育長でしたか御説明がございましたが、いま社会の重大関心事である青少年対策等に対しても県が人員をふやしてやるんだというような御答弁のように伺いましたが、この抵抗期にある青年の育成が新聞紙上ににぎやかしておるような結果を出したあとでいかに悔んでみてもこれはいたし方がない。どうかこの面にもさらに御関心を持っていただき、部課長を十分御督励なさってその面に万遺憾なきを期していただきたい。これは昨日、御答弁もございましたから、きつく要望を申し上げておきます。

次に民生部長さんにお伺いする。

医師の補助金、利子補給、医療センター等におきまして予算が組まれておりますが、これは四月から行なわれる国民健康保険の面を十分勘案なされてこの上であるというふうに解釈し、非常に御苦勞ではあったと感謝申し上げるのでございますが、この予算の性質たるや今年度限りのものか、継続して行なわれるものか、それとも一部の方だけの受益で、金般的な受益があるのかないのか、その点部長さんにお伺いする。

次に体育行政について市長の見解をお伺い申し上げます。

今議会に北条グラウンドに対し三百万円で改修というか補修をなされようとしておる。いままで市会でもたびたびいわれておることく本市は残念ながら文化施設の遅れておることは万人とも認めざるをえない。この際かかる小手先だけの施策でなく、近々開かれる国際オリンピックにも備え、一大構想のもとに大公園地と大グラウンド等を設置し、オリンピックの一種目ぐらい当市に持つてこようというような御立案をなされないのか。もしありとしたり、いつ着手なさろうとするのか、お伺い申し上げます。

次に開発局長にお尋ね申し上げます。

市長が開発局に対し非常に御期待をかけておられることが予算説明でもうたわれております。ところがその内容たるや百万円の航空写真費、この費用を引くと、あとは実に残念ながら統計課とむしろいったほうがびったりくるんじゃないかと考えられます。こういう情勢下におきまして、開発局は十分本来の使命を発揮することができうる自信をお持ちになっておるのか、この点局長にお伺いする。

次にお尋ねすることは、同僚議員もお尋ねになり、すでに御回答もえておることでございますので、要望のみにとどめます。その点は教育行政のことでございますが、きのう、きょうでしたか、大谷議員の質問に対し教育長は明後年に迫る高校進学のパークに対処しかなる施策を持っておるか、お尋ねされたときに、県立であるからというようなことで、何かあとが十分理解がしえなかったのでございますが、管理は県立にしろそこに学ぶ者は市民である。自分の監督が中、小学校だけだから高校は十分考えてない、県、市が考えてくれるだろうというようなことでは、私はどうも当面の責任者としていかかと思われる。すでに御回答も御答弁もあったのでございますからきつくは申し上げません。十分御承知のほうでございます。明後年に迫るこの高校の入学パークに対し、子を持つ父兄は十分関心を寄せておる問題でございますから、その点どうか最善の御努力をわずらわすよう、特にきつく要望申し上げます。

次に産業部長にお尋ね申し上げます。

遠洋漁業基地の問題でございますが、今回、せっかくの御配慮によりまして管理屋舎も完成を見、十分とはいえないまでも基地の形態が整ってまいりましたことは、関係市民はもとより市民一同非常な喜びで、その御努力に対し深く敬意を表す一人でございますが、そこで、私がお伺いすることはこんごの指導をいかにもっていくかというこ

とにかくかかっておると思われます。残念ながら指導をたびあやまると、いいにくいことでございますが、畜産市場のようなできものの存在になっては残念なことだと思われれます。そこで、この際確固たる指導方針をお持ちになっておるのか、またこんご研究なさろうとしておるのか、その点を簡単に御答弁願いたいと思います。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 笠田議員のお尋ねに対しましてお答えを申し上げたいと存じます。

なかなかよいありますので、順序が違いかもわかりませんからちよっと御無礼いたすかもわかりません、大てい控えたつもりでございますが。

人件費が非常にかさなってきたと、だからそういうことに対して考えがあるかというように拝承いたしましたように思うんですが、お説のとおりこのたびのベース・アップによりまして著しくその標準が上ってまいりましたが、これは私、全国的の現象でございまして、特に四日市市だけが好んでやったことではないのでございしますが、しかし税収とにらみ合せますというと、この比率がだんだん上ってくるので非常に憂えておるのでございします。こういうことに対する対策といたしましては、こんどのいわゆる機構改革によりまして、なるべくいままでの人員の中で能率を上げていただいて、そうして人の数を押えていこう。職場の諸君にとりましては仕事の分量がふえるという御意見もございしますけれども、やはり能率を上げていくことはぜひひとつお願いしたいというような立場から、いろいろ困難な問題もございましたが、機構改革とにらみ合せましてそういう線で御理解をえまして、市の理事者間といたしましては対処いたしておるように思うのでございます。

その次に定年制のことがございましたが、実は定年制のことにつきましてはいろいろの論議がございすんですが、まだこれを法制的に取り扱うと、規則にするということにつきましては少しく時期が早いと思っておりますので、そうい

う時期が来ましたならこれはやってもいいと思ひますが、ただいまのところはやはり皆さんに御理解をしていただいておりますので、しかしこれも非常に皆さんに御理解を願ひまして特別な御困難な御事情のある方以外はよくこの情勢を御理解願ひまして御勇退願ひしておるといふ次でございしますが、特に最近の情勢といたしましては非常にこの問題は個々に当らなやならぬ問題でございしますので、その当の当事者としてしましては同僚間のことでございしますから、つらいことだろうと思ひますが、熱心にやってくれまして非常にりっぱな成績を挙げていると思ひますので、この慣例を重んじていただきまして、できる限り自分のうちはその面でやらしていただいたほうが穏当ではないかと、こう考えておるような次でございします。

それから、予算の組み方消極か健全かというように思うんですが、昨年は当初予算のときから追加予算をどんどんふやしてまいりましたと、これは災害のあとを受けました幾分の不安がありましたもので、それからそういう措置をとったと思ひますが、本年は当初予算におきまして昨年の一年間にいった経費の一番かさの高くなったおしまいのところをとって処理しておるといふようなことでございしますので、だいたい当初予算におきまして年間のものを一応見積りしていただいたのでございしますが、しかしまだ幾分の余地があるんじゃないか、それはどうするかというお話でございしますが、これにつきましては、ただいまたびたび五本の柱、五本の柱ということが出ますが、そういう線に沿って対処していきたいと思ひんでございしますけれども、まだ未確定のものがございします。たとえば港湾のごときものはまだ未確定になっております。これは毎年そういう例になっておりますので、そういうものの手控えも持ってなきゃなりませんしいたしまするので、向後よく考えまして皆さんの御要望の線に沿ってひといきたいと、こういうふうにおもひておるのでございます。

それから、予算を組むのにちよこちよこ組んで、市長がなんにも知らぬからその場当りのことをやっておるのか。

もしそうでなければ係の者がそういう不定見なことをやっておるのかというちよっとうお叱りに似たような御発言がございましたが、私はさようには考えさしていただきたくないと思います。まじめに予算を組み、かつ余裕ができてくればそのつど皆さんの御要望に沿うて、そうして善処してそれを予算化していただいできておるということであります。たまたま昨年は特に財政の伸びもよく、また皆さんからの御要望にもそのつどつどお沿い申し上げてやりましたようなことでございますが、そんなら当初のときにそういう見すかしをあやまったのか、こうおっしゃりますると、べつに私はあやまったとは思いませんが、まだ就任二カ年でございしますので、少し大事をとらしていただいで、まあ健全財政という線強くまあ持してまいりましたので、少しお目だるい、見ておられないとお目だるいようなお考えをいただいたのかもしれませんが、やはり昨年までは相当手がたく健全財政をとり、またそれが常道であると、四日市市の財政の取り方としてはきわめて常道であつてよい方法であるというふうにお認めを願つたように思つておりました次才でございしますが、本年は当初におきまして大多数のものを組み入れましたような次才でございします。

その次に港湾の問題でございまして、その港湾の中で、これは名古屋の特に税務関係、関税関係から起つてきたことなんでございますが、専門的なことは、これはひとつまた係の課長から申し述べさしてみたいと思ひますが、どうも四日市港と名古屋港とをやつていふという、名古屋港には名古屋港のよさがあり四日市には四日市のよさがあるし、そしてあるときには名古屋で欠点ができる、またあるときには四日市のほうにもそういうような姿が出てくる。これはなんとかしてひとつその共通的な関税政策がとれないかということを、これは主として関税から起つてきたこととでございまして、同時に名古屋の経済圏として名古屋港というものを中心としてその左右に分れる地域というものを大きく中部経済圏、こういうふうに取り上げて、少なくとも四日市まではそれを抱擁したい、向うは衣浦までぐ

らいを抱擁したいということが、これは名古屋の御連中に起つたことでございまして、盛んにそれがとなえられたと、たまたまそのことのうちで最も有効なことは関税問題である。そこで名前を伊勢湾港というような格好にして、伊勢湾港の中に名古屋港、四日市港があるんだと、どちらへ船が入つても一べんしか税金を払わなくてすむようにしたらいいんじゃないかと、その港域ならどちらへ移動してもいいんだと。特に月末とかあるいは特定の時期になると非常に船が重複して、名古屋では沖待ちをしなくちゃならぬというようなまあ現象が出てくる。そいつは神戸や横浜へ行つてしまふと、こういうようなことで、そういうことをふせいで、いわゆる中部産業圏内の関税問題あるいは船のこの利用度においてもうまくいきたいなというような考えから提唱せられてきたことであります。従いましてこの港域を拡大することについてどんな得があるかということになりますれば、御承知のように名古屋港はすでにこの運賃の同盟港の中に入つておりますので運賃の割り戻しがあるんです。四日市はそのレートも違えば運賃の割り戻しもない。将来そういうふうになれば、もし一つの港と見なされて取り扱いを受けられるようになれば、これはもう世界の港のうちの最高級のクラスのものになるんであります。貿易上においては非常に有効なであります。幾らじたばたいたしても四日市港だけじゃさいつはまあかなわんと、こういうことでございしますので、大きな大局からみると、やはり一つの大きな、いわゆる時勢からくるところの流れに竿さしていったほうがいいんじゃないかと、こういうふうには私は思つておるのでございます。特に非常にここに注意しなくちゃならぬことは、最初の頃はこれをその伊勢湾港と、こういう呼称をしておるのであります。これは非常に注目しなければならぬ私は現象だろふと思ふんであります。従いまして関税の上におきます処置につきましては、この前もたしかどこかで申し上げたと思ふんでありますけれども、幾分の減収になります。これは名古屋港も四日市港も減収になります。しかしその利便というものを、また将来それがいま申し上げましたようないわゆる同盟港の中に入つて、そして世界の才一流の

港として取り扱いが受けられるという段階に進む前のやり方としちゃあ、まあ好ましくないかといえど私は好ましいと存じます。しかし実際問題になりますと、行政区域を異にしておりますし、またいろいろの点におきまして支障がありますので、さような理想の点ばかりには進んでいきません。従いましてこの問題はきわめてまあ広やかな運動として行なわれておると。特にその行なわれておる節が関税の問題で重く取り上げられておりますから、その点に注目をいたしまして、われわれはこれはけっこうなことであるというふうにだいたいまあ考えておるのでございますが、かような点につきましてもこれはいずれ皆様方に御相談申し上げて御賛同をえる時期が来るかもしれません、まだいまのところとしてはなかなかその段階までまいらぬように思いますので、その点ひとつ御了承願いたいと思います。また会議所が名古屋の会議所と手をたずさえてこれの運動をやっておるということ、これは市のほうへも御相談がございました。会議所としてそういうことをやるほうがいいかと思うかどうかに対し御相談がございましたから、会議所としておやりくださることにについては少しも私どもは異存はございませんとこう申し上げました。といいますのは、この運動の最初の発端が、いわゆる中部経済連盟の御連中から発足したことでございまして、正式なる会議所の議題にのったことがなかったのですが、こんどようやく名古屋の会議所と四日市の会議所が手をつなぎ合って、われわれ、いわゆる公共的な性格を持っておる会議所としての意見の合致をみた、それでやりたいと思うが市長さんはどう思うかという、こういうお話ですから、会議所としておやりくださることについて少しも異存はございませんと、こう申し上げたような次才でございます。

それに引き続きまして笠田議員から四日市港の管理問題について御発言がございました。非常に重要な御発言と存じます。午前中にも申し上げましたように管理港でないために四日市市の血税でもって長い間りゅうりゅう辛苦をしてこの港に金をぶち込んで、そのためにわれわれの陸上の施設は著しく劣って、四日市の看板とは似ても似つかぬ

ような貧弱な陸上設備であるということも、振り返ってみれば港に対するわれわれの非常に大きな犠牲であったと思うのであります。しかもここ数年来というものは、十倍の予算を組んでおる県が十分の一の予算を組んでおる市に対して同額の負担を要請し、それに対して市はきん然として協力をしてきたのであります。いわゆるわれわれは十倍の濃さの血を払っておるのであります。しからば当然ことここになれば管理組合に運行していくということは、私はきわめて自然な趨勢でないかと思うのであります。またこんど名古屋からこういうような関税問題が起りまして、向うのほうは管理組合を作っておって県、市が手をたずさえて、しかもその発言が、二つの発言を持っておると。三重県は県だけしか発言しない。それではいかにも対抗上からいってもとぼしいではないかと、ぜひこれは取り上げてほしいということは、市長は就任以来となえておることでもあります。従いまして市会に向いまして私はぜひこの点には御協力願ひ、御支援願ひたいとおるのであります。いまのところ県がはたしてこの問題を地元の要請としてまじめに取り上げておるのかどうか、私にははっきりわかりません。どうか市会におかれましても強力なるお力を発動していただきまして、長年の宿題であるところの四日市港に対するわれわれの発言権も発生するようにお願いしたい。市長の血の出るような叫び声であります。お聞きとりを願いたいと存じます。

次に北条のグラウンドのことにつきまして、これは係の者からも説明させていただきますが、どうも文化施設がとぼしいというておなげきになりました。ただいま申し上げましたように海に偏重しすぎたということが災いをなしておるんだございますが、そんな過去のことをいっておりましてどうにもなりません。で、このことにつきましてはかねがねも申し上げたと思うんですが、幸い南部のほうにああいう大きな半ば政府の持っておるような格好になっておる団地がございますので、これをぜひ市のものにして、そうしてここに思い切ったそういう文化的な施設を取り集めて、そうして四日市の市民の人たちがあそこでもって喜んで文化的な喜びを享樂できるようにしたいと考えま

して私はお願いをしておるのでございます。非常に北部の問題が急迫しまして、次から次へと難題が出てまいりましたのでまだ手がけておりませんけれども、すでに地元の方々にもおよその御了承をえ、皆さんのお力によりまして大きく運動を展開して、いわゆる前々からの地主さんなんかの付帯条件に対する御解決を願ひ、また当局に對しまして私も私どもはたえずこのことをお願いして御支援を受けるような機運にしむけておるような次才でございます。しかしオリンピックを一つ何か持ってこないか、こういう御意見がございました。私はまあ笠田議員さんの御意気込みというものの對して非常に敬意を表する次才であります。私も持ってきたいと思っておりますが、三重県といたしましては、もしそういうような場合があるとすれば、やはりまあ伊勢神宮というようなものもあらせられるので、まだこのことにつきましては、相当な心臓のつもりでございますけれども遠慮をして口ばしを、口を割らないというような次才でございます。しかし市民の世論を代表せられます議員諸公におかれまして、大きな御奮発のお心が起つて、市長にぜひでもやれという仰せならば、これはひとつ考えさせていただきたいと、申し残りました点につきましては係のものから申し述べます。（「心臓弱いな、市長は」と呼ぶ者あり）

○議長（山本三郎君） 暫時休憩いたします。

午後五時休憩

午後五時二十三分再開

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。民生部長。

〔民生部長（中山英郎君）登壇〕

○民生部長（中山英郎君） 応急仮設住宅の住んどる人に立ち上れない人がおるんではないかという認識を持つとる

かどうか、及びその対策はどうかという御質問にお答えいたします。

生川市議員さんの御質問のときに、一応名四国道との関連のときにその地区のことに限定して申しましたが、基本的に、民生部といたしましては期前に全部撤去したいと、その操作を四月以降整理していききたいと。すでに取りこわしたものをさらにいききたいと、こういうふうに存じておりますが、それで去年の十二月に富田一色地区につきましては私も現地へ行つたんですが、不正入居者を主体とした実態の調査の資料はございます、その他の地区にはまだ及んでおりません。そのときに私、感じましたことは冬場寒いときに操作することは非常に困難である。従って季候がよくなり、移転しやすい時期をねらうて実態調査をかねて、そうして撤去方を促進する、こういう基本方針を堅持しております。従つてただいまのところ実態の把握が薄いんじゃないかという御指摘に對しましては、率直に申し上げましてそのとおりだと、全地区の実態把握につきましては的確な資料がいまのところ持ち合せておりません。この実態調査は四月以降早急に実施計画を立てて実態調査をなし、そして撤去方を促進したい、こういうふうな方針であります。それで、立ち上れない人をどうするか、この問題はその実態調査なりあるいはその個々のケースに從いまして検討の上、慎重に、しかも果敢に処理したい、こういうことで、ただいま公けの席上でこうする、ああするといったことがいえないのは残念でございますが、事実はそのような状態でございます。

それから才二点の衛生諸費の中に計上されております医師会及び歯科医師会の補助金及び助成金のことについてお答えいたします。

御質問はこれらの補助金が本年度限りなのか利用者が一部なのかという点、二点にしばられておりますので簡潔に申し上げます。

まず補助金の六十万円につきましては、四日市市医師会それから四日市市歯科医師会支部についてのそういう二つ

の団体についての事業活動に対する補助金でございまして、本年は一応医師会につきましては四十万それから歯科医師会につきましては二十万というふうに内訳はあいなっておりますのでございます。で、これはいままでいろいろ市に商工会議所とかいろんな団体がございますが、そういった団体の団体的な活動として助成するという建前をとりまして、必ずしもこの金額が毎年一定額が増減するかということは、その年度によって異なるということと、そういう団体活動によって増減せられるべき性質のものであるというふうに御解釈を願いたいと思います。それから利子補給金の三百二十万につきましては、この内容は二つに分れるのでございます。一つは運転資金ということで、総額千六百万円を限度といたしまして一年限り最高利率年八分というこの分を補給する、これは本年度限りのもので解消いたしますのでございます。それからそのほかにはこんどは設備改善資金といたしまして総額三千二百万円を限度といたしまして初年度すなわち昭和三十六年度は年六分の範囲内で利子を補給する。それから二年度、三年度については四分の範囲で補給すると、四年度以降はなしと、こういう区分でございまして、それから医療センターの建設補助金五百万円につきましては、これは経営主体は四日市医師会が経営主体となるのでございまして、規模といたしましては二百坪の土地にこれは消防庁舎の東側であります。そのところに鉄筋コンクリート三階建て、延べ四百五十坪程度の規模の建物を建設し、その中に委託を受けて行なう検査室それから医師会の委嘱によって行なう看護婦養成所の施設その他医師会の事務室、こういうふうな建て方でございます。それでこれの運営は医師会が主催し維持、経営も医師会が担当するのでございますが、この医療センターにつきましてはオープン・システムを取ると、すなわち公立病院であろうと私立病院であろうと、それから私人であろうと公人であろうと病理検査及びその他の二十数種類に及ぶ検査を実施する、オープン・システムの運営をはかるということでございます。これに対する助成といたしましては、総額一千万円で、そのうち初年度を五百万円みる。才二年度二百五十万円、三年度二百五十万円、四年度以降なしと、従って

維持経費もみないと、こういう建前で初年度分五百万円を計上させていただいたんでございます。

〔産業部長（浅川謙一君）登壇〕

○産業部長（浅川謙一君） 遠洋漁業基地の件につきまして御回答を申し上げます。

笠田議員さんからお話ございました遠洋漁業基地につきましては、伊勢湾台風以後、一応形だけはでき上ってまいりました。なお、荷受機関につきましては、魚市場株式会社も昨年の九月に設立されて、十一月から発足したわけなのでございますが、これにつきましては御承知のようにまだ基地の整備と申しますか完全にはなっておりませんが、しかしながらこれを推進いたしますにつきましては流通機関あるいは水産品の加工施設というふうなものを設置しなければ完全な運営ができないんじゃないかと、かように考えておりますのと同時に、いわゆる魚市場の会社はできましたが、しかしまだいわゆる荷さばきその他の点につきましては不なれでございまして、これにつきましては近く会社の従業員を先進地へある期間派遣いたしました業務の研修をさすと、かような構想を持っておるわけなんでありまして、それができましたならば市といたしましては漁船の誘致ということと、先ほど申しました流通機関あるいは加工施設の設置というふうなものを強力に推進して、この遠洋漁業基地の最初から計画いたしました所期の目的を一日も早く完成したい、かように考えておる次才なのでございます。どうかよろしくお願いいたします。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 開発局関係についてお答え申し上げます。

先ほど非常な期待をもって新たに生まれた開発局が予算等からながめてみると、航空写真による調査をかりに除いたら統計課と名を変えたほうがいいのじゃないか、何をしとるのかと、こういうお尋ねでございました。われわれ開発局関係のものとしたしましてまことにありがたいお尋ねをいただきましたと、こう思って感謝いたしておる次才で



ございます。

なるほど開発局というものができました。皆さまの期待にぜひこたえたいと思い、まして現在員九名のものではどういられないので、最近のうちにもう五名出していただくことになっております。三十六年度の開発局のなすべき仕事等についても種々打ち合せて、その上で予算等も折衝いたしましたのでございます。多少削られました、それでもわれわれといたしましては大いに奮闘、努力いたしまして獲得した予算でございまして、最もこれを有効に使ってできるだけ御期待に応えたいと思っております。

ところで開発局についてでございますが、私どもは現在の開発局の動きという面から申しまして、さらに開発局の将来どういうふうにもっていかなきゃならんかということについてなお検討することはたくさんあるんでございますが、現在、九名の人間で開発局の担当をやっておるから九名であるこの能力で開発局を考えておるのではありません。予算も委託調査費二百三十万円をもって開発局の予算と考えておるのではございません。当初、市長からお話し申し上げたように御説明申し上げましたように市政全般の機能を集約統合、調整して市政の進展に邁進したいと、この役目を開発局がしなきゃならない。従って人員におきまして、現在、企画、開発の二室にいたしておりますが、私どもとしては関係の各部課長は全部開発局の人間である。市の予算は開発に関する限りすべて開発局に關係のある予算として一緒に検討し一緒に勉強し一緒に実施していく。従って数は九名でございしますが、まことに私ども見るところに勤めてくれておりまして、市長部局のブレンとしての能力を最高度に今日まで数カ月働いてきてくれております。従って当面はこれだけの人間でございしますが、もっぱら企画、立案、大きなことを申しましてこれらも實際できません。そこで重要な問題がございします。いろんな部局に關連する問題についてはすべて開発局を窓口としてこれを調整しながら解決に當っていくという考えでおります。さらに他の部屋に属しない、たとえば鉄道、輪

送力、あるいは電力あるいは四日市市から、先ほど市長からお話がありました四敦道路であるとかあるいは大阪に通ずる道路、道路網の研究、そういうことについても開発局が中心になってやっていく。さらにある部局に關係があっても重大で手の回らないというようなものについては、機動的に開発局がこれに協力して、さらに市長の特命事項等も処理していく。記録をたどってみますという、ほとんど五時に帰った日はないほどよく働いてくれております。こういった調整業務もこれを通じてすべてのものを実施に移していくことが非常にむだなく有効に仕事が進んでいくということでございます、なおなお予算等も、たとえば南部について泊の国有地の問題が具体化すれば一つのこれについての図を引くといったしまして、直ちに測量その他計算しますというと百万円もすぐそのことだけでもかかるんでございまして、この予算で私も満足するのではございせんが、そういったものはそのときと起ってきた時点で皆様に御説明申し上げ御協力をお願いするという建前でおる予算でありまして先ほど来申し上げておりますように決してこの予算だけでなく、市の予算、市の人員はすべて開発のものであるという建前で、かく關係各部課長ともこれは全部兼務であるという建前で進んでおりますから御了承願いたいと思います。

#### 〔笹田七衛君登壇〕

○笹田七衛君 最初に御注文しただけのかがあって非常に手ぎわよく御答弁をいただきましたことを感謝申し上げます。

ただいまの民生部長の現在十分そういう方々を把握してないということとございましたが、ひとり仮設住宅におるのみでなく、全市を十分目を通されて、日の当らない場所に日の当るような施設を十分お考え願いたいことを要望いたします。

次に、市長さんから体育行政について御回答があったのでございますが、これも非常に懇切でいいでござい

たが、ただこの場でいうんじやなく先ほど、午前中でしたか前川議員が尋ねておられましたように、早急にこういう面の権威者等の委員会といいますが、研究会と申し上げるか、そういうようなものを実質に一日も早く作っていただいて、実現に向っていただくことを特に要望いたします。

いろいろと要領をえた御答弁でございましたので、要望だけを申し上げて私の質問を打ち切ります。

○議長（山本三郎君） 次に坂上議員、どうぞ。

〔坂上長十郎君登壇〕

○坂上長十郎君 時間の都合上、簡潔にお尋ねいたします。

私は次の四項についてお尋ねしたいと思います。まず才一番は市政の運営上において市長が民主的な運営に対する政治信条を伺いたいのではありません。才二番は総合開発計画の上におけるところの産業構造の諸点について伺いたい。才三番は教育予算の編成方針の変更方法について、才四番は交通対策問題。以上、四点についてお伺いしたいのでございます。

才一番の市政の民主的な運営に関する問題に關しましては、同僚議員から昨日からただいままでに幾回となく質問をされややくどのような感がありまするが、市政運営上の重要な問題でございしますから、重ねて私からもお尋ねをし、市長の率直なる御見解を伺いたいのでございます。

市長が三十四年に就任されました最初の議会においてどういように述べられたかと申しますると、いろいろ述べられた中において「この意味におきまして私は特に市当局及び市議会並びに商工会議所との連携を一層緊密にして独善の弊に陥ることなく、民主的な市政運営をはかる所存であります」と所信を述べられたのでございますが、過去二年間の市長の市政の歩みにおいて、はたしてこの言に忠実に向われたかどうかということに対して私は疑問を持つ

ものでございます。幸い本年の市政方針を伺いますと、五つの柱の才五のところにおきまして、市長の民主的な市政運営に対して「民主国家として当然のことではありまするが、世論を生かし民意を反映するという議会各位の御協力をいただくのは申すまでもなく、全市民の方々の意のあるところをよくくみ取り、方法を工夫し、十分に市政に反映させるよう努力し、明るい政治を行ないたい」と述べられておるのであります。まさにこの言はそうでございます。しかしいうはやすく行なうはむずかしいのでございます。市政の運営におきましては、ただ単なる市独自の問題に限らず県市との関係、県市並びに国との関係というようなものがございしますからこれらの関係諸施策につきましては、まず事前におのおの意見の交換をし、話し合いを重ね、よい意味の妥協において中庸をえた施策を実行することが最も重要であると思うのでございます。私は過去をあまり問わないのでございますが、将来に対してその実現方法について市長の信条をはっきりと伺いたいのでございます。

才二点、北部の総合開発の計画は市長が就任以来、全生命を投げ打ってこられたのでございますが、不幸にして最初の計画の八幡の誘致は不幸な状態に陥入ったのでございます。しかしこれはやむをえないと私は考えるのでございますが、問題点はこのちにおけるところの北部の総合開発の問題が重大であろうと思うのであります。市長は北部においては重工業地帯を建設したいという希望を持っていたのでございます。先ほど笠田議員の質問の中にもありましたるが、来る二十四日には八幡のほうから新しい施策が内示されるような形になっておりますが、北部臨海地帯にかなる産業構造上の重工業を誘致しようとしておられるか。また内陸部における工場誘致に対して施策がありまするならば伺いたいのでございます。

次に教育予算の編成方針でございます。本市におきましては学校の整理計画として十カ年の計画のもとに進められ、続いて、ただいまは中学校の急増対策という問題について多くの市費を費やされておることとは明らかでございます。

るがこのために必要な教育予算が圧迫されておるのではないか。これは昨日来の教育長の答弁の中にもあるのだから。すなわち学校の需用費の問題、あるいは非常に重要な幼児教育の問題、あるいは社会教育の問題、青少年の指導の問題の予算に相当の圧迫を加えておるのであります。しかし十カ年計画という長い年月の間にいま挙げましたような諸点の予算が圧迫されて、その教育行政上の立場が少しもおろそかになるということは非常に四日市市民のために遺憾の至りであります。市長は教育優先ということをつたたび口にされておるのでございます。だから、このさい、学校の整備十カ年計画並びに急増対策の予算と需用費あるいは幼稚園、社会教育あるいは青少年問題等の予算の編成を別個にして、それらの予算の増額に努力せられる御意思はあるかないか。特定財源が将来において発見されるならばこの方面に全部傾注するという考えはあるかないか、はっきりとお答えを願いたいのでございます。次に、先ほど浜田議員の申されたごとく、本市におきましては文化的施設の足りないところは市民とともに悲しむところでございます。こんごの施策におきまして文化的施設、すなわち昨日から問題にされました図書館の改築、あるいは総合体育館、あるいは本市にふさわしい文化会館、あるいは科学館というようなものを将来の市政の中に織り込んでもらいたいということを私は強く要望するものでございます。

次に交通問題につきましてお尋ねいたします。

幸い今回の市政方針の中に市長は交通問題を各般にわたりまして掲げて、最後には「総力を挙げて解決すべき課題であります。各位の御協力をえて関係方面に強力に働きかけ、その実現を期したい」と述べられておるのでございます。この交通問題を解決するために、一つの交通対策委員会なるものを将来設置して、広義の港湾鉄道道路、交通等、等すべての大計画をここに織り込んでいく御意思があるかないか。

次に、交通問題といたしましてやや小さい問題でございますが、日永の信号所の昇格問題でございます。この問

題は前の議会の交通委員会においてその実施の方法がきめられ、地元におきましても駅舎拡張の敷地買収に応ずるような態勢ができておったかのごとく承わっておるのであります。本議会におきましては三十四年ただ一回だけ交通委員会に諮問されたにすぎず、そのままになっておるのでございます。しかるに南部地区におきましては申すまでもございません。合成ゴム初め新しい工場がぞくぞくと建設され、いまや日永信号所の昇格という問題は機が熟しておるのではないかと考えるのでございます。承わるところによると、この問題に関して昨年末国鉄のほうから市に対して一つの助言があったかのごとく承わっておるのでございます。この問題に關しましてどのようなその後いきさつになっておるか。次に、これをいつ手につけて実現の運びにもっていくかという問題につきましてお考えがあるならばお伺いしたいのでございます。

以上、四点をここに質問いたします。

○議長（山本三郎君） この際皆さんに申し上げますが会議時間が六時で切れますので、一応十時まで延長いたしますから御了承をお願いいたします。（「議長」と呼ぶ者あり）市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 市長が市政の運営につきまして三点、特に会議所と市会とが一体になってやっていきたいということを申しております。この理念におきましては少しも変っておりません。私はたえず会議所へお伺いしております。従いまして会議所との間にほとんど意見の相違を来したことはございません。たとえばだいま申し上げたような具体的にいいますと港湾の問題につきましても、また特に港湾の問題につきましてのうちの、これを共同管理しようじゃないかというようなこと、それから共同埠頭も中央埠頭が必要だ、これは会頭もはっきり同調しております。またこんどの国鉄の複線の問題につきましても非常に賛成をしておってくれます。まあほとんど会議所との間に

意見の相違をきたしたことはないくらいでございますので、たえずやらしていただいておりますが、それかといまして、市は市の立場もございしますし、また会議所さんは会議所さんの立場もございしますんでそうしよっちゃうやっておるといふわけにはいきませんが、非常に私は両者の関係は融和したよい関係ではないかといふふうに思っております。また各方面とのできる限り調和を保って、そうして市政の進展に寄与するようにせよ、という御意見に對しましてはまことにそのとおりであります。市長におきましてはけんけん服膺いたしていききたいと存じております。

それから才二番の北部開発の問題でございますが、ただいま仰せられましたとおり、ただいまの段階といましては来る二十四日に県、市を招きまして名古屋でこんどの新しい計画についての発表をする、こういっておりますが、概要を申しますと、だいたい六十二、三万坪のものを考えておられるようでございまして、さらにその上に予備地とかあるいは海面保有とかいう問題もあるいは出てくるのではないかとこう思っておりますが、だいたい半分くらいの地積を使ってやりたいと思うが、その中でいえるだけのことはいうこと、それから奥地のほうについても少なくとも四、五十万坪は買ってほしいと。それから市に対してどういう道路をお願いするかその他いろいろのことをお願いしたいことがある。また県に向っては港湾関係のことだの工業用水のことだのをお願いしたい。そういうことも会社の申し出を県市がよく聞いて、そうしてそれに対する回答をすると同時に、私といたしましてはその意見を一応拝承してきまして、かねがねお約束申してあるとおり市会にお諮りして、伺うの意図はおおよそこういうふうであるらしいだからこれを受け入れるかどうかということについて御相談を申し上げる段取に進ましていただきたいと思っております。

それから、これがいわゆる旧来の重工業に関するものと背馳したのかどうかといひますと、やはりこれは重工業であります。ただ溶鉱炉を備えないということにまあ非常な相違があり、またそれにかわるべきものやってくれるとすれば、特異性のある工場だということになると思うのでございしますが、従いまして北部一体に對しましてはやはり一つの重工業の基点をなすものだと思っております。これは少し余談でございすけれども、私といたしましては四日市市の将来に非常に重大な影響を与えることでございしますので、おおよそ八幡が考えておるようなぼんやりした線ではございますが、これを申し述べまして、事業界の大先輩諸君に巡礼をいたしまして、こういうものをいってきけると、いままでは二百万坪の溶鉱炉であったがこんどはこういうふうな変ほうをなしてきたと、こういうことに対して四日市市がこれを取り上げるべきかどうか、ひとつ皆さんの卓見を聞かしていただきたいといって私は参考いろいろな御意見を徴しました。いずれも口をそろえて大いに歓迎すべきである。やはり四日市市にそういう大重工業の一つの基礎地を持つておるといふことは将来大きな強味であるから、これは四日市市としては少しも不満の色なく、丁重に扱って、そうしていかにもこれから派生するところの四日市市の値打ちというものを發揮して、そうして北部のこの伊勢湾における大きな一つの転回をはかるべきである、ということをおっしゃっておいでになられますので、私も先輩の御意見が正しいのではないかと、こう思っておりますが、しかし先般もお約束申したとおり市会にお諮りを申し上げましてその御意見をうけたまわった上で決定線へもっていききたいと存じております。また、それに伴ないまして内陸部、これは必ずしも北部だけの内陸部だけでございしません。奥地も全部まっておりますが、これを開発するところの意欲がいまなおあるのかどうかと、こういうような意味にとられますが、もちろん私は奥地のほうの開発をしたいと、何を申しまして今日では都市の生存競争がはげしくて、どこでもうこれでも日もあけんようにしてやっておるのでございます。従いましてどこもかも自分とところのあらゆる美点をさらけ出して、そうしてできるだけのはさらけ出しちゃってそして来てくれ来てくれというふうなふうにやっておりますのでこ

ざいますが、四日市市の奥地につきましては非常にむずかしい状況の地勢のところでもございます。私にはやはりなんらかの格好で港を利用したいという工業と、産業というものがいいだろうと、こう思います。で、そういう方面との関連があり、またそういうことを重視するであろう産業の方面と連絡を取りましてどうしても奥地の開発をやりたいとこの念願に燃えましてたえず注意を怠らずにおるような次才でございます。またこんどのような事件が生じたので、非常に四日市市というものがクローズ・アップせられました。よい意味にも悪い意味にもせられましたが、しかし外部といたしましては四日市市の向後の歩みがどうあるかということについて非常に注意が向けられておることは事実でありますので、四日市市といたしましてはこれを一つのまた契機といたしまして、さらに思いを新たにし勇気を振り起しまして、そうしてできる限りの力を尽して何とかして実を結ばせたいということに一所懸命になっておるような次才でございます。

その次に予算の編成方針の上で教育その他この強化方面のことに対してもっと力を入れたらどうかと、こういう御意見でございますが、教育方面につきましてはかなり重視したつもりでございます。また市内の学校につきましても何らか新しい方途を立てまして皆さんの御要請に応じたいと思っております。またわずかでございますけれども、先生方に対しても研修の道を開いていただいたりそれぞれお氣にいらしませんけれども、ある程度まで手を打たさしていただいております。次才でございますが、特定財源について思い切ってこれにぶち込まないかと、こういうような御意見も拝承したように思うんですが、特定財源ということにつきましては非常に意味が広いのでございますが、私は特定財源につきましてはもしそういうことが起れば慎重の上にも慎重なる御審議をいただいて、そうしてやはり皆様方の御意図のあるところをよく承わってから処理したいと、こう考えております。それから四日市市は文化センターがないからということで、ただいま、前の御質問のときもございましたが、これ

私は理想といたしましてはたゞいまの日永の奥地のほうの団地を開発いたしましたして、そこにあらゆる施設をもっていききたいと、こう考えておりますので、あまりあちらやこちら姑息なものをやってみましても、じきに時代遅れになってしまふと思いますので、土地を獲得いたしましたして、そうして一つのりっぱなまとまった考えのもとに一つ一つそれを実現をはかっていくというふうにさしていただいたほうが四日市市のためであらうかと、こう考えておるような次才でございます。

その次に交通問題でございますが、これほど四日市市がいろいろ交通問題で悩んでいるのだから、交通対策委員会というものをこしらえたらどうか、こういう御意見でございますが、これはもともとございまして非常にお力そえをいただいております。ですが、こんどはいろいろ議会におかれましてのお組み立てが変りましたので、少しく明瞭を欠いておるような節がございますが、つどお願いしておるつもりでございます。しかし仰せられるように、私といたしましてはそういうような委員会を作っていたらいい、そうしてそこでよく皆さんと御相談ができて、しかも各般にわたっての意見が討論せられて、そうして一つの大きな打ち出された施策のもとに、考えのもとに進んでいくということができれば、私は四日市市のために非常に幸福だと思います。市長は御提案に対して賛成であります。ぜひひとつそういうふうな議会におかれましてもお取りはかりをお願いしたいと存じます。

それから日永の信号所の昇格問題でございますが、これが途中で少しくもやりました線が出ましたんですが、それは工場をあの付近にいたしますのに、どうも引込線の関係上、駅にしておるとまがないと、だからまあ駅のこととはあと回しにして引込線のほうを先にやろうと、こういうような考えであったかと思うんですが、しかし先般も鉄道のほうの支社のほうからおいでになられまして、計画の方々が、いろいろ御意見がありましたときに、私のほうは日永のほうは前からお願いしておるのである。だからこれはぜひお願いしたんだと、こうなればもう仕方が

ないから、鉄道はどうも全部こちらから持ち出しをしないとやってももらえないということがよく分ってきたから、自分のほうでもできるだけの持ち出しをしてでも、いわゆる鉄道債を引き受けてでもここはせひひとつものにしていただきたいということを申しました。それに対して係の方は関西線は赤字であるし、こういうところへ、こういうものをするときやあこれは丸出したと、そうでなければ幾らきんだってやれませんが、こういうお話でございました。まあまあそれに近いような決心をしませんとできませんが、しかし少々の経費がいりましても、事業債であればひとつ辛抱してもって、そうしてやはりあの辺が一つの大きな事業場の場所ともなり大ぜいの人が将来出入りすることになると思っていますので、かねてのその地方民の方々の御熱望もありたいしますからこれは当初のとおり実現をさしただきたい。

それならばいつやる気かということですが、これはこちらから幾ら腰を使ってみましても、鉄道のほうで順番もございしますし、また実際の数字をよくにらんでおりますのでなかなかおいそれといつてはやらんと思いが、これも交通対策委員というようなものを作っていたら、そうして打って一丸となって御運動をしていただきたいということを私からもお願いしたいと思うんであります。

最後に国鉄の複線電化ということがもう口ぐせのようにいわれておるんでございます。しかしまあただいまのところとしては、電化よりも複線のほうが先だということがまず常識になっておるのでございますが、これにつきましては、先般もちよっと申し上げたと思うんでございますが、名古屋のほうの市会から強く呼びかけてくれています、いろいろ鉄道のほう行って話をしとるが、どうもこいつはその鉄道債をまるまる持つてやらないと仕事はやらないうそと。だから名古屋のほうでは県、市ひとつ手を携えて半分だけは出すことにするから、四日市のほうでもひとつ半分出したらどうだと、それくらいの決心をしてひとつやろうじゃないか、名古屋のほうは手を差し伸べるから、

こういうことでございまして議長さんともどもそのお話を承りました、爾来兩三回ほどわざわざ委員の方が四日市市へ足をお運び願いました。私といたしましてもよく名古屋の市役所へ行きまして、そうして交通対策特に鉄道関係の委員の方とお目にかかり、議長にもお目にかかり、またさらに日を改めましていまの杉戸助役にお目にかかりまして、こういう話なんだが、ちよっと話がよすぎるように思うが、ほんとうに市のほうの理事者でも出してくれるのかと、こう聞きましたところ、非常に杉戸さんは軽く、そら、議会のほうでそれだけの決心をしておれば、私のほうではそれくらいのもはすぐ出せますよ。ですからひとつ四日市市もひとつ奮発していただいたらどうですか。およそ四十キロあって四十億円かかる、うち二十億円が愛知、名古屋の持ちまえだ、あと二十億が三重県並びに四日市市の持ちまえ、こういうようなふうにしてひとつ奮発しなさいということでございます。さらに最近またわざわざこちらへお出になりましてお話を承りましたのですが、ちよっとしたお昼飯を差し上げて丁重にもてなしてお帰り申したんですが、私はすぐに鉄道支社へまいりまして支社長に面会を求めましたが、都合が悪くてここ一週間くらいのうちでなければお目にかかれないうことでございますが、その際は支社長は、お越しになるのを待っておるのがあると、ぼくのほうがいいということがたくさんあるということで、このほかに霧ヶ浦周辺における操作場の問題とかいろいろの問題を御提案になるのだと思いますが、とにかくにもそういうことにつきまして、先般も南部開発の委員の方々が県にお越しくださるときに、議長さんにお願いたしましてそしてこのことも県のほうへお願いたしたございました。県のほうからはいろいろ御意見があるようですが、またいよいよのどんづまりになって間違いを起すといけませんから、まあとにかく県のほうとしても市と相携えて、そうしてひとつ協力をしようという御趣旨のことはたしかに承わっておりますので、市のほうが腹がすわりましていよいよということになれば、皆様の御了承をえまして、そうして支社との話を進めていきたい、やはりもう現実にこの四十億円の負担をしていく、これは

もちろん事業債でございます。そういたしますと、まず四日市市までの複線ということはまあ長年の待望が実現するというふうなふうになってきまして、見すかしは相当に明るいものだろうと存じますので、せっかくわれわれも努力いたしますから議会におかれましてもさうそいう委員会を結成していただきまして、大きく御進展の機運を作っていただくようお願い申し上げます。

以上、答弁いたしました。

○坂上長十郎君　ただいま市長から私の質問に対して懇切にいいにお答えを願って、私はある程度了解したんでございますが、この際私の考えておるところと要望の一、二を申し上げたいと思うのでございます。

才一点におきまして市長が私の質問を多少誤解しておられるかのごとく思った点は、私は市当局あるいは議会あるいは商工会議所との意見が相反しておるとは私は申さないのでございます。ただ二九年の市長の市政の運営において独断的な感なきにしもあらずという感じを持ったから申し上げたのでございます。市長の市政に対する着想は私は大へんりっぱであると思っておるのでございますが、その着想をいかに施策の上に実現していくかという点においてややかけた点があったんではないか、一つのいかなるいい施策におきましても衆知を集めてその衆知をうまく統合してこれを実際市政の上に運営することが大事であろうということを感じまして申し上げたのでございますから、この点は誤解のないように。しかしこんご広い、多くの人々の意見に従って明るい政治、大らかな立場において政治をやるという率直な御意見を伺って私は満足するものでございます。

次に北部の総合開発の産業構造の問題であります。最初の計画とこんどの示されるような計画とは変わってくるのでございますから、変ってきたときの産業構造をいかに考えるか。臨海をとってみますならば、海蔵川尻から朝明川までのあの海岸線四キロ余をどのようにこんご利用するかという問題及び関連産業としていかなるものを頭に

描いておられるかということについてお尋ねしたのでございますが、この点においては少し私の質問と市長の答弁とに食い違いがあったごとく感ずるのでございますが、いよいよ才二次の案がみなされたときに私自信も所見を申し上げ、また多くの方々の御意見を大いに聞かれて四日市市の発展のためにいい施策を計画されんことを切に希望するものでございます。

次に教育予算の問題でございますが、市長の意見に対して私も満足するものでございますが、この際思い切って特定財源をあてても十カ年計画の促進あるいは急増対策の問題を早くなし逐げて他の必要な教育行政を円満にして、現在の青少年が不幸のふちに陥らないようにぜひ御再考を願いたいことをお願いいたします。

次に、交通対策に関しましては市長も率直に申されたんでございますがでうるならば、早く交通対策委員会なるものの組織を市議会のほうに要請されまして、いま述べられたような諸問題が円満にかつ迅速に一步一步実現され四日市市発展のため、市民の幸せのために大いに努力されんことを要望いたしまして私の質問を打ち切る次第でございます。

○議長（山本三郎君）　暫時休憩いたします。

午後六時二十分休憩

午後七時一分再開

○議長（山本三郎君）　休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。馬嶋議員どうぞ。

〔馬嶋温知君登壇〕

○馬嶋温知君　相当数の退場者があるわけですが、初めに議長から届出者四名というお話がありました。四

名はどなたでございますか。

○議長（山本三郎君） 欠席の届出者は浜田議員、田村議員、森田議員に副議長の中島議員でございますが、午後から中島議員は出席していただいております。

○馬嶋温知君 はいわかりました。

とすると、三名の方を除いては全員ここに出席しておられなければならないはずなんです。先般のある場におきまして、いろいろの事情によって退場、欠席せられた方に対して云々があつたわけなんです。そういう席に席を占めておられた方がきょうここに欠席をしておられる。しかも市長が大いに反省をいたされましてあの本年度の当初予算の説明書を見てもいろいろ御答弁を拝聴してござりましても相当数の低姿勢と申しますか慎重にこんごは話し合いの市政を打ち立てていきたい、というような意欲を盛られていよいよ本年度こそはお互いに衆知を集め当面をするいろいろの問題に対して総力を挙げて推進していきたい、こういったような意図を盛られておるこの総体質問の才二日とはいいいながら、ここに欠席者が多いということは一体どういふような状態であらう、私は実に遺憾に思うのであります。これは大いに世に発表をする必要があると思ひます。

それはそのくらしにおきまして、私もこれで十三人目であります関係からお尋ねしたいといふような問題はそれぞれの方々が発言をせられておりますので、その重複を避けて要望ないしお尋ねをしたいと思ひます。

まず最初にくいようではありまするが、昨年度までは市長が工場誘致のために目を外に向けられて極力わが市の発展を念願をして動いておられましたが、本年度こそはいよいよ目を内にして反省、自覚と申しましようか、内観の世界を深められて、お互いに話し合いの政治をしていきたい、明るい政治のもとに当市の発展を期したい、こういったようなことをする熱意を持って、述べておられるのであります。が、先の坂上議員も「いふはやすく行なうはかた

し」こういうような表現をしておられましたが、私は、どうぞいまままで巷間におきまして独善とか、あるいは独走とか、ないしは一部の議員に相談して云々とか、また、感情に走つた市政であつてはならないとかいふような批評を耳にしておるのであります。それだけにそういったようなものはこの際きようさらりとここで捨てまして、いよいよ明朗なる話し合いの政治を打ち立てる、ということに邁進しなければならぬと思ひます。これはいうだけでなしに実際その施策の方途、方針の実現ということにとりわけ市長の御努力をお願いするものであります。なお合理的なまた能率的な機構改革を近く決行される、これはまことにけっこうなことと喜びにたえません。が、ここで片寄ることなく公明なルールをあくまで守つて人の和というものはかり、話し合いの場というものをもうけ、そうして旧来のような依然たる姿でなしに事務の迅速なる処理等にも留意をもらひまして、所期の目的を果されるように特に要望するものであります。これさえできればわが市の発展は期して待つべきものと信じます。

次に社会教育についてお尋ねしたいと思ひます。

昨年の当初予算のときに不肖私はこの問題をお尋ねしたことがあります。そのときに市長は十二分に行き届いていないと思う、拡充していききたい、従つて社会教育費の増大をも将来考える、といふような御答弁をいただいております。でありまするが、どうしたものかいろんな問題もからんでまいりまして十分盛りえなかつたということは推察できるのでありますけれども、残念ながら社会教育費はむしろマイナスと私はみるのであります。また、市長は組織運営については時代の進運に伴ひ新しい考え方を取り入れていくのでなければならぬと考える特にその道の權威の方々の意見を承わつていく、善良にして精々たる市民を育成するよう十分な組織をもつて行ふ、こういったような御答弁をいただきました。私は必ずやこの答弁のとおりを実現されてくるものと待ち受けておつたのでありまするが、依然ならこれに対する大きな動きはなかつたのでありまするけれども、幸いブロック制というものが取り上げられたのであ



ります。

このブロック制によりましてそれぞれの責任者はその実を上げるべく日夜努力をしておられることは承知しておるのでありますが、いかにせん現在の市状況がこれを許さぬ、なかなか集る人は少なくその実は上ったようにも見受けがたいのであります。まことに残念であります。ここで私はこういうことはどうかと思うのであります。と申しますのは、まず各地区の公民館よりも中央の公民館を充実させる。よき人材をそこに投入すること。が先決であると同時に一番やりやすい問題としてまず投網を打って多くを求めるよりも、青少年の問題にしばってみたらどうか、その青少年を各地区あるいは各館におきまして二人ないし三人ぐらいの青少年は確保できないということはないはずであります。地区によっては五、六人の優秀なる希望に燃えた素質のある青少年は握れると私は確信しております。握れないのはその当時者が熱意がないからであります。それで各地区におきまして掌握しえた、という御無礼でありますけれども、その熱意のある、組織能力のある二、三人の方々を毎月、幸いブロック制がありまするからブロックごとに集めてもらう、集っていただいてそれに本を与えあるいはまた助言をして勉強していただく。そして隔月に中央に全市のそういった人たちを集っていただく。そして研修を重ねていただく。そういたしますとブロックにおいて各地区には二、三名でありまして、十何名、二十名という数になります。全市におきましては百名あるいは百五十名の数になろうと思えます。そういう人たちを本年度こそは育成をしていただきそしてなおこれを機に二年、三年、四年と年々重ねていくことによりまして、有能なる精々たる良識を持った青少年が培かわれるわけがあります。その優秀な青少年が数は少なくても各地に散在することになります。その一人々々が一ごうを照らす光を放ちます。その光と光とがひびきかわされていつかは全市の人か目ざめ、あるいは向上の道をたどる結果になることは必然だと私は信ずる。だから、そういうようなことについてはそう金もかからないし雑作もいらぬこと

あります。今日のごとき公民館が二十数館ときにおいてはそれ以上、しかも館長、主事等職員は相当な数によっております。その総力をもつてするとするならば、一つの地区に二人や三人や四人の者が握れないということはない。だからどうぞそういう方面に意を注ぎ努力を払ってこんご社会教育、特に青少年の育成ということに努力する気があるかないか、市長の御答弁を煩らわしいと思えます。

これに関連いたしまして青少年対策の問題であります。先般青少年審議会が開かれました。そのときに二宮助役さんが御出席をいただいておりますので、そのときにその会の結論として出した問題があります。その問題は市長のお耳にも入っておると思いますのでその結果をいただきたい。ただし、きのうの答弁で、県のほうで三十人の警官を養成をする、専門の警官を養成をするということがありましたから、それは必要ありませんが、その他のことについてお願いをしたい。

それからまた私、敗戦後非常にチンピラがふえまして盗難等粗暴な行いが出ましたそのときに民生委員、司法保護委員、町の親分、チンピラの親分そういったような人をわが家に集っていただきました。そのときにいろいろと犯罪防止ということについて相談をしたことがあります。こういふふうにあるチンピラの親分が申しました。「町や通りは明るくしとかないかん、暗いと犯罪しやすい。明るいところと悪いところとでできにくい、これはどうしても明るうせないかん、夜でも外灯消したらいかん」というような意見を聞きました。そこで自治会の要望もあり本市の意図もありまして外灯を明るくするように施策は述べられております。また実行に移されていくでしょう。が、また皆さんの理事者の答弁によりまして、とりわけ総務部長の御答弁の中にはこんごますます町を明るくするために外灯の施設はやっていきますという御答弁がありましたので、私は答弁はいいだこうと思いませんが、どうかそういった町を明るくするというようなことについて一段と御努力を払っていただきたい。

それから公害防止対策につきましては伊藤太郎議員その他の方々が質問をしておられましたので重複は省きますが、とにかく工場が誘致されることによって海面が汚染される。魚貝数が死滅する、生きておってもくさくなる。この対策はぜひともしていただかなければなりません、くさい魚は食わなくてもすみませんが、汚染された空気は吸わぬわけにはまいりません。本市に生きとる以上は四六時中汚染された空気を吸とるのであります。まだいまのところ本市のばい塵ないしはガスが、直接いまわれ住民の体をおかすという程度には至っていないようであります。けれどもこのまま放置したとするならば私はゆゆしき問題が生じけると確信します。そこでそういった大気汚染の重要性であるだけに、すでに既設の会社に対してはきのうの答弁では三菱化成、火力発電所に対しては善処をしていたべくお骨折をいただいております。こうでありますがいま建設中の会社に対しこれから進出するであろう会社に対し市長は誘致に対してどのような話し合いをしておられるのか、しようと思われるのか、これをお尋ねしたい。きのうは極力会社と連絡いたします、善処しますという御答弁は聞いておるのであります。さい前の趣旨のもとにさらに御答弁を煩わします。

それから屎尿処理の問題であります、これはいままで質問もされ当をえた答弁もありますので、必要はないのでありますけれども、ただ申し上げたいことは、本市の場合は三十万市民を用途にしていま動いとる。人がふえれば屎尿も自然にふえるのであります。また文化生活が向上するに従って塵埃はふえるのであります。また本市は工場の多い関係から屋間の人口と夜間の人口とは違っております。従って汚物の多い都市ということがいえると思うんです。でありますから、今年度中にその終末処理の対策を立てると、こういうふうの方針が打ち立てておりますので喜ぶ一人であります。どうか、口にい、字に書くだけでなしに、その実現に對しまして一段とお骨折りをいただきたい、こう切望するものであります。

次に下水、排水であります。工場付近、主要道路、目につきやすい地区というようなものに對しましては相当計画され予算化されておる向きも知るのであります。が、全市を眺めて見た場合に地区としてはあまり範囲の広いものではないけれども、日夜、排水、下水が悪いために困っておるところが相当あるのであります。こういったような地区にも計画性を持った施策がなされておるのかどうか。道路の問題で建設部長の御説明を聞いておりますと、なるほど説明書にうたわれております市民生活に直結する問題、全市にわたって全地域にわたってこれをというような言葉がありますので、舗装等につきましては相当大小にかかわらず全市にわたってこれを調査をし、この実現をはかるという答弁をいただいておりますので、排水、下水におきましても難点はあろうけれども、全市にわたってこれを調査し、大小にかかわらず並行をして、その市民生活の安泰ということに關連をし福祉というものはかるように御努力いただけるものかどうか、これはちよと御答弁をいただきたい。

それから、いろいろの施策、工事がいままでのところを見ておりますと、予算化され議決されておるものでさえも実施がおそうっておるのであります。いままでの発言者の中にもそういう点を指摘しておられましたが、私もそれをなげく一人であります。だから早くその実現をはかるということについて一段と御留意をいただきたいし、また市の発展のために協力したがために、かえって工場の日夜にわたった建設は早く市の施策は実施がおそいといったような問題で困っておられる地区があると聞くのであります。そういうようなことになりまするとこれからの開発、これからの発展施策等に対しまして協力しようにも協力をしづり、また中に入って話をするにも、実施が遅れるというようなことであります。と、せ、かくの協力者になげきをかぶせることになります。で、そういうことになつてはこんごゆゆしい問題が起りますからして、この点について市長の御意図を承わりたい。

以上で終ります。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） 社会教育の運営の問題につきまして私から御答弁させていただきます。またあとで市長さんからも答弁があるかと思いますが、ただいまは馬嶋議員から大へん示唆に富む方途をお教しいただきましてありがとうございます。本年度の社会教育の重点目標の一つとして青少年の健全な育成ということを取り上げていますので、いただきました示唆にのっとりましてこの方面を開拓していきたいと思っています。

さらにこの社会教育の問題につきましては、本年度予算化お願いしています教育総合調査におきまして根本的な問題を研究していきたいと思っています。

それから中央公民館の問題でございますが、都心部におきます公民館の運営を一本にいたしましたして、中央公民館的な運営をみていきたいという気持ちを持っていますので、これも昭和三十六年度における施策の一つとして取り上げていきたいと思っています。いろいろお教えいただきましたことを心にとめまして十分この方面の開拓をしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君） 青少年問題についてお答え申し上げます。

先の青少年の補導につきましての協議会におきましては、馬嶋議員その他の方から現在の市の機構におきましてこの欠点が指摘されまして、それにつきましては私はその点は十分研究いたしましたから善処したいということをお答えしてございます。

なお、ただいまの御発言におきましてはさらにその青少年の活動につきまして御指摘がございましたが、私も青少年の指導という面におきましては青少年の身心を健全に発達させ、かれらをして誘致に負けない善良なる市民たらし

めるためにはやはりかれらの運動、活動を活発にするこれがためにはできるだけ集まる機会を多くして、青少年特性によりましてところの集まる機会を多くしまして、その集まる機会を指導するわれわれのいい機会だとしまして、これがたによい指導者を持つということが要諦であろうと考えております。そういう見地におきましては、ただいまの御意見はまことに傾聴すべきものでありまして、私たちはその方向に線をもっていかなければならぬと思っております。ひる返って考えますという、この問題は私がこちらにお世話になりますことになりましてから最も早くから重ね重ね伺ったものでありまして、そういう点におきましては本市の行政面におけるところの重要な案件の一つだと私は察しております。

しかしながら市長の施政方針の演説の中にもございましたように、三十六年度におきまして民主的な市政を徹底させるためには、青少年の活動は青少年自信の活動でありますからして、われわれが指導するという見地のみを堅持したのではない。青少年の現状からいかなるものが必要であるかという抽象的な青少年を対象とした施策でなくして、具体的に四日市市の青少年の現在に立脚したところの対策でなければならぬと、こういう気がしております。そういう点におきまして私は具体的にそれらを明らかにしまして関係の方々とは十分意見の交換をしまして、また協議会のごとき組織も活用いたしまして、皆さんの御意見のもとにりっぱな案を立てたい、かように念願しております。目下研究中であります。なお、それらのものにつきましても市長さんの御意見も若干聞いておりますが、この点につきましては市長さんから御答弁いただくことだと信じております。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） 先ほど建設部長の御指名の問題でございますが、都市の排水について舗装には重点を置くが、排水はどうかという問題でございますが、舗装と排水の問題につきましても、まことに御適切な御注意でござ

いまして、ことに簡易舗装につきましては排水が完備しなくては、その耐用年数は半分も持たないという現状でございまして、道路技術者としては一にも二にも排水問題が大事なのでございます。

それでこの都市の排水の問題でございしますが、この区画整理の終了地区につきましては御承知のとおり公共下水道として年次計画をもって進めております。これ以外の地域につきましてはこの公共下水のような根本的な施設につきましては、こんごある年数と調査を必要といたしまして、すぐこれに突き進むということは困難かと思いますが、道路改良の側隣、用悪水路費その他、都市下水路の維持費をもちまして維持費の予算増額をこんご心がけてまして、排水の問題を解決つきたいと思っております。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 工場がどんどん建設されるに伴って起ってくる公害の防止ということについて、現在までのものについてはいろいろと努力しておることであり了とするが、現在建設中及び将来誘致するものについてはどうかというお尋ねでございしますが、現在までものに対してもそのように考えておるのでございまして、ましてや現在建設中のものについては強くこの点についての要望をいたしておりますとともに、将来誘致するものについては、もちろんこういった態度を厳然として、ぜひとも一般市民生活に被害の及ばないように要望もし努力もする覚悟でございすから、御了承願いたいと思ひます。

次に、誘致に協力された方々が、これに関連する施設が伴わないためにかえって非常に困っているじゃないか。まあこういう御指摘でございします。南部地区におきましてそういったすでに現実が現われていること、私もよく承知もし責任も感じているのでございしますが、実はわれわれの実力以上に、われわれの予想以上に発展が急速度に行なわれたともいえるのでございまして、これについていくことにいままでも狂奔していると、なお力及ばずという点は認め

ざるをえないのでございしますが、本年度の施策といたしましてもできる限りの努力をいたしまして、被害が最少限度になってなんとか切り抜けるようにと努力いたしております。御了承願いたいと思ひます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 馬嶋議員にお答え申し上げます。

ただいままでに一応所管の人々から御報告をいたしましたのでございまして、私の考えといたしましてもそのとおりでございしますが、そのうちで、特に私、大へん申しわけないと思ひますことはこの青少年の問題でございしますが、これはまことに心の痛む問題でございしますが、ただいま申し述べておりますように指導する側の態度もあります。やはりある意味からいきますと、一応呼びかけまして、そうして青少年の自覚心を起していただくと、特にただいま馬嶋先生からお話のありましたように優秀な方をひとつ出してきていただいて、そういう方が指導的といひます。導かれる人の、リーダーとなるような方もそうでございしますが、このリーダーになるような少年を導く人の人格ということも非常に重要な問題であり、またその人の感化力というものが非常に大きな影響を与えていることを思ひますので、かかる方面につきましては非常に御関心を持っておっていただく議員さん方の中からも、いままでも馬嶋先生にもいろいろお世話になっておるのでございしますが、特にひとつお力を入れていただきまして、市会の方々でこういう方面にお力添えを、専門的なお立場からひとつ特別なお力添えを私はいただきたいと、むしろ役人

というような立場でいたしますよりもずっと私は効果が多いと思うのであります。われわれももちろんなら資格のないつまらぬ者ばかりでございしますけれども、努力をいたしまして、この方面に対するなんらかの寄与を深めていきたいという考えは持っておるのでございます。

それから、来た工場に対していろいろの市の施設がおそうなっていくので、来た工場が非常に迷惑をしておると、将来工場を誘致しても、四日市市とはこんなところで、行ったら何もやってくれないぞと、やってくれてもおそがけだと、これじゃいかんというような評判が立ちましては……これは違いますか。

○馬嶋温知君　ただいま簡単にして要をえた答弁をいただきました。

そこで才二にお尋ねいたします。社会教育の面は開拓をするという御答弁でありましたが、ただいま申し上げましたことは開拓するという言葉で、私ちよつとまあ解しかねるのですが、実行に移すという、そういうことですか。(教育長うなづく) それではけっこうであります。どうぞこれは易々としてやりうる問題であります。これのやれないような館長や主事はいないと思います。そこでは二宮助役の御答弁では青少年自身の問題だ。これは握り下げていけばそのとおりであります。がしかし実際問題としてお前さん自身の問題だ、民主だ、お前らの意見はどうだ、お前らどうだといってみたところで、これははじまりません。私もお粗末な経験ではありますけれども、それでは百年待っても実効の上るもんじゃありません。従ってさい前のような方法もどうかと思つて申し上げたような次才であります。が、これは公民館としてのあり方が、いままでのお考えの上、法令の上では導くんじやない、縁の下の方持だと、教育の場を与えるんだと、こういうたようなことになっておるのであります。従いましておそろくその当事者もやりにくいんだらうと私は推察するのでありますが、現在ではせつかくあれだけの職員を使いあの公民館を持って予算化もしておるのでありますけれども、花を活けたり特定の人のリクリエーションの場所になったり、ダンス教習

の場所になったり、実にどうもなんといひまするか、うなづけない面も、行事青年団と過去にいうておりましたが、行事公民館のごとき状態を呈しております。従つて私は重点に、本年度は当市の状態を開きますのに警察当局におきまして四日市市の暴力を排除していこうじやないかというたような施策が盛られております。さいわい青少年の保護、指導に當つて補導員が努力をしておられ研究も重ねておられます。従つて私は青少年対策の問題につきましても、この前出席させていただいて県警のこの専門家を常駐させよ、あるいはまた夜間パトロールをしてらう、あるいはまた外灯を多くしろあるいはまた本市においてもこういうたような問題に対しては教育課と厚生課とがチャンポンにしておるようなきらいがあるから一体化してみたらどうかというたようないろいろの問題が具申されておるはずなのであります。

で、そういうようなことからかみ合していきますと、本年度は青少年の育成にいままでの公民館のあり方はそういうあり方かもしれないけれども相当数の年輩であり識者である公民館の館長ないし主事が二人や三人の人を導くんじやないといひながら、雑談のうちに、話をしとるうちに、行動を共にしとるうちに何かをかれらに、暗示を与へ助言をし資料を与えていくとするならば、私は必ずや二人や三人や五人の人は把握できると思う。その道をひとつやるとおしやるからして、私も及ばずながら微力をその方面にも協力し捧げたいと思つておるものでございます。どうぞひとつその問題に今年は取り組んでいただきたい、こういうことをお願いいたします。

次に公害防止については、極力努力していくんだ、もちろんそういうことはいままでに聞き及んでおります。しかし空気は吸わぬわけにはいきませんのでどうぞ、どうぞこのまま放置したならば市民に思わぬ不幸のきたすときもあるかと思ひまするのでお願いした次才であります。どうかこの問題については手ぬかりのないように善処をお願いしておきます。

それから下水の問題ですが、これは相当本市の各地区にあるわけであります。それで奥さん方やその他の人たちが相当この悪水があふれておるし流れていかないし、雨が降れば水つきになるし困っていらっしゃる。いま担当の方から意欲のある御答弁をいただきましたのでこれはいいわけなのであります。雨池川の付近の話を私は特に聞き及んでおるわけなのであります。あそこは、なんでも聞くところによると工場誘致する前にこの道路や排水等は整備をする、こういうことじゃないかと、ところが、利益会社である関係から夜を日について工事が進んでいく、市の方面は相当大きな問題で、いま助役さんの話のようにあるもんですから、これについていけないというようなところで陳情、陳情で地区の人は苦しんでいらっしゃる、そういうことを聞くわけなのであります。それでこんこの開発問題、本市の施策を進める上におきましてもこういったことがスムーズに行なわれないと難点が出てまいりますからして、どうぞそういうことのないように、極力本年度当初予算説明書の中にうたわれておるあの精神、方針を实地に移していただくよう重ねて切望いたしましたして質問を終ります。

○議長（山本三郎君） 次に早川議員。どうぞ。

〔早川和一君登壇〕

○早川和一君 私がお尋ねをしたいと思っております。義務教育施設の整備十カ年計画につきましては、坂上議員なりあるいは昨日浜田議員から触れられました。一応市長から答弁がございましたが、はなはだ抽象的な答弁でございます。したので、私は満足できませんから、重ねて御迷惑でございます。お尋ねをいたしたいと思います。

その前に教育委員会に一言、申し上げたいでございます。昭和三十六年度の予算の編成をなさるに当りまして、市長との折衝に当って再三再四にわたりまして整備十カ年計画の実現の一日も早く実行に移したい、こういう熱意のもとに復活要求をなされてこの予算が組まれたと聞いておるんですが、この教育委員会の御努力に対して委

員長に対しまして深甚なる敬意を捧げたいと存じます。

次に、市長にお尋ねを申し上げますが、市長は今回の教育予算の編成方針に当りましては、教育委員会の立案を尊重してそうして実行に移したと、こうお述べになっておりますが、手元に配布されたところの予算案をよく調査してみますと、昭和三十六年度に実施に予定になっておりますところの、例を私は挙げますが、浜田の小学校が見つかりません。さらにまた昭和三十五年度に才一期計画を行なわれたところの中部西小学校中部東小学校、納屋小学校の才二期工事の予算も出ておりません。これはどうしたことかと思っております。さらにまた私もとも委員会におきまして焼けたところの富田小学校の復旧計画につきましては、予算面を見ておりますと、私もとも委員会でも教育委員会の方針として説明を聞いたものよりも縮少をみておるような次才でございます。先ほども同僚議員が申し上げましたとおり、義務教育施設整備十カ年計画なるものが教育委員会におきまして立案をせられまして、私もとも議会におきましてこの案を示されまして同意を与えたものでございます。こういう意味におきまして、学校に、危険校舎に学んでおりまところの児童におきましても学校の先生方を通じ父兄を通じて、今年こそはあの雨の降るやぶれた音の響きのたかい校舎が改築されて、喜んで教育を受けられるりっぱな校舎が建つんだと非常に期待をして待っております。ところが、もしもこの期待が裏切られましたらば、将来をになうところの青少年に対しまして市政に対する不信が抱かれるのであります。こうなりましてはわが四日市市にとりまして非常に憂れうべき問題ではないかと私に考えるのでございます。その意味におきまして市長はこの遅れをどうして取り戻すか、すでにもう本年の予算に現われておりますところの塩浜小学校におきまして、これは三十五年の問題でございます。こういうふう遅れてまいりますと、十カ年計画を絵に書きまして実現ができないのではなんにもなりませんから、この遅れを次に来るべき追加予算なりあるいはまた予算外義務負担契約などもなされて実現をされる意

思があるかないか、この点を私、たしかめたいと思います。

もう時間も迫っておりますので、この点だけをお尋ねいたします。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） お答えを申し上げます。

十分教育に関する予算をとってないからというお叱りでございますが、相当にとらしていただいたつもりなんですございますが、しかしただいま仰せられましたように、特にこの市内関係を眺めてみますと、十カ年計画といいますが、どれも、もはやちよつと見ておれないというような感じがしきりにいたしますので、できれば予算外の義務負担というような格好のところにもっていった、この際皆さんに喜んでいただけるような方途を講じさせていただいたかどうかという心組みを持っておるんですが、各学区からそれぞれ御熱心な御陳情がございますのでよく承わり、重ねて市会にお諮りをして御期待に沿うことのできるような努力をさせていただきたい、こういうふうに思っております。

どうぞよろしく願いたします。

○早川和一君 ただいま市長からけっこうなる御答弁をいただきましたので重ねて要望を申し上げておきたいんですが、私の調査したところによりますと、十カ年計画を完遂いたしますまでは五億数千万円のお金が必要だと思えます。ところが皆様も御存じのように市におきましては国の補助とか起債を待っておるのでございますが、ところが本年度に至りまして御存じのように小学生が減ってまいりました。ここ数年間は児童が減少いたしますので、危険校舎に対する国の補助なり起債額も従って減少する、私の聞いておりますところでは約五千万円程度の補助と起債しか交付されない、こういうように聞いておりますので、この際いま市長が申されましたように思い切って、

昨日も浜田議員が申しましたが、すでに銀行から借り入れて三億に近い金を漁業補償として支払っております。

その金が幸いにいたしましたのでこの三月の末までには市の手元に返ってくるはずでございますから、できることならばこの半分でも、一億五千万円でも投入をしていただいて、そうしてなるべく早く、一日も早く危険校舎を解消していただいて若い世代の子供たちが喜んで勉強のできるように御尽力あらんことを切に願ひいたしましたして私の質問を終わります。

○市長（平田佐矩君） ただいまの御要望のうち、このことに要します経費といいますが、ものにつきましては、これはこれとして考えさせていただきたい。別個の独自の立場で、これはやらしていただきたい、こういうふうに御承知をお願いいたします。（早川和一君「了承」と呼ぶ）

○議長（山本三郎君） 暫時休憩いたします。

午後七時五十九分休憩

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。

午後八時十三分再開

次に錦議員、どうぞ。

〔錦安吉君登壇〕

○錦安吉君 まず才一に公共下水道の現在のまた三十六年度の実施計画、それから継続的の計画、特に完成の時期という点を重点においてお尋ねいたします。

○議長（山本三郎君） 錦議員、公共下水道はいまのところにはありません。

○錦安吉君 あつ、これはミスやった。「声を大きくやってください」「元気がないぞ」と呼ぶ者あり）元  
気も何ももうその十五番目やでもういいことないようになってしまつて……。〔笑声〕議長の御注意をいただきま  
してこの点は後刻お伺いをいたします。

まずお尋ねいたしたいのは三滝川の改修工事の現在及び将来の予定計画、御承知のように着手当時に川巾が狭くな  
るといふような御計画から、四日市橋は半分が木橋でありまして、北の半分が永久橋になっておりましたが、その半  
分の木橋が腐朽はなほだしく、目下、鉄筋コンクリートの橋にかけかえ中でありまして、いかに長年月をこの工事に要  
しておるかという事は、遅々として工事が進まない状況でございますが、市政方針の中に一言、触れてございま  
した。もっとも市営工事でございますので、その計画等市の思うとおりにとはならないところが多分にあると思いま  
するが、これは四日市市にとりましては重要な問題でございますから、また長年にわたり強力にこれらの工事の完成の  
ために四日市も相当の負担をいたしましてしております事業でありますので、特にどのような現状になっておるか。  
また将来の計画がどうなっておるか。また市はこの問題に対していかに将来お考えになって御努力をくださるかどう  
かという点をお伺いいたしたい。

次に、土木費の中で道路の改修とか舗装、橋梁等のかけかえ等の工事が予算に相当計上されておりますが、この  
工事実施の配置図と申しまするか、図面でもってひとつ図示して、提出をいただけないか。全市を一目して、図面に  
印しを入れて見せていただきますとまことによくわかるわけでありまして、過去におきまして一地方に相当工事  
量が多くて、またある方面には等閑に付されるという問題もありましたし、山中議員からいろいろな御質問もあつた  
ようでございますが、比較的重要で緊急を要するような場所もときによつてあと回しになっておるといふこともご  
ざいます。昨年度におきまして防塵舗装を実施するためにこの予算額が少くないので無理もないのでありますけれど

も、私の近くにおきまして、三滝川から南、稲葉町・生桑線のあの大通りから北、あの地帯ずっと港から西まで、  
遺憾ながら防塵舗装をしてもらつた路線はない。ただ一つ諏訪公園の西側を通っております岡田屋の角の少し進んだ  
ところから西町に県道にまいますあの線、少しく西町のほうにかかつて延長をしていただいたというふうなことで、  
あとで地元からいろいろ私は意見をいわれた例があるのであります。それで工事の実施図と申しますか、それを簡単  
にお願いしたい。それをしていただけるかどうか。

才三に、青少年の補導という問題が相当重要な問題でありまして論じられておりますが、私は同僚諸君の質問に  
対して市の当局の御答弁に対してやや不満を持つものでありますので、理事者はですね青少年の補導対策のために特  
別の機関を設けて、この問題を真剣に処理するというお気持ちはあるかないか。また、将来そのような研究をしてみ  
るお考えもないかどうか。他の都市におきましては、特に青少年課あるいは青少年係、これをついにまとめまして強  
力に活動をしておるところもあると聞いておるのであります。この点をお伺いいたしたいと思ひます。

次に、相当この予算化されておりました、特にいろいろの工事の面におきましてせつかく予算化されておりますに  
かわらずその実施と申しまするか施行が遅れがちであります。年度末ぎりぎりに完成する。中にはまだ三月の年度  
締め切りのときに工事中のような例も相当あるのでありまして、これが実行を促進する、またせつかく予算化した仕  
事は年度内に完成するという御努力が望ましいわけでありまして、よつて私は昭和三十五年度の事業繰り越はその目  
ぼしいものはおおよそ何件でどれくらいに上るか。また年度中に完成の見込みのものはどれだけ。工事中であつて完  
成見込み。また不可能のものはどれくらいあるかということ、土木、建築、農業土木、そういう方面で分けてひと  
つ、わかりましたらお聞かせを願ひたい。と同時に、よくあることでございますが、工事もできておりませんのに  
できたようにして金だけ払うといつてあとからゆるゆるということとはひとつなるべくしないようにしていただきたい。



それがためには、年度も、締め切りも迫ってきておりますからして、いままらでも大車輪で工事の促進に当たっていたければ幸いだと、かように思うわけであります。

次に綱紀の肅正に留意していただきたい。それについて当局の御方針を承わりたい。私の申しますのは、綱紀と申しますのは、服務規律等も含むのでございまして、もちろん刑罰に触れるような行為をいたす者があれば、これも肅正の中に入るわけでありすけれども、最近ややともすると服務規律がゆるんでおるのではないかとというようなことをいわれる人があります。そうしてまた信賞必罰ということが必要でございしますが、それらの点もあわせて御答弁をいただきたい。ごく最近に市の宮造物を火災によって烏有にきたしたようなことが二件もあったんでございしますが、最も最近の事例といたしましては富田の小学校が焼けた。その原因について警察の調べが相当苦心されたようでありますけれども、最後に原因が判明したそうでありすけれども、その後新聞紙に載っておった程度でございまして、当局からは何の御報告も受けておらない。されたかわかりませんが、私は聞いておりません。それについて将来を戒しめるために、はたして学校当局に落度があったかたかということは一応検討し、そうしてそれを明らかにしておいてもらわなければならない。責任をとれ、処罰せよというのではありません。そういう場合にはうやむやで過していくことがいけない、こういうふうには私は考えるものでございます。青少年に対する質問に対してはなるべく市長さん、助役さんからお願いをいたしまして、その他のことは事務的に聞かせていただければけっこうでございます。

さらにもう一つ最後に、私はこの議会の運営について議長に申し上げたいことがあるのであります。市政方針と議事運営とは性質が違いますので、ここで一応打ち切りまして、理事者の御答弁をいただきまして、さらに次に発言をいたしたいと存じます。

どうぞよろしくお願いいたします。

〔土木課長（天野正春君）登壇〕

○土木課長（天野正春君） 錦議員の御質問にお答えいたします。

まず、公共下水道の三十六年度の予定でございしますが、三滝川の改修の工事でございますが、三十四年度におきまして四百万円の工事費で工事が施行せられました。これは県費の負担を伴いますので、市は六分の一を負担しておりますが、市はその負担に應ずるのでございますが、県費負担が伴いますので、四百万の仕事こそできなかったという現状でございします。なお、三十五年度におきましては相当増額になりました千四百五十万円の仕事をしておられます。これに対する市の負担も六分の一でございまして、なお三十六年度におきましても三十五年度と同額、なおそれ以上の事業費を予定されておりまして、相当の事業量の伸びを示しております。

次に、土木費の予算計上されておる箇所を図で示せということでございますが、これは本会期中に、現在作成中でございますので、これを図に示しまして手元へお配りしたい、そのように考えております。

なお、土木工事につきまして相当工事が遅れておるという御質問でございますが、三十四年度においては伊勢湾台風の影響で相当仕事が多かったためにそのほうに、災害復旧のほうに相当課員が集中して仕事にかかりました関係上、相当遅れましたのは事実でございますが、三十五年度におきましては相当進んでおりまして、なお一部に用地買収その他の原因によりまして遅れとる箇所が数カ所ございますが、これも極力仕事を、業者を督促しまたは監督を十分にいたしましてすみやかなる完成をいたしたいと、そのように考えております。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君） ただいま青少年補導につきまして御熱意のほど伺ったのであります。私たちはちようどいま先

進都市の前例を調査、見学しておりますので、それらの結果を十分検討しまして、ただいまいただきました御要望に沿うように結論が出ることを期待したいと思っております。

〔総務部長（林義男君）登壇〕

○総務部長（林義男君） 事業繰り越しの問題につきまして私のほうでわかっております全般にわたりましてお答えしたい。

錦議員さんの御質問では何件、幾らというように答えろという御要請でございますので、一応いま考えておりますわれわれ事務的に、これは事業繰り越しをしなかったら年度内に完成できないというのをそれぞれ費目別に申し上げます。

市役所費で約三件、千九百六十五万円でございます。それから消防費は一件、七百五十九万円。土木費が一件、九百二十三万円。都市計画費では一件、五万円。教育費で十二件、六千五百二十四万二千円。社会及び労働施設費の中で、これは公営住宅でございますが、公営住宅は小林団地の関係で全部三十五年度事業を三十六年度に繰り越す予定でございます。それから保健衛生費で三件、千二百三十六万六千円。それから都市下水路費で二件、九百七十七万五千円。産業経済費で二件、これは御指摘の農業土木関係でございますが、このうちの二件といえます一件は災害復旧関係で、小、中の災害を含めまして事業繰り越しをしたい、こう考えておりますので、その一件ははっきりいたしておりますが、もう一件はその他多数の一件でございます。それが千五百五十二万八千円。だいたい本年度事業繰り越しを予想しておりますのは一億八千万円余に相なるのでございます。工事の進捗その他につきましては市の財政計画その他によりまして多少の問題はあると思いますが、われわれ財政担当者としてはおっしゃいますように年度内に一切の事業を完工したい、こういう考えを持っております。ところがそれは財源その他の関係によりまして一切四月に

着工できるというようなことは考えておりませんが、その辺の資金操作の按配と各担当部局の事務処理の能力とに依りまして年度内に一切完工したい、こういう考え方を持っております。

〔教育委員長（杉浦西太郎君）登壇〕

○教育委員長（杉浦西太郎君） お尋ねの富田小学校の火災のことについて簡単に申し上げます。

実はこの火災の原因につきましてはただいま錦議員がおっしゃったような原因が非常に複雑でございます。警察にお調べ願っておりますが、本年、正月の四日から五日の日に私と教育長と富田の警察署へまいりまして、直接、署長並びに取り調べの係の人から原因を尋ねて聞いてまいりましたわけでございます。簡単に申し上げますと、小学校四年生の男の子で、非常に知能の程度が遅れておる子供であるということで、しかも最近に他の地区から転入をしましてまいりまして住いも陸橋の下雨の漏るようなところに住んでおる家庭の子供で、父親は不具者のようでございます。前科が五、六犯あるようで、母親が工場に出てからうじて生活をしておると、こういう家庭の子供のようでございます。母親は工場に出ておりますし、父親はさような関係でなんかの行商に出ておること、ほとんど両親がうちにいない。学校から帰ってまいりまして両親がいないので行くところがなくて学校へ遊びに来るとか、あるいは近所の物をとるといふような性質の子供である。たまたま当日も学校がすんでから、うちへ帰っても仕方がないというので学校へ遊びに来ておって、鍵のかかっておる教室ですか、入り込んで、そこで寝ころがって漫画の本を読んでいるうちに、たまたま一月ほど前に近所で盗んでまいりましたライターを持っていたらしくて、ライターをもて遊んでいるうちにまたわらにありました戸棚の紙きれにおもしろ半分火をつけ、それが元でカーテンに燃え移って天井に広がった、こういうのが原因だということがまあわかったんであります。その取り調べに当りましても、警察では特にいろいろの原因を調べた結果、どうも放火でないかということいろいろ調べた結果、そのようなことが出てきた

わけで、発見の端緒と申しますのは、たまたまその後約一月ぐらいいしてから当直の先生が日曜日に校内を見回っておられますと、人のいないはずの教室の中で音がしたということから調べてみたところ、その子供が学校へ遊びに来て、内緒でその教室に入っていたところから、あの子供でないかという方針のもとに自発的な供述をうる方法を警察のほうで考えましてその結果子供の口から間違ひなく自分がやったのだということを生徒が隣の部屋で立ち合いのもとに、強要あるいは強制というようなことなしにさような自供をえたんだ、まあこういうことでございます。結局、家庭なりあるいはまた本人の知能の点ということについて原因がある、まあ先生としてもそういう点についてある程度の監督なり注意はしておったようでありますが、さような結果に立ち至りましてあの校舎を焼失したということは、当委員会といたしましてまことに申しわけない。その後この子供の処遇ということも、児童相談所なりあるいは鑑別所のほうと相談いたしまして、ただいま津の収容所に収容されて特別の補導を受けておる、こういうことであります。

この事件についての管理者としてのわれわれの責任はもちろんでございますが、校長も施設の管理の一端を直接負っておるということで、なんらかの処分をしなければならぬということで県の教育委員会と相談いたしました、当教育委員会の訓告ということで処分をしております。なおわれわれも、先に日永の事件もございましたし、また重ねて半年たたざる間に二つの事故を起したと、まことに申しわけないということで、私及び教育長は辞職願ひを出したわけですけれども、間もなくその儀に及ぼすということで残されておると、こういう現状になっております。

なお、日永の場合も簡単に御報告申し上げますと、給食室から火が出たわけでございます。あの場合におきましては発火の原因である煙突が伊勢湾台風で痛みましたのを完全に修理をして使用をいたしておったわけで、この責任は直接の専門職であるところのボイラー・マンがこれに当っております、この専門的な立場からの管理をいたしておりますわけで、学校側としてはそれに対して一応の監督はございますけれども、直接の専門的な技術に対する干渉はでき

ませんし、また専門職としての技術を尊重しておるといふ立場でまかしてあったわけなのであります。たまたまその一部が亀裂を生じて、そこから火が漏れて天井へ延焼した、こういうことが原因でございます。この事件につきましては、ボイラー・マンは検察庁でその過失のあることが明白になりましたので、取り調べの結果裁判所へ回って罰金の処分を受けております。その以前に学校を自発的に退職いたしておりますので、このほうに對しては処分はいたしておりません。で、校長につきましては先ほどの富田の場合と同様に県教育委員会と相談いたしまして、当教育委員会の訓告の処分をいたしております。

だいたいそういうふうな経過をたどっておりますのが、ただいまお尋ねの火災の事件でございます。で、富田の場合、いま錦さんのおっしゃったのは、やはりその原因が少年にあるということに、やっぱりある程度の意味があるんじゃないか、私、かように考えまして、青少年の問題につきまして先ほど来錦議員初め、あるいは坂上議員とか、午前中には大谷議員その他の方からの、いろいろこの問題についての重要性を御認識になつて真剣なる卓越な御意見を拝聴して私も実はその御意見に多分の敬意を表しておるわけであります。

御承知のようにこの青少年問題、いまの段階におきましてはこれは日本の問題、もちろんそうでございますけれども、過日の安保問題にも匹敵するような重要性をいま持ちつつあるように私考えます。と申しますのは、昨年の浅沼事件の少年も十七才、また今回の嶋中事件の少年もやはり十七才ということで、この二人の少年が outcome、いま日本中は何と申しますか、この二人の右翼のために、二人の十七才の少年のために日本の民主主義が締め殺されつつあるのだというふうな反響を現に巻き起しているのであります。どういふわけでさようなことになったか、原因についていろいろ探求されておる、その原因について問題を起したのが例の飯守裁判官事件というようなことで、日本まさに二人の少年のために上への大騒ぎと、しかもそれが十七才の少年であると、まあ少年問題についてわれわれ

大いに考えなおしてしかるべきではないか。

この対策を考えてまいりますと、先ほどの富田の少年の場合にも通ずるのかと思いますけれども結局問題になってきますことは、最後には教育が悪いんじゃないかと、そこへどうしてもはね返ってくるようであります。家庭教育が悪いんじゃないか、学校教育が悪いんじゃないか、あるいは社会教育が悪いんじゃないかということになってまいります。うっかり安心しておりますと、東京に出したせがれがドスを持ってだれかを傷つけると、小森少年のおやじさんのように、われわれもいつ職をやめなければならぬというふうな危険にさらされておる。まさに父親安閑として毎日仕事もできぬというふうな状態にも考えられる。結局、問題は、最後には家庭にしろ社会にしろ教育というところに原因がはね返ってくるように考えられるわけです。その点につきまして、きのうからの教育についての予算がたりないじゃないかというお話がございました。また今日は特別財源としていろいろ返ってくる金があるじゃないかと、これを教育施設のほうにどんと使って、この危機を突破するというふうなことをお考えいただいておりますように私、考えまして、まことに教育委員会といたしましては皆さんの御発言なりあるいはまたおはげましなり、またこれに対する当市長の御答弁を聞いておりますと、皆さんの御意見を聞いた上でひとつその方面にぜひ使いたい、こういう御意向のあることを伺いまして、まことに私、当委員会といたしましてはこの議場における論議の結果、当委員会の難問でありましたところの、たとえば十カ年計画に対するこの建設費用の問題とか、あるいはいま申しましたような教育の壁でもってその実現が非常に薄くなっていると考えられております、たとえば図書館問題にいたしましたもあるいはその他の教育諸施設の問題が氷解するような気がいたしました。まさに益と正月が一緒にきたというふうな感じでございます。われわれもいろいろ市の財政ということも考えまして、われわれの理想とするところの教育のあるべき姿ということも考えておりますけれども、やはりそこに一定の予算の制限ということもございます

ので、前年来のいろいろの例をにらみ合せいろいろ予算も立てておるわけでございますけれども、いま教育が、皆さん御承知のようにこのロシアが月世界にロケットをぶち込んでから、技術教育の各国の競争ということになって、それもちろんでございますけれどもイギリスもアメリカも防衛教育というふうな名前で中共と同じように熱烈な競争をやっておるという現状でございます。教育の問題ますます重要性を加えてくる、こういうことでございます。どうか、さような一般情勢もひとつ御理解願って、昨日から本日にかけての議員の方々の教育に対して寄せられておるところのその熱意を、どうか今回の予算の審議に当って生かしていただいて、ぜひとも実現していただきたいというふうなことを、私、お願いの方々、また皆さんの御理解に対して、また御激励に対してもお礼を申し述べて答弁を簡単に終りたいと考えております。ありがとうございます。

#### 〔錦安吉君登壇〕

○錦安吉君 綱紀肅正の問題を出しましたが、言葉は綱紀肅正という言葉を使いましたが、私のお尋ねしたい内容は、ただいま御答弁いただきましたことについて御説明を願いたかった。すでに処置もされておりました、県職員の先生には県の教育委員会と協議をされて御処分済みでございました。その措置が妥当かどうかというところまでは私どもが申し上げることもありませんし、またよくわからないので、これでけっこうと思います。

三滝川の改修工事の一つ国、県に大いに働きかけて、これを関西線の複線電化というふうな問題にも匹敵するくらいに、この三滝川の切りかえ工事、改修工事ちゅうものは私は重要な事柄ではないかと、かように思うのでございませうが、いままでは一層これに関心を持たれまして、できる限りの早期完成とまた計画の変更を要するのであれば、計画変更のりっぱなる理想的な計画に作り直すということに御努力をお願いいたす次才であります。

○議長（山本三郎君） 暫時休憩いたします。

午後九時十九分休憩

午後九時五十三分再開

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続き会議を続行いたします。

あと数分で十時になりますので改めて十二時まで時間延長をいたします。なお、休憩中に運営委員会に諮りました結果、本日十二時まで時間延長をして審議を願うこととし、なお、この時間に片づかなかった場合は延会といたしまして、明日二時から本会議を再開いたしますからさよう御了承をお願いいたしますと思います。

次に、橋詰議員。どうぞ登壇してください。

〔橋詰興隆君登壇〕

○橋詰興隆君 きょう、今日と引き続きましてたいへん皆さんお疲れのなかを、私が本来ならば若干時間をちぎめてもいいわけですが、個人の問題と違いますので、理事者もそのつもりで御答弁を願いたいと思います。

まず、総務部長にお尋ねいたしますが、毎年、中央、国のほうで地方の財政計画というものが立てられます。これと自治体との関係が緊密な問題があります。この点をどう理解されておるか、これをひとつ御説明願いたい。もちろんこの予算が編成された当時においては、国の地方財政計画というものは発表されておりませんけれども、現在においては発表されておりますのでどういう理解をしておられるかということを御説明願いたいということ、県の予算編成方針に対する通達がたしか出ておるはずでありますので、この点についてもあわせて御説明願いたいと思います。それから、才二点は市長にお尋ねするわけですが、昨年のこの予算市会において私が市の行政の中で労政問題を取り上げてもらいたいという、こういう要望を行なったところ、市長は最後においてこういうことを申されております。

「まことに御意見ごもつともでございますので十分意をもちまして対策を講じたいと思います。」こういうことを明確に表明されております。その後過去一年の間、具体的な政策がいつ出るかということでもひそかに期待をしておったのでありますが、この一年、なんらの労政に対する具体的な計画なりあるいは施策というものがなされておられません。この点市長はどういう考え方をしておるのか、改めて本年のこの席上において私に対する御答弁を願いたい。もちろん昨年も申し上げたとおり、四日市市が工業都市化していけばいくほど社会問題として労働問題が発展するとは先進の各工業都市の状況を見ましても明らかところでありますので、私が主張いたしますところは特に中小関係の労使関係の問題、労働関係の問題が市の行政として川崎市のような施策をやる必要があるのではないかと考えておりますので、特に今年にはっきりと具体的な政策を出してもらいたい、これを重ねて要求するものがございます。同じく労働問題に関する点でございますが、市長が市長になられて一番始めの施政方針の中でこういうことをいっております。「勤労者に対する福利厚生施設の充実あるいは当市のごとく産業都市においてはこんご大いにこれが充実をはかる必要があり、特に中小企業の就業者を対象とした福利施設の実現を促進したい。」こういうことを三十四年のたしか六月と思いますが、市長は一番始めの施政方針演説の中で申しているわけですが、なるほど平田市長は社会党の推薦を受けただけあって労働者のことについては特に意をもちいていると思っておりますが、その後の実績を見るとなら見るべきものがない。これを過去二年間どういう施策を行なったか、またあと二年間に、具体的にどう表明しようとしているか、これが要求をいたします。

次に、三番目は事務的な問題ですが、開発局に質問いたします。今回の施政方針の中で、四日市の総合開発計画、これはいわゆる答申でございます。この中のよき点を取り上げて行ないたい。こういうことをいっております。そのよき点とはどういうことなのか、具体的に御指摘願いたい、答申された総合開発計画をどういうようにみておるのか

ということもあわせて全体の中で御説明願いたい、こういうように考えております。

同じことしの施政方針の中でしまいのほうですが、市税が多年にわたって累積された滞納分を整理するといっております。この方法としては徴収成績の上昇ということをいっておりますが、具体的にはどういうふうにしてやるのかということ、どうして多年にわたって税金の滞納が累積されているか、これをどういうふうに自己批判しているか、担当の部長のほうから御説明願いたい。同時に才一線職員の労働過重にならないかということ、もう一つは実際に税金を出す市民の生活実態、こういうものを考えながらどういう具合に徴収の方法をやっていくのか、基本的な理念と方法について御質問申し上げる次です。

それから、きのう、今日に引き続いて多数の議員から社会教育の問題が出されております。その中でいろいろ聞いておりますと、若干、私に不可解な点があります。それはどういうことかというところ、いわゆる青少年の育成、補導に対する考え方が、いわゆる健全という言葉を使っております。この健全という言葉はどうかはなかなかむづかしい問題ですが、いわゆる現在の社会状況というものが犯罪をふやすあるいは青少年の良心を麻痺している、こういう社会的な環境がある。それを無視してやるとんでもないことになる。そこで私が求めたいことは、どなたかの御質問に対して二宮助役からいわれたように、身心の健全化ということをお願いしておりますが、私が求めたいことは、できるならば社会教育はいわゆる人間本来の青少年のもっている、社会をよくしようという自尊心、自覚性をどうして伸ばすかということについてってもらいたい。これは要望でございますので、各関係の理事者においてはこんごの施策に留意せられたい、こういうことを申し上げます。

以上、質問をここで再度立たないでいいように、時間もございませんので、答弁を求めたいと思います。

〔総務部長（林義男君）登壇〕

○総務部長（林義男君） 御質問の点について簡単にお答えいたします。

御指摘のように、国の、自治庁の所管であります地方財政計画なるものは、本年度につきましてもさようでございますし、明年度われわれが予算の処理をいたしましたあとで提示される形でございますので、結果的には一応事務的に昨年、一昨年、累年の国の政策の変遷の状況を推定し、そうしてそれを予想しながら、問題についてはときには連絡を県ともいたしまして、いろいろと勘案しながら予算の計上をいたしております。それで本年の状況を簡単に申し上げますと、お手元をお願いいたしております予算の状況からいいますと、国が示します財政計画の状況とたいはほぼ軌道を一にしておるといふ反省をいたしております。具体的に申し上げますと、一応国の財政の伸びと、市の考えております三十六年度予算の財政の伸びとはちようど軌を一にしたような提示に相なっていることも、われわれ反省いたしましたとして、ひそかになんといいますが、私どもの平素考えておる状況とさいわいにして軌を一にしたような結果になったということについては反省しております。それから内容的には、御承知のように国が考えております財政計画の面の本年度上げております重点と、現在の四日市の財政事情と勘案しますとき、国の上げております重点が、不幸にしてと申しますか、四日市と軌を一にしないという問題もあります。それからいま一つ、税の負担の軽減をはかるというような大きな問題を考えておりますが、われわれの本市における状況からいいますと、一応御質問のような法人の関係の税の伸びに期待して、四日市の税収は相当大きな伸びを示しておりますので、そういった点は税務部長の説明によってもすでに御了承をえているものと承知しております。

それから、その他人件費の問題も教育委員会のほうから御指摘になりましたから、税外負担の軽減に対する国の考え方というような点も、すでに四日市は以前からそういった点については処理しておりますが、国の方針と一致しておると思っております。はなはだ簡単でありますが、われわれ、事務的には国の、中央財政計画に従っての市の財政

運営をしていかなければならぬという立場から考えまして、三十六年度の四日市市の市政運営は、国の方針と具体的にはいささかの差がありましても、基本的には軌を一にした態度であると、こういうふうにお答え申し上げたいと存じます。

〔商工課長（園浦和巳君）登壇〕

○商工課長（園浦和巳君） お尋ねの中小企業における勤労者の厚生施設に対し、市はいかなる対策を立てておるかという御質問に対してお答えいたしたいと思います。

商工行政を通じての指導でございますので、労務の問題からまず解決をしていきつつあるわけでございますが、率直に申し上げますと、大企業による工業化の進展が進むに従いまして、中小企業の労務の問題が非常に逼迫をいたしておりますといえますか、苦しいきびしいきわめて、現在あります中小企業の勤労者、工員あるいは店員を確保するという立場におきましても、あるいは新たにそういった人たちを新規に雇用しようとする場合におきましても、中小企業が人の問題で非常に悩んでおりますことは御承知のとおりであります。その最大の理由は給与体系の格差に原因することにあると思いますが、反面、いま御指摘の厚生施設あるいは住み込みのためのあるいは住宅等の不足ということが大きな原因になっております。従いまして中小企業者の、あるいは商工業者の方々がいかにして、現在おります店員あるいは工員を大企業の方に流出させない引き止め策を講じていくか、あるいは新規卒業者を工員あるいは店員として新たに採用するかということについて、いろいろと苦慮する中で、厚生施設を早く自分の力で建てたいというふうに考え始めまして、工業あるいは商業の部門におきましても各企業体がいろいろと資金あるいは場所等の確保に努力をしておるような次才でございます。商工行政を通じて、これらの人に対する行政指導の考え方といったしましては、資金のあっせんあるいは個々の工場あるいは商店ではなかなかむずかしいので、三十六年度の予算に

おいてお願いしておりますように、工業の部門では、いわゆる中小企業団地等の構想を立てて、共同で厚生施設をもちえられるような方向に、商店街のほうでは、また商店街の再開発事業を推し進めることによって三階あるいは四階等の立体的な土地の利用によって厚生施設を共同でもちえられるような方向に指導しつつあるわけでございます。こんなことをいたしまして、そういうふうな指導に従いまして、逐次具体化はしつつありますが、といいますと、前進しつつありますが、各企業が個々にお建てになった事例も二、三ございますが、中小企業全体の勤労者を収容されえられるような施設として、市とか県とか公的な立場でもつという段階まではまだ至っておらないのが現況でございます。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） 社会教育につきまして御答弁いたします。

人間の教育の目標について御指摘がありました。私たちのほうでも小、中学校の教育努力目標を、ここ三、四年来自主性のかん養ということに目標を定めまして、その方針に従って学校教育を実施してきております。従って社会教育もこれの延長になることは変らないので御指摘の点については賛成でございますが、前々からお話の出ていました問題は、私たちの行ないます積極的な意味の教育の問題と、それから司法、警察保護関係の防犯、非行、そういうものに対する関係が混同されたり一語になって問題が出ておりますので、いろいろとここ非行とか健全とかいう言葉も出てきたと思いますが、私たちといたしましては防犯、非行を防止する最も積極的なものは社会教育だ。その反面、やはり非行少年の問題あるいは防犯関係も補導とかの面で取り上げていかなければならぬ面もありますので、そういうことを主として総合的に考えるのが青少年問題協議会であると、従って青少年問題協議会を総合的に運営していくためのその事務局に当るものをなんとかして設置しておかなければならぬのじゃないかという、これは皆様方の御意

見でございますが、これにつきましては、先に二宮助役から御答弁がありまして、そういうものも考えていくということでございますので、私ども意を強うしておるのでございます。その方針に従って私たちの受け持ち部門で社会教育をやっていききたいと思っておりますので御了承を願います。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 国土開発協会に委嘱しておりました四日市総合開発計画についてでございますが、実はこれを編さんしていただいております著者の一人が亡くなられて予想外に完成が延びて、おそくも今月末にこれがこちらに送られてくるという順序になっております。まいり次才議員さん、皆さんに一部ずつお渡しすることになっておりますので御了承を願います。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 労政のことにつきましては、四日市市の性格上、私といたしましては非常に関心をはらわしていただまして、さい前仰せられましたように新しい何かの手を打たいということをしきりに考えてまいりました。そのうちで大きい工業、工場、その方面にお働きになっていく労務関係の方々、それから中小企業にお働きになっておる方々と大きく分けられるわけでございますが、この大工場の方々におきましては非常に行き届いておりますし、またその業種が非常に異なっております。一番人数の多いのは繊維関係でございますが、その他一連の化学の方々あるいはその外ございますけれども、要するにこの大会社の方々には非常に組織もございまして、それぞれいろいろの御機関もおもちになっておられますのでございますが、しかもこの方々は非常に知識的な方々が多うございまして、私に向いましていろいろの御注文がございますが、私もできるだけ御会合にもお邪魔したつもりなんでございますが、どうも各業種によりましてお望みになる角度が違っておる。それからまた同じようなお仕事に御

従事しておられますもその所属しておられます組合と申しますか、そういう方面のところの異なるに従いましてお考え方も違っておるということで、実は私も思案にあまっておるような次才なんでしょうが、たとえば繊維関係の方々が、ぜひ、ひとつ労働会館を作ってほしい、こういう御要請がございまして、私も真剣に考えてみておるのでございますが、同じ御関係の事業であられてもいろいろ党派といいますが、なんと申しますか、お考えが違っておって御統一願うのに少し困難な場面もあって、どんなにしてとりまとめをお考えを實現したらよいのかというふうに思い迷っている次才でございます。特にこの中小企業になりますと、ただいま角度を変まして商工課長からお話し申したのでございますが、これはむつかしうございまして仕事の様式によりましてほとんど世界が違うといっても過言ではないかと思うのであります。そうしてそれがかなり仕事の別によりましてお考えになっておる方向も余程違っておるように思います。ある場面におきましては、もっぱら待遇の改善を要求になる。その待遇の改善につきましても、あるところはいろいろ寄宿舎の問題だとかあるいは通勤の問題、被服の問題だとかあるいはこの結婚に対する問題、実に非常に微に入り細にわたっていろいろの御意見が出ておるような次才でございます。中小のほうにも大別いたしますと、万古のようなものは非常に大きいのでございますが、これも大きいほうの側の方と小さい側の方とはまるっきり様相が違ふ。これらをいろいろ勘案いたしまして、しからば、いったいどういう施策をとればいいかということになりますと、これは、あるいはここでおしかりを受けるような場面もあるかもしれませんが、一気にやってはいけません、漸次、労働条件を向上せしめつつ生産費を下げて競争力を養うという非常にむずかしい態度をとらなきゃならぬ。しかしなんと申しまして労働関係の方々の生活が向上していただくということについてはやはり望ましいことでございますので、できうる限りこれを引き上げていかなくちやならぬだろう。そういうことになる、これはいろいろの施策を施しませんが優秀な会社の方々から漸次その範を示していただきますし、



また誘致してまいります会社が相当優秀な会社ばかりでございますので、おそらく四日市の水準以下のことはないというふうに考えますので、間接にこれは全般を引き上げていくことになる。しかし大会社にあられましても、待遇だけをしておって生産上の問題に打ち負けることではいけませんので、やはり効率の、能率の上るよう御研究になつていただきますから、やはり中小企業におかれましても御経営者の方々が時代の進運に乗じまして、ちゃんとそれを見とけていただいて、そうして漸次労務関係の方々の地位を向上せしめ生活を改善してやっていただいて、そして労使の繁榮をはかっていただくというふうをお願いしたいということを、私もあまりしゃべらないで実践に移しておるといふうな心構えておるのでございますが、私が申し上げましたうちで一番感じておりますことは、何かこの業種別か何かでどういふうにしたらよいかわかりませんが、やはりこれだけの労務関係の方々がたくさんいられますから労働会館といううなものをなんとかして実現したいなと思うのでございますが、おそらくこれは業種別にしませんという、ある程度までの大きな業種別にしませんという、おそらくその御成果が上らないのではないかと、そういうことになりますと一軒一軒そういうものを建てても、建てたものに対するいろいろの面倒をみると、あるいは補助をするとか、助成金を出すということにしては非常に多岐多様にわたってこれはむずかしい。そこで最近頭の中に浮かんでおりますことは、近ごろは大きな建物が出来るとその中にそういうような皆さんが機関をおもちになつていただいて、そうして労務者の方々の、勤労者の方々の御自身の力も出していただき、そうして市もこれに対して助成をしていく、あるいは補助をしていくというふうにして、やはりひとつのそういう機関をもつていただくといううな仕組がなんとかできないかということ、まだ市長の頭の中でいろいろ考えておるといふうな程度でございます。従いまして私としては十分にそのまだ考え方を具体化しておりませんので恐縮に存じておる次でございますけれども、概ね四日市の労務関係特に労政方面におかれましては、お

のお自主的な御処置が行き届いておるので私はたいへん喜ばしいことだと、無理にこれをいろいろの統一したものにしようということとはかえって自然をこわすような格好になりはしないかというふうにも、これは決して責任のがれではございません。真実そう思っておりますが、この方面につきましてどうかひとつ橋詰議員におかれましても、どきどきわれわれにもひとついろいろ御意見を聞かしていただいて、そうしてこういうようなことを市の当局ももう少し真剣に考えてみたらどうかということ、その場合に片ほうのほうでそれをすればこういう弊害が起ると思いますが、それはこういうふうに考えたかどうかということで、もう少し御懇談をいただいてそうしてやはり進歩した四日市の労務、務政方面におけるなんらか一つのいい型を案出していきたい、こういうふうにおるような次でございます。少しくどくと申し上げましたけれども私の信条といたしましてはそういうふうでございますので、偽らずに申し上げておる次でございます。どうぞよろしく御了承願います。

〔税務部長（松野憲亮君）登壇〕

○税務部長（松野憲亮君） 市税の滞納額等その整理方針について私からお答えしたいと思います。

昭和三十五年度から三十六年度に繰り越した見込みの滞納額は約一億五百万円あるのでございます。調定見込みに比較いたしますと約七％が現在残っておりますわけでございますが、このうちには行方不明あるいは消滅時効のために徴収不能のものが約三千万円ほどございます。これは昭和二十一年以来の累積額でございます。ただいま申し上げたようにすでに消滅時効の完成によりまして欠損処分付さなければならぬものが相当含んでおりますので、これらにつきましてはすみやかにその処置を講じたいと存じておる次でございます。かようなばう大な数字にのぼりましたということはただまんだんと放任しておったものではございません。一に税務職員の手薄であつたことに起因するのでございますが今回の機構改革に伴いまして、税務事務の統合を契機といたしまして、いっそうこの滞納整理に

微力を尽くしまして、この額の解消に努めたいと考えておりますのでどうかよろしく御了承願いたいと存じます。

〔橋詰興隆君登壇〕

○橋詰興隆君　いま関係者からそれぞれ答弁があったのですが、まず、答弁された順序で一応再び質問してみたいと思います。

国の地方財政計画の理解のしかたについては、もっと予算書なりあるいは説明書を読めばわかるのではないかと、こういうことをいっておられるように私は受け取ったのでありますが、私自身は一応よくわかっておりますが、いわゆる施政方針の説明の中でも当然に基本的な問題としてこういうことが説明されるのが至当だろうと、こういう考えをもっておるのであえて質問した次才です。従ってこんごの市の財政等についても常にその時々における中央なり県なりの考え方の具体的の方針と、市のやろうとしている関連した説明をしながらこんごやっていってもらいたい、こういう要望を行なってこれ以上のことは本日はやめておきたいと、こう考えております。

それから商工課長のほうから中小企業の厚生施設の問題が答弁されたんですが、私が質問したのは市長に対して答弁を求めたのであって、これはいわゆる商工課長が答弁したように市の行政としていまままでやっておることあるいは商工課として考えていることを私が求めたのではなくて、いわゆる市長になられて一番始めに市の計画としていわゆる福利厚生施設特に中小企業者の福利厚生施設を作るのだといっておられるのでこの点はどうなっているか。いまの市長の説明では十分理解をいたしかねるので改めて質問してみたいという、こういう気をもっております。なお、商工課長のほうから中小企業者に対する施策については、自分の担当委員会でございますのでそちらのほうでさらに質問をする予定でありますので、あえて質問しなかったものであります。以上は申し上げません。

それから社会教育については、私は答弁を求めているのでこれ以上のことは申し上げません。

それから総合開発については、これは開発局長のほうから事情がわかりましたのでそれが出来次才改めて質問をするつもりでおりますので、そのときには具体的な答弁をいまから予約願っておきたいと、こういう虫のいい考え方をもっております。

それから最後に市長が答弁された問題ですが、いわゆる市長の基本的な認識のしかたが若干問題があるのではないかと、いわゆる労政の問題が、今日、日本の全体の中で大きな位置を占めている。特に四日市においてはこんごそれがいわゆる飛躍的に問題になってくることが予見されるのだ。たとえばどういうことかといいますと、市長がいておるように、大企業においてはそれぞれいままでの慣行があります。しかし中小企業においては労使の相互間における近代性の欠如が往々にして労働問題を離れて人権問題あるいは社会的な問題に発展するのが現状にあるわけです。これは工業進歩の段階の中にはかならず起こる問題であります。で、これが現在の資本主義社会の中には当然起こってくる問題です。それを放っておくと、あるいは当事者間で済ますということになると、その及ぼす影響が単に、労使関係だけでなく社会全体に影響してくるということが歴史中にあるわけです。そこあたりを私は申し上げているわけで、問題が起こってからどうするということではなくいまからそういうことを具体的にやる必要があるのではないか。そのためには国の機関としてはいわゆる労働基準局、県としては労政事務所あるいはさらには中央安定所がある。なおさらに実際に活動している地区労なりあるいは三四地区労、その他の全労三四会議、それ以外の主要な単組、こういったものと十分に意見を交換しながら、どういうようにやっていけばよいかということをする窓口が現在ない。市の行政の中にはないわけです。現在、市の行政の中にはその窓口がないのでその点を申し上げているわけで、市長がそういうことを考えておられることはわかりましたが、その考えておることを単に市長の頭のなかだけでなくて実際に部局の中で窓口をまず作ると、そのことがいわゆる頭の中で考えることが才一步を踏み出すこと

になるのだと。いわゆる現実がどうあるかということを認識する、把握すると。その中から分析があり対策が立てられてくる、こういうのが段階だと思います。従って私は特に申し上げたいのはまず専門の係をおくのだ。将来は川崎のように少くとも課までもっていくと人口三十万としかもそれが工場誘致によってもっていかうとするなら当然に川崎のような方向が考えられるわけですから市の財政としてもそういう問題を展望しながら、いまから身を出していくということがまず必要だと考えるわけです。従って才一番には当面、相当優秀な方が世の中にはおります。職員の中にもおるわけです。そういう人を商工課でもあるいはその他でもよろしいわけですが、現在のように単に労働教育費に八十万円出すということではなく、全く新しい観点から労働問題を市政の中に折り込んでいくという意味合で、職員の中にも相当優秀な知識をもったものがおりますから、そういう者をその係において、市長がいわれたように三四地区労、全労三四会議にもっていくという、現在活動している専門団体等との接触をはかるということはまず必要ではないかと考えておりますので、この点改めて市長の答弁を求めたい。

それから労働会館の問題については私は特に申し上げる予定はなかったのですが、たまたま出てまいりましたので一言申し上げておきたい。市長の、考え方でいきますといわゆる全国的な流れの中における全労、総評の考えの相違があるのだということと、産業別なり業種別の実態が違うのだと。それに伴って思想も違うという理解のしかたもあるわけですが、もちろんそれは現実としてはあるかも知れませんけれども、市の中で見る場合に全体の労働者という立場で見えていくなれば、当然約三万五千の組織労働者の中心にした労働会館の利用できうと。こういったものを作るのが本来ではなからうか。こういうふうに考えておりますので、若干市長の考えと違いますけれどもその点もう少し具体的にいつごろ、いわゆる残された任期の中でやることができるかどうかということと、全体を調節した中で労働会館を作っていくと、こういうことを自分の意見にもっておりますので答弁願いたい。その他についてはいわゆ

る先程申し上げたように、現在活動しておる三四地区労なりあるいは全労三四会議、こういったものとの話し合い、私ももちろん望んでおりますので、機会があるたびにやっておく。そのためにまず窓口を作るのだと、こういうことが私の質問の要点でございますのでこれ以上に立つことを希望いたしますから御答弁を願いたい、こういう考えでおります。

#### 〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君）　きわめて真しなるお話でありまして、私もまじめに考えておることでございますが、ただいま仰せられたように、組合の方々ともよく御意見を承わりたいと思っておるのであります。いままで二、三承りましたこともございますし、また北部公民館で労務関係の方々が特に市長出てきてくれ、そして最近の四日市の情勢を聞かせろ、そしてわれわれのいいたいこともいう、こういう話でございますして、かなり長い時間いろいろお話も申し上げ、またお話も承りました。その際の特にこういうことを市長はひとつやってくれないかというようにとりまとめた御意見がございませんので、私もそういう方向にもっていったら労政の円滑をはかることができるかということとを非常に苦慮しておるのでございます。ただいまの御意見を承わっても、こういう方法をひとつ考えろというように御意見がまだはっきりおでましにならぬように思うのでございますが、この問題については重ねてひとつ御懇談申し上げて、市長といたしましてもなんらかのひとつ手を打って、労政の上によい効果を上げさせていただきたい。それから特にいま御指摘になられました中小企業のあり方のためにいろいろな社会的な問題が起こると仰せられたのですが、実は、私も若いときから小さな個人工場をやりそれを株式会社にし、さらに大きい組織にしてずっと進んでまいりましたが、やはりきわめて個人的なやり方それから会社との中間ぐらいのとき、やや会社らしい格好を作り、個人であるけれども会社らしい格好を作り、それから本格的な会社になっちゃうとそのたびに、なかなか労使の間の

問題は微妙な動きを示してまいりますし、今日、四日市全体をながめてみましても、おそらく非常に多種多様でございまして、同じようなクラスの事業であり、同じ種類の事業でありましてほとんど一件一件違う。その工場にその工場にそれぞれいいところがあったり、また悪いところがあったりするんだらうと思いますが、なかなか一市役所の力をもって全般を把握するということは非常に困難なことだと思いますので、ただいま仰せられましたように総体的なものを考えて一つの機関をこしらえるかどうかということになってくると思いますが、この点につきましては十分に研究する余地があるうと思いますので、さらに御懇談をいただいた上になりたいと、こういうふうに考えております。

○議長（山本三郎君） 以上で昭和三十六年度一般会計予算並びに関連議案に対する通告質問は全部終了いたしましたので、上程議案の審査を関係常任委員会に付託いたしたいと思いますが御異議ありませんか。

「〔異議なし〕と呼ぶ者あり」

○議長（山本三郎君） 御異議ありませんのでそのように決定いたします。

昭和三十六年度一般会計予算並びに関連議案を関係委員会に付託いたします。各委員会の担当部門は、後刻配布いたします付託議案一覧表によって御了承をお願いいたします。

暫時休憩いたします。

午後十時四十八分休憩

午後十時五十八分再開

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。

先程、議事日程変更の通告をいたしました但、会議規則に則り改めてお諮りいたします。

まだあとに質問通告の方も相当ありますが、本日はこれで会議を打ち切り、日程を変更して明十六日午後二時より会議を再開いたしたいと思ひますが、そのようにいたしまして御異議ありませんか。

「〔異議なし〕と呼ぶ者あり」

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よってそのように日程を変更いたします。明日は午後二時に再開いたします。

本日はこれをもって散会いたします。長時間御苦勞様でした。

午後十時五十九分散会

昭和三十六年四月市市議会议定例會議事速記録 才四号

○昭和三十六年三月十六日（木曜日）午後二時九分開議

○出席議員（三十五名）

早	大	池	荒	志	鈴	錦	平	谷	伊	矢	内	野	馬	米
川	谷	畑	木	積	木		野	口	藤	田	山	呂	嶋	田
和	喜	佐	武	政	敏	安	太	專	太	繁	弥	幸	温	好
		太									十	太	知	兼
一	正	郎	治	一	郎	吉	七	九	郎	郎	郎	郎	君	速
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	記

○市議会事務局（四名）

事務局長	市川善雄
事務次長	菊地英也
議事係長	川原田裕
庶務係長	佐藤茂

○欠席議員（五名）

山口信生	鈴木次君	山中一君	柴田繁君	森田卯七君
------	------	------	------	-------

藤谷裕一君	中山三郎君	中島忠勝君
-------	-------	-------

高橋伊祐	渡部権太郎	伊藤金一君	加藤定男君	濱田弥平君	服部弘君	笠田七衛君	前川辰男君	坂上長十郎君	伊藤泰一君	伊藤宗一君	生川平蔵君	辻比定章君	日比義平君	田村末松君	永田巳側君	小橋喜夫君
------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

○議事日程

才四日 三月十六日(木) 午後二時開議

／昭和三十六年度特別会計市立病院費予算並びに関連議案

議案才一十一号、議案才二十六号、議案才四十四号……………総体質問……………委員会付託

2 同 特別会計市立印刷所費予算等並びに関連議案

議案才一二号、議案才一八号、議案才二〇号……………総体質問……………委員会付託

議案才二二号、議案才二三号、議案才二七号……………総体質問……………委員会付託

議案才二九号、議案才四五号

3 同 水道事業会計予算並びに関連議案

議案才一九号、議案才二四号、議案才三十一号……………総体質問……………委員会付託

／昭和三十五年度追加予算(一般会計)並びに関連議案

議案才四九号、議案才五三号……………総体質問……………委員会付託

5 同 (特別会計市立病院費)

議案才五四号、議案才五六号……………総体質問……………委員会付託

6 同 (同 国民健康保険費)

議案才五七号……………総体質問……………委員会付託

○議長(山本三郎君) ただいまから定例会を再開いたします。

本日の出席議員数を報告いたします。

出席者三十名、欠席届出者五名、遅刻者五名であります。

本日の議事日程につきましては昨日に引き続きまして、日程才二の昭和三十六年度特別会計市立四日市病院費予算並びに関連議案から、以下、順次昨日の日程を取り進めたいと思っておりますから、御了承を願います。

なお、参与は関係者だけ出席されましたから御了承願います。

これより会議を開きます。

本日の議事日程の順序は日程表の才二以下を一号ずつ繰り上げて行ないますから、御了承を願います。

○議長(山本三郎君) 日程才一、議案才十一号、議案才二十六号、議案才四十四号の昭和三十六年度特別会計市立四日市病院費予算並びに関連議案を議題といたします。

大谷議員、どうぞ。

〔大谷喜正君登壇〕

○大谷喜正君 市立四日市病院につきまして質問をいたします。

市長の説明にもありますように昭和三十一年度以来二十万市民が久しく待望いたしておりました病院の改築も間もなく完成に近づいて、名実ともに本格的な医療センターとして発足するような段階に相なりましたことは、市民とともに等しく御同慶にたえないところであります。このときに当りまして私は次の三つに対して御質問を申し上げます。

まずその才一の質問事項といたしましては、昨年の三月定例会におきましても質問いたしましたのでありますが、ちょ

うど本年の初めかと記憶いたしますが、桑名市におきましては市立病院の建設にからみまして市内在住の各開業医の方から強い反対が出て、新聞記事などの内容によって承知する範囲におきましては、一時市長はこの病院建設を見送ると、こういうことが報道されていたのでありますが、本市におきましてはまだそういったような報道その他をそく聞いたしておりませんので、かかる心配はないと思いますが、角度を変えたような要望あるいは問題等がもしあったならば、その実情等について率直に承わりたい、これが質問の才一点であります。

才二点には、従来非常に病状の内容が複雑であるとか、あるいは病院の設備による医療器械器具等の不完備によって原因しておるものか、その理由は判然といたしません、たとえば名古屋大学病院のほうに患者の転送をせられたりその他の方面へ患者が護送されることを一、二私はそく聞いたしてゐるのでありますが、そういう事実が真実なりとすれば、それは人的に欠陥があるものか、あるいは医療器械器具の不整備による原因なのか。その他に基づく技能の不充足なのか。いずれにいたしましても原因があるはずでございます。従来から担当の部課長よりのお話に聞くと今回は思い切った医療設備が施された優秀な性能を持った病院施設であるということはよく聞いておりますが、こんごそういうような懸念は一切ないものか。あるいはあるとすればどういふところに基因をしてそうした心配があるかということをお二点としてお尋ねいたします。

才三点につきましては、質問通告者の中にも具体的に病院あとの敷地処分問題についても御質問があるかと思ひますが、私もこの病院あとの敷地の転用について感ずる一端をお尋ねして、総合的なことについてはのちほどの質問者にお譲りしたいと思います、昨年来、私は森田四日市保健所長からしばしばお話の内容を聞き、その実体を承知しておるのでございますが、理事者各位におかれてもすでに御承知のとおり四日市市には営業をしてならない道路上に相当数の屋台店が、たとえば諏訪公園付近とかあるいは国鉄四日市付近とかまたは高砂町付近とか、その他塩浜、

富田、富洲原方面にもあろうかと推察されますが、こういった方々は道路交通法の上からいけばたびたび警察当局からの取り締りの対象者となり、食品衛生法の上からいけば当然果の衛生部があり、又、該当保健所からもしばしばこの立ち退きを勧告せられている事実が御承知のことであると思ひますが、かかる問題を解決するためにはぜひとも、今回、四日市市立病院あとの敷地の一部を有料によってこの場所に転業できるような方途が感ぜられないか、こういうことを私は森田四日市保健所長から聞いているのであります。その是非は別といたしまして、市といたしましてあの病院あとの敷地転用策の一環としてそういうような考え方が考慮せられる市があるかないかと。蛇足ではございますが、以前に該当者の方々から議会のほうにも陳情が出たようでありまして、そのときには条件的に内容が不完全であるためか、議会の当該委員会におかれては不採択の結果が出ているようであります、実情を聞いてみると、非常にお申し込みになった方々では、まあ俗にいう虫のいいといひましょうか、無料であるとか、相当自分に都合のいい考え方によってその土地を使用してほしいというお申し出らしいのですが、今回の私がお尋ねしておる保健所長の話によると、世間なみの価格によって土地の使用を優先的に認めてほしいと、こういうことが述べられておりますことをつけ加えておきます。

以上、病院の問題について三点の質問をいたします。当該部課長からの御説明を求めます。

〔民生部長、(中山英郎君)登壇〕

○民生部長(中山英郎君) ただいまのお尋ねのうち、まず開業医との関連について御説明申し上げます。

私が開業医と接触を持ちましたのは去年の十二月からでございます、これも国民保険の協力という立場からあるいは保健の準備委員会あるいは市長と療養担当者との折衝という部門について、公式的に折衝の場に参画した一員としての受け取り方を申し上げたいと思ひます。



療養担当者といまして、議論した中で、まあ医師会と歯科医師会があります。医師会の現有勢力は、ここは法人組織になっておりまして、全員は百九十名程度でございます。そのうち一部菰野町とかあるいは楠町とかいうように含んでおりまして、それから公立及び国、県あるいは会社といったところの診療所、病院といった職員も含んでおります。それで純然たる開業医につきましては現在百二軒でございます。それが市内における開業医の実数でございます。現在われわれのところに判明しておる実数でございますが、歯科医師会につきましては会員が、これは支部組織になっておりますが、県一本の組織で支部組織になっておりますが、市内の開業医の方は五十八名程度になっております。これが歯科医師会の開業医の現在に於る実数でございます。それで私どもが折衝した部門の人は医師会の役員の方、あるいはときたまによっては代表の十数名の方というふうにお会いしとるわけでございますが、従ってだいたい代表した御意見の受け取り方というふうに私は考えております。以下、折衝の部門を通じて私が感得いたしましたころの感じというものを申し上げたいと思います。

まず医師会につきましては、医師会のほうでは率直にいいまして要望事項にもあるように、要望事項の最終の欄にありますように、これ以上公的なものをふやしてもろては困るというのが一つのはっきり要望書の中にも出とったんでございますが、そういう表現でもおわかり願うように、開業医の立場を圧迫するような公的病院の拡充は困るというのが大きな一つの目標になっておると私は考えております。その現われといたしまして、きのうも一部衛生諸費のうちの触れましたように、仮称四日市医師センター、医療センター、こういった機関を設け、その運営も歯科医師が主体になってやっていくという構想も打ち出されておるのでございますが、当初の折衝の場合には、そういうオープン・システムのものは、せっかく大きな規模なり、それから新しい器械を入れる際でもあり、市民病院の一角を解放してやったらどうかという、まあ反対意見をわれわれ率直に申し上げたことがあるのでございますが、そのときに

医師会のほうではオープンしてもらうことはけっこうだ、考え方は間違いないとよう否定はしないが、実質において病院の一角でいろんな受託検査、委託検査をやると、委託者が委託されたところが病院であると、市立病院であるとこれは老人病であるからその方の内科に行きなさいとこれは整形外科だから整形外科の下階段へ行ってやりなさいというふうに、実質において病院の窓口になると、これは民間開業医と公的病院の実質において差別待遇的な誘導がされると、それが困るんだと、これが実質的に民間圧迫なんだというふうな、名目はオープン制度は否定しないが、実質においてそういう運営がされる懸念が多分にあるというふうな御意見がありました。ただその中でひとつ感謝されたことは、看護婦養成所をいま市立病院へ委託されております。その点については開業医はあるいは感謝をしようとこのふうな率直な感謝の意の表現もございました。これがまあ保険の折衝を通じて医師会から公式に表明された一つのはっきりした態度でございます。

それから歯科、歯のほうにつきましては市立病院あたしは問題にしないというのが率直な受け取り方を私はしたわけでございます。それが証拠に、いま保険に歯科補綴ということを給付内容に盛りましたが、技工士が不足でわれわれとしてはこれ以上皆保険になっても技工士が少ないので手が回らない、それだから技工士養成所を市でやってくれと、それは市民病院の中でもかまわぬのだと、維持、経営も市でやってくれというふうな申し出がございまして、それほど、まあそういうことの発言を通じてみますと、歯のほうについては市民病院あたしは問題にしないということが十分伺われまして、摩擦とかそういうものはないと考えるのでございます。

それからもう一つつけ加えますが、医師会につきましては、入院施設を持っているお医者さんのグループと、それから入院施設を持っていないお医者さんのグループというものは利害関係が相反するので、特に入院施設を持っているお医者さんと病院が入院施設を持っておりますので、そのグループと民間の医者とそれから公的病院のあれが一番

利害が相反し、利害の度合いがきついというように判断されたのでございます。以上が保険を中心とする問題のときに、私が折衝の場で把握した要点でございます。

それと才二点のほかの病院へ移送した事実があるかないか、またその理由はどうかということにつきましては、私そういうことをまだ調査をしておりませんし耳にもしておりませんので、もしわかればあとの補足といたしまして衛生課長なりあるいは病院の事務長から補足してもらいたいと思います。

それから病院の敷地の一角を、露店の飲食店を、保健所長がそういう話があったということは、私、まだ寡聞にして、保健所長とはずいぶん何へんも会っておりますが、まだ赴任以来そういう話は聞いておりませんので、どの程度の規模のものがよくわかりませんが、ただいま大谷さんのおっしゃいました有料であれをそのあとへ優先的に使用さすのがいいかどうかということは、私といたしましては、現在あの病院敷地は病院の特定財源、売り込み財源として予算にも計上されておりますので、それがさまたげになる恐れがあるのかという点を十分民生部としては調べる必要があるかと存じます。あの敷地の問題につきまして、民生部長個人の考えといたしましては、単なる財源、病院財務観点からすればなるべくあの敷地は高く売っていただきたい、そうして病院の負担を軽くしてもらいたいというのが病院運営、財務運営の観点からする持論でございます。で、この問題はむしろ市全体をながめた施策からこれは、最終結論が定められるべき性質の問題であるというふうに感じております。そこで、この民生部門といたしましてそれがいいとか悪いとかいう意見はいまここで私といたしましては表現いたしにくいということを申し上げたいと存じます。

〔衛生課長（三輪喜代司君）登壇〕

○衛生課長（三輪喜代司君） 才二の名古屋あるいはその他の大学病院等へ患者を護送した事例があるかないか。ま

たこんどそういうふうなことが起りうる可能性があるかどうか、この御質問に対してお答えいたします。

私もがこの担当になりましたからちょうど一カ年でございますが、その間においてそういうことは私もまた病院の事務長も聞いておりません。想像いたしますと整形外科がございせんので、あるいはその患者をそれ以前に名古屋大学等へ送ったことがあったのではないか、こういうふうに考えておるのでございます。

なおこんごの問題でございますが、相当額の市費を病院のほうへ繰り入れていただきまして、備品費といたしましても約一千六百万円程度と記憶いたしておりますが、これだけのものをほとんど医療器械のほうへ注入し、また先般の協議会で御承認をいただきましたレントゲンも優秀なものを入れていただき、その他新しい病院へまいりましてからの診療科目でございますけれども、現在の診療科目以外に整形外科あるいは理療科、産院の吸収による産婦人科等が増設されますので、こんごにおきましてもそういうことはおそらく発生しないのではないかと、このように思っております。

以上でございます

〔大谷喜正君登壇〕

○大谷喜正君 質問いたしました才一点につきましては、ただ漠然とした経過であって、ちよっと私の質問目的にびっしりはまってないような感があるわけですが、いまの部長の御答弁を二つに区分するとすれば、完全な施設を充実すれば市内在住の開業医はもちろん反対でもあり困る、内容が不完全であれば開業医は喜び文句はないが、反面患者のためには不利益であると、こういう二点に解釈されると思うわけです。ところが才二点目で、いまの衛生課長の御答弁によると従来は施設その他の人的資源によって患者が他へ護送されるというようなことはあまり聞いていない。あったとしてもこんごはそういう心配がないと、こういう御答弁であります。才二点目でいえば、逆にこれを考えて

みると、開業医を圧迫しても、開業医から相当の抵抗があっても施設は十二分で他へ護送する必要はなんの心配もないんだということが前提になるわけですが、そうすると才一点目にお尋ねしました問題はおのずから結論が明らかになると思うんです。私はべつに開業医の利益代表になって申し上げているのでもなくて、ただこんこの病院経営についてどちらつかずというようなことでは困ると思うわけです。いまの衛生課長の御答弁なら御答弁でも私は大いにけっこうだと思ふんです。それが根拠のきわめて薄弱であってしかも納得しかねるような抵抗によって本病院経営の目的がいめられないようにすることこそ、一般会計財源から繰り入れてまでもあの何年計画によって改築した目的というものがそこにあるのではないかと、こういうことを私はいいたいのであります。従って、こんど市長におかれてもし、私がいま申し述べることにして是であるというふうな御判断に立ってもらったならば、やはり開業医も十分立ちいくように考えねばならないと思います。しかしそこはやはりお話し合いを何回でも積み重ねて、そうしてこの大ぜいの患者という一つの基盤の上に立って物の判断を誤らないようにしていただきたいことを要望いたしておきます。

質問の才三点につきましてはただいま部長から正式にも森田保健所長から聞いていないと、こういう御答弁であります。部長はお聞きになっておられなくても、課長はよく御承知のとおりでもあり、私も数回このことは耳にいたしております。関係の常任委員会委員各位におかれてもこの問題については御審議なすつたはずでございます。私はこの問題につきまして特にそういう便をはかれないような強要的な言葉でもって質問をするのではなくて、昨日も一般質問の中でも私の考え方についての意思を現わしたつもりでもありますが、なるほど病院敷地の転売につきましては、当然これの見返り財源として捻出することは明らかであります。一つの目的を果たしたことにおいてそれ以上の問題が残らないような、公売にしても転売にしても、することについて十分考えていただきたいというこ

とであります。つけ加えればいま申し上げた屋台店等によって営業してみえる方々の立場を考えてみますと、失礼な言葉はわかりませんが、比較的恵まれない環境の方々が多しやに私は信ずるものであります。まあそういったときにおきまして敷地を公売その他の方法によって処分して上った利益よりも工場誘致によって公害問題が起ると同じようなそういう点を十分留意せられ、幸いにも病院の問題、あるいは厚生関係は幸いにも民生部が一括してこの問題についての所管でありますので、片方で目的が達成せられても片方でその問題がまた別な立場によって発生しないように御留意ありたい。きのうも、話は横道にそれますが社会教育問題におきましてもうそういうことがいえると思うのであります。しっかりと教育をししっかりとした施策を施すことにおいて多少物質的なマイナスがその直後に発生いたしますしても、長い市の将来を考えてみるとときには一番市民が、四日市に住むことはわれわれ日本人として四日市が一番住みよいところである。一番いい都市に住居をかまえたのだと、こういう問題を十分に御留意願って本問題の処理に当られんことを希望いたしまして質問を終ります。

○議長（山本三郎君） 次に、伊藤太郎議員、どうぞ登壇してください。

〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君 私がお尋ね申し上げたいと思う点は二点ございますが、ただいま大谷議員の御質問とよほど重複する点もございますので、その点を避けまして、まず才一点については要望を申し上げます。

才二点につきましては市長の御答弁をお願いしたいと思うのでございます。

ただいまお話ございましたように市長あるいは関係理事者の非常な御苦心によりまして市立病院はみごとに完成いたしましたことは、皆様とともに非常に喜ばしい限りでございます。つきましてはかねがね伺っております旧市立病院の敷地のあと始末をいかにするか、こういうような点もだんだん接近をいたしてまいっておるような感じがござ

いますので、先ほど申しました二点についてお伺いを申し上げたいと思うんでございます。

才一点につきましては、私はあの土地はなるべく市民の多数の者がその恩恵に浴されるようなふうにひとつありたいものだと思っております。次には明るい市民生活の場にあの地点がならなければならない。才三番目といたしましては、あれは崇高な寄付者の熱情によって生まれた土地でありますので、寄付者の意思が少しでもよけい生きような方途に講じていただきたい、これが私が要望と申しました三点でございます。

才二点を申し上げます。御承知のことと存じますが、あの土地を御寄付になりました津田久三博士はあの当時私もたびたびお世話になったひとりでございますが、医学界の当時といたしまして大きな權威者であられ、しかも人格はきわめて高潔なお方であって、蔭に大きな徳を積まれ、いまなおその徳に浴した方々があの方をいたっていらっしゃるような状況なのでございます。あの当時全国を通じて主なる都市には公立病院といえますか、公立医療センターと申しますか、そういうようなものが続々と建設せられ、あるいは計画せられたのでございます。あの当時の四日市市といたしましては財政上非常な困難であつたがためにとうていその実現が不可能であつたということを承わっております。それは津田博士が直接前の市長さんの吉田勝太郎氏あるいは当時の議長であられたのですか、石樽乗光氏から市の財政状態をお聞きになって非常に心を痛めていらはつたことを私はよく承知をいたしておるものでございます。こうした点で博士はもう自分も六十幾才になった、で、この機会になんとかして全市民のために公立医療の施設を誕生させたいものだ、こういうような悲願の実現をいたされるためにあの建物、現在のあのときの建物はもちろん焼けてございせんが、あの当時の建物、施設の一切、そうして敷地をあげて市民のために寄付しようと決意をされたのであつたそうであります。博士は自分の子供様にもあの場所を譲らず、またなんでも御親戚の内科を担当していらつした方にもこれをお譲りにならず、ひたすら市民の医療センターとしていくことを願われたのでありまして、

私、そのことを考えるにつきましたもほんとうに頭の下る思いがするのでございます。当時土地だけとはいつて近きの方々のおすすめもあつたそうでございますが、そういうようなことをしてはかえつて市の手足まといになるのだ、こういう淡々たる氏の信念によりまして現在のように旧敷地と申すようになったと拝承いたしております。従いまして現在でも博士の郷里にまいりますと土地は博士のうちのやげなというよううわささえも残っておるような状態でございます。

そういうときから幾星霜たちまして、市の当局の非常な御熱意によりましてわれわれの四日市市も驚異的な成長に成長を遂げました。冒頭に申し上げましたみことな医療センターができ上つたのであります。いわばおとなの四日市になったのでありまして、子供の四日市のように世話になつたその四日市がいまやおとなの四日市になったのだと私は思います。そうして先ほど申し上げたことを静かに考えてみると、そこにどうしてもわれわれはなんか報いなければならぬのではないかというような感じがいたすのでございます。もちろん地下にねむられる博士はこの自分が念願した医療センターがみごとに伸びて、あのりっぱな市立病院に生まれ変わったことをもちろん喜んでいられることは想像にかたくなであります。かくして使命を果たしたあの土地を処分するのになんとかしてあたたかみのあるあの美拳に続く、後輩に響くような意味のある御処分が願いたいののであります。先ほども民生部長のお話にありましたとおり特定財源として予定しておられました額を現在にははるかに乗り越えておることは非常に幸いです。ひるがえつてあの美拳をあえてされたあの御遺族の方、いま静かに先生の魂を慰さめて鈴鹿の奥に住まっていらいやいますが、農地法とかあるいはその他のいろいろなことで決してゆっくりしたお暮しではないと拝聴いたしておりますのでございます。御子息さんも病弱で、只今もその市立病院に入院、昨年の八月でしたか、入院加療中でございます。そういうような点をいろいろ御勘案くださいまして、そうしてわが身に比べてなかなか果しえなかったことを果

された、そのことを念頭にお置きくださいまして、しかも現在のあの土地の価格なんかよく勘案をされて善処をされるならば四日市市文教といいますが、風潮を進行するために大きな私は力になろうかと思えます。恨みにさえも徳をもって報いるのが、これが社会指導の要点だと聞いておりますが、徳に報いるのに徳で報いることを欠いたならば、これは大きな恨みをのちに残すのではあるまいかと私は信ずるものでございます。

この点につきまして市長様から直接御答弁を願いたいと思います。これが私のお尋ねした才二点でございます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） お答え申し上げます。

ただいま津田先生の御高恩に対してお報いすることを考えたいというような御意思のように拝承いたしましたのでございますが、ただいま仰せられましたとおりわが四日市市が貧しいときに清廉潔白な先生が市民にあれを下されたと、そうしてそれが一つの大きな起点となって今日のりっぱな市民病院ができるようになった。しかもその資源に充当いたしました、財源に充当いたしました土地が思わざる高価なものになってきた。しかるに先生のあとに残っておいになる方々のことを思うというと、当然私どもはそういうことを考えさしていただきたいという心持ちでございますが、これにつきましては将来にもまた例を残すことでございますので、よく考慮いたしまして、なんらか市長からお尋ねするような会でも委員会といいますが、そういうようなものでもひとつこしらえていただきまして、そこで十分御相談をわずらわして先生に対する御恩の一端をつくっていただいたらどうかというふうに私は、ただいま自分の一つの考えといたしまして思っておるような次才でございます。できうれば皆様方の御同意をえますればそういう手続きをとらしていただきたいと、こう考えております。（拍手）

〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君 ただいまは市長から私の心持ちにびったりあう御回答をえまして大へんに満足に思っておるものでございます。どうかこの点をよく実践に移してくださいまして、才二の津田博士、才三の津田博士があとに続くような有意義な方途をお考え願いたいと思うのであります。当市会はずでに名誉市民を決議いたしましたして徳をたたえることにやぶさかではない当市でございます。才二の津田博士が、才三の津田博士が生まれることを私は念じて市長のこれについての前進を希望いたしましたして私の質問を終わりたいと思います。

○議長（山本三郎君） 次に早川議員どうぞ。

〔早川和一君登壇〕

○早川和一君 先ほど同僚の伊藤議員から津田博士の遺徳をしのばれまして病院敷地あとの処分とともに、いま聞いておりますところの御遺族のおなぐさめの方法を講じたらどうかと、こういう御意見でございますが、私も賛成の一員でございます。御遺族をお慰めするのまことにけっこうでございますが、私は市民の一人といたしまして、日々病院に通いますところの市民の方々が、この病院はあたたかい津田博士の市民への贈りものだ、こういうことを四日市市の続く限り、日本の国のある限りその遺徳をしのばせるような方法を講じていただきたい、こういう御要望を申し上げまして私の質問にかえます。

○議長（山本三郎君） 休憩いたします。

午後二時五十七分休憩

午後三時十三分開議

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。

次に馬嶋議員どうぞ。

○馬嶋温知君 旧病院の敷地問題について……（「登壇」、「登壇しろ」と呼ぶ者あり）大谷議員から発言があり、また津田博士の遺徳を顕彰する問題につきましては伊藤太郎議員、早川議員御両氏の発言がありましたから、私はあらためて重複を避けて撤回します。

○議長（山本三郎君） 次に、前川議員、どうぞ。

〔前川辰男君登壇〕

○前川辰男君 まず才一点の質問をいたしますが、新しい施設の中で新発足するところの病院予算についてはこの議案説明の中にもいろいろとその積算がむずかしい点が出ておりますが、予算を見ますというと、使用料が三十五年度に比して三四％の増になっておるわけです。これはまあ過去の実績がないから非常に見積りにくいとは思いますが、少し過当ではないかと思われしますので、この点につきまして事務当局の御説明をいただきたいと思ひます。

それから才二点としましては公立病院の性格、つまりいまの状態と申しますか、では私立の病院と変らない、ただ規模が大きいというだけではないかと思われしますので、公立病院としての特色と申しますか性格、そういうものにつきましての御説明をいただきたいと思ひます。

それから最後に病院跡の売却につきまして大谷議員からの質問がありました。この問題に對しましては、かつて総務委員会ではやはり零細企業の方々からこのあとを譲ってもらいたい、こういうふうな陳情がありまして、当時いたしましたしは大谷説明の御説明のように不採択になったわけでございますが、事務当局者の答弁といたしましてはたしかにこれを予定財源としておりますので、あのような答弁ではないかと思われしますが、市の政策として考えた場合に、やはりもうひとつ大きな立場から、もちろん財源を無視するという形はできませんが、大谷議員の説明しておら

れるようなああいう状態に對しては十分考慮を願って特別な配慮が必要ではないかと思われしますので、この点につきまして重ねて要望しておきます。以上。

〔衛生課長（三輪喜代司君）登壇〕

○衛生課長（三輪喜代司君） お答えいたします。

御質問の才一点、三十五年度より三四％も使用料がよけい見込まれているが、これはどういう理由かということでございますが、これにつきましては、三十四年度におきましては一応収容ベッド数を二百人と見たのでございまして、どうも失礼いたしました、三十五年度においては収容ベッド数を二百人と見まして、三十六年度におきましてはこれを二百五十人、収容入院患者を二百五十人ということで予算が編成されておるのでございます。この理由といたしましては、ただいま大谷議員さんから御質問がございましたときにお答えいたしましたとおり診療科目の増加ということと、新しい病院へだいたい四月半ば時分には移される予定でございまして、これを十二分に活用いたしました、入院患者の増加をはかって収入をふやして、これだけの予算を執行できるようにいたしたい、こういうふうな考えでこの予算を編成したのでございます。

それから才二番目の公立病院の性格、特色を説明せよということでございますが、御承知のように公立病院と申しますものは、これは率直にその存在価値を現わしましたのが先般の一斉休診の場合においてこの公立病院がほとんど各都市ともこのカバーをいたしたのでございます。要するに最近の医療制度におきましては国民皆保険が実施されました、ほとんどの開業医全部が医療制度が根本的に改革され、準国営的ともいいたいような制度になってまいっておるのでございますが、こういうふうなところに開業医のほうと一般開業医と公立病院との性格の相違と申しますと、要するに、いままでは一般開業医で申しますならば、これは失礼なことかも知じませんが、一応、経営が成り立

っていかなければお医者さんではできないと、従って採算の合うような医療器械でなければおそろく購入されないのではないかと思います。ところが医療がどんどん進歩いたしましたして、医療器械もそれにつれてだんだんと日進月歩の勢いで新しい物ができてき、しかもそれは相当高額のものである。そうしてそれに対してそれをかりに入れますも採算の合わないような医療器械も相当あるのでございます。たとえば先般百九十万円で入れていただきました脳波計にいたしましたも、これなんかも採算から考えますと非常にわれわれとしては疑問でございますが、しかしながらこういう医療器械を市の病院が持っていないときにおいてはこういう結果になるかという、相当これは非常にむずかしくなっています、市民の医療そのものに対して困難な問題が起きてくると思います。

またこれは理想でございますが、たとえば鉄の肺の問題、小児マヒが本市におきましても昨年度は十八人出ておりますが、幸いにして鉄の肺へ入れる患者は一名もなかったのでございますけれども、もしもこれが呼吸困難となりますと当然鉄の肺というものが必要になってくる。ところがこの鉄の肺は御承知のようにアメリカから輸入して非常に高いものである。従ってこういう器械は開業医の方ではできない。こういうものは公立病院か公的医療機関でこれを備えて市民の医療に万全を期していくのが、これが公立病院の性格であると思えます。開業医の方々は、一応、経営というものを、「医は仁術」であるというむかしのことわざでなしに、経営を主体にしてお考えになってみえるが公的医療機関はいわゆる独立採算を建前とはいたしておりますものの、その中においてあくまでも市民全般の保健医療、これに万全が期せられるような態勢であって、そこにおいて採算そのものはあくまでも度外視されなければならぬ。こういうことが公的医療機関の根本的な精神であると思えます。そういうような観点で私どもたえず病院の医療管理者である院長とは話し合いをいたしております、院長もその線には同感でございます。従って、非常に申し上げにくいんですが、一般会計からも相当額そういう意味において私どもは繰り入れをしておいていただいております。

ではないかと、こういうふうに思っております。あくまでも公的医療機関としては採算を度外視した医療を行なわなければならない。しかも一般開業医でできないような医療、そういうようなものも、これはあくまでも公的医療機関の責任においてやらなければいけない、こういうふうに考えております。

○前川辰男君 大へん当をえた答弁をいただきましたので了解いたします。市長、その点ひとつよろしく願ひいたします。

○議長（山本三郎君） 次に、小林議員、どうぞ。

〔小林喜夫君登壇〕

○小林喜夫君 病院の敷地の処分につきまして、まずお尋ねする順序といたしまして、市当局ではどのくらいの値段でこれ組んでおるかということ、それから売却方法についてお尋ねをしたいと思ひます。

〔衛生課長（三輪喜代司君）登壇〕

○衛生課長（三輪喜代司君） お答えいたします。

一応、予算的な面から考えてまいりますと、昭和三十六年度の予算で計上されておりますのと、それ以前の合せまして坪約七万円で計上されております。方法につきましてはまだはっきりした線が出ておりません。これにつきましてはいずれ時期まいりましたら、財務当局のほうと十分協議いたしまして皆様方の御承認をえて売却しなければならぬものでないかと、このように思っております。

〔小林喜夫君登壇〕

○小林喜夫君 土地の売却の方針についてお尋ねをしたいのであります。昨年の六月に市の所有地の阿倉川の一萬坪の昭石の払い下げの問題であります、五年前に買った八百三十円で昭石に払い下げることにしまして総務委

員会に付託になったのであります。その節私は貨幣価値もほとんど変つとりますし物価指数も変つとる、そういう時代において五年前に買った八百三十円の値段が妥当であるかどうかということについてお尋ねをしたことがあります。そのときに、ある方の説明では市役所はもうける機関ではないのだ、もうけなくていいんだと、五年間の利息を二百万ばかり頂戴したらそれでいいんだと、こういう説明がありました。その当時私はその方法についてはなはだ割り切れないものがありました。よく考えますとやはり市としましてはもうける機関ではないのだから買い値で売ってさしつかえないのだと、こういう結論があつて、その考えが正しいと私は考えておるわけであります。

ところが、いまの衛生課長の説明によりますと、あの一千坪につきましては坪七万円で売ると、こういうような計画のように御回答がありました。が、市当局としてはこんど土地その他の財産処分ということが当然起つてまいりますが、強いところには安く売って一般大衆には高く売るのだと、こういうような考えもしないではないのであります。こんど市当局ではこういう財産処分につきましてはどういふ方針で進まれるのか、その点をまずお尋ねしたいと思います。

次は、売却方法については財務局とよく相談して、こういう御回答であります。まことにけっこうなことですが、私は特にその節、売却する方法につきましては、特別お願いしておきたいのは、入札という方法を用いますと、どうしても値段が張って、しかも四日市の土地というものは年々等比級数的に上昇するものであります。ある一部の有力な土地ブローカーとかそういうものが入手しやすいような状態になるのであります。

それで私が特別にお願いを申し上げたいことは、これはある一定の提示価格を、売却価格を提示しまして、そうして抽せんにしたならば一般大衆がこれに容易に手に入るんじゃないか、こういうように考えます。その点につきましてぜひとも御一考をいただきたいと思ひます。

〔衛生課長（三輪喜代司君）登壇〕

○衛生課長（三輪喜代司君）　ただいまの私の答弁に対してちよつと誤解があるように思いますので、あらためて答弁させていただきます。と申しますことは、七万円ということは予算措置として約七万円で計上されておる、私どもの考え方といたしましてはできるだけこれは、ただいま民生部長のほうから答弁がございましたが、担当者としたしましてはあの土地はできるだけ高く売りたい、そこで売りました金につきましては病院の医療設備のほうへ投資したい、こういうふうな考え方を持っておりますので、念のためにお答えしておきます。

〔総務部長（林義男君）登壇〕

○総務部長（林義男君）　お尋ねの財産処分について市はどう考えておるかという点についてお答えしたいと思います。

原則的には公売という方法をとりたい、こういう考え方でございます。ところが御承知のようにいろんな、その処分をする際には具体的な、縁故的な場合もあり、それから政策的な処理をする場合もありまして、そういった場合には皆さんの一々御了承をえて処理するというのが条例でもはっきりいたしておりますので、御了承願いたいと思ひます。

それからあの病院の敷地の問題につきましては衛生課長からお答えいたしました。が、重ねて具体的に申し上げますと、当時病院の敷地の購入につきまして新病院の敷地の地主の一部の方でかえ地でないといふ御承認が願えない、しかも旧病院あとでそのかえ地がほしいのだ、こういうような問題がございまして、当時の議会の御了承をえてそういう処理をいたしております。その場合に対価交換でなくって対価交換をいたしております、その方法としましては当時としまして勸業銀行の土地研究所でございますか、その御評価による処理並びに市の税務部の評価による比較と、



そういう二点をとりましたのでございますが、四万円と当初計上いたしましたときには、あの敷地を当時の勸業銀行の方は四万円と評価をされました。そういうようないきさつがございまして、いわゆる時価による評価で処理をした、病院の敷地についてはそういう考え方を持っております。

それで、御要望のような処理方法、これもごもつともな御意見でございますけれども、これはいずれそういう具体的な場合には議会の皆様の御賛同をえる方法によりまして処理したい、こういうふうに考えております。(小林喜夫君「了承」と呼ぶ)

○議長(山本三郎君) 以上で通告のありました質問は終わりましたので、議案の審査を関係常任委員会に付託いたしたいと思いますが、御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長(山本三郎君) 御異議ありませんので、そのように決定いたします。

議案才十一号、議案才二十六号、議案才四十四号の三議案を教育民生委員会に付託いたします。

○議長(山本三郎君) 次に日程才二、議案才十二号ないし才十八号、議案才二十号、議案才二十二号、議案才二十三号、議案才二十七号、議案才二十九号及び議案才四十五号の昭和三十六年度特別会計市立印刷所費予算等並びに関連議案を議題といたします。

前川議員、どうぞ。

〔前川辰男君登壇〕

○前川辰男君 競輪事業について質問をいたします。

質問の要旨は昨年の議会並びに委員会等とってまいりました経過と、それから三十六年度の議案説明に出ております内容と矛盾しておる点があるのではないかと思われますので、その点について質問をいたします。

すなわち昭和三十四年の十二月に婦人会から競輪の即時廃止について要望、要請が出されまして、それらをめぐりましていろいろと討議が繰り返されたわけでございます。そのときの産業経済委員会の結論といたしましては、婦人会のいっておるところの社会悪という問題については論をまたない、十分理解することができ。しかしこれも四日市市だけの問題ではなくして、他の関連都市並びに国の施策等にも関連することであるから、それらとの関係も十分に考慮を払う必要があり、また折あしく災害後であるので出費多端の折から、いますぐやめるということは無理ではないかと、まあこのような三点の問題が結論として出され、まあこれらを十分検討の上でまあ早くなんとかすべきだと、それから十分に理事者で検討をしてもらいたいというふうな意見だったと思います。また市長もですね、委員会あるいは協議会あるいは本市議会等で、決して、この競輪というものは公共賭博であるし好ましいものとは思っていないがと、という点とだとか、あるいはまあ国や他市との関係もあるので、四日市の一存でもいたしかねると、このような御答弁だったと記憶しております。ところが、こんどの議案の説明を読みますという、どうも二、三年先まで競輪を存続するということをここで予約しておるのではないかと思われま。すなわち二、三年間の間に全面錦装をして、まあ道路でございしますが、その財源として競輪収入を優先的に当てたいと思うようなことが書かれておりますので、これは先ほど申し上げた昨年から経過と矛盾をしておるのではないかと、できるだけ早くこういう社会は取り除きたいという意向であったのが、今年になっては二、三年先まではやるんだと、こういうことをいっておるのではないかと思うんです。国におきましても一年間の期間をまあもってこれを検討するというふうな付帯決議も出されておるような状況の中で、また松阪市においてはすでに市長が競輪を廃止するという公約もしております。

このような情勢の中で四日市が三年先まで予約するということは大へん社会の状況に対して逆行しておるんじゃないかという、これに対して市長の答弁をお願いいたします。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） お答え申し上げます。

競輪につきましてはすでに議会におかれましても継続の御決議を願っておりますし、またこれの共催者でありますところの鈴鹿、桑名とも同一步調に相なっておりますので、従いましてやらしていただきたいと、こう存じておる次第でございますが、ただいまの社会問題とのにらみ合せにつきましては、これは申されるまでもなく皆おのの考えでおるわけでござりますが、その時期等につきましてはよくよく熟慮いたしませんと、ただいまのところといたしましてはなんとも申し上げかねないと思います。

右ひとつ御了承を願いたいと思います。

〔前川辰男君登壇〕

○前川辰男君 昨年の状況の中ではないですが結論を出せということは私もいいかねたわけですが、まあ半年のあるいは一年の間に、あの答弁の中で十分に御検討願う余地があったんじゃないかと思えます。その一つとしましては他市の関係即ち鈴鹿並びに桑名の関係もあると、こういうことなので、この一年間の間にすね、この競輪の存廃問題につきましてどのように話し合いをされたか、事務局のほうからでもけっこうでございますから、お答えをいただきたいと思えます。

〔産業部長（浅川謙一君）登壇〕

○産業部長（浅川謙一君） お答えいたします。

競輪につきましては前川議員のおっしゃったようにひとり四日市だけでなくこの問題は全国の問題なのでございます。従いまして公営企業と申しまして四つございしますが、競馬、競輪、競艇、オートレース、古くから一番やっております競馬につきましても、その後に起りました競艇、オートレースにつきましても方法といたしましては同じなのでございますが、ひとり競輪だけがいわゆる社会悪というふうにして世の批判を受けておるのは現実の問題なんです。この点につきましてはわれわれもよく了承しておるんですが先ほど前川議員のおっしゃいました一年間ということにつきましては、本年の九月、いわゆる公営企業と申しますか、これの是非の問題につきましていわゆる公営企業の審査会というものが本年の二月二十四日に実施されまして、ようやく先週でございましたか、この委員が二十名任命されました。本月中には才一回の委員会が開かれる予定になっております。従いましてこの結論は本年の九月までに出すということになっておりますので、各市ともこの結論待ちというふうな状態でおります。もちろん全国施行者協議会におきましてもこの問題につきましては非常な関心を持っておるわけなのでございまして、すでに兵庫県と神戸におきましては独自の見解におきまして競輪廃止をせられたところもございしますが、しかしながら現在の各市の財政状態によりましておのおの見解も異なりますが、しかし一応、協議会といたしましては調査会の結論を待って善処したいというのが現状でございますので、本市といたしましてはこの結論を待ちまして、その上において善処したいと、かように考えておりますので、この点御了承願いたいと思います。

○前川辰男君 残念ながらただいまの答弁はぼくの質問に対して答弁になってなかったように思われます。これ以上追及しましても、結局市長がよかったところの鈴鹿や桑名等の関係もあるのではということとは、桑名や鈴鹿と十分に協議をして、そうして善処をしたいというふうに私は受け取っておったわけでございますが、この一年間何もやっておるんじゃないという答弁のように受け取られます。このような消極的な考え方で、一昨年からいわれており

ますところの青少年の健全化と、こういうような問題がですね、口の上で幾らいわれておっても実際問題としてできないのではないかと、もっと競輪をなくしていくという意欲をもってなんらか具体的に動くと、そのような形がなければどうしてこの青少年問題の健全な育成ということがいえますか。さらに、答弁は必要といたしませんか、口の上で議会の上で答弁するのではなくして実践に移していただきたいということを要望しまして質問を終わりますが、ただ一つだけまだ聞いてないんです。それはつまり二、三年先まで道路行政のほうに使いたいということですが、これは二、三年先まで競輪を実施するのかどうかという点を、これだけお答えいただきたいと思っています。

〔総務部長（林義男君）登壇〕

○総務部長（林義男君） 市長が説明で申し上げております意味は、競輪をやっておる間優先的に道路舗装に特定財源的な考え方で投入していきたい、こういうことでございまして、防塵処理を二、三年でやるということと、競輪は二、三年やるということとは全然考え方は違うと思います。（拍手）

○前川辰男君 答弁はいりませんが、それではいわゆる競輪を正当化するためにこのような文章でないかと解釈して私はこの質問を終わります。

○議長（山本三郎君） 次に大谷議員、どうぞ登壇してください。（大谷喜正君「えらい早いな、びっくりした」と呼ぶ）

〔大谷喜正君登壇〕

○大谷喜正君 質問通告の中に国民健康保険と公共下水道の二点を通告いたしておりましたが、国民健康保険のほうは逐条審議のときに質問をすることにいたしましたして取り消します。

公共下水道に関連いたしました二、三御質問を申し上げます。

ちょうど公共下水道事業費が特別会計となりました、実質的な事業発足はまさに本年度からというようなとき、しかも近くオリンピックを日本へ開催、誘致に決定しておるといとき何かわれわれ市民が多年にわたって本市に公共下水道事業の促進を願っておった機会が今年度こそはというような非常に大きい期待をかけているのではなからうかと考えるものであります。そのときに当りまして公共下水道費として本年は一億四千余万の経費が計上されているわけでございますが、この経費の内容につきまして是非は別といたしまして、私が担当部長並びに市長に御質問申し上げたいと思う要点は、非常に都市下水というものと公共下水道事業というものの区分があいまいであって、その政策という焦点もおのずからぼけているのではないかと、これが感じられるわけであります。という理由は、今回の市長説明の中にも都市下水路に対しての一般会計予算中での御説明ではなんか特定な会社なりあるいは特定の財源のあることを大きくその中に表明せられて、こういう財源によってこの仕事をするんだと、こういう感じを受けるのであります。もちろん財源の捻出場所については私もこれに対してとやかく申し上げるわけではありません。まことにけっこうと思いますが、まあそういうことで一つの公共下水道事業というものが行なわれているかの様に錯覚を起して、本質的な公共下水道事業というものの計画、規模、将来への方途、具体的にわれわれが市長説明の中におきまして予算の内容を見ましても残念ながら見出すことができないのでございます。これが質問に対する才一点でございます。

才二点といたしましてこんごの公共下水道事業を促進する上においての考え方の理念が技術的な立場によってこれを年次計画を立てて進めるということが優位か、地域的な環境その他のことを勘案していくのが優位となるのか、この公共下水道事業を推進する上においての考え方の理念をお聞きいたします。

以上、二点を質問します。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

公共下水道と都市下水路の区別でございますが、これは下水道法によって一応そういう一般の下水道と都市下水路というふうに分けておりますが、これは国が起債並びに補助の対象として扱う場合に法的に分けておるんでございますが、市の予算におきましてはその点若干ばやけて区別をしております。それで公共下水道と申しますのは、市の予算として公共下水道としてわれわれが処理さしていただいておりますのは、下水道の都市計画事業といたしまして認証をえまして、事業年度を決定いたしましたしてやっております。下水道の中で国の補助対象並びにそれに関連的な分で市の単独費をつぎ込んでおりますが、その計画のワク内の仕事を公共下水道の予算で、特別会計で処理さしていただいております。

それから都市下水道でございますが、これは公共下水道の区域の外の排水問題の処置並びに公共下水道区域内で公共下水道として扱かわない軽微な仕事をこの予算で処理さしていただいております。なお都市下水道におきましては塩浜方面の雨池等の排水施設の事業費をお願いしておるんでございますが、これは工場関係の臭いがする、ええ工場関係の関連の事業が濃厚であるというふうに感じたのですが、違いますか。（大谷喜正君「まあ、いいですわ、そういう見解で」と呼ぶ）

この点につきましてはやはり道路なんかと同じように鉱工業の関連におきまして国が予算査定をやりますので、こういう形で予算を獲得するほうがしやすいという点もございます。

それから才二間の下水道計画を進めていく上において年度的に進めるのか、あるいは地域的に進めるのかと、こういう意味に私、取りましたんですが、公共下水道の計画といたしましては、現在立てております計画は一応才一期と

才二期と分けまして、一期は三滝川から阿瀬知川までの間、主としてその間の戦災復興事業の完了した区域とほとんどにた区域を決定しておりますが、才二期といたしまして橋北部並びにこの阿瀬知川から南部並びに埴頭地区を含んだ区域を予定しております。公共下水道といたしましては当然塩浜方面並びに富田方面の市街地化と申しますか、都市化した区域につきましてはこんご全面的に計画を進めるのが当然でございますが、市の財政規模その他から勘案しまして、あるいは国のほうにおきましてもそういう示唆もございまして、一応現在きまっている区域で決定しとります。これができるだけ早期に完成いたしましたして、先ほど申しました塩浜の地区あるいは富田の地区にも計画を及ぼしていきたいと考えております。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま部長からお答え申し上げたと思っておりますが、この、どういうふうにしてやっているかということでございますが、ただいま申し上げましたように技術上の問題もありそれから予算の問題もあり、それから補助とかあるいは起債というような面の取り方もござりまするし、また国のほうのたいい四日市にはまあこれくらいあてがうんだと、順番としてはこれくらいのところおるといふこともございしますので、特別な市費を出せば別ですけれども、常道でいきますと、かなりいろいろの問題に制約を加えられるんでございますが、市といたしましては技術の方面も調査をいたし、また時期にしてもできるだけ早い目にやるようにし、また国のほうのワクはできるだけよい取るようにすると、市の予算もできるだけこれに力を注ぐというふうにして各方面から物事を寄せてまいりまして、できる限り早く実施の運びに進めていきたいと、こういうふうに考えております。もちろんこれには市の発達の程度もございまして公共事業でございしますので、やはりその支払いに耐える地区ということもまあ必要ようなことになってまいります。

それから家の密度といろいろのことが起ってくると思いますが、理事者といしましては十分調査をいたしまして一日も早く物事の完成するように急ぎたいと、こういうふうに思っております。

〔土木課長（天野助春君）登壇〕

○土木課長（天野助春君） お尋ねの公共下水道と都市下水道その違いを法的に説明いたしますと、公共下水道と申しますと下水道法に基づきまして地方公共団体が行ないます事業でありまして、必ず終末処理場を伴うもの、それから排水する施設が管渠でなければならぬ、そういうように規定されております。

それから都市下水路でございますが、これは管渠であっても開渠であってもかまいません、地方公共団体が行なえるのであります。また都市下水路は都市計画の決定をいたしまして事業決定すれば工事はできます。なお、公共下水道に対しましては三分の一の国庫補助がついてまいります。都市下水路につきましては同じく三分の一の補助、それから先ほど申されました工場の臭いのする下水でございますが、これは国でまた特別都市下水路と名をつけます、これは国庫補助が四分の一でございます、関係会社に国庫補助と同じく四分の一の負担を持たすという事になります。

〔大谷喜正君登壇〕

○大谷喜正君 私の質問の表現がたらないためか、おぼろげながらに知っております都市下水、公共下水の性格まで親切に御説明願って恐縮に思いますが、私のお尋ねしておりますのは、そういう性格論をお尋ねしておるのでなくて、公共下水道であっても都市下水でありましょうとも、市民の受ける恩恵というものは、どちらの方法でもいいわけです。ただ質問を申し上げております内容は、今回の市長が市政の説明方針の中で「内に目を転じ」というその言葉はまさに公共下水あるいは都市下水等にも相当のウエイトをかけられているのではないかと、この期待を寄せて予算書

の内容もよく見たわけでございますが、残念ながら都市下水におきましては特定財源に基づくことのみが表現されてその裏づけとなる一般市費からの相当額があまり期待が持てなかったということを申し上げてお尋ねしとるわけでありますので、この点繰り返して要望と市長の決意を促すわけでございます。いずれにいたしましても都市下水路の財源には今回、特定の工場なりその他の方法によってまかなわれるということは、これはきわめて私は理事者各位の御努力と関係工場の御理解によってこういうことができるのであって、本市の財源の上に及ぼせる影響というものは、ことにこれは私は満腔の敬意を表するわけであります。そういうことについて、ケチな気持ちで難クセをつけてみたり工場的な臭いがするのじゃないかという、私はいやすくも建設委員会に所属しております一人としてこればかりもそういうことは考えていないのですから、念のために申し添えておきます。ただ市長が施策の上において公共下水路並びに公共下水道的なるものにいまだ少し特別な考え方がなかったかということ、冒頭にも申し上げましたようにときあたかもオリンピックが日本に誘致されようとするときに、厚生省あたりにおきましても各都市において相当の下水道事業に対する補助並びに起債等の便があるかのように聞き及んでおるわけです。そういったときに今まで市長がその工場誘致等に懸命の努力をせられた、そのうちの何分の一かでもかかる財源の確保に努力せられて、市民が久しく希望しているこの念願を、一年も早く完成させるこの年次の計画、心がまえ、そういったことについてお尋ねしたわけですが、私のお尋ねなり要望なりの趣旨に多少なりともお考え方があれば御答弁をわずらわし、ないとなればけっこうでございます。

○議長（山本三郎君） ありませんそうですから。（大谷喜正君「けっこうです」と呼ぶ）次に笠田議員。

〔笠田七衛君登壇〕

○笠田七衛君 私は公益質屋の問題についてお尋ねを申し上げたいと思います。当該部長より御回答をお願い申し上

げます。

次に国保に対して、ということも質問通告に入れてございましたが、これは昨日からいろいろと一般予算で御質問もなさっておられますし、だいたい私も了解をえましたのでこの点は避けます。

公益質屋の性格といえ、もちろん零細者の小口金融機関であり、零細市民のサービス機関であるということはいく承知しておりますが、前年度七十二万円、今年度百十万円の一般市費を繰り入れておると、すなわち赤字である、この点につきましては私は一般市民が非常にお金持ちになったから公益質屋の利用が減ったという現象であれば実に喜ばしい現象だと思います。ところが、私がただ不可解なる点は各公益質屋においてはさい前申し上げたような数字の赤字を見、町にある質屋さんは、少し表現はオーバーかわかりませんが、旭日の勢いで伸びておられる、ここに私は問題点があるんじゃないかと思う。部長さんはこの公益質屋の運営面に対してどのような御指導をなさっておられるのかということをお尋ね申し上げたい。これは私は町で聞くうわさでございますから決してそういうことがありうべきものではないとかたく信じたのでございますが、むかしから火の氣のないところに煙は立たぬとかいうようなこともうわさであるのでございますが、ことわざもあるんでございますが、なんかその方面の関係者の方には汚職にも発展しそうな問題等もあるとかと聞き及んでおりますので非常に残念なことであると。幸いにしてうわさだけであってほしい。いやしくも四日市市の史員の方々にはそういうようなことはあってはならない、またあるべき性質ではない、かかる意味で私は単なるうわさであると自分で信じたのでございますが、どうかこの経営面に対する部長の指導方針を承わりたい。

〔民生部長（中山英郎君）登壇〕

○民生部長（中山英郎君） お答え申し上げます。

御承知のように公益質屋は浜田と富洲にございまして、利用状況は年々減つてという事実は統計ではっきり私どもすぐわかるわけでございます。それで、所得倍増で景氣がいいから減つてゐるんだというふうには私は考えております。いかなる時代におきましてでも生活扶助とかそういった実数を、数字を見ればやはり屋があれば夜があるというふうに陰があるものと私は考えております。従つてこの利用の減少ということは、一つには金額、利率は百分の三でございますが、金額のところに少し制限がきびしくて、一万円でございますが、それが利用しにくいという点がひとつ私はあるんじゃないかと考えとります。それで、この制限の、金額の制限の問題がひとつ私はたしかにあるんじゃないか。しかしながら統計上から見ますと、利用の金額というものは非常にまとまった金額でなくて非常にこまかい金額であるということでございますので、運営面のところに、あんまりよく値踏みをして買わぬのじゃないかというふうな、持つていっても高くみてくれないんじゃないかということも想像されたのでございますが、ときたま、先般流れ質物の公入札がございました。そのときの一括入札を私報告を受けたんでございますが、公益質屋でいま現在保管して流れ質をしておるときの、質屋で帳簿で現わした実数の評価の金額と業者の見積りして入札して落札した見積りの金額をいたしますと、ほぼ適正な金額で落札されるところというふうに見た場合には、それもそういうあて外れのこともないと私は認識したのでございます。それで、これはむしろサービスのほう为民間の質屋さんに、隆々としておるとすれば、そのほうがサービスがいいんじゃないかというふうに私は考えておるわけでございます。それで、いま抽象的な言葉で御表現になりましたが、そういうことを私着任していきさか耳にいたしましたので、過去における調査の結果、人心を一掃するために人の入れかえを人事当局と話しまして実施いたしました。結末帳簿の整理も実施、完了いたしております。その点は御安心願いたいと思います。まあ、最終的に指導方針といわれましたが、私はそういったことを考えまして、いままであいつた施設は所管としては厚生課でございますが、単独施設のような形にな

っておりました形を私はむしろ課長なり私なりが相当そういった独立施設の実体に触れるということが一番大事である、そうしてその上において利用がですねほんとうにサービスの面に欠けておるのか、金額を、制限をふやしたらいいのかということで、まあ新しい考え方を課長とともに研究して上司にはかって市の方針といたしたい、こういうふうな心境が現在、民生部長の心境でございます。

○笠田七衛君　ただいまは非常に率直に、明快に御答弁をいただきましたので了解いたします。

ただ一つお願いを申し上げておきたいことは、親方日の丸式で、市税の上にあぐらをかいてのんことその職にあるということのないよう切にお願い申し上げます、私の質問を終わります。

○議長（山本三郎君）　以上で昭和三十六年度特別会計市立印刷所費予算等並びに関連議案に対する通告質問は全部終了いたしましたので、上程議案の審査を関係常任委員会に付託したいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君）　御異議ありませんので、そのように決定いたします。

昭和三十六年度特別会計市立印刷所費予算等並びに関連議案を関係常任委員会に付託いたします。各常任委員会の担当部門はお手元に配布いたしました付託議案一覧表によって御了承を願います。

暫時休憩いたします。

午後四時十分休憩

午後四時四十一分再開

○議長（山本三郎君）　休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。

○議長（山本三郎君）　次に日程才三、議案才十九号、議案才二十四号、議案才三十一号の昭和三十六年度水道事業会計予算並びに関連議案を議題といたします。

早川議員どうぞ。

〔早川和一君登壇〕

○早川和一君　市長は水道事業関係の会計予算の説明に当りまして、昭和三十六年度は昨年に引き続いて企業債一億五千万円をもって水源の開発に当りたいと、こういう所信を明らかにされましたが、予算面を見ましても、私、不幸にしてその概要がわかりませんので、まず大要の御説明を承わりたいと思います。

〔水道局開発部長（山本文雄君）登壇〕

○水道局開発部長（山本文雄君）　ただいまの御質問にお答え申し上げます。

三十六年度の水道事業のうち一億五千万円の起債をもちまして拡張工事をいたす内容について申し上げます。昨年来、三十五年度にいたしております三滝水源の拡張工事のうち残事業をいたしまして、その他朝明川の大矢知の水源の拡張をいたす予定でございますが、大矢知水源につきましては水源の設備だけをいたしまして、つまり三滝川水源につきましては残余の仕事と申しますと、水源の井戸をあと二、三本掘りますことと、その他ポンプ設備あるいはポンプ場あるいは接合井戸、こういったものをいたします。なお大矢知水源につきましては水源の設備だけをいたすわけでございますが、これは認可を受けておりますのは井戸四つということになっておりますが、いろいろその後調査をいたしまして取水埋渠に計画変更いたして実施いたしたい所存でございます。

○早川和一君　水源の開発をなさる場所と井戸の話はわかりましたが、この水源を開発されますと、どれくらいの水量がえられて、そうして何年先くらいまでの人口の増加にたえられるのか、その点もひとつ御説明を重ねてお願い

をいたします。

〔水道局開発部長（山本文雄君）登壇〕

○水道局開発部長（山本文雄君）　ただいま御質問に対してお答え申し上げます。

この才二期の拡張事業につきましてはすでに議決をいたしておりますように、全部でき上りますと二万三千トンの水源能力になります。現在の能力は二万六千五百トンでございますが、これができ上ることによりまして四万九千五百トンになります。で、この四万九千五百トンがいつまでもつかという点でございますが、これは給水人口の増加をいろいろ勘案いたしまして、また実績を見まして伸びを見ました結果、三十八年度までもつと、こういう状況であります。なおその他さらに将来計画につきましてはべつにいろいろ計画を持っておりますが、ただいまの御質問の点だけを申し上げます。

○早川和一君　ただいまの御説明でよくわかったのでございますが、私、考えますのに、主として財源を企業債に頼っておられますが、厚生省なり自治省の許可をえすためにはどういたしてもたぐさんの予算を計上しておかないと獲得技術上困難があると思うのでその点は了承されるのでございますが、昨年の例を考えてみますと、許可になりました額はわずかに四千万円でございます。今年度要求されておりますところの約四分の一でございます。不幸にいたしまして、昨年度のような四千万円、五千万円とまりました場合、三十八年度までの計画はどうなるであろうか、こういうことを心配いたしますので、その点のひとつ御答弁を願いたいのでございます。

〔水道局開発部長（山本文雄君）登壇〕

○水道局開発部長（山本文雄君）　ただいまの御質問にお答え申し上げます。

三十五年度は現在やっております才二期の拡張事業の初年度でございます。いわゆる新規事業であつたわけがあります。従いまして私たちの考えといたしましては相当無理があるとは思いましたが、一億六千万円で考えたわけでございますが、議会の方々のいろいろの御尽力もございまして四千万円を獲得したわけでございます。本年度は計画といたしましては一億五千万円、それから来年度といえますか、三十七年度は一億七千万円で合しまして三億八千万円の事業でございますが、今年の見通しにつきまして申し上げますと、だいたい全国で上水道の起債の要望額が先般三月の六日に本省で聞きとりがございまして、そのときが一番新しい状況を聞いたわけでございますが、その場合には現在四百二、三十億の要望があるようでございます。これに対しまして政府の手持ちの上水道に分けますワクは三百四十億ということでございまして、従いましてだいたい八掛けくらいに要望しましても八掛けくらいになるんじゃないかということも考えられるわけでございます。初年度でございませうに次年度に、いわゆる継続事業で才二年度でもございまして、この点私たちは十分内容の説明をいたしまして、厚生省の係官に十分認識をいただいたわけでございますが、これが決定は御承知のように大蔵省あるいは自治省のさらに査定を受けまして決定されるわけでございますが、私たちとしては現在のところ一億五千万円獲得できるものとして計画を進めております。

〔水道局長（岩野見齊君）登壇〕

○水道局長（岩野見齊君）　早川議員の御心配になつていただきました点、まことにごもっともだと存じます。技術部長は、山本部長はぜひとも一億五千万円の起債を獲得する意気込みで非常に熱心に努力して、われわれももちろん一緒に努力しておるんですが、従来の経験また水道の資金の額を見ますと、一億五千万円という数字はやや甘いような感じもいたすんでございます。あくまでこれを獲得することに邁進することはもちろんでございますが、多少そのまま期待できないというような懸念も私は持っておる次才でございます。しかしながら、これは四日市市民に断水というような事態の起りますのを防ぐためにはあくまで努力しなければならぬのでございますから、私とい



たしとしても議会の御援助をお願いいたしましたし、できるだけこの額を獲得したいと思うんですが、この額にあるいは達しない場合にもそれはそれなりに工費を考えまして断水あるいは節水等のできるだけ起らないように努力していく次才でございます。かような状態でございますので、本年は昨年同様議会の切に御協力をお願いいたします。

〔早川和一君登壇〕

○早川和一君　ただいまは水道局長より御答弁をいただきました。局長さんと部長と力を合せて、一体になって企業債の獲得に尽したい、こういう御答弁がございましたので了承いたしますが、ここでひとつ市長さんにお尋ねをしたいんでございます。もしも予定のような企業債がえられなかったときに、断水の危機が迫りますような場合には一般市費を投じて、繰り入れをしても水源の開発をなさるかどうか、この点をひとつ将来のためにお尋ねをしておきたいんでございます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君）　ただいま局長並びに部長から予算の獲得、補助の獲得、起債の獲得について、これはまあ全力を注ぐといっておりますから、困難な問題であろうと思いますが、その上議会方面の御支援もえ、また地元選出の代議士さんあたりのお力も拝借したいと、これは全市を挙げてひとつお願いしたいと思います。万が一そういうようなことがあったとすれば、市民の生命にはかえられませんから、喜んで市長は支出したいと考えております。（早川和一君「了解」と呼ぶ）

○議長（山本三郎君）　以上で昭和三十六年度水道事業会計予算並びに関連議案に対する通告質問は全部終了いたしましたので、上程議案の審査を関係常任委員会に付託したいと思っておりますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君）　御異議ありませんので、そのように決定いたします。

昭和三十六年度水道事業会計予算並びに関連議案を建設委員会に付託いたします。

○議長（山本三郎君）　次に日程才四、議案才四十九号ないし才五十三号の昭和三十五年度一般会計追加更正予算並びに関連議案を議題といたします。

錦議員、どうぞ。

○錦安吉君　質問通告を取り消します。

○議長（山本三郎君）　坂上議員どうぞ。

〔坂上長十郎君登壇〕

○坂上長十郎君　追加予算の問題につきまして要望なり二、三の問題についてお尋ねしたいと思っております。

昨年は追加予算は会期の終るころに出されまして、全体の本会議において決議された記憶があるのでございますが本年度は十日の日に提出、市長説明もあり、各常任委員会にもこの議案が付託されることになっており、私は非常に当をえとるものだと思います。将来におきましてもういうような方法で追加議案を早くお出しになり、関係議案が関係の常任委員会において十分審議されるようなお取りはからいを才一に希望しておいております。

次に、多少こまかい問題にはなりますけれども、私が追加議案を見ました上におきまして、当初予算の問題と関連する事項もございましてお尋ねしたいのでございます。

まず才一番に交際費の問題でございますが、これは先般の全員協議会においても了承事項になっておるのでござ

いまするが、当初予算とこんどの追加予算合計とを見ますると、当初予算の約三倍近くにもなっておるのでございます。本市のとき急激な発展の際には、もちろん交際費の必要なことはよく了解するのでございまするが、もしこういう率でいきますると、三十六年度は一千万円近くになるんではないかと、こう思うのでございます。しかし交際費の問題に對しましては市民の方々が多少これに對していろいろの考えをお持ちになるという感なきにしもあらずでございます。こういうような交際費の使途の面並びにこんどのといいますよりも、三十六年度の追加方面にもこのようになるのかどうか。すなわち交際費の更正予算が将来に起るかどうかということにつきましてこの見解を伺いたいのでございます。

才二点は教育予算のうちのプールの問題でございます。昨年当初予算におきまして市長がプール建設のことを市政方針に説かれました。此に對しまして学校教育に關係しては、PTAから、父兄側におきましては非常にこれに期待を持たせてございます。しかるにいろいろの事情におきまして満一年になりまして再び追加予算が出されまして相当の金額においてなされようとしるのでございます。どうしてこういうような大事な問題が遅れたか、なぜこれほどまでの多くの予算が必要に相なったかという事情について伺いたいのでございます。

プールに關して才二の問題は、本年度になりましてから學校關係からプール建設の陳情書、請願書が相ついで出るのでございます。これは小学校、中学校すなわち義務教育にある児童、生徒の夏における指導上において最も重要な問題でございますので、多くの陳情書が出されたものと思つてございます。しかるに市長の市政方針の中にはこのいま計画されておる三つの市民プールを建設して、その運営の結果を見て、それに対処して次の問題を考えたいというように述べられとるのでございます。せっかく學校側あるいは父兄の側において大いなる期待を持つてゐるものに對しましてややプール建設の問題が後退したかのごとき感があるのでございます。そこで私はこんどのプール建設に

對しこの問題につきまして、將來のプール建設には學校プールという立場において先ほど申しましたように義務教育に關係のある児童生徒のためにその建設方針をお変えになることができないかということをお尋ねしたいのでございます。

才三番には土木費に關係する問題でございまするが、主としてこれは国、県の事業に對して市の負担金として出るのでございます。その内容を見ますると、いずれも重要なものでございまして、もっと早くこれが予算化されていくことが市民のためになるのではないかと思つてございます。県の予算などは、特殊なものは別でございまするが、多くはつかみ財源のようになっておると聞いておるのでございます。こういう点におきまして土木事業費の負担金の問題について早く県と折衝してこれが迅速に予算化され、工事が早く施行せられて市民の仕合せのために努力を願えるものかどうかということをお伺いしたいのでございます。なお、こんごにおきましても県のほうが続いて県道その他の予算化されましたときに、六月あるいは九月、十二月の追加議案に際して計上されてその目的を達せられるように努力せられるかどうかという点をお伺いしたいのでございます。

才五番は保健衛生の問題でございます。当初予算の説明に對して市長は来年度すなわち三十六年度には機構改革の上から独立した課を作り、尿尿、塵芥の問題については根本的な解決をやりたいと述べられておるのでございます。しかるに追加予算を見ますると、三百四十五万の予算をもって塵芥焼却場建設の費用を要求されたのでございます。これは来年度の根本的な解決策と一貫した事業であるかどうか。ただこれは一時的の問題であるが、こういう点についてお伺いしたいのでございます。

最後に諸費の中で国有山手住宅払い下げの問題についてお尋ねいたします。この問題につきましては昨年の十月十日の全員協議会にのぼせられまして、私はその際四百五十戸の居住者の方々のために市長に向つてできうるならば財

源が許すならばできる限りあたたかい態度をもって臨んでもらいたいとるをお願いしたのでございます。幸いにも理事者側におきましては今回、居住者の十数年にわたりまして念願しておりました問題解決に踏み切られまして追加予算に上程されておりますことは、私は市民の一人として非常に感謝にたえないのでございます。居住者の方々も非常に喜んでおられることと信じます。またこの国有財産の払い下げの問題に關しましては当初から本市出身の山手代議士がいろいろとお骨折になったことを伺っておるのでございます、今回に關しまして二月十三日、二月二十七日に居住者の方々要望をお聞きになり、わざわざ名古屋の財務局にお出かけになって最終段階に對してできる限りの努力をされた、その結果であろうと私は信じておるのでございます。

そこでお伺いしたいことは、どういふような条件で市が払い下げの契約をなされ、居住者に對してどういふような方法でいま話を進めておられるか、その内容についてお尋ねしたいのでございます。

その二は工員住宅として前田町の北部、中部、南部三町、内部地区の東原、中堀の四百五十二戸の問題がここに解決するのでございますが、内部地区に高塚町約百戸近くがあるのでございますが、これに對して市当局はいま申し上げました五町内と同様なあっせん、努力をされるものか、多少異っておりますが、住宅の形態は違っておりますが、山崎町方面の高級住宅に對して市はどういふような態度をとられるかということについてお伺いしたいのでございます。

以上、五点をお尋ね申し上げます。

〔総務部長（林義男君）登壇〕

○総務部長（林義男君） 坂上議員さんの御質問の才一点交際費について申し上げます。

お尋ねの当初予算よりも三倍以上になるのでないか、この内容については疑点を持たれるからというような御注意

もございしますので、一応その内容についてはっきりと申し上げます。

これは特別交際費は当初予算の説明とおりでございます。一般交際費が三百五十万七千円、それから市民ホールの開設のための事業費、これが三百十万円、それから工場誘致対策関係が百五十万円、それから名誉市民の葬儀に對しまして四十五万円、合計八百七十四万三千円、こういうような状態でございます。それから来年度はどういう考え方であるかというようなお尋ねでございますが、本年度同様の考え方で処理していきたい、こういうふうに考えとりまします。そこで財務担当者としてはましては交際費あるいはこれに類する食量費といったようなものの考え方は、御注意のあったような点もよく考慮いたしましたして、例年当四日市市におきましては非常に厳正な態度で処理しております。ところが實際の問題に相なりますと、一々皆さんの御了承をえて処理していくと、こういう原則に立っておりますので、本年同様の態度で処理していきたい、こう考えております。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） プールの問題について御答弁いたします。

九月の追加予算で入れてもらいましたプールの築造が大へん遅くなっておりましてまことに申しわけなく思っております。六月末プール開きをする予定で現在進んでいます。遅れました理由につきましては、初めてのプール設計でございますので、いろいろの問題に突き当りまして設計変更を何べんかいたしたということが主なる理由でございます。それからたくさん追加をお願いしています理由の一つは、最初計画いたしましたときに陸上の施設、付帯施設等につきましては極力節約いたしまして、たとえば物置き、便所等は○・五坪というような設計をしておったんでございますが、せっかくのことであるからということでこれを三十坪に増したということは、三十坪で四万円とみまして百二十万円の三カ所、三百六十万円と、それから過装置にも、最初は上屋をつけないという考え方でございました。

が、これも寿命を確保する意味でつけたほうがよろうということでございました。それから地耐力の検査の結果設計を変更しました分で追加をお願いしておると。さらに最初私たちがこの単価を計算いたしますときに、久居におきまして、昨年六月に竣工いたしましたプールの単価を一応参考にいたしましたけれども、これは非常に安くできておったと、それで相当高いと思われる岐阜のプールを参考にいたしました九月の追加をお願いしたんでございますけれども、四日市市の場合は計算の結果、本体の単価が上ったために今回の追加をお願いした次第でございます。

それから現在作っておりますプールは市民プールでございますので、市民の健康増進のためにサービスするのでございますけれども、将来私たちとしては、作るプールにつきましては学校へ作って子供の健康増進のために役立つための学校プールを作ってもらいたいという希望を持っています。

〔土木課長（天野助春君）登壇〕

○土木課長（天野助春君） 土木費につきまして県の事業に対する負担金の予算計上が遅いじゃないかという御質問でございますが、本年度は県の事業費がうんとふえまして昨年末の十二月県会で議決になりましたので、その後決定いたしました事業が相当ふえておりますので、新年になりましたから県のほうから市のほうへ連絡がありまして負担金の内示があったわけでございまして、このたびそれに合わせて計上させていただきましたわけでございます。なお県の事業は一応内示をいただきまして、工事は着々進められておりまして、その点は支障がないものと思っております。

〔監理課長（小林清君）登壇〕

○監理課長（小林清君） 山手国有住宅の払い下げのことにつきまして申し上げます。

山手国有住宅の払い下げは多年の懸案でありまして、一月三十日にこれが払い下げ価格の内示を財務局のほうで受けてまいりました。その当時の払い下げ価格の内示によりますと、一戸当りの平均が十九万八千五百一円でござい

ました。その後価格の引き下げを中心とした交渉を財務局と続けてまいりまして、最近、最終的にいただいた内示によりますと、一戸平均が十六万九千七百一十一円となるのでございます。この三月八日いただきました内示の内訳は土地が二万七千八百七十七坪二六で、六千八百三十三万九千九百四十七円、建物が四百六十戸分、一千八百三十二万八千八百一十一円、工作物が同じくでありまして百七十七万一千四百六十四円でございます。合計で八千八百二十三万九千九百五十二円でございます。これは払い下げに当りまして、減額措置のできる住宅につきましては減額措置を適用されたものでございまして、減額措置以前の価格は、一億四千三百六十二万一千八百六十五円でございます。この四百六十戸分のうちには十六戸が減額の対象になっておりません。それは店舗とか増築とかで減額措置の条項に該当しないというものでございます。その減額措置のない家屋の価格は一戸当り二十七万六千三百七十三円となっております。国と四日市市とがこの払い下げにつきまして契約をするに当りましては、この減額措置のほか七カ年の延納が認められることになっております。延納期間中は一時に払い込んだ金額のほか残額について延納利息を付して納めることになっております。延納利息は六分五厘を予定いたしております。一時払いの金額は払い下げを受ける金額の約三五％、契約と同時に一時に国へ払い込むことになるのでございます。それで居住者に対する売払いにつきましては市が払い下げを受けました土地のうちから道路とか公園、緑地とかに当る土地につきましては市において負担さしていただきたいと考えます。その他の土地につきましてはなるべくすみやかに居住者に住宅の払い下げとともに買ってほしいということを申し入れてございます。

今回の予算の要望といたしましては、国への支払いの三五％の金額と収入のほうにおきましては道路、公共用地その他の負担する金額を引きましたものの居住者の純然たる約五十坪の宅地に普通の住宅が建っておるものに対する金額の三割五分を収入として上げさしていただきました。それによりまして居住者が負担する、才一回に払い込む金額

は従来からの交渉で払い下げ価格の二分の一ということを申ししておりますので、歳入に要望いたしましたものとの間には差があるのでございます。それは払い下げ総額につきましては一千百三十五万四千三百五十七円という金額が約一五%でございますが、市に保証金として預かるということになるのでございます。

なお契約の条件といたしましては、居住者に対しては全員協議会で御了承をえました即納金を五割を市へ納入すること、払い下げを受ける者は全員連帯保証の責に任ずること、各自払い下げを受けるもの以外で市の承認する保証人をつけること、その他市の指示する事項に従うことというふうにして、それを骨子とした条項で契約させていただいたと思っております。なお払い下げを受けてから延納をいたしております七年間は国のほうからもっぱら住宅の用に供してほしいといわれておりますので、七カ年はそのように致しております。

なお高塚町山崎町の住宅につきましては財務局のほうにおきまして高塚町も続いて払い下げの意向のあることがわかっておりますので、居住者の要望がまとまりましたならば、市においてあつせんを、この住宅の払い下げに続きましていただきたいと考えております。山崎町の住宅につきましては国は個々の住宅地も抜き売りをすることとすることができるといっておりますので、相当住宅も大きく、かつ居住者の方の考えもまとまっておらないだろうという観測をいたしておりますので、この問題につきましては個々の払い下げになるものと考えております。

以上で終了します。

〔衛生課長（三輪喜代司君）登壇〕

○衛生課長（三輪喜代司君） 塵芥焼却場の増設につきましては市長の提案理由の説明の中にもございましたように市として今夏の夏の激増期に対応するための施設でございまして、当初予算の中で述べられております清掃事業の整備拡充計画とは直接的には関連はございません。

〔坂上長十郎君登壇〕

○坂上長十郎君 ただいまの各関係部課長の説明においてだいたい私は了承するのでありますが、二、三の希望を申し述べておきます。

オ二番のプールの件でございますが、教育長もはっきり将来学校プールに切りかえていきたいというようなお考えでございます。私はこれに対してぜひ大いにやってもらいたい。ただいまの市内の現状を見ますと、川においては汚水あるいは農薬の関係で子供らの泳ぐ場所がない、海岸もまた汚れておる、こういう立場におきまして夏期の子供の教育上非常に重要なものはこの学校プールの問題だと思えます。こういう点におきまして多くの陳情書が出とりまするが、いま作られようとする三つの市民プールの位置と将来の作る位置との勘案を十分考えてその効果の大きなようにやってもらいたい。また詳しいことは委員会においていろいろと申し述べたいと思えます。

土木費の問題に関してもよくわかるのでございますが、できる限り県との折衝してやっていただき、こんどにおきまして県の土木出張所のほうから要求がありましたならばこれに応じてやってもらいたいということを希望いたします。

次に、保健衛生の問題につきましてはまた委員会においていろいろと意見を述べたいと思えますから省略いたしますが、国有住宅の払い下げ問題につきましては特に希望をいたします。ただいま課長の説明によりましていただきたいその内容が了解できたのでございますが、これから七カ年にわたって残り半分を支払うようになるのでございます。しかし四百五十余戸の居住者の中には経済上の生活の上において千差万別でございます。こういう点において支払い方法に相当問題もあるだろうと思うのでございます。そういう立場からこの国有財産の払い下げのあとの始末の問題につきましては、できうるならば特別会計にでもかえてもらって居住者のいろいろの希望に対していろいろと御心配に

なり、皆が喜んで実現できるように切に要望する次第でございます。

なお、山崎町あるいは高塚町の問題に関しましても居住者のほうから要望がありますならば、できるだけ市において払い下げのためにあつせん、尽力されんことを切に要望いたしまして私の質問を終ることにいたします。

○議長（山本三郎君） 質問者笠田議員から取り消しの通告がまいっておりますのでこれを認めます。

以上で昭和三十五年度一般会計追加更正予算並びに関連議案に対する通告質問は全部終了いたしましたので、上程議案の審査を関係常任委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

「「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（山本三郎君） 御異議ありませんのでそのように決定いたします。

昭和三十五年度一般会計追加更正予算並びに関連議案を関係常任委員会に付託いたします。各常任委員会の担当部門はお手元に配布いたしました付託議案一覧表によって御了承願います。

○議長（山本三郎君） 次に日程才五、議案才五十四号ないし才五十六号の昭和三十五年度特別会計市立四日市病院費追加更正予算並びに関連議案を議題といたします。

本案につきましては質問通告がございませんので、直ちに関係の常任委員会に付託いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

「「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（山本三郎君） 御異議ありませんので、そのように決定いたします。

議案才五十四号ないし才五十六号の三議案を教育民生委員会に付託いたします。

○議長（山本三郎君） 次に日程才六、議案才五十七号の昭和三十五年度特別会計国民健康保険費追加予算を議題といたします。

本案につきましても御質問の通告がございませんので直ちに関係の常任委員会に付託いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

「「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（山本三郎君） 御異議ありませんのでそのように決定いたします。

議案才五十七号を教育民生委員会に付託いたします。

以上をもちまして本日の日程は全部終了いたしましたので会議を閉じることいたします。

次回の本会議は来る二十七日午前十時に開会いたします。

本日はこれをもって散会いたします。

午後五時三十三分散会

昭和三十六年四月四日市市議会议定例會議事速記録 才五号

○昭和三十六年三月二十七日(月曜日)午前十時六分開議

○出席議員(三十七名)

早	大	池	荒	志	鈴	錦	谷	伊	矢	山	内	野	馬	米
川	谷	畑	木	積	木		口	藤	田	口	山	呂	嶋	田
和	喜	佐	武	政	敏	安	専	太	繁	信	弥	幸	温	好
		太									十	太	知	
一	正	郎	治	一	郎	吉	九	郎	郎	生	郎	郎	君	兼
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	速
														記

○欠席議員（三名）

橋 小 藤 山 中  
 詰 林 谷 本 島  
 興 喜 裕 三 忠  
 隆 夫 一 郎 勝  
 君 君 君 君 君

平 鈴 森  
 野 木 田  
 太 愛 卯  
 七 次 七  
 君 君 君

○市議会议務局（四名）

市 務 局 長 市 務 次 長 市 務 係 長  
 川 地 菊 川 佐  
 善 英 原 藤  
 雄 也 裕 茂

高 渡 伊 加 浜 服 笠 前 坂 伊 伊 生 辻 日 田 山 柴 永  
 橋 部 藤 藤 金 定 弥 昌 七 辰 長 泰 宗 平 定 義 末 忠 中 田 田 田  
 伊 權 太 權 一 男 平 弘 衛 男 郎 十 一 一 蔵 章 平 松 一 繁 側  
 祐 郎 太 一 男 男 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君



○ 議事日程

才五日 三月二十七日(月) 午前十時開議

1 議案才一〇号乃至才四八号中

一般会計予算並びに関連議案……………各委員長報告……………質疑、討論、議決

2 議案才一一号、才二六号、才四四号……………教民委員長報告……………質疑、討論、議決

3 議案才一二号乃至才四五号中

特別会計予算並びに関連議案……………各委員長報告……………質疑、討論、議決

4 議案才一九号、才二四号、才三一号……………建設委員長報告……………質疑、討論、議決

5 議案才四九号乃至才五三号……………各委員長報告……………質疑、討論、議決

6 議案才五四号乃至才五六号……………教民委員長報告……………質疑、討論、議決

7 議案才五七号……………教民委員長報告……………質疑、討論、議決

8 議案才六一号、才六二号……………議案説明……………質疑、討論、議決

9 議案才六三号……………議案説明……………質疑、討論、議決

10 議案才六四号……………議案説明……………質疑、討論、議決

11 議案才六六号、才六七号……………議案説明……………質疑、討論、議決

12 議案才一七号……………議案説明……………質疑、討論、議決

13 議案才二一七号……………議案説明……………質疑、討論、議決

14 委員会報告才一号乃至才二二七号……………採否決定

15 監査結果報告才三四号、才一七号乃至才二八号……………承認

○議長(山本三郎君) ただいまから定例会を再開いたします。

本日の出欠議員数を報告いたします。出席者三十五名、欠席届出者二名、遅刻三名であります。

暫時休憩いたします。

休憩中に運営委員会を委員会室において開きますから運営委員の方、御集合願います。

午前十時七分休憩

○議長(山本三郎君) 休憩前に引き続きまして定例会を再開いたします。

本日の議事日程につきましては先程運営委員会に諮りました結果、先刻の全員協議会の決定に基づき、議案才六十五号は撤回されましたのでお手元に配布いたしました議事日程中、日程才一を削除しますから御了承を願います。

なお、議事説明者のうち、教育委員長、学校教育課長及び事業課長はやむをえない事情のため欠席いたしておりますから御了承をお願いいたします。

ただいまから会議を開きます。

目下、上程中の各案件に対する内容の審査につきましては、去る十五日と十六日の本会議におきましてそれぞれ関係の委員会に付託いたしましたのでありますが、各委員会の審査も終了いたしておりますので、本日は委員長の結果報告に基づき審議を続行いたします。

それでは日程才一、議案才十号ないし才四十八号中の、昭和三十六年度一般会計予算並びに関連議案を議題といたします。

本件に対する各委員長の結果報告を求めます。

まず、建設委員長にお願いいたします。

〔建設委員長（浜田弥平君）登壇〕

○建設委員長（浜田弥平君） 建設委員会に御付託になりました議案才十号のうち関係部分及び議案才三十号の審査の経過並びに結果につきまして、御報告申し上げます。

まず、議案才十号昭和三十六年度一般会計予算のうち、歳出、才四款土木費の一億四百四十一万七千六百三十円、才五款都市計画費の一億五百八十二万四千八十円、才六款港湾費の一千二百六十七万八千八百九十円、才八款社会及び労働施設費のうち、才十九項の公営住宅費七千五百八十八万四千三百十円、同じく才二十項の失業対策費六千六百六十五万四千九百十円、才十款都市下水路費の一億二百三十四万二千三百七十円、才十六款諸支出金の才八項諸費のうち借料及び損料の百五万二千円の各審査につきまして順をおって申し上げます。

才四款の土木費につきましては、道路橋梁費の道路維持修繕費で道路舗装工事費が二千五百万円計上されておりますが、これは当委員会といたしましては防塵舗装には、五千万円程度の予算措置をして補修箇所のパトロールもあわせて行うよう要望してきたのでありますが、この要望に対して半額の予算計上に過ぎないこと、また、道路新設改良費では比較的交通量の少い利用度が低いと思われる路線が計上されている反面、旧市内の利用度の高い路線については全く考慮されていないということ、特に七ツ屋町線の排水施設及び舗装の工事につきましては市道というものの実情は会社専用道路ともいうべきであり一般市民の利用度が極めて低い点からして会社の地元寄付金が半額にとどま

っているのは適當ではないのではないか、また橋梁新設改良費が前年度に比較して八十万減額になっているが、磯津橋についてはどうなっているのか等々の意見が相当強く出まされて予算の組みかえ、または修正をすべきであるという発言もありまして市長並びに庄司助役の出席を求めたのでありますが防塵舗装については道路新設改良費との関連もあり、防塵舗装費を増額するか、道路新設改良費を増額するかということ、最終的には制限せざるをえなかったということ、また道路新設改良費は重点をしぼってやる意向であったが結局、総花的にならざるをえなかったので、できる限り早い機会に予算措置を講じて緊急度の高い路線等の処置をしたい。また七ツ屋線については、改めて会社と寄付金の増額について交渉し、万一それが難行する場合には工法の上で配慮したいということ、さらに磯津橋につきましては永久橋として架けかえてほしいという陳情もあり、現在国と折衝中で、確定次才、予算措置を講じたいという説明がありましたのでこれを了とし、その実施を強く要望した次才であります。

このほか、土木費では、用悪水路費につきましてもこんご重点をおくよう要望し、渡船費につきましては、その必要性につきまして質問があったのでありますが、理事者より名四国道の港口橋梁との関連もあることであり、その点も考えて廃止したい意向は持っているものであるが、今しばらく時期をまちたいという答弁があったのであります。

以上、土木費につきましては、慎重に審査をいたしましたのでありますが、結局は理事者の説明を了としまして原案どおり承認することに決定したのであります。なお、この承認の過程に一部少数意見で本会議まで留保案も出ておったのでありますが、委員長からお願いいたしましたかよう決定をみたのであります。

次に才五款の都市計画費であります。都市計画税の全市課税となった今日、街路事業だけでなく、都市計画の見返り的な土木工事を、山間地区農村地区に対しても行うよう強く要望したのであります。これに対しましては、理事者より都市災害、あるいは都市排水という形で今後行ないたいという答弁があって、いずれも理事者の説明を了と

しまして原案どおり承認をしたのでございます。

次に才六款の港灣費であります、港まつりについてさらに力を入れるべきであるという意見があり、理事者よりできるだけ努力をしたいという答弁がありまして、これを了とし原案どおり承認をいたしましたのでございます。

次に公営住宅費につきましては、家賃の適正な価格について検討する必要があるのではないかと発言があり、これに対して、理事者より目下検討中であり変更については慎重を期したい旨の答弁があり、理事者の説明を了として、原案どおり承認いたしました。

次に失業対策費でございますが、失業対策事業そのものにつきましては論議もあつたのでありますが、いずれにしてもやむをえないものであり、原案どおり承認をした次才でございます。

次に才十款の都市下水路費でございますが、下水路の維持管理につきましてこんごは一定の計画を立てて行うべきではないかという意見があり、また、一般家庭で簡単な下水処理をする場合に、技術方法について指導ということも考へてほしいという要望がありまして、これに対して理事者から具体的な検討をしてみたいという答弁があり、原案どおり承認したのでございます。

次に才十六款、諸支出金の才八項諸費のうち借料及び損料でございますが、これは山の手国有住宅の土地及び家屋の使用料でありまして、いづれもやむをえないものと認めて、原案どおり承認いたしました。

次に議案才三十号の雨池排水場改良費立替金に関する契約について、でございますが、これは予算に関連いたしておりますので異議なく承認いたしました。

以上、建設委員会におきます審査の経過と結果につきましての報告を終わります。なにとぞよろしく御審議をお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 次に、産業経済委員長にお願いいたします。（「議長、議事進行について」と呼ぶ者あり）前川君。

○前川辰男君 あの、これは非常に、委員長報告というのは長く、たくさんにわたりますから一つ一つの委員会の報告につきましてですね、質疑をやっていたいて、まあ議決のほうは後でべんにやっていたいてもいいと思うんですが、委員長報告に対して質疑をやっていたきそれがすんでから次の委員会に移る、こういうふうにやっていたきたいと思ひます。

○議長（山本三郎君） いままでの慣例上、各委員会の報告の後に審議をいたしたいと思ひますから御了承願ひたいと思ひます。

○前川辰男君 いままでの慣例では非常にですね、その、これを質疑するときに時間がかかってですね、委員長報告の内容と時間が多いいもんですから、やりにくいからかえてもらいたいと思ひて提案をしているわけです。

○議長（山本三郎君） 一応十分考えてみますが、議事進行の動議が出されても賛成ありませんので、本定例会におきまして従前どおりやりますから御了承願ひます。

産業委員長。

〔産業経済委員長（高橋伊祐君）登壇〕

○産業経済委員長（高橋伊祐君） 産業経済委員会に付託になりました関係議案につきましては、去る十七日、二十三日の両日にわたりました慎重審議の結果、いずれも原案どおり承認いたしましたのであります。

以下、議案才十号中、関係部分並びに議案才三十二号についての審査の過程における要望意見等について説明を申し上げます。

農業振興対策費における個々の事業につきましては、それぞれ意味をもつものと認められるのでありますが、今日のごとき農業が最も深刻な状態におかれているとき、さらに基礎的な実態を把握し、総合的な判断のもとに農業に対する基本的な理念を生かし、特に四日市独自の農業政策を樹立し、農家所得の向上をはかることが必要であるとして、これらの点を強く予算面に反映されるよう要望したのであります。

農業指導費につきましては、こんご営農指導面において農家の真剣な声を調査し、指導の万全を期するとともに、農業研究指導所においても農家の実態に即した研究指導をすることによって農家の振興をはかられるよう要望いたしましたのであります。

また、畜産奨励費につきましても、成長部門である畜産業としては、こんごの農家経済をささえる重要な一つの部門であり、特に大巾な予算の投入を考慮されるよう要望したのであります。

耕地事業費につきましては、市営単独補助事業が二万円以上五十万円未満となっておりますが当年度補助事業対象額は十万円で打切られている関係上、補助交付金が一つの事業に対して四カ年から五カ年も継続している現況及び地元立替金による問題等について時宜に適した施策が欠除している点をただししましたところ、善処していきたいとの理事者の説明を了としたのであります。

また、耕地災害復旧費における九百一万余円の減額につきましては、三十四年発生耕地災害も昨年で、ほぼ復旧したために生じたものであり、なら支障のないものである、との理事者の説明を了としたのでございます。

次に、商工業奨励費につきましては、一般商工業者並びに零細な商工業者に対する行政指導と融資行政についても一段の努力を払われるとともに、労政問題についても指導の徹底化をはかられるよう強く要望いたしましたのでございます。

水産奨励費につきましても、農業と同様、四日市の水産業のあり方について根本的な対策を講じられるよう要望いたしました。

遠洋漁業基地費は、本年度初めて基地運営に必要な経費が計上されたものであり、こんごの基地の運営に当っては、地元荷受機関との連絡を密にし、仲買人の育成をはかり、流通機構を整備して、基地の発展策を講じて行きたいとの理事者の説明を了として原案どおり承認いたしました。

農業委員会費、林業奨励費、計量取締費、物資需給費及び諸費中関係部分につきましては、別段異議なく原案どおり承認したのであります。

次に、議案才三十二号は、中小企業等協同組合の共同施設並びに中小企業の経営の合理化のために設備をなすに当たって、その必要な経費の一部を貸付けて、経営改善上、適切な施設の設置を奨励して、中小企業の振興をはからうとするものであり、別段異議なく承認いたしましたのであります。

なにとぞよろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 次に、教育民生委員長にお願いいたします。

〔教育民生委員長（早川和一君）登壇〕

○教育民生委員長（早川和一君） 教育民生委員会に付託されました関係議案につきまして、その審査の経過と結果を御報告いたします。

まず、議案才十号中教育費から申し上げます。教育費総額は三億二千二百五十四万五千六百円でありまして、前年度に比べ二千四百二十八万九千五百八十円の増となっておりますが、これはおもに給与改訂による人件費の増であります。なお、一般市費との比率におきましては一五・六％となっております。

予算編成に当っては、教育施設整備十カ年計画の実施中学校生徒数急増対策の推進、社会教育面の運営方針の研究実施を重点とし、教育に関するあらゆる分野について確固たる方策を樹立するために努力したいという理事者の答弁を了としたのであります。

以下、各項について審査の経過を申し上げます。

才一項、教育委員会費につきましては、給与改訂による職員給諸手当ならびにこれに伴う人件費の増と、需用費における単価の値上がりによる増および奨学資金助成金の増額によるものであります。才二項、小学校費につきましては、人件費の増と借地料の増加であり、需用費における増額の少ないのは前年度において計上されていた災害関係予算の減が大きく実質的には児童一人当り三十五年度において七百十三円の処、三十六年度には七百九十四円と増加しておりますが、例年ながら需用費の増額を特に要望した次才であります。才三項中学校費、才四項幼稚園費についてはいずれも人件費の増額で、需用費につきましては災害関係予算の大巾な減額になりました関係上増は少なく、これまた需用費増額について要望した次才であります。

次に、才五項校舎建設費につきましては、教育施設整備十カ年計画の実施に重点がおかれ、計画のおくれている分につきましては借入金をして早期実現をはかりたいという理事者の答弁をえて了といたしました。さらにこの計画推進のため余裕財源のすべてをかたむけてこれが実現に邁進されるようこの点強く要望いたしました次才であります。

次に、才六項、指導研修費につきましては、小中学校教職員に対する研修費を新しく計上、教育課程の改訂をひかえ、教職員の指導力の練磨を期するというのであり、才七項、体育振興費における減額は、昨年度は教育キャンプ場の建設費が計上されていた関係から本年度減額となったものであります。

才八項、中央社会教育費につきましては、青少年の教育、文化の振興、関係職員の研修の三点に対する経費が重点

的に計上されたものであり、文化財保存費における減は特別寄付金等をえて相当充実されたからであります。才九項、地区社会教育費につきましては、公民館活動の活発化のためその円滑なる運営に遺憾なきを期するべく必要な予算措置を講じ、現在における社会教育の実態を把握し、いかにこんご進むべきか研究努力するよう要望したのであります。

才十項、図書館費につきましては、前年同様の運営管理費でありまして、図書館につきましてはその老朽と現在の利用度から考えて、基本的構想を打ち立て新しい建物に改築されるよう要望することに決定したのであります。

才十一項、教育研究所費につきましては、四日市市の教育について新しい計画樹立のため、調査研究委託料を計上教育総合計画の樹立を強力に整備し、教育研究の成果を期したものであります。

才十二項、社会会館費、才十三項結婚式場費は、経常経費が計上されているものであり、以上教育費はいずれもやむをえないものと認めまして原案どおり承認いたしました次才であります。

次に、才八款、社会及び労働施設費中関係各項につきましてその大要を申し上げます。

市立産院につきましては、民間諸施設の整備されました今日、その機能をすでに果し終了したものと料し、市立四日市病院新館完成を機に吸収することになっております。また、本年度より待望の精薄施設を開設することになりましたことはたいへんよろこびとする次才であります。なお青少年対策の問題につきましても最近全国的にも大きな課題とされておりますが、教育委員会当局ともこれが運営上緊密な連繫をはかり、所期の成果をあげたいというのでありまして、関係各項目につきましてはいずれも原案どおり承認いたしましたものであります。審査にあたり次の点について要望することに決定いたしましたのであります。

保育所入所児童の収容審査はもちろん、特に精薄児通園施設の収容審査については慎重を期すること、青少年対策

については教育指導と厚生補導という組織の一本化をはかりその万全を期すべく努力されたいということでございます。国民年金事務につきましては、その加入率の向上に努力し啓蒙に万全を期しており、その成果は上昇をたどっている状況でなお一層の成果を期するよう要望いたしました。

次に才九款、保険衛生費の総額につきましては、前年度に比べ二千五百四十三万二千二百四十円の増となっておりますが、これは国民健康保険実施に関連した市内各医療機関に対する利子補給、補助金等と環境衛生施策の向上のために消毒用自動車の購入、公害対策の万全を期し、市民の健康保持をはかるための強力な施策の推進をはかる調査委託費及び市営グラウンドの整備ほか各種予防接種消耗器財費の増が主であります。

以下各項にわたりその大要を申し上げますと、才一項、体育施設費につきましては、市民プール開所による人件費七十日分及び光熱水費の増と市営グラウンドの外野屏、一九三メートル中一三六メートルを改修する工事費で、その他につきましては前年度に準じて計上されております。才二項、伝染病予防費についての増は、小児マヒの予防接種、消耗器財費の増で、衛生諸費における増は前述のとおり国民健康保険事業開始に当たっての医療センター利子補給その他補助金でございます。

才五項、環境衛生費につきましてはの増額は、施策の向上のために消毒用自動車を購入するものでありますが、これは消毒用機械を取り付けてあい路に於ましては直接自動車場より消毒できるというのでありまして、機動力により人件費のほう張を防ぎカとハエのいない明るい町づくりを推進するという意図のものでございます。

公害防止対策におきましても、前述のごとく新しく調査委託料を計上し、大気汚染等全国的にも問題になっている今日、よく調査しその結果により市民の健康保持のために強力な施策を講ずるものであります。

才六項、火葬場費につきましては、堀木火葬場の移転敷地、買収費の一部が計上されておりますが、これは現在候

補地の買収折衝中でありますので、買収決定才追加補正をしたいという理事者の説明を了としたものでございます。

才八項、塵芥処理費につきましては、塵芥量の増加により終末処理の機械化による人員の適切な配置、及び環境衛生等をはかるべく自動車の購入費を計上いたしております。才十項の屎尿処理費でございますが、これまた自動車購入による運営の円滑と、海洋投棄による船舶借上料の増であります。海洋投棄についてはこんごの見解により禁止されることも考慮にいれ下水とかみ合はせもあるが根本的な終末処理については強力に対策を講ぜられるよう要望することに決定いたしました。損害賠償につきましては、事故の未然防止につき労務管理の適正化をはかり解決していくようこれまた要望することにいたしました才でございます。

以上が保健衛生費の大要でありまして、各項目ともやむをえないものと認めて原案どおり承認した才であります。次は、議案才三十八号の四日市市社会福祉事務所設置条例の一部改正、議案才三十九号四日市市立保育所条例の一部改正、議案才四十号精神薄弱児通園施設条例の制定、議案才四十一号の市立四日市産院条例の廃止については別段異議なく原案を承認いたしました。

議案才四十二号、四日市市営水泳プールに関する条例の制定についてであります。夏期休暇期間中における専用使用の申込の処理等については、その混雑が予想されるが規則制定に際しては特にこの点留意されるよう要望することといたしました。使用料につきましては援護家庭、準援護家庭についての減免方を要望するとともに、中学校生徒の使用券発行に際しては特に義務教育優先という立場から小人扱いを強く要望いたしましたところ、規則制定に当り特別措置を講ずるという教育委員会当局の説明を了といたしましたして原案どおり承認いたしました。

議案才四十三号、四日市市体育施設使用条例の一部改正、議案才四十四号青年学級の開設についてはなら異議なく原案どおり承認いたしました。

以上が教育民生委員会に御付託になりました各議案に対する審査の経過ならびに結果でございます。なにとぞよろしく御審議を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 次に、総務委員長にお願いいたします。

〔総務委員長（池畑佐太郎君）登壇〕

○総務委員長（池畑佐太郎君） 総務委員会の審査結果について御報告いたします。

本委員会におきましては御付託になりました各案件について、去る二十二日と二十三日の二日にわたりまして慎重に審査いたしましたのでありますが、いずれも妥当なものと認めて原案どおり承認いたしましたのでございます。

以下、その経過につきまして三十六年度予算の歳出から款をおって、意見なり要望のありました点を申し上げますと存じます。

才二款、市役所費におきましては、税務の職員が評価などの納税事務のために六時間以上市内に出張した場合、特殊勤務手当が三十円であるのは妥当でない、また、教職員や警察官には公舎があるが、市職員のための公舎の必要性は認められないかという意見があったのでございますが、理事者においては検討を加えたいという答弁があったのであります。

才三款の消防費におきましては、鹿化川の水防倉庫設置を要望いたしましたところ、目下、県に対して朝明川その他とともに設置の申請中で認可になったら早急に実施して水防の万全を期するとのことであり、これを了としたのであります。

才八款中の公会堂費、市民ホール費、及び才十二款の財産費は別段意見がなかったのでありますが、才十三款開発調査費につきましては、せっかく開発局が設けられたのであるから、陣容の充実をはかって市の開発に十分なる機動

性を發揮されるとともに、開発のための経費を早急に予算化し、本市の発展に努力されるよう要望した次才でございます。

才十四款、選挙費、才十五款公債費、才十六款諸支出金中、関係各項及び才十七款予備費につきましては、別段異議なく、以上、歳出関係各款を原案どおり承認いたしましたのであります。

次に、歳入であります。市税につきましては去る十四日の本会議におきまして税務部長から市税収入に対する概要の説明があり、その内容については本委員会において慎重審査したのでありますが、税収の見通しについては、三十六年度においてはなお七、八千万円の増収が期待できるように思われるのであります。なお、現在国会におきまして地方税法の改正案が審議されておりますが、その内容については本年度すでに見込まれているようであります。改正による税収の大きな影響はないようであります。また、使用料におきまして公営住宅の家賃の滞納につき、悪質十四件を近く裁判所に提訴して解決されることとなりますが、本委員会といたしましては正直者が損をするということのないよう、滞納処分には厳然たる態度で臨むよう要望した次才であります。

競輪事業費からの三千万円の繰入金、競輪事業廃止の際の経費に積立てるべきだ、繰入金は反対であるとして、一委員から御意見があったのでありますが、他の委員は競輪を実施している以上、純益の繰り入れは当然であるとして、原案を承認した次才であります。

他の歳入各款につきましては、別段異議なく、また議案才二十一号、才二十五号及び才三十三号から三十七号までの五議案は、予算に関連の別案であり、才四十七号の監査委員条例の改正と才四十八号の市有財産条例の制定につきましても、理事者の説明を了といたしましていずれも原案どおり承認した次才でございます。

以上で総務委員会に御付託の関係部分に対する審査結果の御報告を終わります。なにとぞよろしく御審議をお願い

たします。

○議長（山本三郎君） 暫時、休憩いたします。

午後零時一分休憩

午後一時十八分再開

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして、会議を続行いたします。

日程才一に対する各委員長の結果報告は終了いたしましたので、これより委員長報告に対し質疑を行ないます。その前に一言皆さんにお願いを申し上げます。御承知のとおり、本日これからの質疑は先ほどの各委員長の報告に基づいて行なうのでありますので、会議のルールに従いまして、議案に対し逐条的な質疑をお願いすることになりますから、これから皆さんの発言に総体的な、または抽象的な点がありました場合は中止していただきますので、あらかじめ御了承願います。

それでは各委員長の報告に対し、御質疑がありましたら御発言願います。

山口議員。

〔山口信生君登壇〕

○山口信生君 はじまりにことわっておきますけれども、ひょっとして先ほど御注意がありました総体的にわたっていきましたら中止をお願いします。

四款、土木費中の四目、工事請負費について、建設部長にお尋ねいたします。九十四ページの茂福・富田浜線、事業費が六十万になっておるこの件についてでございます。地元の議員といたしまして、せっかく予算にのせていた

いたものをとかくいうことは、まことに失礼と存じますけれども、地区といたしまして一番、いま心配しておりますことは、国道一号線と、二、三年のうちに完成いたします名四国道の線の連絡であります。富田の区域は約一キロ半ぐらいに及んでおりますが、人家が密集いたしております連絡する道が全然不可能な状態でございます。このうちでおそらく名四国道は人道と違ひまして車道でございますのでたくさん道をあけるということは、これは危険が伴いますので、その必要はございませんけれども、少なくとも一キロ半の間には二、三本の道路をあけていただかなければ、地区といたしましては利用度がなくなるのやないかと心配しておるのでございます。そういう意味におきましてこれら一キロ半の人家の密集してない、一番人家の少ない、安易にぬける道路はこれをおいてないと思っておる次才でございます。にもかかわらず四メートルも舗装されるようでございますが、なにがために舗装をされるのかということをつつ聞きたいのと、市長に対して、二、三年のちに開通いたします名四国道の一号線と名四国道の連絡線、富田ばかりでございせん。富洲原も人家が密集しております。おそらく自動車の通る道は一本もございせんが、この対策はできておるのかどうかを、ちよっとこれは総体にわたっておるかもしれませんけれども、ちよっとお伺いしたいと思います。私の心配いたしますのはどこをぬいてもおそらく片側ぐらゐはぬかぬことにはおそらく連絡できぬやないかと、片側ぬくについてはその敷地の交換もいると思います。莫大な経費がまいります。というぬかんでおいては名四国道の価値はございません。おそらくいまから市長は考えをもっておられると私、信じております。この点をちよっと市長からお聞かせ願いたいと思います。建設部長は先ほど申し上げました何のためにそういうぐらゐの考えを持たずにこういう舗装を予算化されたものかどうかという点をひとつ一べん願いたいと思います。

あの、議長に先ほど私いしましたが、総体的にわたっておりましたら答弁を願わなくてもけっこうでございます。



〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） 道路新設改良費の茂福・富田浜線、六十万円の舗装でございますが、この路線につきましては山口議員さんからの説のとおり、名四国道と国道一号線の連絡につきまして、北部におきましては富洲原付近、それから富田にかけて少なくとも説のとおり三本ぐらいいはこんご連絡をする必要があるということを考えております。三本と申しますのはやはり富洲原方面で一本、それから富田の茂福付近で一本、それからその中間位ではどうしてもう一本いると、そういうふうに考えております。それでその連絡道路につきましては一応自動車を通れる程度で連絡するという考え方でなしに相当完備した連絡道路を考えなくてはいいかない。一応の連絡道路については相当数いるのであると、こういうふうに考えております。その点につきまして特に富田、富洲方面におきましては家屋の密集しておる地帯でございますので、これをふつうの郊外地で道路を建設いたしますように土地を買収して広げるという形では実際問題といたしまして解決がつかないというふうに考えておりました、家屋の移転を考えまして換地の問題を考慮せなくては最終的に解決がつかないものと考えております。この点につきましてはいま具体的に案をもっておりませんが、こんごの検討によりまして換地を考慮したいと考えております。それでこの茂福・富田浜線の舗装でございますが、一応、名四国道の建設にも伴いまして交通量が逐次、すでにふえております。これが開通いたしますとこれに数倍の交通量を考えまして相当の重量の重量車が通るんでございますが、一応これをアスファルトの中級の舗装で数年間もたしたいという考え方で予算を組ましていただいたんでございますが、この名四国道の進捗が、われわれが昨年暮ごろ考えておるよりも以上の早さで進む見通しがついてまいりましたので、この道路の拡張につきましてはお説のとおりこの付近では一番ぬきやすいところと考えますので連絡道路としてもこんご検討させていただきますと思います。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 山口議員の御質問に対してお答えさせていただきますと思います。

この名四国道と一号線との間の連絡のことでございますが、御指摘のとおり非常にたいせつな問題でございます。従いましてこれに対する考え方をもちておるんでございますが、ただいまのところといたしまして考えましたことはただいま部長が申しましたような線を一応取り上げまして応急の間にあわしたいという意味でございます。しかしお尋ねの趣旨は天賀須のまず四日市に入ってまいりまして天賀須のところではやはり一本どうしても広い道路をつけていただきたい。それから富洲原、富田一色のところでも広小路がございますのであの線をなんとかして利用してうまく連絡をひとつとりたいという考えをもちております。それから富田へまいりますと一本松のところが一番距離が近くなっておりますので、あすこに川幅がございしますし、また、片側の道になっておりますのであすこをなんとかして広げていただいて非常にうまく連絡道路をひとつとらしていただきたい。これはかなり広いものにさせていただきます。たいところ私はまあ思っておるんでございます。その次に起こってまいりますのが、かねがね申しております八幡関係の道路といたしましていつも申し上げておりますように茂福とそれから羽津との地区境に道路を作りたい。これは三十メートルは御承知のとおり国の補助もございまして非常にやりやすいということでございますので、これはぜひとも早急にひとつ実現させていただきたい。特にこんどの八幡の申しいでを受け入れますような次才になりますと一日も早く工事に着手したい、四月一日からでもやりたいという御意図のように承わっておりますのでこの線はぜひ早急にひとつ三十メートルでもって完備したものをやらなきゃその要請に応ずることができないのではないかと。また、山手のほうにつきましても後刻御報告申し上げる次才でございますが、地を取って同時にその場所をこしらえなければならぬということ、それと同時に四日市としましては、八幡が一部でありますけれどもまいります

は関連産業につきましての大きな開発を考えておりますので、できる限り奥地との連絡の意味からいきましても、この道路はかりに鵜道路といえますならば、非常に重要な路線にさせていただきたいと、県ともいっておりますが、少し理想過ぎるかもしれません。敷地としては百メートルぐらいとっておいていただいたほうがいいじゃないかと、これはもう私が助役時代から申し上げておることでもございますし、御承知のとおりあすこには朝明用水の問題がございましてあの補償をしてさし上げますときにもぜひここはこういうふうな考えをもっておるんだからやらしていただきたいということでありましてほとんど地主の方のそれに対するお心構えも御承諾をえておるのであります。ところがたまたま御承知のとおりまだ時期が尚早であって少し待ったほうがいいんじゃないかというような前議長さんの時代の御発言もございまして少し見送りましたような次才でございますが、これが名四国道と国道線との間の非常な重要な路線になるということは言を待たないことだろうと思ひまして北方開発のおそらく私はこれが使命になるだろう、こういうふうに考えておるのでございますが、これが実現をみますにはやはりいろいろな手続きもございいます。従いましてただいま部長のお答え申しました路線につきましては、ただいまのところはさほど重要でないようにみえますでございますが、早急にいろいろのことを山地との間にやろうと思ひますと、まあ、あの線でも使ひませんという外の線ではとても間にあいかねるかと思ひますので私はこの路線につきましては現状から見ますと少し早過ぎるような気分がいたしますけれども、そういうような点を考慮いたしまして予算の提案をしてまいりましたときに承認いたしましたような次才でございます。それからもう一つ南のほうへまいりますというところはできればただいまのこの昭和四日市のこの住宅地、かねてお願いいたしまして昭石の住宅地との連絡道路と、これも余力があれば一本ぬかしていただきたいというふうに漸次、そういう考えで進んでおります。もちろん南のほうへまいりますればいまの子西・八王子線というようなものが一本ぬけてまいりますし、そうして例の海軍道路というものも、これ

も強化していきたいと、元のとおりのような姿のところにぜひとも実現したいと。それから先般、非常なお世話になりましたいわゆる合成ゴムの前の二十五メートル道路というものを、これをみていくと、これは南方開発の計画にのっておりますいわゆる日永団地のどまん中を貫ぬいていく線となりますので少なくとも二十五メートルでもって名四国道、それから二十三号線、それから一号国道線とさらにそれを上のほうへずっと延ばして四日市の循環道路といえますようなものを実現させるのにはぜひとりたてていきたいというふうに考えておりました、これらは名四国道とそれから一号国道線との間の関連した考え方でございますが、いずれ各委員に御相談を申し上げていろいろ御意見も拝聴してきめていきたいと思ひますが、構想といたしましてはそういう考えをもっておりますので御了承を賜りたいと存じます。

○山口信生君 市長の説明よくわかりましたけれども先ほど私が申しましたようにこの道路のことにつきましては非常に密集地帯がたくさんございましてので早急にひとつ計画立てていただきたいと、それでなければ移転という問題が全部伴いますのでなかなか容易ならぬことと思ひます。先ほど市長が五、六本の道を上げられましたが一番簡単にできますのは八幡の貫通しておる道路、うを寅の近所、これはもう全然無関係でございます。それはできます。次に私の申しますところの富田の提案になっておりますその道路、これはまあだいたい二、三軒か五軒でよろしいと。次に一本松のところをおっしゃいましたが、一本松のところへいきますと、だいたい十軒ぐらいぬかなければならない。それから北に二、三本ぬかれますとおそらく二、三十軒ぐらいのところを全部ぬかなければ、だめとなると私は思ひます。容易ならぬことと思ひますので計画が一日遅れば遅れるだけ家が建っておれば、あとで困難を来すのであります。ただいま私が申し上げました富田浜線もいまの舗装道路の金を、舗装は一時とりやめてでも拡充のほうのくいを打って交渉に進められれば家の一軒建つやつを防げるやないかと、私、こう考えておるのでございます。あの地

帯は非常に人家が最近建つ形勢でございますので計画できればすぐに実行に移していただきたいというのが私の願いでございます。建設部長にお尋ねする必要もございませんですけれどもできたなればいまの予算でもってすぐに新しい手を打っていただきたいとそれだけをお願いいたしますして私の質問を打ち切ります。

#### 〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君 才四款、土木費、才四項の道路新設費、そのうちの工事請負費という目につきまして、建設委員長さんにお尋ねをしたいと思います。先ほど委員会の御報告をお受け、お聞かせ願ったんでございましてたいへんに御苦労に存じております。そのうちの七ツ屋町線について、あれは会社の主に使う道だから会社に金をもっと出させるというような御意見を拝聴いたしました。その点につきまして実情をちよっとお聞きとりくださいましていろいろ御意見を承わりたいと存じます。と申しますのはあの道路は以前から非常に地区民によって整備することを要望されておりました。雨が降ればどろどろになりますので付近の商家はもうどろとしぶきに本当に泣いていたのでございます。なおまたあの道路は決して会社の車だけが通るんではないので七ツ屋町高朝日町の約四百に余る子供が三浜小学校に通いますあれが重要道路に当っております。いま一つ七ツ屋町、高朝日町は総体質問にも私が申し上げましたように従来もっております田畑をほとんど工場誘致のためになくしたのでございまして、さいわいあのへんの家は各自が大きな間取りをもっておるためにたくさんの下宿人あるいは工事の従事の方々をふつう二十人ぐらいかえておるのが常でございます。それで生活をしておるというのが七ツ屋町、高朝日町の現況でございます。そういうところからそれらの人夫の方々を朝夕オート三輪によってあの道を通って奥のほうまではこび込まれておる、また出ていっておるといのが実情でございます。あの道はちよっとみまますという会社専用と思われるんですが実情はそういうようなことでございますので七ツ屋町の方々の毎年の初集會に強力な申し入れがありましたのでそれを塩浜地

区が取り上げまして地区から実情を調査した結果、それではこの舗装道路をひとつ市のほうに舗装方をお願いしよう、と、こういうことになって話ができてまして過般の地区の陳情となつてまいりましたその陳情はもつともであるというので建設委員会のほうによって御採択を賜わり市のほうでもそれを承認くださった次才でございます。つきまじてはもちろん先ほど委員長のおっしゃるやうに会社も相当使われるんだから会社が黙っておるということはこれはいかんだろう、会社のほうもこれに協力してもらいたいといひますので市の意向をくみ、各種の方々も来てもらつて話し合つた結果、ああいうような結論が出ました。で、会社側としましては、それは地元がそんなに困つておるものをおわれが手をこまぬいておるわけにはいけません。こういうやうなわけであのお願いすることに協力をしてくださつたやうな次才でありますのでそのへんのところもとおふくみおきくださいたいと思つております。それにつきましてなんとか委員長さんの御見解を承わりたいと思ひます。

○建設委員長（浜田弥平君） 伊藤議員の御質問に対してお答え申し上げたいと思ひます。いま、道路舗装については陳情とおっしゃつたようでございますが、私も道路認定をするための陳情は受けた記憶はしておりますが、舗装の陳情は受けた覚えがございません。私、そう考えております。そこでですね、まあ伊藤太郎さんのおっしゃる説はですね、地元議員さんでもあるし非常にまあ私どもが公正にみた、これは私も人間でございますので十人の委員会八人揃つてですね、現地をつぶさにみたわけでございます。それで過去数年来、市民からですね、舗装の必要とする箇所をですね、もう二百数十箇所残つておると思ふんです。陳情した結果がですね、陳情を受けて私も妥当と思つてですね、予算の許す範囲で人員をきめて考慮すべきであるということですね、理事者に付帯条件といたしまして採択いたしました案件はですね、少なくとも二百件以上になるのではないかと考えております。その中でですね、ここで私も十七日の委員会には午前十時から午後十一時まで、翌日の十八日土曜日はですね、九時から晩の七時ま

で委員会を続行いたしましたして、二十日にまた半日、午後一時から午後七時ごろまでかかって審議したわけでございますが、ここにお説のとおり才四項にはですね、五十目にわたって予算を編成されておるわけでございますが、この内容につきましてもやかく申し上げたのではございません。われわれが市民から今日までですね、要望されておる、非常はこの舗装するにいたしましたしてもですね、順位の点、重要な点あるいは簡易舗装でよい点、防塵舗装でよい点あるいは完全舗装しなければならない点、ここにその地盤あるいは交通量その他につきましても必要の度合がおの違ふと思ひます。そこで私も委員会の中で特に強い意見の二、三ございましたのはまだこの道はですね、道路認定をしたばかりじゃないか、四日市の市道に本年になってからまだなつたばかりじゃないかと、昔からですね、四日市の市民が重要路線がたくさんもっておるですね、この路線の要望ですらですね、できないのに理事者はですね、会社側の百五十万にですね、まあほられたんであらうと思ふんです。ほれられて予算化をされたのであるがですね、私どもは根本的にこういうことは、寄付金という問題は反対しております。寄付金のあるところにですね、優先的に取り上げて舗装されるんですね、貧乏人の町は永代舗装をされないことになりまふので私どもはそういうことについては反対をしてきておるわけでございますが、道路認定を受けたばかりですね、伊藤議員さんからいまる説明がありましたが、あの道路のまん中をですね、七ツ屋の人がですね、学校へ行くのに私は常時百%通られるとは思ひません。これは私だけでなくて八人の委員が揃つて現地を視察してもらつてこれは完全に工場専用道路ではないかという結論を下されましたので、私どもはこれを信じてですね、理事者に強くこの道路舗装についてはですね、会社にもう一步交渉をすべきである。委員長報告が不十分でございましたが、交渉をした結果ですね、百五十万より出なければ工事費でなんとか加減をして施工をさしてほしいという条件が理事者のほうから出まして、それを了としてこれとやかく予算を削れとかですね、あるいはやるなとかいいたわけでもございません。そういう全体ですね、市民に対し

て施す施設に対する投資の面につきましては金のある人が金を一部寄付したからですね、自分の前だけよくなるということは私ども過去何年かを通じて反対をしてきておりますので、どうせ出してもらふのであればですね、工場専用道路であるので全額出してもらつたほうが一番妥当ではないかという市民から、全体がみた目からそれで妥当ではないかという意見が多数でありましたので委員長報告にかような表われをしたわけでございますので御了承願ひさせていただきます。

○伊藤太郎君　ただいま委員長さんの御説明、お説の御趣旨につきましては私全く同感なのでございます。ただあの道路の改修ということについてずいぶん前からの案件でございまして、あの財務局の土地が市の認定を受けるということについてもずいぶん長い間時日を費やしてもらつたのでございます。それと以前からこの整備をしてほしいということは、私は会社側から聞いたことがないのですけれども七ツ屋、高朝日の方々のたえざる陳情でありましたのでだんだんと御心配を願つた次才でありますのでそのへんのところをひとつおき取りおきくださるよう要望いたしまして御了解したいと思ひます。

○議長（山本三郎君）　池畑議員。

○池畑佐太郎君　私は才五款、都市計画費について御質問を申し上げたいと思ひます。才二項の道路築造費の金場・新正線、五十万円について御質問を申したいと思ひます。この金場・新正線と申しますのはこの市役所前の道路であります、この道路につきましては昭和三十三年度近くよりその年度の都度道路費の予算がもられておるのでございしますが、現在この七十メートル道路から北へ三滝川迄の間はだんだんと事業費を入れてもらつて舗装までしてもらひ、また下水の整備までしてもらつておるんであります、それから南へは同じ金場・新正線であっても測量すらできておらない。またこの道路計画も打ち立てておられないと、ただ都市計画道路であるという単に名前だけで

あって実質的にはなんらやってもらっておらないと、この中心地帯の道路が行きづまりでありしかも一方のほうにはたくさん金を入れてもらって一方のほうには測量もしておらないというようなことはどのような理由によってこれができないのかという説明と、それからやろうと思えばいつごろから測量をやりまた実施計画をたてるかということについて簡単にけっこうでございますが御答弁を願いたい。

〔土木課長（天野助春君）登壇〕

○土木課長（天野助春君） お答えいたします。金場・新正線の五十万でございますが、これは一応国庫補助の対象の道路の築造並びに舗装工事が三十五年度で一応終了したので、市役所の前のところの歩道を整備する費用で、これは全額市費でございます。なおその金場・新正線を南へ延ばす件でございますが、これは先ほどの総体質問のときに建設部長からお答えいたしましたでしたが、一応都市改造の浜田地区のB地区、私はB地区といっているのですが、国鉄の東側をA地区、それからこの南側をB地区ということで一応建設省のほうへ長期の十カ年の計画といたしまして都市改造として要望しております。これをなすだけ早く都市改造として建設省のほうへ手続きして工事に着手したい、そのように思っております。なおその時期でございますが一応三十七年度以降になるものと思っております。

○池畑佐太郎君 早くやりたいがなかなかそこまでは手が回らないと、都市造成事業と併用してやりたいと。まことに市の予算不如意のときから国の補助金によって幾分でも市の負担を軽減したいということはけっこうとは思いますが、一応事業計画ぐらいいは立てられてもけっこうなことやないかと、事業計画を立てられればそこにおのずと線がはつきりすると、線がはつきりすればここへは住宅を建てないという事にもなつて参りますので、線も図面だけの線では地主としてはどこが道路計画路線に入るやらさっぱり訳が分らないと、自然と道路計画路線の予定になるか分らないがその時は又その時の考え方であると、だからまあ建ててこうやないかという事で現在建っておるわけなので、こ

んども建てていくと思うんですが、これが区域設定がしてありませんから建てるなということはいえませんが早く路線の計画さえ打ち立ててもらえばこの線は路線予定であるということが地主にわかりますのでそうした場合は地主も建築についてはみあわすなり、また予定線ははぶいて建築するという事になりますので、そのへんのところを再度建設部長から御答弁願いたい。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） この金場・新正線の問題につきましてはこのたびの議会の当初にも御質問を承わったように思っておりますが、国鉄の東裏の都市改造と、できれば継続的にあるいは一括的にやりたいという考え方を最初もっておったんですが、建設省の計画局のほうの考え方がまずA地区とB地区に分けまして、前期においてA地区すなわち国鉄の東側が終わった次のB地区すなわち旧国道までの間を計画をせよということで、御指摘の箇所につきましては後期のほうに一応回されたかっこうになっております。それでいよいよ三十六年度から都市改造の事業が軌道にのるわけでございますが、これにつきましてもわれわれとしましてはいま少し区域を西側のほうにでも一部の拡張でもできないかということはずいぶん県のほうにも交渉したんですが、すなわちその西のほうと申しますのは金場・新正線をふくんだところまでぐらいでも、少なくとも延びないかという意味をいっておるんですが、これにつきましても県としましては国との話し合いがつかないからこんごにおいて市のほうで計画してもらいたいと、こういうことで現在の計画のようにきまったわけでございます。それで市のほうといたしましてはこのB地区につきましてはおそらくこんご県の復興事務所の施工という形ではなしに市自体がやらなくてはならないというかっこうになると思います。それで本年度につきましては本省との話し合いは無理でございますがこんご来年度以降におきましてできましたら県の施工と並行的にでもやりたいんだという決意をもちまして建設省と折衝したいと、こういうふうに考えております。

○池畑佐太郎君 県の事業と併用できない場合には市単独でも計画したいというお説を拝聴いたしました。ありがとうございます。思う次第でございますが何を申してもこの市役所線から南橋本病院から鶴森線までは交通量も多いんですし、またそうしてここで尻切れトンぼのような形になっておって市の道路行政としても外部から眺められた場合まことに私は計画性がないんじゃないかということも強く感じられるのではないかとかように思います。どうにか近いうちに委託料の予算だけでも取られて、そうして調査をされしかも計画だけは打ち立てていくというようにひとつ御配慮を願いたいとかように思うんですが、どうか私はあく迄もこれは希望条件として申し上げておきたいと思っております。どうかよろしく願います。

○前川辰男君 道路新設改良費につきましてまず建設委員長にお伺いしたいと思います。先ほどの答弁の中にも長時間にわたりまして慎重に審議をされたその精神というものは日の当たらないところに日を当てるということだと解釈いたしますのでまことにけっこうだと思わんですが、最初の報告の中に、利用度の低い所に重点をおかれておって利用度の高い中央部は欠けておるのではないかとこのようなことに論議の中心がおかれてたように思いますので、この点につきましてももう少し詳しくお尋ねをしたいと思います。

○建設委員長(浜田弥平君) たいへん委員長報告が、委員長が気の短い男でございますので、簡単にしぼり上げて報告を申し上げたので皆さん満足のいかぬ点が多いと思うのでございますので、ただいまお尋ねのです。道路新設改良費の先ほども伊藤太郎議員さんにお答え申し上げたように五十項目から、才四項のです。道路建設内容費の五十項目からなっております四千六百五十五万円の予算のうちですね、これは私は市民が一番重要関心を直接もつのはですね、道路行政ではないかと、私もはたいへん、教育行政もたいせつであるが市民にとっておじいさんからおばあさんまであるいは子供までこの市の投資に対して、直接、公の道路に金をかけていただくなれば恩恵が受けられる

のではないかと、かように考えましてこの才四款の才四項だけです。朝の十時から晩の八時半までかけたわけがあります。結論が出ませんので翌日に留保いたしました。そうして市長さんのお帰りを待って審議に入ったわけでございますが、市長さんたいへん説明がうまいので、おじょうずで、ある議員から市長の話術にかかってわれわれは一応これを了承しようということになったのであります。委員長は市長の話術にかかってやろうという条件で、なおこのときに強い、一部本会議まで当委員会では私は留保したいと、本会議にもう一回もちこみたいという強い意見もあったのであります。先ほど委員長報告の中で付け加えましたように委員長からお願いをいたしまして御了承を願った次第でございますが、この審査の内容で皆さんも、私はどここの地区、こここの地区とは申し上げませんが、一番言葉を短く申し上げますとこの五十項目の中にですね、まあ旧市内といって私も旧市内におる一人でございますが、築港地帯に住んでおりますので、市の予算の恩恵はあまり受けないほうでございますが三滝川からですね、浜田小学校の南の通り、安定所の前の通り、あの通りまでに一銭もこの土木行政の予算が入っております。私も各議員からここはもう土木行政は完全に完成したのか、あるいは政治的配慮によってこういう予算の組み方をされたのかという質問ですね、それだけの時間を費やしたことでございますので御推量を願いたいと思っております。内容をつぶさに私から御報告申し上げなくても予算説明書にも詳しく明示をされておりますのと、なおここに掲げてあります四十項目にわたる道路新設改良費、この中には私も審査過程において陳情の受けた案件あるいは陳情の受けておらない案件あるいは継続の案件、その他道路舗装の十項目につきましては、ほとんどが先ほどの伊藤太郎議員さんに御答弁申し上げたようにほとんどが陳情の受けてない箇所が多かったということだけを私も審査過程に上って参りまして、が、しがし、市長さんにかような約束を申し上げたわけでございます。たいへん私委員長報告ずさんに申し上げたので申しわけないと思っておりますが、市長さんの前日に助役さんの御出席をえて、まあ笑い話に聞いてい

ただきたいと思いますが、助役さんは四日市へ来て西部の町のように考えたと思われたがいまもそのように考えておるかという質問もありましてわれわれ建設委員会では、旧市内のある一角には西部の町もあるということを確認をした上でこの予算審議をやったわけでございます。そういう中で市長さんが御出席を願って先ほど御報告申し上げます。来年度は防塵舗装に力を入れてほしいという要望に対してまず五千万円ぐらいの予算をみたいという市長さんのお考えであったようでございますし私どももそのように承わっておったわけでございますのでわざわざ委員長報告に報告を申し上げたわけでございますが、これが二千五百万円になっておりますのと、少なくとも防塵舗装に二千五百万円も投入しようと思うなら一千万円ぐらいですね、防塵舗装をやったあとをパトロールをやる構造すなわち小型トラックとかミゼットとかで防塵舗装を施したあとのパトロール施設を一千万円ぐらい、一千万円以内と申し上げておきたいと思えます。これをひとつかけようではないかと、早急にかけようではないかと。なお予算的にですね、非常に重要と思われる路線、もられておった路線はですね、これもまた私は市長さんに肩をもつ意味で申し上げるわけでございますが、市長さんはそう申されたが、予算の許す限りですね、早急にこの予算を組みたいという市長さんの話術にかかりまして、私どもは先ほど申し上げました委員長報告ができた次でございまして御了承を願っておきたいと思えます。

○前川辰男君　ただいまの委員長報告につきましてはこれは終りたいと思います。

他に質問をお譲りしましてあと二点ばかりお尋ねいたしますが、同じく建設委員会関係で港祭りについての審議についてさらに力を入れるとこういうふうにいわれましたが、いまの港祭りの行事というのはともすればですね、本来の趣旨からややはずれてなんか売り出しのために利用されるという形が出ておるのではないかと思われまのでその

点につきまして趣旨がゆがめられないようにしていきたいと思うのですが、これにつきましての討議の内容をお伺いしたいということ。

それからもう一つは公園費の問題ですが、公園費につきましては総体質問のときに大きな方針についてはお伺いたわけてございますが、当面の問題としていまの四日市は先ほどの委員長報告にもありましたように、西部の町といわれるほどかわききっているわけなんです。うるおいが少ないわけです。それについて街路樹の費用とかあるいは足りないながらも現在ある公園に対する措置がこの予算面では十分でないと思うんですが、それに対してどのように対処をしていくのか、この二点をお尋ねいたします。

○議長（山本三郎君）　建設委員長に答弁を求めているのではないんですか。（前川辰男君「理事者をお願いします」と呼ぶ）

〔港湾課長（中村由郎君）登壇〕

○港湾課長（中村由郎君）　ただいま港祭りのことで御質問になりました前川議員さんにお答えいたします。

従来、港祭りは単に港湾関係を重点にやっております。全市を挙げましてやりますので、昭和の三十三年ごろから従前に商工課関係の、商工会方面の祭りを一緒にいたしまして港関係によらずすべて市を挙げてやると、こういうような趣旨から港祭りを計画しておるわけでございます。従いましてこれは港祭りの会ということで市長さんが会長で各商工会議所、それから港湾関係の事業団体あるいは振興会、その他商店連合会、そういう方面がよりましてやっておるわけでございます。従いまして祭りがいささか売り出しのようになるというお話でございますが、内容はすべて挙市一体となってやっておりますのでいささかそういうようにみられる点もございしますが、しかしいずれの港湾都市といいたしましても港の祭りはすべて港祭り名でございしますので厳粛にしかも盛大にやるということからか

ような態勢を組みまして現在やっておりますのであります。しかし委員会におきましては関係の委員さんからまだ港祭りの計画をひとつ頼むやないかというような激励と叱たを受けまして、私うれしいやら悲しいやらいろいろ万感にもごもに考えたような状態でございます。そういうような状態でございます。

以上報告いたします。

〔土木課長（天野助春君）登壇〕

○土木課長（天野助春君） 公園、特に緑地帯の整備が予算が少ないということでございますが、本年度公園費といまして緑地帯の整備に二十万計上させていただきました。これで七十メートル、五十メートルの植樹の補足並びに緑地帯の整備をしていきたいと、そのように思っております。

○前川辰男君 ただいまの土木課長の説明なんです、これはこの予算の範囲内の説明のように思うんです。これでは非常にまあ不足している、いまの四日市に対してですね、少し規模が足りないように思いますのでまあ当面の問題としてもですね、もう少し考え方があるのかないのか、その点をひとつお尋ねしておるわけなんです。

○議長（山本三郎君） 土木課長。簡単に説明願います。

〔土木課長（天野助春君）登壇〕

○土木課長（天野助春君） 緑地の関係でございますが、公園緑地といたしましては、松本の墓地公園と南部開発に伴います泊地区の緑地を一応計画の中に入れております。

○議長（山本三郎君） 公園の問題は総体的なような感じがいたしますので……。

○前川辰男君 それはね、あのぼくは最初ことわったように思うんですよ。総体質問でいったからその点は答えていないわけなんです。今ね、街路にその街路樹が植えられるようになっておってもですね、そこそこがぬけてお

て自動車の置き場になっておったりあるいは小公園ができておっても自動車の練習所になっておったり、子供も遊べないような状態になっておる。これをどうするんだということを聞いているんです。

〔土木課長（天野助春君）登壇〕

○土木課長（天野助春君） 現在の予算でできるだけのことを行ないたいと思います。なお必要に応じて追加でお願いしたいと、そのように考えております。

○大谷喜正君 歳出才八款才二十二項青少年対策費の内容について伺います。

総体質問の際にも三日間を通じて各議員からことごとくこの問題についての施策を述べられたわけですが、本年度十九万八千九百八十円という極めて貴重な予算措置を講じられておるわけです。この貴重な二十万足らずの金のうちでもう八割以上九割ともいえるべき金が補導員の報償費となっておって残額二万か三万足らずの金でどういう補導をしようというのか、その補導の方法について金額と比較して承わりたい。

○教育民生委員長（早川和一君） 只今の質問は理事者から答弁をしてもらいたいと思います。

〔厚生課長（大平源弥君）登壇〕

○厚生課長（大平源弥君） お答えいたします。

青少年対策費につきましては昨年十二月の追加予算でお認めを願いました現在の補導員の、三十七名の補導員の方の運営費を一か年にみましてこれを前年どおり運営していきたいと考えております。さらにまた、現在県の指導と申しますか、県警本部の現職警官の養成とも手続き中でございますのでさらに三十六年度には追加をお願いいたします。これが運営できるよう措置を講じたいと考えております。

○大谷喜正君 厚生課長の御答弁、事務的にいただきましたましくわりますが、私のお尋ねをしよういたしますの



は折角と貴重な二十万円ほどの対策費でありますので、その二十万円に近い対策費中の十七万弱の金額をもう少し補導員の報償費というよりも他の実際に対象青年になる補導者、補導の対象者になるほうへふり向ける意思があるかないかということを開いておるわけです。先ほど委員長の御報告の中にも教育委員会あるいは民生部の阿担当所管下の組織を一本化してという御報告があったわけですが、そういったことはまた総体的になりますのでこれについての言及は避けませんが、私は十九万八千九百八十円、決して不満じゃないわけです。これでもって万全、本市の青少年対策が十分この金でもって一年間をできるものだと、こういうふうに信じたいわけです。しかし私も補導員の一人として二十万足らずの金額のうちで八割も九割も占めるような補導報償費を補導員は決して望んでる人ではなくて、真に該当する青少年に対するこれが補導の金に生きるかどうかという精神を聞いておるのでありましてそのへんをいいますこししかとした確信のもてる御答弁を煩わしたい。

〔民生部長（中山英郎君）登壇〕

○民生部長（中山英郎君） 二十万なにがしの今回上程されました議案で云々ということがございますが、現在の段階におきましては、先ほど厚生課長が申しましたように前年の八月以降の分の運営ということとを本年度一年間引き延ばしたということしていきたい。それでただいま大谷さんの、補導員は決して、三十七名補導員さんをやっていたいておりますが、三十七名の補導員の費用弁償を振り向けるという考えはもっておりませんので私どももいたしたいはいま厚生課の部門だけでは伸びませんので教育委員会と話をいたしましたして、さらに私といたしましては教官でなしに市長なり直属の、また優秀な専門の職員を中心とする一つのまとまった機構でいきたいと、それに裏づけの予算は別途市としての対策がきまってるから実施していただきたい、こういうふうに考えておりましたところこれを他に、補導員の費用を他に運用するということは考えてないということを申し上げます。

○大谷喜正君 部長の御答弁によると厚生課だけではとてもこれ以上の予算をふやしていただいてもこなしきれないから機構をもう少し充実させてそうして次のいつか適当な時期に追加予算をして対策を立てたいと、こういうふうな解釈でいいんですか。

そうすると私はここで市長さんによつてお尋ねいたします。青少年問題はこの予算を編成せられるときに急激に生じてきたものではないと思います。急激に青少年問題がこの予算の編成期において浮かび上ってきた私は問題じゃないと思います。そうすると始めから機構も充実させずにこの予算で昨年の実績に例を取って補導員の報償費さえ出しておけば、まあ三十七名の補導員が何とかまがりなりにもやっていくだろうと、こういう考え方でこの予算措置が取られたものか、あるいはそれ以外に何か文字に表われていない事情があったのか、その過程についてちょっと拝聴したいと思います。

○助役（二宮力君） 青少年の問題は委員会の際におきまして申し上げましたように、予算編成の時期に於しましては将来研究を要する事項としましてその時期を期待して取りあえずの程度にとどめておきたいと、こういう意向で組んでおります。

○大谷喜正君 いまの二宮助役の御説明ですと予算編成期においても若干の悩みがあったことをお認めであり、しかも今回の予算審議における委員会の席上においてさらに一段とその必要性を感じたというふうに解釈できるわけですが、私がお尋ねしているのはいわゆる十九万八千九百八十円で完全な青少年対策というものが施されるというその信念があったのかなかったのか。もしそれでもって不足ということをお気づきになっても他に何か事情があってこういう予算編成しかなかったのかと、こういうことを聞いておるわけです。もう一回御答弁願います。

○議長（山本三郎君） 暫時休憩いたします。

午後二時五十分休憩

午後二時五十分再開

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を開きます。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君） お答え申し上げます。

補導を要する青少年の状態を拝見いたしますと、青少年自身におきましては精神的にもまた身体的にも保護を要する面を持っておりますし、その環境もまた改善を要する面も多々含んでおります。従いましてこれらの事項に對しまして対策を考える場合におきまして、その有効適切を期するためには相当なるやはり準備を必要とする。私は考えるのであります。市といたしましてはそれらの必要と、これに對する十分なる自信を持って対処したいと考えまして、それがためにはできるだけ対策協議会などを活用いたしますし、また皆さん方の御意見も十分拝聴した上で処したいと、かように考えております。予算編成に当りましてはかような無形な方面につきまして特に着意いたしまして、予算上のその多寡につきましては必ずしも問題にしないという事をひとつ御承知いただきたいと考えます。

○大谷喜正君 この青少年対策については準備と自信をえてから十分な配慮をしたいと、こういう助役の御答弁であつたわけですが、そうしますと現段階におきましてはまだ準備と自信ができていない、こういう解釈でございますか。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君） 自信という点につきましては、自信を持たなければならぬと信じます。準備につきましてはそれらの完べきを期する上におきましてさらに必要なものを感じておる次第であります。

○大谷喜正君 本問題につきましては、先ほども申し上げましたようにきのやおとつい発生したのでなくて、議会におきましては昨年あるいは一昨年あたりから、各議員からも声が出て、今日まで一年有余の歳月が流れておる。しかもきょうもまだ自信十分だということが助役のおこばから出ようとは私は考えていなかったのです。少なくとも、二十万足らずの予算ではありまして、十分責任と自信の持てる私は予算とそのように信じてこの数字を拝見しておりました中で大半を占めている補導員の報償金というものが善導その他補導に對して大きな数字を占めたこの役割と数字の比例に矛盾があるのではないかということを私はお尋ねしたところ、先ほどの厚生課長ではこの補導費につきましては昨年の前例等もあって省くことは困難だ、こういう御答弁をいただいたのであります。それも当然必要ではあります、準備と自信の持てないものに、私はなおこの補導員の報償費というものは、あるいは解釈の仕方においては必要がないともいえるわけであります。補導員三十七名の者はこの相当額に値するようなものをもろうことは決して望みませず、またもらうてはならないと、こう思うわけです。もっと私はこの十九万八千円余の数字に責任と自信の持てる予算措置を講じてほしかったわけです。

これ以上、私がいろいろと私見を述べることは支障が生じますのでとどめますけれども、先ほどの教育民生委員長のおこばの中にもありましたように、市はすみやかに今日ただいまから機構の一本化、さらに予算化をする上におきましては責任と自信の持てる対策について熟慮を望みたい。希望を申し述べて質問を打ち切ります。

○錦安吉君 土木費の道路新設改良費について御質問をいたします。

先ほど来から同僚議員の発言またこれに對する御回答等承わっておったのですが、私もどうもこの点が納得のいかないところがあるのでございまして、建設委員会におかれましては連日にわたり深夜まで慎重審議されたと承っておりましてまことに敬意を表する次第でございますが、その上またわずらわしますが、ひとつ委員長さんにもう少し審

議の経過、各委員の発言の内容、理事者の答弁等もう少し掘り下げてお尋ねをいたしたいので、おさしつかえなくばこのうちで特に道路の舗装、新設工事に関してだけでけっこうですが、御答弁をいただきたいと思います。

委員長さん、よろしくお願いをいたします。

○建設委員長（浜田弥平君）　たびたび答弁に立たしてもらいまして要領をえまませんので具体的にいろいろ審議内容をお尋ねになったのでございますのとその中の要点はですね、錦議員に、頭が悪いのでちょっとお許し願いたいと思います。要点は出ておる予算の重軽の問題がですね、われわれの委員会の中心になったわけでございますが、そういう御答弁でよろございますか、ちょっとお尋ねしてかかりたいと思います。

○錦安吉君　交通量が多い、少い、あるいは利用度が高い低い、比較検討してもっと重要な路線もあるやないか、どうか、そういうような件について。

○建設委員長（浜田弥平君）　審議内容につきましては、概要を先ほど申し上げましたのでいま再度お尋ね申し上げましたところ、この、私どもが一番、五十目にわたります才四款の才四項の道路新設改良費のうち才四十目までが道路新設改良費であります。その次の十目が道路舗装費でございまして、特に先ほど審議内容につきましまして概要を申し上げましたのでありますが、ここで重ねて私どもの審議内容で、三日の委員会の日程を必要としたのはこの才四款の才四項でございします。そのうち特に午前中理事者の説明を聞きましていろいろと質問も起し論議したのであります。が、現地を一部見なければ委員の方々が納得しないような空気になるまいしたので、主として才四項ですね、あまり奥地はよく入りません。だが、海岸線を中心にいたしました路線を約三時間半現地視察をやったわけでございます。現地視察をやった結果、これは思い思いに皆さんお違いでありますので、私どもは地区を代表して議員に出てきておらないという、まず出席者八名のうち八名ともだいたいこれに意見が一致しておったと思います。そこで先ほど伊藤

太郎議員さんに御答弁を申し上げましたまだ二カ月前に道路認定したばかりの道路が、そらその、直接工場がお使いになるのには大へん重要な路線でありましようが、長年ですね、四日市市が発足してから、一昨々年ですか、六十周年記念をやって、この間に長年市民が道路として使用をしてきた重要な路線がわれわれ八名はあると考えたわけでございます。極端な言葉でいいますと、きのうやおとつ道路認定を受けたばかりの道路を市費をつぎ込んで、一部まあ利用者から寄付金があってもこれは妥当でない。もしこの舗装を完成してもですね、四日市市の十九万四日市民は四日市市の役所がこの道路を舗装したとは思わない、こういう意見も出ておったわけがあります。なおもう少し、私も追いつめられて、これ以上逃げておってもですね、また質問が重なってくると思いますので、もうこの辺で建設委員長に対しての質問をお断りしたいと思うので、最後に本音を言います。本音を言いますと、路線を申し上げます。白須賀羽津線、白須賀羽津線、これは御承知の競輪場のもう一本北側の道路、この道路の南側に農家の民家が、道に面しておるのが五、六戸だと思います。現地を見た結果。あとはたんぼばかりで、こういう路線が私どもは最重要とは思わなかった。これは八人の出席委員が意見一致をしておったわけですね。例を挙げて申し上げますと中ではこういう意見も出ておったわけがあります。四日市市はやはり市役所がセンターやと思っておった。先ほど池畑議員からも金場・新正線の問題で出ておりますが、私ども委員会室の窓からのぞきますと、前にはりっぱなロータリーはできておるがロータリーから南はちょっと雨が降るとどぶの中歩くようなところなんです。これが市の中心部なんです。たんぼの真中にぽっかりと予算が出てくる。しかも私どもは建設委員会に付託になりました道路舗装費は先ほど申し上げたように数百件に上っておる。その中に私どもはもっとたくさん重要なところがあるのではないかと考えるに立ちまして、極端な例を申し上げますと、市内の道路舗装とは南北に二、三本できておるだけです、旧市内には。そこで私も申し上げたように、またこれでお許しを願いたいので本音を言いますと、もう一回重ねて申し

て、こういうことを申し上げると各議員さんに支障があるのでお叱りをこうむるかも知れませんが、この道路新設改良費の四千六百五十五万の予算のうちに旧市内の予算と申し上げても、旧市内も広うございますので、三滝川から新正を含む線までの予算が一銭も入っておりませんので、まずここあたりに委員会の審議が重点が置かれたわけであつたと思うんです。その他極端な報告を申し上げますと、あの道路を舗装するのであれば川島の町の中も両側みっちり家が建つておるしあるいは四郷に行つてもあるいは下野に行つてももっと両側に家の建つておるところをやつてやつたらどうかという意見がほとんどであつたように委員長は記憶をいたしております。そういう面で、もう最後に、本音を言ひましたのでお許しを願ひたいのでありますが、これはあそこが重要であるか、その他に重要なところがないか。いま一例を申し上げましたが、旧市内の中あるいはその他人家の密集しておるところにはほこりで、車が通ればもうもうとして、一年に一回の大掃除ではたんすの中の砂がとれないという地域がたくさん四日市市内にはあると思うんです。で、決してここを私どもは不合理であるからやるなどとはいわなかったつもりであります。ここを、私なんかは、委員長は特に予算の組みかえ案をまあ考えておつたわけでございますが、同僚議員の非常に御熱心な御討議もなされまして、私どもは組まれた予算は一応、市長にある約束をいたしましたしてこれを承認したわけでございますので、承認した後は、ここをやるとかやらないとかいう問題じゃございません。ただこれが重要であればその他はこれよか軽いのかということ論議をされましたので、ここに各名称が上っておりますから、まあ賢明な議員さんの御判断におまかせをして私の答弁はお許し願ひたいと思います。

○錦安吉君 委員会の審議の具体的内容までおもしろいいただきましてありがとうございます。

ついでには理事者にひとつお尋ねをいたしたいんですが、まず担当の建設部長さんに御答弁をいただきましたようかな。白須賀羽津線が、いま路線が出てきておるのですが、私もこの予算案が提示されたときから同感であります。つい

てはこの白須賀羽津線はいかなる交通量というか、重要度を持っておるか、いかなる重要度を持っておるか、いかなる意義があるかによつて、これは本舗装でございますが、本舗装といつてもまあ簡易舗装ですか、軽易な一段低いものでございますが、防塵舗装よりは著しく経費のかかる舗装ですが、まずこの白須賀羽津線について部長の考え、ここに予算に計上したいきざつをひとつお話をいただきたいと思います。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） お答えいたします。

白須賀羽津線につきましては、国道から名四国道の近く、本年度建設されます路線に結んでおる道路でございます。この交通の状況につきましては、特に夏季におきましては霞ヶ浦駅からバスが競輪場に行く道路に入りまして本件の道路に返ってくるよう環狀的な使い方をバスがしております。季節的に夏季におきましては特に交通量の多いところでございます。また名四国道の建設がちょうど米洗川と競輪場の間に現在ちょうど着工にかかったところでございますが、この工事につきましては土の運搬等による相当重量の大きいトラックが多量に通りますので、防塵舗装的な、特に軽易な舗装ではとうてい維持できないと長期間状況が保てないというように判断いたしまして、防塵舗装よりも一段上の舗装を計画いたしました。

○錦安吉君 近鉄の霞ヶ浦駅から競輪場に行く道路はすでに舗装をされまして、りっぱな、巾員は比較的十分じやないけれども舗装ができておるのですが、その北に並行いたしたたんぼの中をもう一本貫く今回の舗装の道路はそのような位置になっておると思うんです。相当重量車、トラックがたくさん通るとおっしゃるけれども、それほど通らないと私は思っております。これは舗装をしたら通るかもわかりませんが、並行して近くに一本国道から将来の名四国道につながるところの道路が舗装されてあるのかかわらず、今年度において、三十六年度においてこれを施行し

なきやならぬ、そのような緊急度は、そのような緊急の必要があるのかどうか、これがまず才一点。

それから近鉄バスが近鉄の霞ヶ浦駅から競輪場へ往復するのに迂回道路になっているとおっしゃるが、あんなところ迂回するはずはありません。なんかの場合で迂回するかも知れませんが、そんなこと確信持っていないのかどうか。才二点。

それから才三点といたしまして理事者の担当の部課においては、市長、助役にはあとで質問したいと思いますが、部長とか課長は全市の道路網を調査、勘案いたしてその重要度、交通量、またその位置からして、いろいろの点からかんがみてどういう順序に舗装をしていくお考えなのか、つまりその順位と申しまするか、根本原則としてどういう順序に舗装工事をしていくお考えであるか。予算の許す限り順次に実施することは当然であります。全部一ぺんにはできませんからしてそこにおのずから順序というものができるはずですが、どの路線という具体的路線まではいま答弁は要求いたしません、原則をひとつ承わりたい、お考えの。でその次にまた一応御質問をいたしたいと思えます。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） この路線のバスの迂回路につきましては私がそう承知しておる以後に変更になりましたかしりませんが、私は、夏季におきましては駅から環状的に使っておると現在信じております。

それから道路の舗装計画でございますが、一応いままでの多数に上っております陳情並びに土木課におきまして三メートル程度以上の、三メートル前後以上の道路の調査等を、あるいは交通量の関係から考えまして、全市的に一応才一段階として一万五千から一万九千ヘーベの舗装をやりたい、こういうふうに考えております。それでその程度はどの程度かと申しますと、一応御案内のとおり国、県道は対象からぬいておりますので、市道につきましては一応主

要道路、自動車なんかの入りうる道路につきましてはほとんど百パーセントに近い舗装を簡易舗装で処理したい、こういうふうに考えております。それで、これを一応用途といたしましてわれわれの要望的な考え方でございますが、本年を含めまして三年ないし三年余において、三年に近い年度において解決をつけたい、そのためにはだいたい平均的に五千万円程度の新規の仕事をやっていけば一応全市的に舗装が行なえる、こういうふうに考えております。ところが一方、簡易舗装、防塵舗装によってまことに事業効果の上る道路と、この二百円あるいは三百円以下、あるいは百円程度の舗装では数カ月もたないというような交通状況から路線も出てまいりますので、防塵舗装のみによって一応やってもかえって不経済な状態になりますので、これはやはり中級舗装も相当二、三十％は年々まぜてやってくなければならぬ、それからまた特に重要幹線の道路におきましては国の補助もあることでございますので、これはコンクリートのヘーベ千五百円あるいは二千円かかる舗装もございしますが、その程度の舗装も逐次伸ばしていきたい、こういうふうに考えております。（錦安吉君「重要度の問題、羽津白須賀線がどんなに重要か、ほかの方面、全市的に考えて」と呼ぶ）

この問題につきましては建設委員会で十分御審議願ひまして、これに相当の時間をかけて御審議願ひたのでございますが、それにつきまして私の最終的に答弁をさせていただいた当時の気持ちを思い起しましてお答えをいたします。金銭的にいきまして若干軽重の見方をあやまった点はあると私も考えましたので、その修正につきましてはこんご追加予算の機会がございましたらその修正ができるように早急にさせていただきたい、こういう意味のことをお答えさせていただいた記憶を持っております。

○錦安吉君 建設部長の率直な御答弁、つまりまあ多少のあやまりもあったかも知れぬというてみえるのですからこれ以上追及はやめておきます。が、これはひとつ将来のために御参考に申し上げて比較しておいてもらいたいと思

うのですが、羽津白須賀線の道路、舗装、御提案になり委員会も了承されたので了承済みでございますが、この問題にいたしております路線以外にも私は二、三あると思うんです。が、名前はなるべく、そういう路線の名前を挙げることはこの際避けたほうが、ええし遠慮しておいたほうがいいのかと思うのもう一つだけ、委員長も一線だけよりおっしゃるんですからこれだけにしておきますが、つまり委員会において発言があったとおっしゃってみえますが、この市役所ロータリーから南へ行くあたり、あの羽津白須賀線と比較してこちらこそまっ先にしなければならぬ。近鉄駅前から北へ行く通りはできましたが、南へ行く鶴ノ森さんのほうへ行くあの道路、あそこらでもどろどろです。国鉄駅前から本町通へ行くあの線路に沿うた道路もどろどろ、歩けないです。こういうところとああいいう白須賀線のようなたんぼの真中の道、これは夏になったら海水浴客が通るかもしれませんけれども、産業道路というにはもう少し広いりっぱな道が競輪場の前のところへ通じておるのですから、並行してそんなに必要はない。だれが考えても、常識的に見てもそういうふうに思われるのであります。また稲葉町から四日市の旧港、稲葉町から生桑、これは菰野線に通ずるところの蔵町、下新町、西新地を過って西町へ出て市民病院の四日市病院前を過ってずっといく、堀木の火葬場の横通っていく通りあたりもあれはもう数年前に簡易舗装をいたしまして、しかも中心だけ、まん中だけちょっとアスファルトがぬってあるだけだ、これあたりもう破れてきておりますし、凹凸もはなはだしいしほん中心だけより舗装がしてない。四日市市の東西に通ずる道路を一本一本頭の中で考えてみますとき、新道通り、そうしてこの市役所前、駅前の通り、それから浜田の小学校前の通り。それからいまいうた稲葉町から湯の山に通ずる通り、それから新浜町の、むかし六間道路といっておりましたあの通り、これらはいずれ劣らぬ重要性のある幹線であります東西の。これらの中でも最も重要な道路だといので、この駅前通りと新道の通りと前後いたしました舗装されたのが稲葉町菰野線の道路とそれがいまとり残されている、その他の重要道路は全部完全な舗装ができておる。

そういう点も忘れてもらっては、これは道路行政としては手落ちであると私は思う。その他例を挙げますと幾多重要にして緊急を要する道路があるのであります、簡易舗装でもって十分なりという見解の道路もありますけれどもできうれば簡易舗装でなしに防塵舗装、防塵舗装でなしに簡易でもよろしいからちよっと堅牢な舗装にしたほうがいいという道路が無数にある。今回のこの予算案について議員だれしもが不満を感じるのはこの点だろうと思ひまして、私も建設委員会の審議のにもように重大関心を持って見ておったのであります。こんごこれらの点を勘案いたしまして、なるべく近い機会に予算を計上してもれておったところ、緊急な重要な路線を續いて舗装いたしたいという市当局の回答をえて委員会です承した、こうおっしゃってみますから、私はこの点ですといたしたいんであります、そこで私は市長さんにそれに間違いないかどうか、そういうふうにお考えを持って進んでいただけるかどうかということだけ一言御返事をいただきたい。ただそれだけの御答弁をいただければ私は考えたいと思ひんであります。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 委員会のおきに申し上げました今回の道路の改良につきましては、早ければ二、三年のうち、おそくとも三、四年のうちには全部やっしまいたい、こう申しておるので、その考え方に少しも変りはございません。ぜひともそういうふうなところへもっていききたい、こういうことに考えております。

どうぞ御了承をいただきたいと思ひます。

○錦安吉君 市長さん、私のお尋ねいたしております中心点というか、核心がちよっとぼやけておるように思ひますので、もう一度お尋ねをいたしたのであります。

もう一度初めからいい直しましょうか、わかっておられればそれでけっこうですが、要するに私のお尋ねいたしておりますのは、今回の予算案を見ますと、委員会でも慎重審議検討を重ねられたごとく、私としましてもその緊急

性、重要性とか、緊急性からいって三十六年度には真先にこれを、工事を施行しなければならないとして計上されておる路線中、比較的工事量も少なくても重要性も低い路線があるように思う。当局としてはこの路線は舗装することが必要だと思つて提案されたと思いますが、それと比較いたして、他にも同様以上の重要な路線が多々ありまするが、それらは当初予算には計上されなかつたけれども、年度内に追加予算をもって、金額までははっきりしないかしりませんが、相当の事業を行なうという当局の御答弁があつて了承したということを委員長が報告をいたしておるんでありますそれに間違いありませんかと私は市長さんにお尋ねをいたしておるんであります。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 間違いありませんか、間違いありませんかとおっしゃっていただきますけれども、私はただいま申し上げましたように、できる限りこれは二、三年のうちにしたい、二、三年のうちですから、早くやる状態ができればもちろん追加予算も組んでもやりたいしどんどんやっていきたいと、こう申し上げておるのであります。ですから必ずしもどうだということを申し上げておるのでございませぬ。追加予算を組んでやれるという場合ができてきたら、これはやらしていただきたいと、誠意をもってやらしていただきたいと、こういっておるのでから、ちつとも私、委員長さんにお答えしたとこと間違いのないと思つておりますが、それでいかがでございませうか。

○錦安吉君 ちよつと話が違つてきておりますので、建設委員長さんに理事者のほうからある意味の言葉をえて委員会は了承したというおことばがありますので、どういふことに理事者は答弁をされたのか、これをひとつ具体的にお聞かせいただきたいと思ひます。建設委員長にお願いします。

○建設委員長（浜田弥平君） 委員会報告書の中でも申し上げましたように、前日一日で夜の十一時まで委員会を続行いたしましたがお尋ねの才四項につきましては留保いたしましたして、翌日、市長さんの御出席をまつたわけでごさ

います。そこで、市長さんが御出席願ひまして先ほど建設部長がお答えされたように、まあ私どもの論議が建設部長さんもお認めになりました、重軽の問題は将来の問題で考えていきたい、ということとは、もう一歩具体的に申し上げますと、委員長報告書の中には申し上げておりませんが、各委員の中から予算は認めるが、もし次の追加に何がしかの予算を認めたならば、これは軽いところは年度末まで持ち越すか、あるいは来年度の事業繰り越しでもええののではないか、こういう意見まで出ておつたわけでございます。それら等も理事者はよく私どもの御意見をお聞きとりになつたものと私は信じております。そこで、市長さんが御出席になりました、委員長が前日からの空気をまとめて報告を申し上げ、なお具体的にここで申し上げられないことまで私どもは市長さんに失礼なことばまで申し上げて、そうして市長さんのお考えを聞いたわけでございます。そこでもちろん市長さんが御出席になるまで、当私どもの委員会の建設部長もお話し合いになつた結果であろうと私どもはお聞きとりをしたわけでございますが、私どもの委員会といたしましてはこの才四項以前に二千五百万円の防塵舗装費がございませぬ。この防塵舗装費は二千五百万円防塵舗装をやつても、これは昨年から私も岐阜市を視察した結果を何回も理事者にこの意見を申し上げてきたわけでございます。そこで私は市長さんに防塵舗装の予算の面でもしこの二千五百万工事にかかれるまでにもう一千万円くらい近いうちに追加をしてもらつてバトリール施設設備をやつていただきたい、こういうことも申し上げました。そこで市長さんからそれは早い機会に一千万円になるか八百万円になるか七百万円になるか、それも考えてやりましょうと、そうしてこの不合理な面はできる限り、先ほど報告申し上げたように、市長さんは予算の許す限りとはおっしゃらなかったが、できる限り早い機会にですね、この、そういう表現をなさらなかったと思うんですが、私の聞きとつたのはこのバランスをとろうではないかという、具体的に申し上げますと、まとめて申し上げますとそういうお気持ちで市長さんの発言がありましたので、先ほども露骨に申し上げましたように、特に笠田議員から市長はなか

なかことばがうまいので、上手やからということとは、中であま委員会の肩ほぐしの意味であつたか、市長さん、うまいこと名古屋弁をいくさりやって聞かしていただきまして、委員会もそこではぐれまして、市長さんのいい分をお聞きして私どもはこれを了としたわけでございますので、委員長報告書にも申し上げたように理事者からそういう御回答をえて近いうちに、次のなにがしかの追加の出るときにはこれら重要な路線は、たとえ一銭でも二銭でも出していただけるものと信じてこれを了承したわけでございますので、まあ当時テープレコーダーもっておりませんし、市長さん、建設部長等の答弁はそのまま私は表現できません。速記もっておりませんので――。

ただ私どもが委員会として了承する前に受けた印象はかように受けまして、そういうお考えをですね、お聞きして了解したわけでございますので、御了承願いたいと思います。

○錦安吉君 委員長のお話よくわかりましたが、そうすると市長さん、委員会で御答弁なさったお気持ちと、私が質問いたしましたで、いま御答弁いただいておきますときのいまのお気持ちとちよつと変わるとなるような、違うような感じがいたすんですね、ありますが、この点市長さんは、これはもう重要な路線は二、三年のうちに全部完成したいと思ひますので、いずれはやるというふうなことでぼやかしていられるのですけれども、一つお尋ねをいたしたいのは、本年度というとおかしいですが、三十六年度の道路の舗装、新設の工事を取り上げた路線が比較的周辺の地帯に散開をいたしておりますので、中心部においても舗装の必要のあるところは、これはもうこの付近、こんな簡易舗装する必要ないといわれりやしないのですが、舗装する必要があるところは追加予算でもできうればひとつ計上をしてみたいというお考えがありますか、そういうことは全然お考えにならないか、この点だけひとつ御答弁願いたいと思います。それによって私は市長さんのこんどは本心をひとつ打診して、次にもう一言お尋ねをいたしたいこともあるんですが、なるべくあと質問しなくていいように、了解のつくような御答弁をいただければなほは幸甚と思います。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） お答え申し上げます。

ただいま委員長さんからのお話がもう詳細を尽し切っておるように思いますが、それで御了承いただきたいと存じます。

○錦安吉君 委員長のお話で詳細を尽しきっておるとおっしゃいますが、私の尋ねておることは委員長も触れておりません。ということは、市長のこんどは方針ですよ、市長の方針を聞いておるのです。委員会ではっきりとおっしゃったならば、それでも委員長の説明でわかるわけですが、あなたは名古屋弁でうまうま話された。それで空気がほぐれて了承したというふうなことで、うまう御答弁をなさったんと思ひますけれども、この中心部付近に十分いろいろ重要な道路があるが、それらは遺憾ながら三十六年度においては一カ所も取り上げられておらない。ついでには将来追加予算でもできる限り取り上げて舗装工事を実施していただくかどうか、する気持ちがあるかないかと、こういうことを尋ねておるのです。委員長さんのいわれることと違うんであります、私の尋ねておるのは。この予算案を見ると、十一カ所舗装の工事を施行するところがありますけれども、委員長がおっしゃってみえるように、三滝川からこの浜田の学校前の道路までの間には一線も一カ所も取り上げられておらない。それは重要な路線が、道がないのじゃのうてたくさんあるということですね。ある。もしあった場合には、どの路線をどうという結論はここではすぐには出ませんが、そういう道路があれば、続いて次に早く工事を実施したい考えであると、あるいはそういうことは考えておらぬか、こういうことなんですな。わかりませんか。尋ねておることとあなたの答弁とは違う。委員長のいうこととこんど私の質問することはこんどはもう委員長のいうことを離れて私は尋ねておるのですから……。

○議長（山本三郎君） 答弁いるんでしょう。（錦安吉君「はい、もう一ぺんいい直そうか」と呼ぶ）



いや、答弁いるんでしよう。（錦安吉君「答弁います」と呼ぶ）市長。

○市長（平田佐矩君） どうも私は委員長さんに誠意を尽して御答弁を申し上げて御了承をえました。また委員長さんがただいま御報告になっていらっしゃることもちっとも違わぬと思うんですが、委員長からお話になりましたことでは御承服に相なりませんのですか。

○議長（山本三郎君） 暫時休憩いたします。

午後三時四十分休憩

午後四時二十八分再開

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。（「市長」、「議事進行」と呼ぶ者あり）

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 錦議員にお答えを申し上げます。

錦議員さんの御意図もよく私はわかりますのでございまして十分了承いたしました。しかし、すでに委員長さんにも十分私の意のあるところを申し上げ御了承を賜っておりますので、どうかその点に御了承をいただきたいと存ずるのであります。

どうかひとつよろしくお願いをいたします。

○錦安吉君 ただいまの市長さんの御答弁で私は了承いたします。この点はこれで……。

次に一つお尋ねをいたします。やはり土木費でございしますが、用悪水路費三百八十万円の計上でございますが、この市役所前の五十メートル道路の開渠になっておりますとぶすね、これが非常に見苦しいので、もう数年来このように放置されてあるのですが、一カ年度で全部というわけにはいかないでしょうが、逐次これをなんとか改良されて、適当な方法でもう少し衛生的にもまた体裁もよくならぬかと思うんですが、そういうようなお考えはございせんか、お尋ねをいたしたのであります。

それから都市計画のほうですが、あるいは都市計画にならぬとこの前の南へ行く道路ですが、これは都市計画で実施するのが本筋でございましょうが、他の方面との関連もあり、いろいろの点を考えて市の一般土木費でもこれを広くして、もう少し南のほうへ貫くというようなお考えはありませんかどうか、そういうことも一つの重要な施策だと私は思うんですが、当局のお考えを承わりたいと思います。

市長さんにお尋ねいたします。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 用悪水路のことにつきましては部長からお答えさしていただきましたと思いますが、この道路を南のほうへ抜くことでございます。このことにつきましては、もう私、助役に就任さしていただきましたから県と折衝いたしております、この決意を固めていきたいと思うておりましたが、御承知のとおり国の補助が五割ございまして、四日市市が四割、県が一割でございます。従いまして市といたしましては非常に大きな負担をしなければならぬことでございますが、県の補助を仰がなければならぬ、そこで実際仕事をしていただいておりますのは、旧来まゝ県にお願いいたしておりますものですから、どうしても県の御意向を承わらなきゃならぬということで、実はあなたの仰せられること、また先般来この問題につきましてはたびたび皆さんから見かねる、特に建設委員長さんからもそういうお話がございまして、私といたしましてもぜひそうさしていただきたいと思っておりますが、どういふものか幾ら懇請いたしましても、こんども東のほうに名四国道を延長すると、それに関連していささかこちらのほうの、浜田のほうのところへ伸びておる関係がございまして、これをやるくらいなら、もう思い切ってこまでやってほしいということをくどく私も申しておるんですが、どういふものでございませうか、県におかれましてはこれに耳を傾けてくれませんかでございます。はなはだ私といたしましては残念でございますが、県にきいても、そういう一べんに二つともにするということになりますと非常に負担のワクもふえてまいりますのでやむをえずこのたびは東のほうだけにしましたんでございますが、仰せのとおりでございます、私もくどくこのことにつきましては県当局に向って懇請しておるのでございます。どういふもんか私には了解がいかないんでありますけれども了してくれません。もう矢折れ力尽きてやむをえすまま辛抱しておるようなことでございます。その点

ひとつ決して等閑に付しておるのではございません。非常に市長といたしましても心配をいたしておるんでございます。ただその点につきましては行きづまりがございしますので、はなはだ残念ながらこのたびはこういうふうにしていただきます、さらにその促進方につきましては県に御要請を申し上げたいと、こういうふうを考えております。どうぞひとつ――。

〔建設部長（城井義夫君）登壇〕

○建設部長（城井義夫君） ただいまの御質問の才一問の市役所前の水路の件についてお答えいたします。

この水路につきましては下水道の予算で御審議願ってます中に、納屋ポンプ場からちようどその水路のところまで幹線のヒューム管を付設する予定をしております。これが御審議願いまして予定どおり進みますと、それから下流は一応水路を廃止できるという状況でございます、こういう進み方でいきますと、本年度末におきまして一応市役所の前の水路が廃せるんじゃないだろうか、それから引き続いて、三十七年度に引き続いてやらしていただく考え方を持っておりますので以後引き続き上流川の水路が廃止できる、こう考えております。それからちようどその新道と五十メートルとの交差点にいつも水がたまるとございしますが、この問題につきましてはすでに御覧をいただいておりますことと思いますが、この市役所の北側の旧近鉄路線あとが一部ラクダの背のように高くなっておったために水が国鉄のほうにも流れないし、こちらにも流れないという格好でございましたのを、すでに一尺ほど切り下げまして、新しく歩車道境界を作つて非常の場合に、はけな場合には市役所の前のほうに回ってくるように変更いたしました。特にこの市役所のこの角でございますが、この角のマスが大きいたしまして、市の前にもたまらないように考えております。

なお都市計画費の、先ほど御質問にも出ました金場。新正線の五十万円は引き続きこの市の庁舎が竣工すると同

時に前面の歩車道の整備を一部やりたいと思いますが、これも新道の排水との関連を考慮した工事を行ないたい、こういうふうと考えております。(錦安吉君「了承」と呼ぶ)

○伊藤宗一君 私は同僚議員からほんとうに御熱心に質問されて、理事者もほとんどこれに平服したような事と思っておりますのでありますが、私は産業部長に、だいたい農家から再三とこの研究費をもらいたいと、こういうお説がありますので、若干聞きたいというのは、この農業技術指導費というのが百二十万これに載っております。それに就いて私は、農家にはあまり恵まれておりませんので、だいたい産業部長さんに聞いたらほんとうにわかるだろうと、こう思うので、私はこの百二十万の技術指導費というものが百二十万組んであるから、これに面した同じような研究費に似ておるのやないかと、こう思いまして、この百二十万のこの技術指導費というものはどういうところに使っておられるのか、また百姓の、農家の話ではこの空気をこしらえるについては三十万円ほどいると、その空気いれについてなんとかしてもらいたいというて再三と耕地課長なり農林課長なりまた産業部長さんにもお話しをしたんやけど、だいたいここに百二十万という技術指導費が載っておりますから、これに似とるんじゃないか、こう思いまして、わしは聞きたい、こういうようでありますから、部長さん、あしからずひとつ願います。

〔産業部長(浅川謙一君)登壇〕

○産業部長(浅川謙一君) 伊藤議員さんの御質問にお答えさせていただきます。

百二十万の予算でございますが、これは技術委託料ということで出ておるんでございまして、実は派遣技術員がございしますが、これを全部本庁のほうへ引き上げまして農業指導者あるいは各係と、専門専門の分野にいたしまして職につかしたい。つきましては、各農協のほうにおかれましてはいわゆる技術員を設置していただきたい、この農協のほうの技術員を設置していただく助成なのでございます。従いまして伊藤議員のおっしゃいましたいわゆる空気

を入れるという耕作の面でございますが、これはよく伊藤議員のおっしゃることもわれわれわかっておるんでございまして、少なくとも農耕の一つの手段と申しますか、酸素を入れてよくするということもたしかにいいんですが、この百二十万の中には伊藤さんのおっしゃいました分は入っておらないのでございます。ただ技術員を設置していただきますについて各農協に対する委託料ということでございますので、御了承願いたいと思います。

○伊藤宗一君 先ほど産業部長さんからお話、聞いてわかりましたのであります。だいたい市においても県においても研究費というものが多小はいることとわしや思いますので、それであいう一反に対して空気を入れれば二俵はとれるということを農家の人たちが五、六人来ていうておりますので、まあ部長さんにおすがりましたけれども、先ほど来からこれに農業技術指導費というものがこれに含まれていないのかどうか、聞いておりましたものやから聞きましたので、あしからず、これで了解しました。

○議長(山本三郎君) お諮りいたします。他に御質疑もないようでありますし御意見も尽きたように思いますので、この辺で質疑を打ち切り、討論を省略して議案の採決を行ないたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(山本三郎君) それではそのように決定いたします。

日程才一、昭和三十六年度一般会計予算並びに関連議案を委員長報告どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(山本三郎君) 御異議なしと認めます。よって議案才十号及びこれに関連の十八議案は原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に日程才二、議案才十一号、才二十六号及び才四十四号を議題といたします。

本件に対する教育民生委員長の報告をお願いいたします。早川委員長。

〔教育民生委員長（早川和一君）登壇〕

○教育民生委員長（早川和一君） 議案才十一号、昭和三十六年度四日市市特別会計市立四日市病院費歳入歳出予算について申し上げます。

歳出総額は一億三千三百六十二万七千六百六十円でございまして、前年度に比較し六千四百七十七万六千二百八十円の減となっておりますが、これは昭和三十一年度以来六年にわたって進めてまいりました移転改築事業が完成されましたので新営改築費の項がなくなったためであります。総体的に単価の値上りと人件費アップの関係と、特殊なものとしてはエレベーター、ボイラーによる燃料費並びに総合病院としての図書の実、庁舎の清掃委託、浄化槽装置清掃等による増額の差でございます。

歳入につきましては、新館完成による入院患者二〇〇名が二五〇名収容でき得ることになりますので、使用料の増加と財産売却代金といたしまして旧病院敷地の一部売却代金及び一般会計からの繰入金五百万円によりまかなうものであります。

以上が市立病院費における予算の概要でありまして、いずれもやむをえないものと認めて原案どおり承認いたしました才であります。

次に議案才二十六号の一時借入金については、病院費予算に関連するもので異議なく承認いたしましたのであります。

議案才四十四号市立四日市病院条例の制定についてでございますが、才六条、診療及び施設使用の拒否については運営管理上の問題で条例は定めてあるが、こうした項目に該当することのないように努力したい旨病院当局よりの説

明を了とし、その他については病院としての総体的な条例であって細則制定については理事者において病院の運営の合理化をはかり、市民の期待に応えるよう成果を上げたいという答弁をえて原案どおり承認いたしました才であります。なにとぞよろしく御審議をお願いいたします。

○議長（山本三郎君） ただいまの委員長報告に対しまして御質疑がありましたら御発言願います。

お諮りいたします。御質疑、御意見もありませんので、議案の採決を行ないたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） それではそのように決定いたします。

日程才二、議案才十一号、才二十六号及び才四十四号を委員長報告どおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才十一号、才二十六号及び才四十四号の三議案は原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に日程才三、議案才十二号ないし才四十五号中昭和三十六年度特別会計予算並びに関連議案を議題といたします。

本件に対する各委員長の結果報告を求めます。まず総務委員長にお願いいたします。

〔総務委員長（池畑佐太郎君）登壇〕

○総務委員長（池畑佐太郎君） 総務委員会の審査結果について御報告いたします。

議案才十二号の特別会計、市立印刷所費予算、才十六号の工場誘致費予算、才二十号の桜財産区予算、才二十二号、起債について及び才二十八号の一時借入金につきましては、いずれも妥当なものと認めて原案どおり承認いたしました。簡単でございますが、御報告いたします。

○議長（山本三郎君） 次に産業経済委員長にお願いいたします。

〔産業経済委員長（高橋伊祐君）登壇〕

○産業経済委員長（高橋伊祐君） 議案才十四号、特別会計競輪事業費予算は、昭和三十六年度において七回の競輪を開催するものとして編成されたものでありまして、歳出におきましては給与改定に伴う事務費の増加、車券売上金の増加による適中車券払戻金、競輪場借上料その他各種の定率負担金増に伴う事業費の増加及び諸支出金の繰出金の増加等が昨年度にくらべて増額となった主なものでありますが、一般会計への繰出金につきまして、前年度繰越金一千五百万円を充当しても現今の競輪状況と矛盾しないか、とただしましたところ、現在の状況からみれば本三十六年度の車券売上はさらに相当上昇するものと考えられるので、内輪見積りで計上した、この理事者の説明を了としたのであります。これに対して歳入におきましては、その中心となる車券売上金を一開催当り五千五百万円と予定して計上されたものでありまして、繰越金一千五百万円につきましては三十五年度における車券の売上げの大幅な増加に伴い、実質繰越金は予算を相当上回る見込みにより計上したという理事者の説明を了したのであります。

以上、本予算案につきましては慎重審査の結果、やむをえないものと認め、賛成者多数をもって原案どおり承認いたしましたのであります。

次に、議案才十七号、特別会計と畜場食肉市場費予算は、総額九百五十七万八千円でありまして、昨年にくらべて七十五万二千円の増額であります。これは給与改定に伴う人件費の増加によるものであり、やむをえないものと

認められるのでありますが、明治ハム株式会社の建設による事業量の増加は期待できるとしても、こんどの運営に当っては運営委員会にはかり十分なる対策を講じ、収入の増加をはかられるよう強く要望して、原案どおり承認いたしました次第でございます。

なにとぞよろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 次に教育民生委員長にお願いいたします。

〔教育民生委員長（早川和一君）登壇〕

○教育民生委員長（早川和一君） 議案才十三号、昭和三十六年度四日市市特別会計公益質屋費歳入歳出予算について申し上げます。

歳出総額は一千二百二十八万八千四百九十円で、前年にくらべ給与改定に伴う人件費の増額分として四十八万八千三百三十円増となっております。ほか前年に準じて計上されております。

歳入につきましては、公益質屋収入と前年度繰越金と一般会計より百万円の繰入金をもってまかなうものでありまして、原案どおり承認いたしました次第であります。こんどの運営の円滑に万全を期するよう努力され、収支の正常化をはかるよう要望いたしました。

次に、議案才十五号、特別会計国民健康保険費歳入歳出予算についてであります。歳出総額一億六千二百五十二万六千四百円で、これが財源といたしましては保険料及び国庫負担金並びに一般会計繰入金をもってまかなうというものでありまして、保険料の歳入計上額は他都市における資料に基づき計上されたものであります。

歳出については、事業開始に当り必要な経費の計上でありまして、運営の円滑と本事業遂行のための能率向上を企図して国民健康保険事業の推進に遺憾なきを期したいという理事者の説明を了とし、原案どおり承認いたしました次第

であります。

次に、議案才二十七号、一時借入金については、国民健康保険に関連するものでありまして異議なく承認いたしました。

次に、議案才四十五号、四日市市国民健康保険条例制定に当りましては、国民健康保険準備委員会において数度慎重審議を重ね準則に基づいて定められたものでありまして、特に保険料につきましては理事者より詳細にわたり説明を求めましたが、各方面より検討の結果、もっとも適切であると認められたる応能応益の原則に基づき制定されたものであるという答弁をえて了とし原案どおり承認いたしましたのでありますが、理事者には市民に対し国民健康保険事業推進のための各種啓蒙宣伝を行ないその趣旨の徹底をはかられるよう要望いたしました次才であります。

以上をもちまして教育民生委員会に御付託になりました関係議案の審査の報告といたします。

どうかよろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 次に、建設委員長にお願いいたします。

〔建設委員長（浜田弥平君）登壇〕

○建設委員長（浜田弥平君） 建設委員会に御付託になりました議案才十八号、議案才二十三号及び議案才二十九号の審査の経過並びに結果につきまして御報告申し上げます。

まず、議案才十八号の昭和三十六年度特別会計公共下水道費歳入歳出予算につきましては、下水道築造工事費一億二千五十万円が主として論議の中心となったのでありまして、地区民よりも使用料の徴収等については積極的に協力をするから工事のじん速なる施行を希望しているということ、また、排水ポンプにつきましては、災害の場合における停電のため折角の機能をそう失することのないようディーゼルエンジンとするよう要望いたしましたところ、理事

者はよくその趣旨をたいして全力をあげて工事の完成をはかるとともに、排水ポンプについてはディーゼルと電気とでは電気のほうが非常に安くつくという点もあり、平常時にはぜひ電気を使用したいと思っているが、納屋ポンプ場は三十五年度で八〇〇ミリの電気排水ポンプを設置したので、本年は一、五〇〇ミリのディーゼル排水ポンプを一基増設する計画であり、また、阿瀬知ポンプ場には現在、一、〇〇〇ミリのディーゼルと三五〇ミリの電気の排水ポンプがあるが、本年はさらに八〇〇ミリの電気排水ポンプを一基増設することになっている旨の答弁がありまして、いずれも理事者の説明を了として、議案才十八号を原案どおり承認したのでございます。

次に、議案才二十三号の起債について及び議案才二十九号の一時借入金については、ともに議案才十八号に関連するものでありますので、異議なく承認をいたしました。

以上、当委員会におきます審査の経過と結果につきましての報告を終わります。

なにとぞよろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 各委員長の報告に対しまして御質疑がありましたら御発言願います。

お諮りいたします。御質疑、御意見ありませんので、議案の可否を行ないたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） それではそのように決定いたします。

日程才三、昭和三十六年度特別会計予算並びに関連議案を委員長報告どおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才十二号ないし才十八号、才二十号及びこれに関連の六

議案は原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に、日程才四、議案才十九号、才二十四号及び才三十一号の昭和三十六年度水道事業会計予算並びに関連議案を議題といたします。

本件に対する建設委員長長の報告をお願いいたします。

〔建設委員長（浜田弥平君）登壇〕

○建設委員長（浜田弥平君） 建設委員会に御付託になりました議案才十九号、議案才二十四号及び議案才三十一号の審査の経過並びに結果につきまして御報告申し上げます。

まず、議案才十九号の昭和三十六年度水道事業会計予算でございますが、才二条の収益的収入は、主たる営業活動から生じる営業収益、一億九千三百九十五万七千七百円と、金融及び財務活動に伴う営業外収益、百八十四万二千七百三十円及び簡易水道にかかる収益、二百六十万三千円で合計一億九千八百四十万三千四百三十円となっております。また、支出では営業費用、一億五千九百九十五万七千四百七十円、営業外費用、二千三百五十七万二千九百六十円及び簡易水道費用、二百四十七万八千三百二十円と予定外経費に充当される予備費、三百七万円で合計一億八千八百二十七万八千七百五十円となっております。収支差引一千二百四十六万八千八百四十円が利益剰余金となるのでありますが、この利益につきましては才七条におきまして減債積立金に処分されまして、資本的支出の起債の償還金に充当されるものであります。才三条の資本的収入は、才二期拡張事業の才二年度における資金源としての起債一億五千万円と簡易水道の起債元金償還に当てるための繰入金十六万二千六百円及び固定資産の戻し入れ及び売却による収入百三万円で、合計一億五千百十九万二千六百円となっております。これは支出に対しまして三千四百十七万二千四百四十円不

足いたしますので、才二条の利益剰余金すなわち才七条の減債積立金千二百四十六万八千八百四十円と損益勘定留保資金の二千四百四十七万四千四百六十円で補てんすることになっております。資本的支出につきましては、才二期拡張事業計画の、水源の開発と整備のための建設改良費一億七千七百三十五万五千円、企業債の償還金千二百六十二万九千十円及び予備費の百六十万七千三百四十円で、合計一億八千五百三十六万四千七百四十円となっております。

なお、ここで起債の一億五千万円につきまして十分に獲得できる見込みがあるのかどうか、甘い見方をしているのではないかと、という点につきまして論議されたのであります。理事者より総力をあげて確保に努めたい旨の決意のほどを説明されこれを了としたのであります。次に、才四条につきましては、一時借入金として常時借入れできる限度を、前述の起債と同額の一億五千万円と定めるものであり、才五条は、法定の議会の議決を経なければ流用できない経費として、職員給与費五千四百五十四万七千六百十円及び交際費二十五万円を限定したものであります。才六条につきましては、一般会計等からの繰入金百二十五万一千二百四十円を繰り入れるとともに当年度及び翌年度以降に引きましても繰り戻さないことを定めるものであり、才七条は利益剰余金の処分方法で、利益剰余金千二百四十六万八千十円を減債積立金として処分するもので、また、才八条は予算に組まれた貯蔵品購入の合計額六千七百九万九千八百二十円を購入限度額として限定したものであります。

次に、事業計画でございますが、これは予算の基礎であり、かつ総括的なもので、才二期拡張事業のほか、受託工事の増加に伴いまして工事量は大幅にふえております。

また、資金計画につきましては、現金の収支の計画表でありまして、本予算を厳格に執行いたしますと、年度末には手持現金は千五百九十六万三千二百七円となるのでございます。なお、本予算の執行に伴います資産の移動につきましては、昭和三十五年度末の資産六億九千五百七十七万二千五百八十八円が、昭和三十六年度末におきましては八億四千

四百五十万七千四百七十四円となりまして、一億四千九百三十三万五千四百十六円の増加となりますのでございます。

以上、当委員会におきましては、慎重に審査をいたしました結果、理事者には極力経費の節減をはかるとともに冗費をはぶき、企業の経済性の發揮と市民のサービスに留意し、特に才二期拡張事業の完遂のための財源確保につきましては、万全を期せられるよう要望いたしましたして、原案どおり承認をした次第でございます。

次に、議案才二十四号の起債について及び議案才三十一号の市費繰り入れについてはいずれも予算に関連しておりますので異議なく承認をいたしました。

以上、当委員会におきます審査の経過と結果につきましての報告を終わります。  
なにとぞよろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 建設委員長長の報告に対しまして御質疑がありましたら御発言願います。  
お諮りいたします。御質疑、御意見ありませんので、議案の採決を行ないたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） それではそのように決定いたします。

日程才四、議案才十九号、才二十四号及び才三十一号を委員長報告どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才十九号、才二十四号及び才三十一号の三議案は原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に日程才五、議案才四十九号ないし才五十三号の昭和三十五年度一般会計才六回追加更正予算並びに関連議案を議題といたします。

本件に対する各委員長の結果報告を求めます。まず、建設委員長にお願いいたします。

〔建設委員長（浜田弥平君）登壇〕

○建設委員長（浜田弥平君） 建設委員会の審査結果について御報告いたします。

議案才四十九号の昭和三十五年度才六回追加更正予算のうち、当委員会に御付託になりました歳出の才四款土木費、才五款都市計画費、才六款港湾費、才十款下水道費、才十六款諸支出金の才三項過年度支出のうち賠償及び償還金の過年度失業対策費、国庫補助金返還金及び才八項諸費のうち施設費につきましては、いずれも理事者の説明を了として、原案どおり承認をしたのでありますが、才八項諸費のうち施設費につきましては特別別途会計をもって特に払い下げを受けられる地元の意向を十分にしんしゃくをされて進められんことを切に要望いたしましたして原案どおり承認をいたしました次第であります。

以上、御報告いたします。なにとぞよろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 次に産業経済委員長にお願いいたします。

〔産業経済委員長（高橋伊祐君）登壇〕

○産業経済委員長（高橋伊祐君） 議案才四十九号中、関係部分及び議案才五十二号の審査の結果について御報告申し上げます。

当委員会といたしましては、慎重審査の結果、いずれもやむをえないものと認めて、原案どおり承認いたしましたのでありますが、特に商工業奨励費中商店街再開発費二百万円につきましては、三十五年度において商業振興対策として



指導してきました商店街再開発事業が地元の熱意によりまして、一部実施の段階を迎えようとしておりますが、その根底となる耐火建築促進法が、防火建築街区促進法に全面改正されることになり、その法律によって従来進めてまいりました中心商店街全体の計画から一歩進めて、三十六年度に着工のはこびまで盛り上っている街区を中心として三カ年ないし五カ年の継続事業として建設を予定される事業化区域の計画を作成する必要が生じ作成を委託するためのものでありますが、長時間にわたり当初予算に計上されなかった理由、商店街再開発の根本理念、行政指導の限界等について慎重な審査を行なつたのでありますが、法律の改正が当初予算の査定時期には察知できなかったの追加計上し、この才二次基本計画の作成が行政指導の限界である、との理事者の説明を了とし、あくまで経済上の観点からの商店街再開発ではあるが、道路行政等関連の部門とも連絡を密にして、本事業の円滑なる推進に万全を期されるよう要望して原案どおり承認いたしましたのであります。

次に、議案才五十二号は、県信用保証協会に対する資金出えんに関する別案でありまして、予算に関連いたしておりますので別段異議なく原案どおり承認いたしました。

なにとぞよろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 次に、教育民生委員長にお願いいたします。

〔教育民生委員長（早川和一君）登壇〕

○教育民生委員長（早川和一君） 議案才四十九号、昭和三十五年度四日市市歳入歳出才六回追加更正予算中、才七款教育費から申し上げます。

才一項教育委員会費、才二項小学校費、才三項中学校費、才四項幼稚園費につきましては、いずれもやむをえないもので、原案どおり承認いたしました。

才五項校舎建築費、才七項体育振興費における追加は、校舎増築工事あるいはプール築造工事についてそれぞれ実施設計の結果、一部設計の変更と建築単価の値上り等により既決予算内においては施工できない状況に立ち至ったための追加でありまして、これまたやむをえないものと認めて原案どおり承認いたしました次才であります。

才八款社会及び労働施設費につきましては、母子寮並びに保育所の事務、事業費の単価増額による所要の追加と県費補助の決定いたしました社会福祉主事の被服費及び自動二輪車購入費、並びに精薄児童通園施設の工事費追加と敷地の一部拡張費でありまして、別段異議なく原案を承認いたしました。

次に、才九款保健衛生費であります。才二項伝染病予防費の減額につきましては、小児マヒ予防接種用ワクチンの生産の減量と輸入ワクチン量の減少により厚生省が行政措置として○。五才以上一。五才のワクにより単価をきめ実施させた対象人員が減少したこと、単価が若干低くなったために更正したものであります。

才八項塵芥処理費、才九項焼却場費につきましては、市の発展に伴い塵芥量の増加により需用に應えるべく機動力の活動による燃料費の不足と、前年度最高の日当り塵芥収集量八十三トンを焼却できうよう末永焼却場の一部増設策をして焼却能力を増加するものであります。

才十項屎尿処理費につきましては、自動車修繕料の不足見込み額であります。

以上、保健衛生費につきましても原案どおり承認いたしました次才でございます。

どうかよろしく御審議をお願いいたします。

○議長（山本三郎君） 次に、総務委員長にお願いいたします。

〔総務委員長（池畑佐太郎君）登壇〕

○総務委員長（池畑佐太郎君） 昭和三十五年度最終の追加予算に対する総務委員会の審査結果につきまして御報告

を申し上げます。

まず歳入市税であります。十二月の追加予算におきまして一億九千八百万円計上されたのでありますが、本年一月末収入を昨年同期と比較しますと、市民税の法人分、法人税割額が二〇〇％すなわち二倍の収入を見ましたし、電気。ガス税一五三％、タバコ消費税一一七％など自然増がありまして、年度内に市税の総額は十三億八千万円くらいにはなるという明るい見通しでございまして、今回は法人税の増収分のみが計上されているのでございます。市税、地方交付税、繰越金の一般財源のほか歳出各科目における特定財源と、国、県支出金、起債等が計上された歳入各款は慎重審査の結果、原案どおり承認いたし、歳出議会費以下関係各款につきましても、別段異議なく原案を承認した次であります。

議案才五十号、才五十一号及び才五十三号は、予算に関連の別案であり、いずれもこれを承認いたしましたのでございます。

以上、総務委員会の審査結果の御報告といたします。

○議長（山本三郎君） 各委員長の報告に対しまして、御質疑がありましたら御発言願います。

お諮りいたします。御質疑、御意見もないようでありますから議案の採決を行ないたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） それではそのように決定いたします。

日程才五、議案才四十九号ないし才五十三号を委員長報告どおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才四十九号ないし才五十三号の五議案は、原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に、日程才六、議案才五十四号ないし才五十六号の昭和三十五年度特別会計市立四日市病院費才四回追加更正予算並びに関連議案を議題といたします。

本件に対する教育民生委員長の報告をお願いいたします。

〔教育民生委員長（早川和一君）登壇〕

○教育民生委員長（早川和一君） 議案才五十四号、昭和三十五年度四日市市特別会計市立四日市病院費歳入歳出才四回追加更正予算について申し上げます。

歳出におきましては、新館完成により移転の準備といたしまして現在使用中の諸器具の修繕料と、庁用器具費及び事業用器具費の不足の追加計上により移転に際し運営の円滑を期するものであります。

新宮改築費につきましては、レントゲン機械設備費の一部変更により不用額をカルテシユート、予備発電電気設備工事、車庫及び塀設置等に振りかえたのでありまして、財源といたしましては旧病院敷地一部売却代金と一般会計からの繰入金その他を計上し、起債額を自治省承認額に基づき減額更正し、収支の均衡を保持したものであり、別段異議なく承認いたした次であります。

議案才五十五号、才五十六号につきましても、なんら異議なく原案を承認いたしました。

どうかよろしく御審議をお願いいたします。

○議長（山本三郎君） 委員長報告に対しまして御質疑がありましたら御発言願います。

お諮りいたします。御質疑、御意見ありませんので、議案の可否を決定したいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） それではそのように決定いたします。

日程才六、議案才五十四号ないし才五十六号を委員長報告どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才五十四号ないし才五十六号の三議案は原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に、日程才七、議案才五十七号の昭和三十五年度特別会計国民健康保険費才三回追加予算を議題といたします。

本案に対する教育民生委員長の報告をお願いいたします。

〔教育民生委員長（早川和一君）登壇〕

○教育民生委員長（早川和一君） 議案才五十七号、昭和三十五年度四日市市特別会計国民健康保険費歳入歳出才三回追加予算につきまして申し上げます。

歳出におきましては、現在実施いたしております国民健康保険業務の運営に当り、最近被保険者の受診率並びに医療費が増嵩し、療養給付費が当初予算をはるかに上回り不足したための追加で、これが財源といたしましては国庫補助金と前年度繰越金とをもって充当したものでありまして、別段異議なく原案を承認いたしました次才であります。

どうかよろしく御審議をお願いいたします。

○議長（山本三郎君） ただいまの委員長報告に対しまして御質疑がありましたら御発言願います。

お諮りいたします。御質疑、御意見もないようでありますから、議案の採決を行ないたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） それではそのように決定いたします。

日程才七、議案才五十七号を委員長報告どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才五十七号は原案どおり可決確定いたしました。暫時、休憩いたします。

午後五時三十分休憩

○議長（山本三郎君） 休憩前に引き続きまして会議を続行いたします。

本日の会議時間は、議事の都合により一応午後七時まで延長いたしますから御了承をお願いいたします。次に、日程才八、議案才六十一号及び才六十二号を上程いたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 市長の説明を求めます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君）　ただいま御上程にあずかりました二議案につきまして、御説明をさせていただきます。

議案才六十一号は、昭和三十六年度一般会計才一回の追加予算案でございます。いずれも昭和三十五年度におきまして御決議いただきました予算のうち、工事進捗状況その他やむをえない事由によりまして、本年度に繰越し施工するものでありまして、一億九千五百九十七万九千二百円の計上をお願いいたしますのでございます。

まず歳出から各科目毎に概要を御説明申し上げます。

才二款、市役所費の繰越し一千九百四十五万円は、本庁舎ぬり替工事費及び市民ホールの冷房工事費並びに同案屋の建築工事費を工期の関係によりましてやむをえず繰越すものでございます。

才三款、消防費の繰越しの七百五十九万円は、消防署南出張所庁舎の建築用地の選定が遅れましたために、同建築費並びに初度調弁費の繰越しをお願いいたしますのでございます。

才四款、土木費九百二十三万円の繰越しは、塩浜大治田線道路の改良工事費のうち、河原田地内におきます関西線との立体交叉のまたがる線の橋工事が国鉄側との設計の協議並びに三菱油化の鉄道専用引込線をそう入するための設計の変更等によりまして交渉に意外の時日を要しまして、予定どおり着工ができなかったためでございます。

才五款、都市計畫費の繰越し五万円は、都市計畫策定のための基礎資料の収集及び街路網並びに用途地域の変更決定作業が遅れ、年度内に印刷製本するに至らなかったことによるものでございます。

才七款、教育費六千五百二十四万二千四百四十円の繰越しは、中部西、東橋北及び日永小学校の工事、南、中部、塩浜、山手、笹川、富田及び港中学校の工事並びに納屋及び神前幼稚園の工事が建築地盤の関係等による一部設計の変更、その他やむをえない事由によりまして年度内に完工しなかったためこれを繰越さしていただくものでございます。

才八款才十九項、公営住宅費の繰越しの四千二百五十八万七千円は、市の住宅団地総合開発計畫に従い昭和三十五年度の市営住宅の建設を小林町の団地に決定いたしましたところ、住宅公社における用地買収その他の手続きが予想外に時日を要し、整地工事もようやく先月下旬に着工したような状況でございます。住宅建設工事の発注が遅れたものでございます。才二十四項、社会福祉諸費二百一十一万三千八百八十円の繰越しは、伊勢湾台風によります罹災者に対する法外援護費でありまして、昭和三十五年度におきます同予算残額を本年度に繰越し、なお必要に応じて援護措置を続けたいと存じております。

才九款才一項、体育施設費の繰越し千八百五十八万五千四百円は、市営プールの建造工事が一部設計変更その他の事由により年度内に完成しないため、やむをえずこれを繰越すものであり、才六項の火葬場費百五十万円の繰越しは、堀木火葬場の移転用地の買収問題が鋭意努力いたしましたにもかかわらず、年度内に解決するに至らなかったためでございます。同才九項、塵芥の焼却場費三百四十五万円の繰越しは、末永塵芥焼却場の増築の工事費を工期の関係によりお願いいたしましたものでございます。

才十款、都市下水路費の繰越しの九百七十七万五千円は、塩浜の中央排水の施設工事並びに塩浜の中里排水路改良工事におきます土地交渉が非常に困難でございまして、解決に意外の日時を要し、従いまして工事の発注がおくれたためでございます。

才十一款、産業経済費一千五百五十二万八千円の繰越しは、羽津地盤変動対策事業費及び一般農業土木災害復旧工事費について、農林省の査定がおくれたのと、主管庁の指示により一部設計変更を要する等の事由によるものでございます。

以上が歳出の繰越しの概要でございますが、歳入におきましては、財産収入、分担金及び負担金、国庫支出金、

寄付金、雑収入及び市債等の未収入特定財源を計上したほか、前年度事業繰越金を計上したのでございます。

議案才六十二号は、昭和三十六年度本市特別会計公共下水動費才一回の追加予算案でございます。昭和三十五年度予算において御決議いただきました下水動築造工事のうち、終末処理場才一消化槽工事のかくはん機の製作がおくれましたためやむをえず二百二十万円の繰越しをお願いいたすものでございます。なお、財源は未収入国庫補助金と前年度事業繰越金を充当いたしておるのでございます。

どうかよろしく御審議のほどをお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 市長の説明に対しまして御質疑がありましたら御発言願います。

お諮りいたします。御質疑ありませんので、議案の採決を行ないたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） それではそのように決定いたします。

議案才六十一号及び才六十二号を原案どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才六十一号及び才六十二号は原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に日程才九、議案才六十三号を上程いたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 理事者の説明を求めます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま御上程の議案才六十三号、予算外義務負担契約について御説明を申し上げます。

昨年の十一月八日、全員協議会におかれまして塩浜地区の工場建設に伴う排水問題について、いろいろ御協議をお願いいたしました際、雨池川を中心とします地域は在来の排水路を利用し、既設のポンプ場（口径八百ミリ二台）に口径千七百ミリのポンプを増設する計畫を御説明申し上げ、新設ポンプは発注後製作に相当の日時を要しますので、本年度は予算外契約をもって発注をいたし、予算措置は明三十六年度に処置する旨御了承をいただいたのでございます。その後、このポンプ場工事の実施設計についてさらに検討の結果、口径千八百ミリのポンプを設置することとし、去る三月十六日入札の結果、名古屋市中村区広井町株式会社日立製作所名古屋営業所に落札決定いたしましたので、ここに提案申し上げたのでございます。

どうかよろしく御審議のほどをお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） お諮りいたします。御発言願います。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

お諮りいたします。御質疑ありませんので、議案の採決を行ないたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議ありませんので、そのように決定いたします。

議案才六十三号を原案どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才六十三号は原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に日程才十、議案才六十四号を上程いたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 市長の説明を求めます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま御上程になりました議案才六十四号は、予算外義務負担契約案、山の手国有住宅払下げに伴うものであります。

山の手国有住宅払下げ代金八千八百二十三万九千五百二十一円のうち、契約時に即納いたします三千百二十三万九千五百三十円につきましては、先程御決議をいただいておりますのでありますが、残金五千七百万円につきましては七カ年以内の分納にいたしたいと存じますので、ここに予算外の義務負担契約案を提出いたしました次才でございます。

どうかよろしくお願いを申し上げます。

○議長（山本三郎君） 本案に対し御質疑がありましたら御発言願います。

お諮りいたします。別段御質疑もありませんので、議案に対する採決を行ないたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議ありませんので、そのように決定いたします。

議案才六十四号を原案どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才六十四号は原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に日程才十一、議案才六十六号及び才六十七号を上程いたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 市長の説明を求めます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま御上程になりました二議案について御説明を申し上げさせていただきます。

山の手国有住宅の関係区域内に所在する道路及び下水路は、いずれも国有財産であり市が管理しているものであります。今回同住宅の払下げに伴い道路は市道として認定を行ない、また水路は都市下水路として指定の上、これら道路敷及び水路敷の無償払下げの申請をいたしたいと存じここに提案申し上げる次才でございます。

どうかよろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 説明お聞き及びのとおりであります。御質疑がありましたら御発言願います。

○錦安吉君 ちよっとお尋ねします。

下水道に認定する道路、下水路これは現状のままそのとおりを全部、それからさらに居住者に払下げる場合、これの扱いはどういう扱いにされるお考えですか。それだけ一つ御説明願いたいと思います。

〔監理課長（小林清君）登壇〕

○監理課長（小林清君） 現状の道路は全部道路として認定をお願いしておるんでございます。

それから、払下げを行なう場合には道路を除外した各個々の宅地について払下げをするものでございます。（錦安

吉君「広場、公共用地は」と呼ぶ

公共用地につきましては、市のほうで負担さしていただくことにしております。（錦安吉君「了解」と呼ぶ）

○議長（山本三郎君） お諮りいたします。他に御質疑もありませんので、議案に対する可否を決定いたしました。思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議ありませんので、そのように決定いたします。

議案才六十六号及び才六十七号を原案どおり可決いたしました。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって議案才六十六号及び才六十七号は原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に日程才十二、発議才一号を議題といたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 本件は、谷口農業委員会委員が去る三月十八日死去されましたので、農業委員会等に関する法律才十才二号に基づきまして議会が推選する農業委員を本案のように提案いたしました。次才であります。

なお、本件につきましては各地区農業団体の意見も徴して人選を行なったのであります。

どうかよろしく御審議をお願いいたします。

御質疑がありましたら御発言願います。

お諮りいたします。御質疑もないようですので、議案の可否を決定したいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） それではそのように決定いたします。

発議才一号を原案どおり決定いたしました。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって発議才一号は原案どおり決定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に日程才十三、発議才二号を議題といたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 提出者浜田議員の御説明を願います。

〔浜田弥平君登壇〕

○浜田弥平君 四日市市といたしましては、かねてより湖畔経済圏から北陸経済圏を結びたいという念願をもちまして、数年来、道路建設について検討対策をとってきておるのでございますが、当地域の成長発展に伴って名四国道、大四国道の実現促進とともにいよいよその必要性は高まってきておるものと考えております。

国土縦貫高速道路の構想が進み、名神高速道路の工事も急速化しておりますが、国会審議におきましても縦断に対する横断道路の意義も強調確認されているようであります。ここにおきまして昨年末以来、福井県敦賀市、滋賀県長浜市、岐阜県関ヶ原町等の市町村の間に国土の最狭部に当る四日市・敦賀間を最短距離で結ぶ道路を国道に昇格して

もらい、畫期的な改造整備を促進して相互の発展に努力しようという熱心な機運が盛り上りまして、本市への呼びかけもあり、本月三日、四敦国道期成同盟会が結成されたと聞いております。去る十八日、建設委員会をもったおりにこの問題について話し合いました結果、本道路の実現を強力に推進させるため、本市議会の意見書として関係行政官庁へ提出することの必要を認め、ここに提案するものであります。

なにとぞよろしく御審議を賜わりまして、御賛同くださるようお願い申し上げます。

○議長（山本三郎君） 本件に対しまして御質疑がありましたら御発言願います。

御質疑、御意見ありませんので採決いたしたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） それでは、そのように決定いたします。

発議才二号を原案どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって発議才二号は原案どおり可決確定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に日程才十四、委員会報告才一号ないし才三号を議題といたします。

〔川原田議事係長朗読〕

○議長（山本三郎君） 御質疑がありましたら御発言願います。

お諮りいたします。別段御質問ありませんので、本件を委員長報告どおり決定いたしまして、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） 御異議なしと認めます。よって委員会報告才一号ないし才三号は委員長報告どおり決定いたしました。

○議長（山本三郎君） 次に日程才十五、監査結果報告才三十四号、才一号ないし才二十八号であります。別段審議の必要も認められませんので、朗読を省きまして監査委員の報告どおり了承いたしたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本三郎君） それでは、報告才三十四号、才一号ないし才二十八号は承認することに決定いたしました。

（錦安吉君「議長」と呼ぶ）

○錦安吉君 本定例会における先日の総体質問におきまして、私は議会の議事運営についてという発言をいたしました。が、これは日程外質問が適当であるというような意見もございしますので、議会の議事運営に関して申し上げます私の発言はこの際取り消しをいたします。

○議長（山本三郎君） ただいま錦議員から発言の取り消しがありましたその御質問に対する私の答弁も取り消しますから御了承をお願いいたします。

○議長（山本三郎君） 以上をもちまして本会期中における議事日程は全部終了いたしましたので会議を閉じることいたしますが、閉会に当りまして一言ごあいさつを申し上げます。



今期の定例会におきましては、昭和三十六年度の一般、特別両会計並びに企業会計予算案など六十余件に上る議案が提出されたのでありますが、去る十日開会以来、議員各位の格別な御協力のもとに御熱心に御審議を賜わり、その結果全議案がしかも無修正で可決確定を見、ここに閉会する運びに至りましたことはまことに御同慶にたえません。

しかしながら、各案件の審議に当っては先ほど来の各委員長からの報告にもありましたように、いろいろと付帯的な要望事項もありますので、理事者におかれましてはこれら議会の意思を十分尊重されまして、こんごの予算の執行に対しましては特に慎重を期していただくとともに、議案に盛られた各種の事業に対しましてはさらに一段の工夫をこらして有効適切な措置を講じ、市政の運営に支障を来すことのないよう最善の注意をはらっていただきますことを特にお願ひする次第であります。

議員各位並びに理事者の方々には連日にわたり大へん御苦勞をかけました。ここに深く感謝の意を表しまして三月定例会を閉会いたします。(拍手)

(市長(平田佐矩君)登壇)

○市長(平田佐矩君) 本議会を通じましてまことに御懇切なる御指導を賜わり、御意見を拝聴いたし、平素われわれ理事者といたしましてはろどんにむちを打っておりませんが、まことに至らぬがちでございます。これをおしかり受けるのみならず、私どももいたしましてこんご議長さんから仰せられました御趣旨につきましては骨のずいまでしみ込んだ思いをいたしますので、忠実にこれを尊重いたしたいと存じますことはもちろん、向後われわれといたしましては皆様方の御期待に沿ひ、市民の御要望に沿うべく忠実に予算のことにつきましては履行いたしますと同時に、ただいま御注意のありましたように一段の工夫を加えまして皆様方の御期待にお沿ひ申し上げるように万全の努力を尽したいと思ひます。

なお、今回の議会につきましては、各部長もそれぞれ代りましたので、まことにまだ板についたところがございません。はなはだ恐縮に存じますことを重ねておわびを申し上げておきたいと存じます。

なお、このたびの期間におきましては、もうあとからあとへと重大な問題が起りまして、議員諸公のお心を悩ましたこと、市民の心を悩ましたことにつきましては、まことに市長といたしましては恐縮にたえません。この点につきましては議場を通じましてつつしんでおわびいたしますと同時に、かくのごときことだけでござ折することなく、四日市市は四日市魂をもちましてあくまでも私はこの時局をばん回いたしましたして、さらに四日市市のために一そうの進展をはかりたいといふことにつきまして昼夜身をささげで努力するつもりでございますので、どうか諸賢におかれましては四日市市にこの一つの節がついたのを、よき節にお切りかえ願えるよう皆さん方の御協力、御指導を特にお願ひ申し上げます、今日、感謝のことばにかえたいと思ひます。

どうも議長さんはじめ皆様方ありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。

午後六時二十五分閉会

右、地方自治法百二十三条第二項の規定に基づき左に署名する。

四日市市議会議長	山	本	三
署名議員	辻		章
同	柴	田	繁